



照会報告書作成プログラム

# QMF (Windows 版) 入門

バージョン 7 リリース 2





照会報告書作成プログラム

# QMF (Windows 版) 入門

バージョン 7 リリース 2

**ご注意!**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、付録 C、『特記事項』に記載する情報をお読みください。

本書は、下記の IBM QMF (Windows 版) バージョン 7 リリース 2 に適用され、改訂版で特に断りがない限り、これ以降のすべてのリリースにも適用されます。DB2 サーバー (OS/390 版) バージョン 7.1 の QMF ファミリーのフィーチャー (プログラム番号 5675-DB2)、DB2 サーバー (VSE および VM 版) バージョン 7.2 の QMF ファミリーのフィーチャー (プログラム番号 5697-F42)、DB2 UDB Universal Developer's Edition バージョン 7.2 の QMF ファミリーのフィーチャー (プログラム番号 5648-D37)、DB2 UDB ウェアハウス・マネージャー バージョン 7.2 の QMF ファミリーのフィーチャー (プログラム番号 5648-D35)、DB2 ウェアハウス・マネージャー (iSeries 版) バージョン 7.2 の QMF ファミリーのフィーチャー (プログラム番号 5724-B08)、QMF Windows for iSeries バージョン 7.2 の QMF ファミリーのフィーチャー (プログラム番号 5697-G24)、QMF (Windows 版) DB2 Workstation Database 対応版 (プログラム番号 5697-G22)。

本書は、GC88-8669-00 の改訂版です。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典：	SC27-0723-01 Query Management Facility™ for Windows Getting Started with QMF for Windows Version 7 Release 2
発行：	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当：	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.1

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1983, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

---

## 目次

表 . . . . .	v	第10章 データの分散 . . . . .	103
改訂の要約 . . . . .	vii	第11章 ジョブ・ファイルに関する作業 . . . . .	107
QMF ライブラリー . . . . .	xi	第12章 QMF レポート・センターに関する 作業 . . . . .	111
第1章 概要 . . . . .	1	第13章 QMF (Windows 版) API の使用	163
第2章 SQL 照会の作業 . . . . .	19	第14章 大域変数の処理 . . . . .	169
第3章 指示照会の作成 . . . . .	29	第15章 コマンド・バーを使った作業 . . . . .	185
第4章 照会結果に関する作業 . . . . .	41	付録A. IBM DB2 地理情報エクステンダー に関する作業 . . . . .	189
第5章 報告書の作成 . . . . .	59	付録B. QMF Query for Java に関する作業	195
第6章 プロシージャに関する作業 . . . . .	67	付録C. 特記事項 . . . . .	237
第7章 リストに関する作業 . . . . .	93	索引 . . . . .	241
第8章 静的照会に関する作業 . . . . .	97		
第9章 表編集プログラムに関する作業 . . . . .	99		



# 表

1. 照会表示コマンド . . . . .	23	40. スケジュール・オプション . . . . .	128
2. 照会タイプの選択 . . . . .	24	41. セキュリティー・オプション . . . . .	130
3. 「ソート条件」ダイアログ . . . . .	31	42. E メール・オプション . . . . .	131
4. 指示照会のコントロール . . . . .	31	43. サーバーの表示 / 編集 . . . . .	134
5. 「列」ダイアログ . . . . .	33	44. 印刷オプション . . . . .	137
6. 行条件の指定 . . . . .	35	45. 「QMF オブジェクト・テキストの表 示」のオプション . . . . .	146
7. 「結合条件」ダイアログ . . . . .	36	46. オブジェクト・フィルターのプロンプト	147
8. 「フォント」のオプション . . . . .	42	47. フォーマット・オプション . . . . .	147
9. 「書式」のオプション . . . . .	43	48. 出力オプション . . . . .	149
10. 移動オプション . . . . .	47	49. 出力オプション . . . . .	155
11. LOB タイプのオプション . . . . .	48	50. 出力オプション . . . . .	156
12. ファイル拡張子のマッピング・オプシ ョン . . . . .	48	51. E メール・オプション . . . . .	158
13. 列および行の選択 . . . . .	49	52. AddDecimalHostVariable() のパラメータ ー . . . . .	167
14. サイズ変更オプション . . . . .	49	53. 大域変数の命名規則 . . . . .	172
15. 照会結果オプション . . . . .	49	54. 状態情報大域変数 . . . . .	173
16. 書式のコンポーネント . . . . .	60	55. 表編集プログラムの大域変数 . . . . .	175
17. CONNECT コマンド・パラメーター	76	56. 表示情報の大域変数 . . . . .	175
18. DRAW コマンド・パラメーター . . . . .	78	57. コマンドおよびプロシーチャーの大域変 数 . . . . .	176
19. ERASE コマンド・パラメーター	78	58. Windows 環境の大域変数 . . . . .	177
20. EXPORT コマンド・パラメーター	79	59. コマンド・バー・パラメーター	185
21. IMPORT コマンド・パラメーター	81	60. レイヤー・リストのコントロール	192
22. PRINT コマンド・パラメーター . . . . .	83	61. 結果マップのコントロール . . . . .	193
23. RESET GLOBAL ALL コマンド・パラ メーター . . . . .	85	62. プロシーチャー・コマンド . . . . .	193
24. RUN コマンド・パラメーター . . . . .	86	63. ログイン・ページのコントロール	196
25. SAVE コマンド・パラメーター . . . . .	87	64. 「オブジェクトのリスト」ページのコン トロール . . . . .	199
26. SEND TO コマンド・パラメーター	89	65. 「SQL 照会の編集」ページのコントロ ール . . . . .	201
27. SET GLOBAL コマンド・パラメーター	89	66. 「SQL 照会の作成」ページのコントロ ール . . . . .	202
28. SHOW コマンド・パラメーター . . . . .	90	67. 「オブジェクトの保管」ページのコント ロール . . . . .	203
29. WINDOWS コマンド・パラメーター	90	68. 表の選択基準 . . . . .	205
30. 「報告書」メニューのオプション	114	69. 表のソート基準 . . . . .	205
31. 「一般」オプション . . . . .	116	70. 結合条件の例 . . . . .	208
32. フォーマット・オプション . . . . .	117	71. ソート条件の例 . . . . .	208
33. 出力オプション . . . . .	118	72. ソート条件の例 . . . . .	209
34. Microsoft Access のオプション	120	73. 「指示照会の作成」のコントロール	213
35. プロシーチャー・オプション . . . . .	123		
36. プロシーチャー・オプション . . . . .	124		
37. 変数オプション . . . . .	125		
38. 日付置換値の設定 . . . . .	126		
39. その他のオプション . . . . .	128		

74.	「照会のフォーマット」ページのコントロール . . . . .	217	77.	「データのエクспорт」ページのコントロール . . . . .	223
75.	「報告書のリスト」ページのコントロール . . . . .	219	78.	「データベース表へのエクспорт」ページのコントロール . . . . .	225
76.	「書式の適用」ページのコントロール	221	79.	「変数」ページのコントロール	227



---

## 改訂の要約

「照会結果」ウィンドウ

- 列の折り返し
- 垂直の配置 (下部、中間、上部)
- 特定の場所 (行番号または切れ目合計行など) への「移動」
- 強調表示データ内での検索
- 「ズーム編集」ダイアログでデータを 16 進数または 2 進数形式で表示
- ユーザー定義の通貨記号
- メニューの単純化

### EasyAsk

QMF (Windows 版) は EasyAsk (旧称: English Wizard) をサポートしています。これは、SQL を使わずに、普通の質問の形で照会を行うための製品インターフェースです。

### 指示照会

指示照会が拡張されました。結合条件として、内部結合、外部結合、左方結合、右方結合、完全結合が含まれるようになりました。選択されていない列によるソートと、式によるソートが可能になりました。

### レポート・センター

バージョン 7.2 では、QMF (Windows 版) レポート・センターに多数の更新が加えられました。次のとおりです。

- サーバー・フィルター  
サーバー・フィルターは、定義されるサーバー、および表示される SDF を選択するために使用します。
- 報告書のリンク  
ローカルに保管された照会 (\*.qry) ファイルに報告書をリンクすることができます。
- 報告書の表示  
報告書の SQL およびプロシージャ・テキストを表示することができます。ただし、編集することはできません。
- ツリー構造  
QMF オブジェクトと DB2 表をツリー構造で表示できます。
- 報告書に関するコメント

報告書サービスまたは Internet Explorer のタスク スケジューラに関するコメントを、最高 800 文字まで定義できます。

- 変数の隠蔽

QMF (Windows 版) バージョン 7.2 を使用すると、事前設定された変数値を個々に隠蔽することができます。

- 日付ウィザード

「日付」ウィザードを使用して、変数値に対して計算された日付を作成することができます。現在日付、月の初日または最終日、以前の月の初日または最終日、月の最初の平日または最後の平日、または営業四半期の初日または最終日に設定できます。

- 一時ディレクトリー内の報告書

報告を実行しているマシンの一時ディレクトリーに、報告書を作成することができます。

- 図表の事前設定と作成を、Microsoft® Excel®, または Lotus 1-2-3® で行えます。

- ピボット表を Microsoft Excel で作成することができます。

- グループ・データを Lotus 1-2-3 で作成することができます。

- Microsoft Excel または Lotus 1-2-3 で、1 つの列、または 2 つの列を基準にしてグループ分けができます。

- フォルダー・プロパティに誤りがあると、レポート・センターは停止します。また、エラーが見つかった場合、フォルダーの下の報告の実行も停止します。

## QMF Query for Java™

QMF Query for Java を使用して、SQL 照会および指示照会を作成、保管、および実行することができます。報告書の書式設定は、デフォルトの書式、または保存されている書式から行えます。照会内の結果グリッド書式設定を使用して報告書を書式設定することができます。QMF Query for Java は、照会、出力グラフおよび図表を管理することができます。

## 地理情報データ

IBM DB2® 地理情報エクステンダーは、照会可能な地理情報データを保管、アクセス、管理、および分析します。QMF (Windows 版) のこの機能により、地理情報データのビジュアル・マップ・レンダリングが可能です。地理情報データをインポートまたはエクスポートすることができます。「結果」メニュー、「リスト」メニュー、および「ファイル」メニューなど、いくつかのメニューには、地理情報データ機能用のオプションが含まれています。「マップの表示」ダイアログには、2 つのペインが含まれています。一方は、形状ファイル内で使用されるレイヤー (照会または表) を表示するツリー表示です。もう一方は、地理情報データのビジュアル・マップ・レンダリングを行います。

## カタログ

カタログが拡張されました。その結果、データベース・サーバーに QMF カタログ全体を作成しなくても、そのサーバーにアクセスできるようになりました。単一のサーバーに、複数の別個の QMF カタログを作成できます。単一の DB2 サーバーで QMF カタログを保守するため、拡張されたカタログ・サポートが採用されました。管理者は、アクセスされる各 DB2 サーバーごとにカタログを保守しないで済みます。カタログの集中化には、ODBC データ・ソース用に設計された照会も含まれます。これは、実行時にエンド・ユーザーが別のデータ・ソースにリダイレクトしない限り、ODBC データ・ソースに照会を行うものです。

## 照会に関する改善点

照会関数に改善が加えられました。その中には、PREPARE 関数が含まれます。これを使用すると、DB2 は、クライアントにデータを送信せずに内部計算を実行する一方、照会の構文および必要なオブジェクトの可用性を検査します。COMMENT/UNCOMMENT にも改善が加えられました。特定の行をコメント化したり、照会に含めたりすることにより、照会の実行時にその行を使用するかどうかを決定できます。

## API に関する改善点

ResetGlobalVariable() および SetParameter() など、25 を超える API が追加されました。





## その他の改善点

- IBM ObjectREXX の @IF 関数。REXX 式内の指定された値をテストしてから、式を解釈し、結果を戻します。
- QMF プロシージャの高速データ保管機能
- 照会結果および報告書にデータを表示する際の、BiDi (双方向) 指定オプション
- 大域変数およびオブジェクト追跡報告書に関するツールの説明



# QMF ライブラリー

資料は、IBM 担当員を通じて注文してください。

評価	<div data-bbox="349 407 470 564" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>QMF 入門</p> <p>GC88-8618</p> </div>			
インストール、 計画、管理、 および診断	<div data-bbox="349 590 470 746" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Installing and Managing QMF on OS/390, VM, and VSE</p> <p>GC27-0720</p> </div>	<div data-bbox="483 590 631 746" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>QMF (Windows 版) 導入および 管理</p> <p>GC88-8669</p> </div>		
	<div data-bbox="349 763 470 920" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>QMF メッセージ および コード</p> <p>GC88-8621</p> </div>	<div data-bbox="483 763 631 920" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>QMF High Performance Option User's Guide for OS/390</p> <p>SC27-0724</p> </div>		
使用	<div data-bbox="349 946 470 1102" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>QMF 使用の 手引き</p> <p>SC88-8620</p> </div>	<div data-bbox="483 946 631 1102" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>QMF 解説書</p> <p>SC88-8619</p> </div>	<div data-bbox="645 946 792 1102" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>QMF (Windows 版) 入門</p> <p>SC88-8670</p> </div>	
アプリケーション・ プログラミング	<div data-bbox="349 1137 470 1293" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>QMF アプリケー ション開発の 手引き</p> <p>SC88-8622</p> </div>			
オンライン・ ライブラリー	<div data-bbox="362 1319 483 1432" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="362 1440 504 1510"> <p>SK2T-0730 OS/390、VM、 および VSE</p> </div>	<div data-bbox="557 1319 678 1432" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="557 1440 685 1492"> <p>SK2T-6700 OS/390 のみ</p> </div>	<div data-bbox="745 1319 866 1432" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="745 1440 866 1492"> <p>SK2T-2067 VM のみ</p> </div>	<div data-bbox="934 1319 1055 1432" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="934 1440 1055 1492"> <p>SK2T-0060 VSE のみ</p> </div>



---

## 第1章 概要

この章では、QMF (Windows 版) の概要を紹介し、QMF (Windows 版) の作動を開始するための基本的な作業のうちのいくつかを説明します。

---

### 前提条件

#### オペレーティング・システム

- Microsoft® Windows® 95
- Microsoft Windows 98
- Microsoft Windows ME
- Microsoft Windows NT 4.0
- Microsoft Windows 2000
- Microsoft Windows XP

注: QMF (Windows 版) は、Windows 3.1 以前、Windows for Workgroups、または Windows NT 3.51 以前では稼働しません。

---

### アドイン・アプリケーション

- Microsoft® Excel®: 7.0 以降
- Lotus® 1-2-3®: 97 以降

---

### 接続性

#### TCP/IP

Windows オペレーティング・システムとともにインストールされる Microsoft TCP プロトコルは、WinSock インターフェースを備えるどの製品とでも一緒に動作するはずで  
す。

#### SNA

IBM Personal Communications 4.1 以降は、WinCPIC インターフェースを備えているど  
の製品とでも一緒に動作するはずで  
す。

#### ODBC

ほとんどの ODBC 2.x または 3.x ドライバーが受け入れ可能です。

## CLI

IBM DB2 ユニバーサル・データベース (DB2 Universal Database™) ランタイム・クライアント、バージョン 6.1 以降

---

## QMF Query for Java

### 推奨されるサーバー

IBM WebSphere® バージョン 3.02 または 3.5 は、JSDK 2.x または Java Servlet 2.2 以降をインプリメントするどのアプリケーション・サーバー製品とでも一緒に動作するはずですが、アプリケーションのプラットフォームとバージョンを下記にリストします。

- UNIX および Linux
- Windows NT または Windows 2000
- iSeries™ (4.4 以降)
- OS/390® (2.5 以降)、z/OS™ (UNIX システム・サービスをインストール済みのもの)、または MVS™

注: IBM WebSphere Application Server が推奨されています (バージョン 2.0、3.02、および 3.5 がサポートされています)。ただし、QMF Query for Java は、JDSK 2.0 および JDBC 1.0 をサポートするどのアプリケーション・サーバーとでも互換性があります。

### データベース

IBM DB2 バージョン 5.x 以上 (JDBC タイプ 1.0 ドライバーと、JDBC を使用可能にするための適切な更新を適用)。

---

## その他の機能

### IBM ObjectREXX

IBM ObjectREXX for Windows 1.0.2.3 またはそれ以降。

### 自然言語照会

- Linguistic Technology English Wizard 3.1
- EasyAsk 6.0



---

## 対象読者

本書の対象読者は、アプリケーションのエンド・ユーザーです。特に、以下のことを理解しているユーザーを対象としています。

- DB2 のデータ
- DB2 にある表
- SQL 指示照会または SQL

このような読者は、アプリケーションの作成、報告書を作成するための照会、書式、プロシージャの作成、データのエクスポート、レポート・センターの使用を行うことができるでしょう。

---

## アクセシビリティ機能

QMF (Windows 版) は、ユーザーのビジョンまたは流動性に合わせたカスタマイズが可能です。QMF (Windows 版) の内部で、および Windows オペレーティング・システムから、さまざまな種類のアクセシビリティのオプションが利用可能です。

- **キーボード・アクセラレーター:** メニューからではなくキーボードを介して直接アクセシビリティを実行できるようにするためのショートカットがあります。これは、ニモニックとも呼ばれています。

たとえば、**Ctrl+S** を押すと、メニューから「保存」オプションを選ぶのと同じ効果が得られる場合があります。

別の例としては、メニューに 1、2、3 とリストされているファイルは、単にオプション番号をタイプするだけで選択できます。たとえば、オプション 2 を選択すれば、「Tables」を選択することになります。

- 1 Reports
- 2 Tables
- 3 Queries

- **ツールバー・アイコン:** 最も頻繁に使用するオプション (保管、照会実行など) を実行するためのアイコンをツールバーに追加することができます。
- **ツールの説明:** ツールの説明が有効なウィンドウの領域にマウスを置く (カーソルをスワイプする) と、ツールの説明 (オプションに関する情報) が表示されます。
- **スクリーン・リーダー:** QMF オブジェクトは、スクリーン・リーダーで読み取ることができます。

**注:** 照会結果 (「結果グリッド」とも呼ばれる) は、スクリーン・リーダーで読み取ることができません。代わりに、ファイルをエクスポートするか、または HTML 形式でファイルを保管してください。

- **ハイコントラスト表示:** コントロール パネルで表示を変更し、視覚障害者の必要に合わせてアイコンと文字を拡大することができます。

- **Microsoft コントロール パネルのユーザー補助オプション:** コントロール パネルから以下のオプションが選択可能です。
  - キーボードの「固定キー機能」、「フィルタ キー機能」、「切り替えキー機能」に加え、プログラムで追加のキーボード・ヘルプを表示するためのオプション。
  - 画面: 読みやすい色とフォントを Windows で使うためのオプションに加え、ハイコントラストのためのオプションがあります (色設定 = 黒字に白色、白地に黒色、カスタム)。
  - マウス: 「マウス キー機能」を使用するためのオプションです。PC のテンキーでポインターを制御できます (ショートカットとポインターの速度も含む)。
- **全般:** ユーザー補助オプションのオンとオフ、通知、シリアル キー デバイス、および管理オプション。

---

## QMF (Windows 版) とは?

IBM 照会報告書作成プログラム (Windows 版) (QMF (Windows 版)) は、IBM の DB2 リレーショナル・データベース管理システム用の、しっかりと統合された、強力かつ信頼性の高い照会および報告書ツール・セットです。REXX の計算を使った報告書やプロシージャを含め、企業の報告書作成向けの使いやすいインターフェースを備えています。

QMF (Windows 版) は、IBM DB2 データベース・ファミリーの任意のデータベースに保管されているデータにアクセスします。同種または異種のデータ・ソースのデータも処理します。QMF (Windows 版) は、Microsoft Excel および Lotus 1-2-3 などのスプレッドシート・ソリューションと統合します。こうしたソリューションは、報告書データをパッケージおよび提示するための代替手段となります。

ブラウザーからの Java SQL、ポイント・アンド・クリック、ドラッグ・アンド・ドロップの各機能 (照会結果内からの集約、要約、および書式設定を含む) により、QMF (Windows 版) は堅固な照会および報告書作成ツールとなっています。QMF (Windows 版) 管理者コンポーネントは、リソースを保護したり、ユーザー・アクションをモニターしたりするための、広範囲に渡る詳細な管理と制御を QMF 環境全体に及ぼします。

---

## データベース・サーバー

照会、書式、プロシージャおよび表は、データベース・サーバーで実行され、保管されます。

### DB2 ファミリーのデータベース

QMF (Windows 版) は、次のような広い範囲の DB2 データベースに接続することができます。

- DB2 UDB (OS/390 版)、DB2 (OS/390 および z/OS 版)、および DB2 (MVS 版)

- DB2 サーバー (VSE™ および VM® 版) および SQL/DS™
- DB2 ユニバーサル・データベースおよび DB2 コモン・サーバー
- DB2 パラレル・エディション
- DataJoiner®

QMF (Windows 版) のライセンスによって、QMF (Windows 版) のコピーが、どの DB2 ファミリー製品にインストールでき、接続できるかが決まります。

## ユーザー名と技術名について

DB2 のバージョンおよびタイプが異なると、データベースを参照するのに、RDB 名を使用したり、ロケーション名を使用したり、あるいは他の技術名を使用したりします。

QMF (Windows 版) では、管理者が覚えやすい名前をデータベース名に割り当てることができます。たとえば、DB2P\_01\_PURCH の代わりに Purchasing Database (購買データベース) を使用します。

QMF (Windows 版) では、データベース・サーバーまたは DB2 データベースを単に「サーバー」と呼んでいます。

## サーバー名の設定

データベースを照会するためには、QMF (Windows 版) はまずデータベースが保管されている場所を知っている必要があります。

1. 「ファイル」メニューから、「新規 SQL 照会」を選択します。新規の SQL 照会文書が開かれます。
2. 「照会」メニューから、「サーバーの設定」を選択します。「サーバーの設定」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. 使用可能なサーバーのリストから、照会を行うサーバーを選択し (「サーバーの選択」)、「OK」をクリックします。次の QMF (Windows 版) セッションを開始するときに、QMF (Windows 版) は自動的に同じサーバーに再接続します。

---

## データベース・セキュリティ

サーバーに接続するためには、まずユーザー ID とパスワードを指定しなければなりません。

## ログオン

アクセスしようとするデータベース・サーバーに対して有効なユーザー ID とパスワードを指定しなければなりません。データベース・サーバーのユーザー ID およびパスワードは、必ずしもローカルまたはネットワークのユーザー ID およびパスワードと同じであるとは限りません。

Windows を実行している場合は、QMF (Windows 版) の複数のセッションにわたって、サーバー・パスワードを記憶しているというオプションがあります。現在 Windows にログオンしている場合、「ユーザー情報の設定」ダイアログ・ボックスは、「このパスワードを記憶?」というラベルが付いた追加のチェック・ボックスを表示します。このチェック・ボックスを選択すると、そのサーバー用に入力したパスワードが、Windows パスワード・リストに保管されます。パスワードを記憶させたユーザーが Windows にログオンしている場合には、QMF (Windows 版) は、常にそのパスワードを自動的に検索して、ユーザーにパスワードを入力するようプロンプトを出さないようにすることができます。QMF (Windows 版) を実行するときに、まだユーザーがログオンしていない場合、あるいは別のユーザーとしてログオンしている場合、QMF (Windows 版) はユーザー ID とパスワードを入力するようプロンプトを出します。

**注:** パスワードを保管するように決めた場合、そのユーザーの Windows のアカウントにログオンできる人はだれでも、そのユーザー (サーバー) のユーザー ID とパスワードを使用して、そのユーザーのデータベース・サーバーにアクセスすることができます。

1. 「照会」メニューから、「ユーザー情報の設定」を選択します。  
すると「ユーザー情報の設定」ダイアログ・ボックスが開きます。
2. ユーザー ID とパスワードを入力します。

**注:** ユーザー ID とパスワードは、大文字小文字の区別があります。たとえば、ユーザー ID またはパスワードが英大文字である場合には、それを英大文字で入力することが必要です、データベース・サーバーのタイプによっては、ユーザー ID とパスワードを、大文字小文字の区別があるものとして扱うものと、大文字小文字の区別がないものとして扱うものがあります。

3. ユーザー ID とパスワードを保管する場合には、「このパスワードを記憶?」にチェックを付けます。
4. 「OK」をクリックします。すると QMF (Windows 版) は、サーバーをアクセスする準備のため、この情報を保管します。

## パスワードの訂正

正しくないパスワードを入力した場合、「ユーザー情報の設定」ダイアログ・ボックスを再度開いて、エラーを訂正することができます。

1. 「照会」メニューから、「ユーザー情報の設定」をクリックします。  
すると「ユーザー情報の設定」ダイアログ・ボックスが開きます。
2. パスワードを再入力して、「OK」をクリックします。  
パスワードが訂正されます。

## パスワードの変更

データベース・サーバーで、QMF (Windows 版) から、パスワードを変更することができます。この機能は、現在は、DB2 (OS/390 版) バージョン 5 以降でのみサポートされています。

1. 「照会」メニューから、「ユーザー情報の設定」を選択します。  
すると「ユーザー情報の設定」ダイアログ・ボックスが開きます。
2. 「変更」をクリックします。  
「新規パスワード」および「新規パスワードの確認」のフィールドが表示されます。
3. ユーザーの新規パスワードを、「新規パスワード」と「新規パスワードの確認」のフィールドに入力して、「OK」をクリックします。  
これで、ユーザーのデータベース・サーバー・パスワードが変更されます。

## アカウント・ストリングの指定

データベース・サーバーは、アカウント・ストリングを使用して、システムの使用状況を追跡します。データベース管理者に、このシステムがアカウント・ストリングを使用しているかどうかを確かめてください。

1. 「照会」メニューから、「ユーザー情報の設定」を選択します。  
すると「ユーザー情報の設定」ダイアログ・ボックスが開きます。
2. 「アカウント・ストリング」フィールドで、使用するアカウント・ストリングを入力し、「OK」をクリックします。  
すると QMF (Windows 版) は、サーバーをアクセスする準備のために、この情報を保管します。

---

## QMF (Windows 版) のメニュー

以下の 3 つのドロップダウン・メニューが QMF (Windows 版) のメイン・ダイアログ・ボックスで使用可能です。

- ファイル
- ビュー
- ヘルプ

### 「ファイル」メニュー

#### 新規

SQL 照会、指示照会、自然照会、書式、プロシージャ、リスト、またはジョブを作成する場合は、このメニュー・オプションを選択します。サブメニューには、以下のメニュー・オプションのいくつかが表示されます。

- SQL 照会

SQL (構造化照会言語) ステートメントを使用して作成および変更する照会です。照会ウィンドウに入力します。データベース・サーバーは、有効な SQL 照会用の規則 (文法、構文、およびその他の規則) を定義します。

- **指示照会**

照会を構成するコンポーネントのグラフィカルな表現です。SQL 構文に慣れていない場合は、「指示照会」ウィンドウを使って照会を作成して編集してください。

- **自然照会**

会話的な英語を使用して書く照会。照会は SQL に変換され、通常はデータベースで実行されます。

**注:** 自然照会を使って作業するには、マシンに EasyAsk がインストールされていなければなりません。さもないと、このオプションは使用不可になります。

- **書式**

書式には、QMF (Windows 版) が照会結果から報告書を生成するために使用する書式設定に関する指示が含まれています。

- **プロシージャ**

単一のコマンドを出すだけで、照会の実行、報告書の印刷、データのインポートとエクスポート、他の機能の実行を行えるようにする、一連のコマンド。「プロシージャ」ウィンドウは、プロシージャを作成および編集するために使用します。

- **リスト**

オブジェクト (照会、書式、プロシージャ、または表) の新規リストを作成します。

- **ジョブ**

新規ジョブ (無人プロシージャをスケジュールおよび実行するために使用されるファイル) を作成します。ジョブ・ファイルには、ユーザー ID、暗号化されたパスワード、および置換変数を保管することができます。

## **開く**

このオプションを選択すると、既存の照会、書式、プロシージャ、またはリスト・ファイルから文書を開くことができます。

## **サーバーから開く**

このオプションを選択すると、リスト文書を開かずに、既存の照会、書式、プロシージャから文書を開くか、またはデータベース・サーバーからリスト・ファイルを開きます。

## **照会のドロー**

「照会のドロー」ダイアログ・ボックスは、指定する照会タイプおよび表に基づいて新規照会文書を作成します。このメニュー・コマンドは、ホスト QMF 内で DRAW コマンドを使用することに相当します。

- **サーバー**  
照会用の表が保管されているデータベース・サーバーです。
- **照会タイプ**  
作成する照会のタイプは、以下のとおりです。
  - 選択: 指定された表に対する SQL SELECT ステートメントを作成します。  
SELECT ステートメントを使用するときには、複数の表を指定することができます。
  - 更新: 指定された表に対する SQL UPDATE ステートメントを作成します。  
UPDATE ステートメントを使用するときには、1 つの表しか指定できません。
  - 挿入: 指定された表に対する SQL INSERT ステートメントを作成します。  
INSERT ステートメントを使用するときには、1 つの表しか指定できません。
- **所有者**  
照会を作成する表の所有者 (ID 用の正しい書式で)。
- **名前**  
照会を作成する表の名前 (ID 用の正しい書式で)。
- **ID**  
作成する照会内の表用の相関 ID。このフィールドをブランクのままにしておくと、相関 ID が自動的に生成されます。
- **表**  
照会内に含まれている表をリストします。SELECT ステートメントを作成する場合は、複数の表を指定できます。UPDATE または INSERT ステートメントを作成する場合は、1 つの表しか指定できません。

## 表編集プログラム

このダイアログ・ボックスは、「ファイル」メニューで「**表編集プログラム**」をクリックするとき、または「リスト」メニューで「**編集**」をクリックするときに表示されます。このダイアログ・ボックスは、表内の行を検索および編集するために使用します。

- **サーバー**  
検索する表を保管するデータベース・サーバーの名前。
- **表の所有者**  
表を保守する責任のあるユーザーの名前。
- **表名**  
検索する表の名前。
- **保管モード**  
行ごとに変更を保管するか、それともすべての変更を加えた時点で保管するかを指定します。
  - **即時**

表は、変更されるたびに即時にデータベース・サーバーで更新されます。

#### – 終了時

表は、すべての変更の入力完了後にデータベース・サーバーで更新されます。表の変更を行っている途中では、他のユーザーはその表を変更することはできません。

### データのインポート

このオプションは、既存の IXF ファイルから新規の照会文書にデータをインポートするために使用します。

### 最近使ったファイル

このオプションは、最近アクセスされたコンピューターからファイルを開くために使用します。

新しい照会ウィンドウで使用するために最近使用されたファイルにアクセスするには、以下のステップを実行してください。

1. 「ファイル」メニューで「最近使ったファイル」をクリックします。  
「最近使ったファイル」メニューが表示されます。
2. 使用するファイルを選択します。  
ファイル・データが新規ウィンドウ内に表示されます。

注: 「最近使ったファイル」メニューに相当するツールバー・ボタンはありません。

### 最近使ったオブジェクト

このオプションは、QMF (Windows 版) セッション中に最近アクセスされたサーバーからオブジェクトを検索するために使用します。最近アクセスされたオブジェクトの書式は、以下のとおりです。

SERVER:OBJECT\_TYPE:OWNER.NAME

新しい照会ウィンドウで使用するために最近使用されたオブジェクトにアクセスするには、以下のステップを実行してください。

1. 「ファイル」メニューで「最近使ったオブジェクト」をクリックします。  
「最近使ったオブジェクト」メニューが表示されます。
2. 使用するオブジェクトを選択します。  
オブジェクト・データが新規ウィンドウ内に表示されます。

注: 「最近使ったオブジェクト」メニューに相当するツールバー・ボタンはありません。

### 接続の終了

サーバーへの接続を終了します。



## 終了

このオプションは、QMF (Windows 版) を閉じるために使用します。

## 「ビュー」メニュー

### 接続

「ビュー」メニューで「**接続**」をクリックすると、「接続情報」ダイアログ・ボックスが表示されます。「接続情報」ダイアログ・ボックスは、QMF (Windows 版) とデータベース・サーバーとの接続の要約を示します。QMF (Windows 版) で作業している間、このダイアログ・ボックスを開いたままにしておくことができます。

- **サーバーおよび接続**

QMF (Windows 版) から現在接続しているサーバー、および QMF (Windows 版) と各サーバーとの間の接続数が表示されます。

- **詳細表示**

「接続の詳細」ダイアログ・ボックスが表示されます。「サーバー」および「接続」リストに、サーバーへのそれぞれの接続に関する明細情報が表示されます。

### 大域変数

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「**大域変数**」をクリックするときに表示されます。このダイアログ・ボックスには、このコンピューターで定義されているすべての大域変数が表示されます。

- **名前**

大域変数の名前を表示します。

- **値**

大域変数が現在保持している値を表示します。

### ツールバー

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「**ツールバー**」をクリックするときに表示されます。このダイアログ・ボックスは、様々なツールバーの表示と非表示を切り替えるために使用します。

- **メイン・ツールバー**

このチェック・ボックスは、メイン・ツールバーを表示するために選択します。

- **「照会」ツールバー**

このチェック・ボックスは、「照会」ツールバーを表示するために選択します。このツールバーは、照会文書がアクティブであるときに使用可能になります。

- **「自然照会」ツールバー**

このチェック・ボックスは、(自然照会文書がアクティブであるとき)「自然照会」ツールバーを表示するために選択します。

- **「プロシージャー」ツールバー**

このチェック・ボックスは、(プロシージャー文書がアクティブであるとき)「プロシージャー」ツールバーを表示するために選択します。

- 「書式」ツールバー

このチェック・ボックスは、(書式文書がアクティブであるとき)「書式」ツールバーを表示するために選択します。

- 「リスト」ツールバー

このチェック・ボックスは、(リスト文書がアクティブであるとき)「リスト」ツールバーを表示するために選択します。

- カスタマイズ

「カスタマイズ・ツールバー」ダイアログ・ボックスを開きます。

## コマンド・バー

このオプションにチェックを付けると、QMF (Windows 版) ユーザー・インターフェースの最上部に、「RUN コマンド」および「実行するサーバー」コマンド行を表示されます。コマンド・バーは、QMF (Windows 版) インターフェースから直接プロシージャー・コマンドを実行するために使用することができます。

## ステータス・バー

このオプションにチェックを付けると、QMF (Windows 版) ユーザー・インターフェースの下部にステータス・バーが表示されます。ステータス・バーは、QMF (Windows 版) を使用するのに役立つ情報およびメッセージを表示し、照会を実行しているときの状況情報を提供します。

## オプション [一般]

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「オプション」をクリックし、「一般」タブを選択するときに表示されます。

- サーバーの定義ファイル名

QMF (Windows) が使用するサーバーの定義ファイルの名前。システム管理者がこのファイルの名前を知らせます。QMF (Windows 版) を使用するためには、サーバーの定義ファイルの名前を入力しなければなりません。

### 特殊値

- ヌル値を次のように表示

QMF (Windows 版) が、データベース・サーバーから検索されたヌル値を表示するために使用するストリング。

- ヌル値の入力

照会結果内および「表編集」ダイアログ・ボックス内にヌル値を入力するときに使用するストリング。

- デフォルト値の入力

照会結果内および「表編集」ダイアログ・ボックス内にデフォルト値を入力するときに使用するストリング。

## オプション [CPI-C]

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「オプション」をクリックし、「CPI-C」タブを選択するときに表示されます。

- **CPI-C プロバイダーの DLL**

QMF (Windows 版) が CPI-C サービスにアクセスするために使用する DLL の名前。サポートされている SNA ソフトウェア製品に関する情報については、QMF (Windows 版) の製品要件を参照してください。

- **CPI-C 警告タイムアウト**

通信要求がこの時間内に完了しない場合、QMF (Windows 版) は、要求を取り消してエラーを戻すかどうかを尋ねてきます。

- **CPI-C 取り消しタイムアウト**

通信要求がこの時間内に完了しない場合、QMF (Windows 版) は、要求を自動的に取り消してエラーを戻します。

## オプション [TCP]

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「オプション」をクリックし、「TCP」タブを選択するときに表示されます。

- **TCP 警告タイムアウト**

通信要求がこの時間内に完了しない場合、QMF (Windows 版) は、要求を取り消してエラーを戻すかどうかを尋ねてきます。

- **TCP 取り消しタイムアウト**

通信要求がこの時間内に完了しない場合、QMF (Windows 版) は、要求を自動的に取り消してエラーを戻します。

## オプション [CLI]

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「オプション」をクリックし、「CLI」タブを選択するときに表示されます。

- **CLI 警告タイムアウト**

通信要求がこの時間内に完了しない場合、QMF (Windows 版) は、要求を取り消してエラーを戻すかどうかを尋ねてきます。

- **CLI 取り消しタイムアウト**

通信要求がこの時間内に完了しない場合、QMF (Windows 版) は、要求を自動的に取り消してエラーを戻します。

## オプション [ODBC]

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「オプション」をクリックし、「ODBC」タブを選択するときに表示されます。

- **ODBC 警告タイムアウト**

通信要求がこの時間内に完了しない場合、QMF (Windows 版) は、要求を取り消してエラーを戻すかどうかを尋ねてきます。

- **ODBC 取り消しタイムアウト**

通信要求がこの時間内に完了しない場合、QMF (Windows 版) は、要求を自動的に取り消してエラーを戻します。

## **オプション [LOB]**

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「オプション」をクリックし、「LOB (ラージ・オブジェクト)」タブを選択するときに表示されます。

- **LOB オプションの上書き**

チェックマークを付けると、デフォルトの LOB オプションを、指定するオプションに指定変更します。リソース制限によっては、LOB オプションを指定変更できないことがあります。

- **LOB 列を使用不可にする**

LOB データを含む列を照会する場合、データは戻されません。

- **LOB データの検索を不可にする**

ユーザーは LOB データを検索できません。

- **要求時に LOB データを検索する**

特定の LOB は、それらの LOB を個々に要求するときに戻されます。

- **LOB データを自動的に検索する**

照会結果内のすべての LOB が自動的に戻されます。

- **LOB 列の最大サイズ (KB)**

LOB 列の最大サイズを K バイトで指定します。ゼロは、最大サイズを制限しない事を意味します。

## **オプション [トレース]**

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「オプション」をクリックし、「トレース」タブを選択するときに表示されます。

**注:** トレースは、パフォーマンスに有害な影響を与えるので、トレースは問題を診断する場合にのみ適用してください。

- **トレース・ファイル 1**

使用する最初のトレース・ファイルの名前。ファイルのサイズが 512K バイトを超えるまで、QMF (Windows 版) はこのファイルにデータを書き込みます。次いで、QMF (Windows 版) は、トレース・ファイル 2 へのデータを書き込みを開始します。このファイルのサイズが 512K バイトを超えると、QMF (Windows 版) はトレース・ファイル 1 にスイッチバックします。この方式により、QMF (Windows 版) は、トレース情報のヒストリーの書き込みを引き続き実行しながら、トレース情報によってディスク・スペースを完全に使い果たしてしまうことのないようにします。

.... - 使用する最初のトレース・ファイルの名前をブラウズします。

- **トレース・ファイル 2**

使用する 2 番目のトレース・ファイルの名前。使用する 2 番目のトレース・ファイルの名前をブラウズします。

- **DDM**

チェックマークが付いていると、DDM へのトレース操作が適用されます。

- **TCP**

チェックマークが付いていると、TCP へのトレース操作が適用されます。

- **CPI-C**

チェックマークが付いていると、CPI-C へのトレース操作が適用されます。

- **CLI**

チェックマークが付いていると、CLI へのトレース操作が適用されます。

- **組み込み SQL**

チェックマークが付いていると、組み込み SQL へのトレース操作が適用されます。

- **SQLAM**

チェックマークが付いていると、SQLAM へのトレース操作が適用されます。

- **REXX**

チェックマークが付いていると、IBM ObjectREXX へのトレース操作が適用されません。

- **インターネット・メール**

チェックマークが付いていると、インターネット・メールへのトレース操作が適用されます。

## **オプション [BiDi]**

このダイアログ・ボックスは、「ビュー」メニューで「オプション」をクリックし、「BiDi」タブを選択するときに表示されます。「BiDi」（両方向）ダイアログ・ボックスにある設定値は、BiDi が使用可能なオペレーティング・システムにおける照会結果および報告書におけるデータの方向を制御します。

- **左から右**

どのオペレーティング・システムの下でも、データが左から右の方向に表示されます。

- **右から左**

どのオペレーティング・システムのデータも、右から左の方向に表示されます。

- **オペレーティング・システム・ベース**

QMF (Windows 版) は、オペレーティング・システムに従って、グリッドと報告書の方向を決めます。オペレーティング・システムが BiDi を使用可能な場合、データは右から左の方向に表示されます。そうでない場合には、データは左から右の方向に表示されます。

**注:** 方向フラグは、レジストリー項目 QFW\_KEY¥Advanced Options¥BIDIOptions に保管されています。正しい値は次のとおりです。0 = OS に依存。1 = 常に左から右。2 = 常に右から左。

---

## 管理

QMF (Windows 版) 管理プログラムは、常にバックグラウンドで実行し、データベースおよびシステム・リソースの使用状況を監視しています。また、管理プログラムは実行できる照会のタイプおよびサイズも制限します。

### リソース限界の表示

「ビュー」メニューから「リソース限界」を選択します。「リソース限界」ダイアログ・ボックスが開きます。「リソース限界」ダイアログ・ボックス内の情報はすべて読取専用です。システム管理者がこれらの限界を設定します。

有効な限界および制御のタイプは次のとおりです。

- タイムアウト
- 限界
- SQL verb
- オプション
- データの保管
- バインディング
- オブジェクトの追跡
- LOB オプション
- レポート・センター

### 限界行数の設定

該当の照会で検索する最大 (限界) 行数を指定することができます。この限界に到達すると、QMF (Windows 版) はその照会を取り消します。リソース限界グループに指定されている最大の許可限界行数は、このパラメーターより優先されます。

このフィールドに限界を設定しない場合には、**0** を入力します。

この限界を超えて QMF (Windows 版) がすでに検索している行は、表示するために保持され、使用可能になっています。

1. 「照会」メニューから、「**限界行数の設定**」をクリックします。

「限界行数の設定」ダイアログ・ボックスが開かれます。

2. 照会で戻す最大の行数を入力し、「OK」をクリックします。  
限界行数は、次にこの照会を実行したときに適用されます。

---

## ツールバーの変更

ツールバーを変更して、参照したいボタンだけを表示することができます。

### ツールバーへのボタンの追加

既存の QMF (Windows 版) のツールバーにボタンを追加するオプションがあります。これらのボタンは、すべてのユーザーが必要とするものではないが、ツールバーに組み込んで使用できる機能を表しています。

1. ツールバーを囲むグレーの区域をダブルクリックします。「ツールバーの変更」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 「利用できるボタン」列から追加するボタンを選択して、「追加」をクリックします。  
そのボタンがツールバーに追加されます。
3. ボタンの追加が完了したら、「閉じる」をクリックします。  
ダイアログ・ボックスが閉じて、新規のボタンがツールバーに追加されます。

### ツールバー上のボタンの移動

QMF (Windows 版) のツールバー上のボタンを並べ替えるオプションがあります。

1. ツールバーを囲むグレーの区域をダブルクリックします。  
「ツールバーの変更」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 「利用できるボタン」列から、移動したいボタンを選択します。
3. 「上へ」および「下へ」ボタンを使用して、ツールバー内でボタンを移動します。
4. ボタンの移動が完了したら、「閉じる」をクリックします。  
ダイアログ・ボックスが閉じて、ボタンがツールバー上の新規の位置に表示されます。

### ツールバーからのボタンの削除

QMF (Windows 版) のツールバーからボタンを削除するオプションがあります。

1. ツールバーを囲むグレーの区域をダブルクリックします。  
「ツールバーの変更」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 「利用できるボタン」列から除去するボタンを選択して、「除去」をクリックします。  
そのボタンがツールバーから除去されます。
3. ボタンの除去が完了したら、「閉じる」をクリックします。

ダイアログ・ボックスが閉じて、そのボタンがツールバーから除去されます。



---

## 第2章 SQL 照会の作業

SQL (構造化照会言語) は、ユーザーとデータベースとの間の最も基本的なインターフェースです。照会は SQL で書かれ、データベースで処理されます。ユーザーは、QMF (Windows 版) の照会を SQL で書くことができますが、「ポイント・アンド・クリック (マウスでポイントしてクリックする)」方式でも照会を作成することができます。

---

### SQL 照会

構造化プログラミング言語の照会を行うためには、SQL のコマンドとその構文を知っている必要があります。SQL について詳しくない場合は、『指示照会の作成』の章で説明されているように、指示照会を作成してください。

#### 「照会」メニュー

##### 実行

アクティブな照会を実行します。

##### 準備

このオプションは、PREPARE SQL コマンドを起動します。DB2 は、照会構文、および照会に関連するすべてのオブジェクトの存在を検査しますが、内部的な計算が実行され、データはクライアントに送信されません。

このオプションは、照会を妥当性検査する場合に非常に便利です。指示照会の計算が大量に及ぶ場合、または戻されるデータが大量の場合に、構文が正しいかどうか確かでないなら、構文を検査する最善の方法は、PREPARE コマンドを使用することです。

##### キャンセル

データベース・サーバーで現在実行しているアクティブな照会を取り消します。

##### 大文字

「照会」または「プロシージャー」ウィンドウ内にタイプする文字を、強制的にすべて大文字にします。

##### SQL テキストの再フォーマット

照会の SQL テキストを再フォーマットします。再フォーマットにより、テキストの外観を整え、SQL キーワードを大文字化し、照会の 1 行の長さが 79 文字より短くなるようにします。これは、データベース・サーバーに照会を保管するための要件です。

## 注釈

このオプションは、照会の中の行をコメント化するために使用します。通常、SQL のセクションが行うことを説明する行をコメント化します。コメント化されたテキストは、照会が実行されるときには組み込まれません。

このオプションを選択すると、以下のように、照会の中の行の先頭に 2 つのダッシュ (--) が付きます。

```
SELECT * FROM Q.STAFF
--USE THIS ONLY FOR MONTH-END REPORTS
```

## コメント化解除

コメント行を除去します。コメント化解除された行は、SQL 照会が実行されるときに読み取られます。

このオプションを選択すると、以下のように、照会の中の行の先頭に 2 つのダッシュ (--) が除去されます。

```
SELECT * FROM Q.STAFF
USE THIS ONLY FOR MONTH-END REPORTS
```

## サーバーの設定

アクティブな照会を実行するデータベース・サーバーを選択します。

## ユーザー情報の設定

アクティブな照会用のデータベース・サーバー・ユーザー ID、パスワード、アカウント・ストリングを設定します。

## 限界行数の設定

アクティブな照会用のデータベース・サーバーから検索する最大行数を決定します。

## フォントの設定

選択項目の表示フォント属性を変更します。

## EasyAsk 辞書を開く

このサーバー用の EasyAsk 辞書 (\*.dct) を開きます。

**注:** このオプションは、EasyAsk がコンピューターにインストールされている場合のみ使用可能です。

## EasyAsk 照会ビルダー

EasyAsk 照会ビルダーを開きます。

**注:** このオプションは、EasyAsk がコンピューターにインストールされている場合のみ使用可能です。

## EasyAsk ビューの変換処理

「EasyAsk ビューの変換処理」ウィンドウを開きます。

**注:** このオプションは、EasyAsk がコンピューターにインストールされている場合にのみ使用可能です。

## EasyAsk 辞書エディター

「EasyAsk 辞書エディター」を開きます。

**注:** このオプションは、EasyAsk がコンピューターにインストールされている場合にのみ使用可能です。

## EasyAsk 辞書マップ

「EasyAsk 辞書マップ」を開きます。

**注:** このオプションは、EasyAsk がコンピューターにインストールされている場合にのみ使用可能です。

## EasyAsk 日付の設定

「EasyAsk 日付の設定」ダイアログ・ボックスを開きます。

**注:** このオプションは、EasyAsk がコンピューターにインストールされている場合にのみ使用可能です。

## EasyAsk 辞書作成キット

「EasyAsk 辞書作成キット」を表示します。

**注:** このオプションは、EasyAsk がコンピューターにインストールされている場合にのみ使用可能です。

## EasyAsk 辞書プロパティ

現行の EasyAsk 辞書のプロパティを表示します。

**注:** このオプションは、EasyAsk がコンピューターにインストールされている場合にのみ使用可能です。

## パッケージのバインド

静的照会としてアクティブ SQL ステートメントを含むデータベース・サーバーでパッケージを作成します。

## 動的 SQL に戻す

パッケージをバインドした後、動的 SQL として照会を編集および実行します。

## SQL への変換

アクティブな指示照会を新規 SQL 照会に変換します。

注: このコマンドは、アクティブな照会が指示照会である場合にのみ使用可能です。

## ストアド・プロシージャ・パラメーターの確認

CALL ステートメントで実行されるストアド・プロシージャ用のパラメーターのデータ・タイプ、モード、および値を確認します。

## SQL 照会の作成

ツールバーの「**新規 SQL 照会**」ボタンをクリックします。

新規の照会文書が開かれます。

## データベース・サーバーでの SQL 照会の実行

1. 新規の照会文書を開き照会内に入力するか、既存の照会ファイルを開くか、またはデータベースから照会を開きます。
2. ツールバーの「**照会実行**」ボタンをクリックします。  
照会が実行され、結果が表示されます。

## 結果の表示と SQL 表示の間の切り替え

照会の結果または SQL ステートメントを見ることができます。

実行した照会の「SQL 表示」から、ツールバーの「**結果の表示**」をクリックします。

照会の結果が表示されます。

- あるいは -

照会の「結果の表示」から、「**SQL 表示**」をクリックします。

SQL ステートメントが表示されます。

---

## フォントに関する作業

照会を表示するために使用されるフォントを変更することができます。選択できるフォントは、使用しているコンピューターにインストールされているものによって異なります。フォントの追加については詳しくは、使用しているオペレーティング・システムのヘルプ機能を参照してください。

注: 新規の照会表示フォントを選択した後で照会を保管すると、その照会は、新規フォントで表示されます。

## 照会表示フォントの選択

1. 「SQL 表示」から、「照会」メニューの「**フォントの設定**」をクリックします。  
「フォント」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 照会のテキストを表示するフォントを選択して、「**OK**」をクリックします。  
照会が新規のフォントで再表示されます。

注: 「**デフォルトとして設定**」をクリックします。選択したフォントがすべての新規照会のデフォルト・フォントとして使用されます。

---

## 複数の照会

複数の照会を同時に開くか実行することができます。これらの機能を使用して、複数の報告書が生成され、またある照会から別の照会へ、SQL テキストを切り取って貼り付けることができます。

### 複数の照会の表示

1. 少なくとも 2 つの照会文書を開きます。
2. 「ウィンドウ」メニューから、次のいずれかのコマンドを選択します。

表 1. 照会表示コマンド

コマンド	結果
重ねて表示	選択すると、複数の照会が少しずつずれた形で重なって表示されます。
横のタイル表示	選択すると、照会ウィンドウが縦に積み上げられて表示されます。
縦のタイル表示	選択すると、照会ウィンドウが横に並べられて表示されます。

照会ウィンドウは、選択したオプションに従って配置されます。

---

## 照会のドロー

新規 SQL 照会文書の作成を支援するために、「照会のドロー」コマンドを使用します。必要とする 1 つまたは複数の表名および SQL ステートメントのタイプを指定すると、QMF (Windows 版) は、表内の列の名前およびデータ・タイプを参照する SQL ステートメントを作成します。

### SQL 照会の作成

1. 「ファイル」メニューから、「**照会のドロー**」をクリックします。  
「照会のドロー」ダイアログ・ボックスが開かれます。

- 作成する照会のタイプを選択します。

表2. 照会タイプの選択

照会タイプ	結果
選択	1 つまたは複数の表から行を検索します。
更新	表内にある情報を変更します。
挿入	表に新規の行を追加します。

- 照会する表の所有者および表名を入力します。

**注:** マッチングする表のリストから表名を選択する際に、パターンを使用することができます。

- 任意の文字を含む任意の長さのストリングのマッチングを行うためには、パーセント文字 (%) を使用します。たとえば、名前が文字 A で始まる表をすべてリストするためには A% と入力します。
  - 単一文字のマッチングを行うためには、下線文字 (\_) を使用します。たとえば、2 番目の位置に文字 A が入っている所有者の表をすべてリストするためには \_A% と入力します。
- パターンの入力後、「リストから追加」をクリックし、結果のリストから表を選択します。
  - その表の固有 ID を入力します。
  - 「追加」をクリックします。  
表が照会に追加されます。
  - 表を照会に追加した後に「OK」をクリックします。  
選択した表の SQL 照会が作成され、表示されます。

---

## SQL 照会での置換変数

変数は、プログラムが実行している間に変更できる、コンピューター・プログラム・コードの小さい部分です。このようにして、複数のアクションのために同じプログラムを使用することができます。

QMF (Windows 版) には、置換変数と大域変数 (『大域変数に関する作業』の章で説明されている) という以下の 2 種類の変数があります。

### 置換変数

置換変数は、実行時に変数をストリングに置換するために QMF オブジェクトで使用されます。これにより、SQL ステートメントの一部を置換して、これをより汎用的なものにすることができます。置換変数がアクティブなのは、オブジェクト (照会、プロシー

ジャー、または書式) が実行している間だけです。その結果、1 つのオブジェクトのみが置換変数にアクセスすることができます。実行後、変数は存在しなくなります。

置換変数を使用して、照会を実行するごとに異なる値を提供すると、同じ照会を使用して異なる情報を検索することができます。異なるデータの組を検索するために照会を書き直す必要はありません。その場合は、照会を実行する際に、照会の置換変数に異なる値を提供してください。

置換変数とは、照会に組み込まれるテキストのことです。置換変数は、アンパーサンド文字 (&) で始める必要があります、18 文字までの英字、数字、または ^ ! \$ % ^ { } ? @ # % ¥ \_ の特殊文字の 1 つを持つことができます。たとえば、次に示すものは有効な置換変数です。

```
&VARIABLE1  
&DEPARTMENT_NUMBER
```

置換変数は照会内のどこに現れてもよく、変数の値は照会に書き込めるものであれば何でもかまいません (ただし注釈は除きます)。たとえば、列名、検索条件、副照会、または任意の特定の値の代わりに置換変数を使用できます。

## 大域変数

大域変数は、QMF (Windows 版) がアクティブである間はアクティブです。これは、QMF (Windows 版) のインスタンスが終了するまで値が同じであること、およびすべての QMF オブジェクトが大域変数にアクセスできるということを意味します。異なる QMF のインスタンスは、お互いの大域変数を見るできません。

## 置換変数を使用する SQL 照会の実行

1. 新規照会文書を開いて、次の SQL ステートメントを入力します。

```
SELECT * FROM Q.STAFF WHERE DEPT >= &MIN_DEPT
```

2. 照会を実行します。

「置換変数値の入力」ダイアログ・ボックスが開かれます。

3. 「値」フィールドに 50 の値を入力して、「OK」をクリックします。

照会が実行され、照会結果が表示されます。

SELECT および FROM 文節内の値を置換して、置換変数を試してください。異なる入力によって、照会が戻す結果を確認してください。

---

## SQL 照会を保管および開く

照会は、PC、ファイル・サーバー、またはデータベース・サーバーに保管することができます。

## SQL 照会のファイルへの保管

1. 「照会を開く」から、ツールバーの「**保管**」をクリックします。  
照会が以前に保管されている場合も、その照会が再度保管されます。指示照会が以前に保管されていない場合は、「別名保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 照会を保管するファイルの名前を入力します。
3. 「**OK**」をクリックします。  
照会が保管されます。

## 保管した SQL 照会ファイルを開く

1. ツールバーの「**開く**」をクリックします。  
「開く」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 開くファイルを選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。  
選択した照会が、新規照会文書内に開かれます。

## データベース・サーバーで SQL 照会を保管

サーバーに保管されている照会を、他のユーザーからアクセスできるようにすることができます。照会を他のユーザーと共用したい場合は、照会をデータベース・サーバーに保管してください。

1. 「照会を開く」から、ツールバーの「**サーバーに保管**」をクリックします。  
「照会の保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 所有者、名前を入力し、保管されている照会を他のユーザーと共用するのかどうかを選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。  
照会がサーバーに保管されます。

**注:** この名前の照会が存在している場合は、前もって既存の照会を上書きすることを示すプロンプトが出されます。

## データベース・サーバーで保管した SQL 照会を開く

ユーザーは、データベース・サーバーに保管されている照会を開くことができます。

1. ツールバーの「**サーバーから開く**」をクリックします。  
「サーバーから開く」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. サーバー、所有者、および名前を入力します。
3. 「**OK**」をクリックします。  
SQL 照会が開かれます。



---

## SQL 照会の印刷

SQL 照会のプレビューと印刷を行うことができます。

### 照会のプレビュー

1. 照会を開いて「SQL 表示」を起動します。  
SQL ステートメントが表示されます。
2. 「ファイル」メニューから、「ページの設定」をクリックします。  
「ページの設定」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. ページのレイアウトに、必要な変更を行い、「OK」をクリックします。
4. ツールバーの「印刷のプレビュー」をクリックします。  
印刷する照会のプレビューが現れます。

### SQL 照会の印刷

1. 照会を開いて「SQL 表示」を起動します。  
SQL ステートメントが表示されます。
2. 「ファイル」メニューから、「ページの設定」をクリックします。  
「ページの設定」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. ページのレイアウトに、必要な変更を行います。
4. 「OK」をクリックします。
5. ツールバーの「印刷」をクリックします。  
照会が印刷されます。



---

## 第3章 指示照会の作成

指示照会は、メニューおよびリストからオプションを選択して照会を作成する、簡単な方法です。指示照会は、作成してしまうと、保管することも、SQL 照会に変換することもできます。

---

### 単純な照会の作成

指示照会インターフェースを使用すれば、単純な照会を作成することができます。

#### 「照会」メニュー

##### 実行

指示照会を実行します。

##### 準備

このオプションは、PREPARE SQL コマンドを起動します。DB2 は、照会構文、および指示照会と関連したすべてのオブジェクトの存在を検査します。内部的な計算が実行されますが、クライアントに送信されるデータはありません。

このオプションは、指示照会を妥当性検査する場合に非常に便利です。指示照会の計算が大量に及ぶ場合、または戻されるデータが大量の場合に、構文が正しいかどうか確かでないなら、構文を検査する最善の方法は、「準備」コマンドを使用することです。

##### キャンセル

データベース・サーバーで現在実行している指示照会を取り消します。

##### 大文字

指示照会または「プロシージャ」ウィンドウ内にタイプする文字を、強制的にすべて大文字にします。

##### サーバーの設定

アクティブな照会を実行するデータベース・サーバーを選択します。

##### ユーザー情報の設定

アクティブな照会用のデータベース・サーバー・ユーザー ID、パスワード、アカウント・ストリングを設定します。

##### 限界行数の設定

アクティブな照会用のデータベース・サーバーから検索する最大行数を決定します。

## フォントの設定

選択項目の表示フォント属性を変更します。

## 表の追加

表がアクティブ指示照会に追加されます。このコマンドは、アクティブな照会が指示照会である場合にのみ使用可能です。これは、SQL 照会の FROM 文節に表を追加することと同じです。

## 結合条件の追加

結合条件がアクティブ指示照会に追加されます。このコマンドは、アクティブな照会が指示照会である場合にのみ使用可能です。これは、SQL 照会の WHERE 文節にジョイン条件を追加することと同じです。

## 列の追加

列または列式がアクティブ指示照会に追加されます。このコマンドは、アクティブな照会が指示照会である場合にのみ使用可能です。これは、SQL 照会の SELECT 文節に列または式を追加することと同じです。

## ソート条件の追加

「ソート条件」ダイアログ・ボックスは、指示照会内のソート条件を追加または変更するときに表示されます。

ソート条件がアクティブ指示照会に追加されます。このコマンドは、アクティブな照会が指示照会である場合にのみ使用可能です。これは、SQL 照会の ORDER BY 文節に列または式を追加することと同じです。

たとえば、「ここにソート条件を入力する」フィールド内に、以下のようにステートメントを書くことができます。

```
SELECT ID, SALARY FROM Q.STAFF ORDER BY DEPT ASC
```

この場合、ソート条件は、結果セット内に存在しない列です。

別の例を以下に示します。

```
SELECT ID, SALARY FROM Q.STAFF ORDER BY ID+SALARY ASC
```

この場合、ソート条件は式です。

表3. 「ソート条件」ダイアログ

フィールド	説明
結果セットの列	指示照会内に列を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ソート条件を追加する場合、1 つまたは複数の列を選択することができます。</li> <li>ソート条件を変更する場合には、1 つの列のみを選択することができます。</li> </ul>
その他の使用可能な列	指示照会内に、その他の使用可能な表内からのその他の列を表示します。
ここに条件を入力する	ここにソート条件を手動で入力します。ソート条件のみがサポートされています。
ソート方向	列リスト内の選択された列に、昇順または降順ソート順序を適用します。

### 行条件の追加

行条件がアクティブ指示照会に追加されます。このコマンドは、アクティブな照会が指示照会である場合にのみ使用可能です。これは、SQL 照会の WHERE 文節に述部を追加することと同じです。

### SQL への変換

アクティブな指示照会を新規 SQL 照会に変換します。このコマンドは、アクティブな照会が指示照会である場合にのみ使用可能です。

## 新規指示照会を開く

「ファイル」メニューから、「新規指示照会」をクリックします。新規の「指示照会」文書が開かれます。

**注:** ODBC サーバーにアクセスするときは、指示照会を作成することはできません。以下のメッセージが表示されます。

この機能は ODBC サーバーにアクセスするときにはサポートされません。

### 指示照会アクション・ボタン

照会アクション・ボタンを使用して、指示照会を編集します。ボタンのセットが、制御するセクションの上に表示されます。

表4. 指示照会のコントロール

指示照会アクション・ボタン	結果
追加	クリックすると、指示照会に項目が追加されます。

表4. 指示照会のコントロール (続き)

指示照会アクション・ボタン	結果
編集	クリックして、照会内で強調表示されている項目を編集します。
削除	クリックすると、選択した項目が削除されます。
上へ / 下へ	クリックすると、指示照会内で選択した項目が上下に移動します。

### 指示照会への表の追加

- 「指示照会」文書の「表」セクションで、「追加」をクリックします。  
「表」ダイアログ・ボックスが開かれます。
- 追加する表の所有者および表名を入力して、「追加」をクリックします。  
表が照会に追加されます。

**注:** マッチングするオブジェクトのリストからオブジェクトを選択する際に、パターンを使用することができます。

- 任意の文字を含む任意の長さのストリングのマッチングを行うためには、パーセント文字 (%) を使用します。たとえば、名前が文字 A で始まる表をすべてリストするためには A% と入力します。
  - 単一文字のマッチングを行うためには、下線文字 ( \_ ) を使用します。たとえば、2 番目の位置に文字 A が入っている所有者の表をすべてリストするためには \_A% と入力します。
- パターンを入力した後、「リストから追加」をクリックします。
  - 結果のリストから表を選択します。
  - 照会に追加の表条件を追加します。
  - 「閉じる」をクリックします。  
新規の表をリストした指示照会文書が表示されます。

### 指示照会の実行

指示照会は、SQL 照会を実行するのと同じ方法で実行します。ツールバーの「照会実行」をクリックします。

指示照会が実行されます。

---

## 複雑な照会の作成

指示照会インターフェースを使用して、さらに複雑な照会も作成することができます。

## 指示照会への列の追加

「列」ダイアログ・ボックスは、指示照会内の列を追加または変更するときに表示されます。

表 5. 「列」ダイアログ

フィールド	説明
表	「指示照会」ウィンドウに追加した表または列をリストします。
列	「指示照会」ウィンドウ内の「列」リストに追加する列を選択します。列を選択してから「追加」をクリックします。「列」リストに複数の列を追加するには、この手順を繰り返してください。 注: 「列」リストに列を追加するには、列の上で右マウス・ボタン・クリックしてください。
タイプ	それぞれの列内に見つかった文字または数値データ・タイプをリストします。
ラベル	表と関連したラベルをリストします。
注釈	表と関連した注釈をリストします。
または、ここに式を入力する	データベース・サーバーに有効な列式。式の中の ID (表所有者、表名、または列名) 用の適切な書式を使用します。文字値は、適切な引用符で囲みます。式を入力しない場合には、「列」リストから列を選択します。
合計機能	列に合計機能を適用します。QMF (Windows 版) には、AVERAGE、COUNT、MAXIMUM、MINIMUM、および SUM を含め、一連の合計機能が備わっています。合計機能は、列のデータ・タイプと互換性がなければなりません。
新規列名	報告書内で使用するための新規列名
追加	「指示照会」ウィンドウに追加する列を選択するときに使用可能になります。
取り消し	現行アクションを取り消し、指示照会への変更を適用しないでダイアログ・ボックスを閉じます。

### 手順

1. 「指示照会」文書の「列」セクションで、「追加」をクリックします。  
「列」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 追加する列を選択します。

3. 「追加」をクリックします。  
列が指示照会に追加されます。
4. 照会に追加の列を追加します。
5. 「閉じる」をクリックします。

新規の列をリストした「指示照会」文書が表示されます。

**注:** 「機能」フィールドで合計機能を選択すると、該当の列に合計機能を適用することができます。使用可能な合計機能としては、AVERAGE、COUNT、MAXIMUM、MINIMUM、および SUM があります。

また、「新規列名」フィールドに新規の列名を入力して、照会の中の列の名前を変更することができます。

## ソート条件の使用

ソート条件は、照会内の行をソートする方法を指定するために使用されます。行は昇順 (A ~ Z) または降順 (Z ~ A) でソートできます。

複数の列で行をソートする場合には、1 番目の列が最初に配列され、2 番目の列が最初の列の順序の範囲内で配列され、... というようになります。「ソート条件」ダイアログ・ボックスは、指示照会内にソート条件を追加するときに表示されます。このダイアログ・ボックス上のフィールドには、以下のものが含まれます。

### 結果セットの列

指示照会内に列を表示します。ソート条件を追加する場合には、1 つまたは複数の列を選択することができます。ソート条件を変更する場合には、1 つの列のみを選択することができます。

### その他の使用可能な列

指示照会内に、その他の使用可能な表内からのその他の列を表示します。

### ここに条件を入力する

ここにソート条件を入力します。

**注:** ソート条件のみがサポートされています。

### ソート方向

列リスト内の選択されたすべての列に昇順 (最低から最高) または降順 (最高から最低) を適用します。

## 手順

1. 「指示照会」文書の「ソート条件」セクションで、「追加」をクリックします。  
「ソート条件」ダイアログ・ボックスが開かれます。



2. 以下のいずれかを選択します。
  - ソートする列
  - 選択された表からの追加の列
  - 追加のソート条件
  - 結果をソートする方向 (昇順または降順)
3. 「追加」をクリックします。  
ソート列が指示照会に追加されます。新規ソート条件をリストした「指示照会」文書が表示されます。
4. 照会に追加のソート条件を追加して、「閉じる」をクリックします。

## 行条件の使用

表内の特定の行だけを表示する場合には行条件を追加します。行条件を使用しない場合は、表内のすべての行が表示されます。

使用可能な行条件は次のとおりです。

- EQUAL TO
- LESS THAN
- LESS THAN OR EQUAL TO
- BETWEEN
- STARTING WITH
- ENDING WITH
- CONTAINING
- NULL

行条件は以下の演算子によって制御されます。

- IS
- IS NOT

## 手順

1. 「指示照会」文書の「行条件」セクションで、「追加」をクリックします。  
「行条件」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 条件ステートメントの部分を選択して、「追加」をクリックします。  
次に行条件が指示照会に追加されます。

表 6. 行条件の指定

行条件の部分	機能
左サイド	検査する列を選択します。

表6. 行条件の指定 (続き)

行条件の部分	機能
演算子	行の左サイドと右サイドの間の関係を決定します。
右サイド	検査する条件を入力します。

3. 照会に追加の行条件を追加します。
4. 「閉じる」をクリックします。  
「指示照会」文書は、新規の行条件で表示されます。

## 指示照会での複数の表の使用

複数の表からの情報を指示照会に組み込むことができます。

1 つまたは複数の結合条件をそれぞれに指定して、2 つの表を関係付ける必要があります。結合列が等しい表の行だけが、結果に組み込まれます。結合条件内のそれぞれの列のデータ・タイプは、一致していなければなりません。2 つの列の間の関係が指定されていれば、QMF (Windows 版) はその関係を記憶して、今後の照会でその関係を提示し、それ以降の照会の作成をより簡単に、より効率的にします。

以下の場合、「結合列」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 結合条件を編集する、または
- 結合条件を追加し、指示照会内に指定された 2 つの表のみがある

**注:** 指示照会内に指定された 2 つの表のみがあるときには、結合条件を指定しなければなりません。

表7. 「結合条件」ダイアログ

フィールド	説明
左列リスト	選択された表の 1 つに列を表示します。
右列リスト	選択されたその他の表に列を表示します。
追加	結合条件を追加するときに使用可能になります。「追加」をクリックして、結合条件を指示照会に追加します。この制御は、それぞれのリストから 1 つの列を選択するまで使用不可になります。
キャンセル	現行アクションを取り消し、指示照会への変更を適用しないでこのダイアログ・ボックスを閉じます。
閉じる	このダイアログ・ボックスを閉じます。

## 指示照会の結合条件の作成

1. 「指示照会ウィンドウ」の「表」セクションで、少なくとも 2 つの表を追加するために「追加」をクリックします。

注：表が結合されたことがない場合には、「表の結合」ダイアログ・ボックスが開かれます。 そうでない場合、QMF (Windows 版) は以前に使用された結合条件を提示します。

2. 各表から同じデータ・タイプの列を選択します。
3. 「追加」をクリックします。

新規の結合条件が指示照会に表示されます。

---

## 指示照会と SQL

指示照会インターフェースを使用して、SQL を学習することができます。

### 指示照会での SQL の表示

指示照会の表示から、ツールバーの「SQL の表示」をクリックします。

指示照会と同等の SQL ステートメントが表示されます。 この表示から、SQL ステートメントを変更することはできません。

### 指示照会の SQL への変換

指示照会を新規 SQL 照会文書に変換することができます。新規 SQL 照会は、変更、保管、印刷、および実行を行うことができます。

「照会」メニューから、「SQL へ変換」をクリックします。照会は、新規 SQL 照会文書に変換されます。

---

## 指示照会での置換変数の使用

置換変数は、SQL 照会内の場合と同じ方法で、指示照会内でも使用できます。 『SQL 照会での置換変数』を参照してください。

たとえば、置換変数は次のように使用できます。

- 行条件の場合  
DEPT Is Greater Than Or Equal To &MINDept
- 列の指定の場合  
&InputNum

---

## 指示照会の保管

指示照会は、ユーザーの PC、ファイル・サーバー、またはデータベース・サーバーに保管することができます。

### ファイルへの指示照会の保管

1. 「指示照会を開く」から、ツールバーの「**保管**」をクリックします。

**注:** 照会が保管されている場合も、その照会が再度保管されます。指示照会が保管されていない場合は、「別名保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。

2. 指示照会を保管するファイルの名前を入力します。
3. 「**OK**」をクリックします。

照会が保管されます。

### 保管した指示照会ファイルを開く

1. ツールバーの「**開く**」をクリックします。

「開く」ダイアログ・ボックスが開かれます。

2. 開きたいファイルを選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。

指示照会が、新規照会文書内に開かれます。

### データベース・サーバーへの指示照会の保管

1. 「指示照会を開く」から、ツールバーの「**サーバーに保管**」をクリックします。

「照会の保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。

2. 所有者、名前を入力し、保管されている照会を他のユーザーと共用するのかどうかを選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。

この名前の照会が存在している場合は、既存の照会を上書きすることを示すプロンプトが出されます。

### 保管された指示照会をデータベース・サーバーで開く

データベース・サーバーに保管されている指示照会を開くことができます。

1. ツールバーの「**サーバーから開く**」をクリックします。

「サーバーから開く」ダイアログ・ボックスが開かれます。

2. サーバー、所有者、および名前を入力します。
3. 「**OK**」をクリックします。

指示照会が開かれます。

---

## 指示照会の印刷

指示照会を印刷することができます。また、指示照会の SQL テキストを印刷することもできます。『SQL 照会の印刷』を参照してください。

### 指示照会のプレビュー

指示照会の結果またはテキストを、印刷する前にプレビューする（事前に見る）ことができます。

1. 照会を開いて、指示ビューを起動します。  
照会が表示されます。
2. 「ファイル」メニューから、「ページの設定」をクリックします。  
「ページの設定」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. ページ・レイアウトに変更を加えてから、「OK」をクリックします。
4. ツールバーの「印刷のプレビュー」をクリックします。  
印刷する照会のプレビューが現れます。



---

## 第4章 照会結果に関する作業

照会結果に対して、書式設定、グループ化、および集約を直接設定することができません。この書式設定は、照会とともに保管したり、書式としてエクスポートすることができます。照会結果上のどこをクリックしても、「結果」メニューがアクティブになりません。

照会結果を書式設定するには、次の 2 つの方法があります。

1. 書式設定したいセル、列、または行を選択します。「結果」メニューから、適用したい書式設定のタイプを選択します。
2. 書式設定したいセル、列、または行を選択して右マウス・ボタン・クリックします。「結果」メニューが表示されます。

---

### 書式設定

照会を実行すると、照会結果が「照会」ウィンドウに表示されます。照会結果に適用できる書式設定オプションには、次のものがあります。

- セル、行、および列の色とフォントを設定する。
- セルをグループ化する (要約付きと要約なし)。
- 数値データを、通貨書式、10 進数書式、浮動小数書式、パーセント書式、またはユーザー通貨書式で表示する。
- 選択した区切り文字記号を使用して日付と日時の書式を設定する。
- 書式設定をデフォルト設定として保管する。
- 書式を行や列にコピーして貼り付ける。
- 照会結果中の特定の行に移動したり、相対位置で行を指定して移動したりする。
- 列や行のサイズを内容に自動的に合わせる。

---

### 照会結果に関する作業

ユーザーは、照会のデータ結果の選択、サイズ変更、順序変更、およびソートを行うことができます。

#### 「結果」メニュー

##### フォント

このオプションを指定すると、「フォント」ダイアログ・ボックス (「詳細」タブ) が表示されます。このダイアログで、結果グリッド内の選択内容の表示フォント属性を変

更できます。このダイアログには、結果グリッド内の選択内容のフォント属性が表示されます。選択した他の列は、このダイアログの下にタブ形式で表示されます。

**注:** 「照会」、「フォントの設定」の順に選択すると、列や行のヘッダーのフォントを選択できます。

「フォント」ダイアログ・ボックス（「詳細」タブ）を表示するには、「結果」、「フォント」の順にクリックするか、または列を右マウス・ボタン・クリックします。

表8. 「フォント」のオプション

フィールド	説明
フォント	フォント・タイプの名前。
フォント・スタイル	フォントのスタイル。
サイズ	フォントのサイズ。
前景色	テキストの色を設定します。
背景色	テキストの背景の色を設定します。
サンプル	現行書式のテキストのサンプルを表示します。
すべてのタブに適用	この書式設定を、他のすべてのフォント列情報タブに適用します。 <b>注:</b> チェックマークを付けると、書式設定が他のすべての列に自動的に適用されます。他の列タブは使用不可になります。
デフォルトとして設定	フォント、フォント・スタイル、およびサイズをデフォルトとして設定します。新しいフォントを選択するか、デフォルトを変更するまで、このフォントを使用して照会結果の表示や印刷が行われます。
デフォルトにリセット	フォントの書式設定の情報をデフォルト設定に戻します。

## 書式

「書式」ダイアログ・ボックス（「詳細」タブ）を表示するには、列を選択して「結果」、「書式」の順にクリックするか、またはその列を右マウス・ボタン・クリックします。このダイアログを使用して、選択した列の書式設定オプションを設定します。たとえば、水平の配置、垂直の配置、オプション（3 桁ごとの区切り、負の数字、小数位、すべてのタブに適用（この書式設定を他のすべてのフォント情報タブに適用する））などを設定できます。

**注:** 「書式」ダイアログ・ボックスの表示内容は、選択した列に文字、数値、日時のいずれのデータがあるかによって変わります。



表9. 「書式」のオプション

フィールド	説明
書式	<p>列の値の書式。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>数値データの場合</b> 「現状のまま」、「通貨」、「10 進数」、「浮動小数」、「パーセント」、または「ユーザー通貨」を選択します。</li> <li>• <b>文字データの場合</b> 「現状のまま」、「16 進数」、または「2 進数」を選択します。</li> <li>• <b>日時データの場合</b> 「現状のまま」、「Windows」、または年月日 (日付)、時分秒 (時刻)、および区切り文字記号</li> </ul>
サンプル	<p>現行書式のサンプルを表示します。</p>
水平の配置	<p>列の内容をセルの左、右、または中央に配置します。</p>
垂直の配置	<p>列の内容をセルの上、下、または中央に配置します。</p>

表9. 「書式」のオプション (続き)

フィールド	説明
オプション	<p><b>数値データの場合</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 3 桁ごとの区切り チェックマークを付けると、数値に 3 桁ごとの区切りが付けられます (この記号は Windows の設定から採用されます)。</li> <li>• 負の数字 負の数を表示する方法を選択します。</li> <li>• 10 進数 10 進数を表示する方法を選択します。</li> </ul> <p><b>文字データの場合</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テキストの折り返し チェックマークを付けると、セルの内容が、そのセル中の次の行に折り返されます。</li> </ul> <p><b>日時データの場合</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 区切り文字記号 選択した日時書式と共に表示される記号を選択します。</li> <li>• 12 時間表示 チェックマークを付けると、時刻が 12 時間表示され、AM か PM かが示されます。 チェックマークを外すと、時刻は 24 時間表示されます。</li> </ul>
すべてのタブに適用	書式設定を他のすべての列タブに適用します。
デフォルトとして設定	この書式をデフォルトとして指定します。新しい書式を選択するか、デフォルトを変更するまで、この書式を使用して照会結果の表示や印刷が行われます。
デフォルトにリセット	書式の情報をデフォルト設定に戻します。

### 集約なし

このオプションを使用すると、選択した列から集約や要約の書式設定がすべて除去されます。

### 要約を使用してグループ化

このオプションを使用すると、選択した列がグループ化され、要約情報が付加されます。選択した列は、照会結果グリッドの左に移動します。

- 右上のボタンをクリックすると、セルを拡大したり縮小したりできます。
- セルをダブルクリックすると、セルを拡大したり縮小したりできます。
- **Shift** を押したままボタンをクリックすると、すべての行を拡大したり縮小したりできます。

### 要約を使用せずにグループ化

このオプションを使用すると、選択した列がグループ化されますが、要約情報は付加されません。

- 右上のボタンをクリックすると、セルを拡大したり縮小したりできます。
- セルをダブルクリックすると、セルを拡大したり縮小したりできます。
- **Shift** を押したままボタンをクリックすると、すべての行を拡大したり縮小したりできます。

### カウント

このオプションは、列の値の総数を合計します。

### 最初

このオプションを使用すると、列の最初の値を示す要約行が作成されます。

### 最後

このオプションを使用すると、列の最後の値を示す要約行が作成されます。

### 最大

このオプションを使用すると、列の最大を示す要約行が作成されます。

### 最小

このオプションを使用すると、列の最小を示す要約行が作成されます。

### 合計

このオプションを使用すると、列の値の合計を示す要約行が作成されます。

### 累計

このオプションを使用すると、列の値が累計として表示され、合計が付加されます。

### 平均

このオプションを使用すると、列の値の平均を示す要約行が作成されます。

### 標準偏差

このオプションを使用すると、列の値の標準偏差を示す要約行が作成されます。

### **グループのパーセンテージ**

このオプションを使用すると、列の値がグループの総計に対するパーセンテージとして表示され、パーセンテージの合計を示す要約行が付加されます。

### **合計のパーセンテージ**

このオプションを使用すると、列の値が列の合計に対するパーセンテージとして表示され、パーセンテージの合計を示す要約行が付加されます。

### **グループの累積パーセンテージ**

このオプションを使用すると、列の値がグループの総計に対する累積パーセンテージ値として表示され、パーセンテージの合計を示す要約行が付加されます。

### **合計の累積パーセンテージ**

このオプションを使用すると、列の値が列の総計に対する合計パーセンテージ値として表示され、パーセンテージの合計を示す要約行が付加されます。

### **フォーマットのコピー**

選択した列のフォーマットをコピーします。

### **フォーマットの貼り付け**

コピーしたフォーマットを、選択した列に貼り付けます。

### **フォーマットをすべてリセット**

照会結果のフォーマットをすべてリセットします。

### **自動フィット**

選択した列、すべての列、すべての行、または全体 (結果グリッドの内容) のサイズを、データ・ストリングが最大のセルに合わせて自動的に調整します。

### **ソート**

**昇順:** 結果グリッドの内容を昇順 (A ~ Z など) にソートします。

**降順:** 結果グリッドの内容を降順 (Z ~ A など) にソートします。

**ソート順:** 結果グリッドのデータを、特定の列で、特定のソート・タイプに従い、昇順または降順でソートします。サブソートを指定して、追加の列でソートすることができます。

## 移動

このダイアログ・ボックスは、「結果」、「移動」の順に選択すると表示されます。このダイアログ・ボックスを使用すると、照会結果グリッドの行をナビゲートできます。

表 10. 移動オプション

フィールド	説明
移動	数値を入力します。
絶対行	入力した行番号に照会結果グリッドがスクロールダウンします。たとえば、17 と入力すると 17 行目に移動します。
現在行に相対	結果グリッドで選択した行から数えた行数だけ、照会結果グリッドがスクロールダウンします。たとえば、17 行目を選択して 3 を入力すると、20 行目に移動します。
結果セットのパーセント	入力したパーセンテージだけ、照会結果グリッドがスクロールダウンします。たとえば、75 と入力すると、結果グリッドの 75% 分スクロールダウンします。

## 報告書の表示

報告書を表示する際に使用する書式を選択します。オプションは次のとおりです。

- デフォルト書式
- 照会から
- データベースから
- ファイルから
- 開いている文書から

## セルの内容の開始

適切な Windows アプリケーション (メモ帳など) に、選択したセルの内容を開きます。

注: これが適用されるのは、ファイル名がセルに関連付けられている場合だけです。

## すべての LOB 値の検索

照会結果中のラージ・オブジェクト (LOB) 値をすべて検索します。

## 列の LOB の関連付け

「列 LOB タイプの関連付け」ダイアログ・ボックスを開きます。このダイアログで、列のラージ・オブジェクト (LOB) 値と関連付けるアプリケーションを指定します。

「列 LOB タイプの関連付け」ダイアログ・ボックスを開くには、「結果」メニューから「列の LOB の関連付け」を選択するか、または照会結果グリッドの LOB ロケータ

ー・セルをダブルクリックします。

表 11. LOB タイプのオプション

フィールド	説明
ファイル拡張子	列の LOB のファイル拡張子を表示します。リストのオプションは、Windows レジストリーをもとにしたものとなります。
マッピング列	マッピング値とそれに対応する拡張子を含んだ列を表示します。

「列 LOB タイプの関連付け」ダイアログ・ボックスから「マッピング」をクリックすると、「ファイル拡張子マッピング」ダイアログ・ボックスが表示されます。

表 12. ファイル拡張子のマッピング・オプション

フィールド	説明
マッピング値	LOB データにマップする列の値を表示します。値を編集するには、行を選択して「編集」をクリックするか、またはマッピング値列の下の行をダブルクリックします。
ファイル拡張子	マップする LOB のファイル拡張子を表示します。拡張子を編集するには、ファイル拡張子列の下の行をダブルクリックします。 <b>注:</b> ファイル拡張子は、初めは <b>.LOB</b> として表示されます。ファイル拡張子を編集して、マッピング値に対応させる必要があります。  たとえば、マッピング値がビットマップの場合は、ファイル拡張子を <b>.bmp</b> にする必要があります。

## データベースに保管

照会結果をデータベース・サーバー表に保管するには、「データの保管」ダイアログ・ボックスを開きます。照会を実行するデータベース・サーバーと、照会結果を表に保管するデータベース・サーバーは、別々でかまいません。

**注:** このコマンドを使用できるのは、照会結果を表示している場合だけです。

## ファイルに保管

指定したファイル名、場所、および書式のファイルに照会結果をエクスポートします。このコマンドにより、「データのエクスポート」ダイアログ・ボックスが開きます。また、このコマンドを使用できるのは、照会結果を表示している場合だけです。

## 送信

「送信先:」フォルダーで指定したアプリケーションやターゲットに、現行の文書を送信します。

## 列および行の選択

照会が実行されていれば、「結果の表示」にある制御機能を使用して、情報を編集し選択することができます。

表 13. 列および行の選択

列および行のセレクター	機能
行セレクター	クリックして行の中のすべてのデータを選択します。
列セレクター	クリックして列の中のすべてのデータを選択します。
セル	該当のセルを直接クリックしてそれを選択します。
下部および上部へのスクロール・ボタン	クリックして、一組の照会の結果を上部または下部へスクロールします。

## 列および行のサイズ変更

列および行のサイズを変更して、一組の照会の結果の外観を変更することができます。

照会結果に対して、書式設定、グループ化、および集約を直接設定することができます。この書式設定は、照会とともに保管したり、書式としてエクスポートすることができます。

表 14. サイズ変更オプション

オプション	説明
照会結果のソートおよびサイズ変更	ユーザーは、照会のデータ結果の選択、サイズ変更、順序変更、およびソートを行うことができます。
列および行の選択	照会が実行されていれば、「結果の表示」にある制御機能を使用して、情報を編集し選択することができます。

表 15. 照会結果オプション

列および行のセレクター	機能
行セレクター	行の中のすべてのデータを選択します。
列セレクター	列の中のすべてのデータを選択します。
セル	クリックしてセルを選択します。

表 15. 照会結果オプション (続き)

列および行のセレクター	機能
下部および上部へのスクロール・ボタン	照会の結果を上部または下部へスクロールします。

### 列および行のサイズ変更

列および行のサイズを変更して、照会の結果の外観を変更することができます。

1. 「マウス選択」を使用して、2 つの列の間または 2 つの行の間に黒の区分線を選択します。
2. 区分線を左右に、または上下にドラッグして、列または行のサイズを変更します。

**注:** 行または列のサイズを変更してから照会の結果を保管すると、その照会は、常に新しい書式設定で表示します。

### 列および行の自動フィット

列および行のサイズを、そこに入っているデータに合わせるすることができます。

マウスを使用して、1 つの列または行の全体を選択し、その列または行と隣接するオブジェクトとの間の黒の区分線をダブルクリックします。これで、その列または行は、データに合うように、サイズが変更されます。

**注:** 行または列のサイズを変更してから照会の結果を保管すると、その照会は、新しい書式設定で表示します。

### 照会の結果のソート

照会が実行されていれば、照会の結果を、アルファベット順に列でソートできます。次のいずれかの方式を選択します。

- 照会の「結果の表示」から列を 1 つ選択してから、「結果」、「昇順にソート」の順に選択します。

すると、照会の結果は昇順にソートされます。

- 照会の「結果の表示」から列を 1 つ選択し、「結果」、「降順にソート」の順に選択します。

すると、照会の結果は降順にソートされます。

**注:** 選択した列に対して、もっと複雑なソートを適用する場合は、「結果」、「ソート」の順に選択してください。

### 列の順序変更



照会の「結果の表示」から、列を 1 つ選択し、それを新しい位置にドラッグします。照会結果の列の順序を変更することができます。

すると、その列は新しい順序で表示されます。

### 照会結果の書式設定

照会および照会の結果を表示するために使用されるフォントを変更することができます。選択できるフォントは、使用しているコンピューターにインストールされているものによって異なります。フォントの追加について詳しくは、使用しているオペレーティング・システムのヘルプ機能を参照してください。

**注:** 新しい照会結果表示フォントを選択した後で照会を保管すると、その結果は、常に新しいフォントを使用して表示されます。

### 照会結果表示フォントの選択

1. 「結果の表示」から、「結果」、「フォントの設定」の順に選択します。  
「フォント」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 照会の結果を表示するためのフォントと活字サイズを選択します。
3. 「OK」をクリックします。  
照会結果が選択したフォントで表示されます。

**注:** 「デフォルトとして設定」をクリックすると、選択したフォントがすべての照会結果のデフォルト・フォントとして使用されます。

### 数値照会結果の書式設定

1. 「結果の表示」から、数値を含む列を 1 つ選択し、「結果」、「書式」の順に選択します。  
「書式」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 適用する書式設定を指定します。
3. 「OK」をクリックします。  
値は、行った選択に従って書式設定されます。

**注:** 「デフォルトとして設定」をクリックすると、選択したフォントがすべての照会結果のデフォルト・フォントとして使用されます。

### 照会結果の書式設定の書式への変換

1. 「結果」メニューから、「報告書の表示」を選択します。  
「書式の選択」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 「照会から」を選択します。
3. 「OK」をクリックします。

これで、照会結果の書式設定が書式に変換され、「新規書式」ウィンドウの中に開かれます。

### 照会結果のグループ化および集約

照会結果に対して、グループ化、集約、および要約の書式設定を適用することができます。

1. グループ化する列を選択します。
2. 「結果」メニューから、適用したいグループ化のタイプを選択します。  
行った選択に従って、その列がグループ化されます。

### 照会結果の要約

照会結果を列単位で要約することができます。

1. グループ化する列を選択します。
2. 「結果」メニューから、適用したい要約のタイプを選択します。  
行った選択に従って、その列が要約されます。

### 照会結果の保管および書式設定

照会結果を保管し、書式設定を書式として保管することができます。

#### 照会結果の表としての保管

照会結果を、データベース・サーバーで表として保管することができます。

1. 「結果」メニューから、「データベースに保管」を選択します。  
「データの保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 所有者および表名を入力します。
3. 「OK」をクリックします。  
これで、照会結果がデータベースに表として保管されます。

#### 照会結果のファイルへの保管

照会結果を、ユーザーの PC またはファイル・サーバーのファイルに保管することができます。

1. 「結果」メニューから、「ファイルに保管」を選択します。  
「データのエキスポート」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. ファイルを保管する場所と、必要ならエキスポート・オプションを指定します。
3. 「OK」をクリックします。  
これで、照会結果がファイルに保管されます。

### 照会結果のプレビュー

1. 照会を開いて実行します。  
照会結果が表示されます。
2. 「ファイル」メニューから、「ページの設定」を選択します。  
「ページの設定」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. ページのレイアウトに変更を加えます。
4. 「OK」をクリックします。
5. ツールバーの「印刷プレビュー」をクリックします。  
印刷する照会結果のプレビューが表示されます。

### 照会結果の印刷

1. 照会を開いて「結果」表示をアクティブにします。  
照会結果が表示されます。
2. 「ファイル」メニューから、「ページの設定」を選択します。  
「ページの設定」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. ページのレイアウトに変更を加えます。
4. 「OK」をクリックします。
5. ツールバーの「印刷」をクリックします。  
照会結果が印刷されます。

---

## 図表オプション

このダイアログ・ボックスは、「結果」メニューから「図表の表示」を選択すると表示されます。このダイアログは、書式に基づいて作成される図表のグラフィック属性を定義する場合に使用します。これらの書式は照会結果に基づいて作成されたものです。「図表オプション」ダイアログ・ボックスは、「書式」メニューから「図表の表示」をクリックしても表示できます。

このダイアログ・ボックスには、次のフィールドがあります。

### 表題

#### 報告書ページ見出し

報告書の表題。デフォルトでは、報告書ページ見出しが報告書の表題として使用されません。

#### テキスト

図表の独自のタイトルを入力します。

## ラベル

### 区分 (X) 軸

報告書の区分軸 (つまり横軸) に組み込むラベル。

### 値 (Y) 軸

図表の値軸 (つまり縦軸) に組み込むラベル。

## 次元

### 幅

図表の幅 (ピクセル単位)。

### 高さ

図表の高さ (ピクセル単位)。

---

## LOB に関する作業

QMF (Windows 版) では、データベースから LOB を取り出すこと、LOB データを PC にエクスポートすること、およびデータベースに LOB を保管することができます。この機能を使用すると、テキスト、グラフィックス、音声、ビデオ、混合メディア、および写真イメージなどのデータ・タイプを挿入できます。

これらのデータ・タイプは多くのメモリーを要するので、DB2 にはこれらのデータ・オブジェクトを最大 2 ギガバイトのストリングとして格納するためのデータ・タイプが 3 つ備えられています。以下のとおりです。

- バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB)
- 1 バイト文字ラージ・オブジェクト (CLOB)
- 2 バイト文字ラージ・オブジェクト (DBCLOB)

LOB をデータベースから検索し、検索したファイルのタイプをサポートしているアプリケーションで編集することができます。たとえば、コンピューターに Microsoft Paint (R) がインストールされているなら、Paint でビットマップを編集できます。LOB は QMF (Windows 版) の表に格納されるので、QMF (Windows 版) の表に格納される他のデータ・タイプと同じように取り扱うことができます。LOB は DRDA™、CLI、および ODBC の各接続でサポートされています。LOB サポートの有無は、どの接続が使用されるかによって、サーバーごとに決まります。たとえば、DRDA 接続では、すべての UPB サーバーに関して LOB がサポートされません。しかしながら、CLI 接続では、UPB サーバーに関して LOB がサポートされます。

## 機能

次の機能があります。

- LOB をデータベースから検索して、PC にエクスポートできます。
- ビットマップや .gif などのファイルを照会結果に挿入できます。
- 適切なアプリケーションで LOB を編集できます。  
たとえば、コンピューターに Microsoft® Paint® がインストールされているなら、Paint でビットマップを編集できます。
- LOB はデータベース上の QMF (Windows 版) の表に格納されるので、QMF (Windows 版) の表に格納される他のデータ・タイプと同じように呼び出すことができます。
- CLI 接続を使用する場合に限り、LOB を検索できます。

LOB データに次の操作を行うことができます。

- 表示
- 編集
- IXF、TXT、または HTM ファイルとしてエクスポート

注: IXF ファイルとしてエクスポートすることをお勧めします。

- HTML 報告書への組み込み
- データベースへの保管

## データベースから LOB を検索する

データベースから LOB を呼び出すには、次のステップを実行します。

1. LOB が保管されているデータベース表を呼び出す照会またはプロシーチャーを実行します。

LOB データのある表がサーバーから検索されます。

注: ピクチャー列には「LOB ロケーター」というラベルが付けられます。

画面の下部の QMF (Windows 版) ステータス・バーに、「すべての行が検索されました。さらに LOB データを検索します」というメッセージが表示されることがあります。これが表示されるのは、LOB データの転送は多くのリソースを必要とするからです。デフォルトでは、QMF (Windows 版) は、データベース上の実際のデータを参照する LOB ロケーターを戻します。LOB データはオンデマンドで、つまり関数がそれを必要とするときに検索されます。

2. オプションで、「ビュー」メニューから「オプション」を選択して、LOB を検索する際のデフォルトの動作を調整できます。

「オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 「LOB」タブをクリックして、デフォルト・オプションを変更します。

4. 「LOB」タブ内で変更を加えるには、「可能な場合 LOB オプションをオーバーライドする」にチェックマークを付けます。

注: 変更を加えられるのは、データベース管理者からオーバーライド権限を付与されている場合だけです。

## LOB データの表示と編集

LOB データを表示する方法と編集する方法は似ています。編集の際に、サーバー上の LOB を更新できます。LOB データの表示か編集を行うには、次のステップを実行します。

1. LOB ロケーター・セルをダブルクリックします。  
「列 LOB タイプの関連付け」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスを使用して、データの Windows ファイル・フォーマットを指定します。
2. 「マッピング」をクリックします。  
「ファイル拡張子マッピング」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「ファイル拡張子」列の下で変更を加えます。
4. マッピング値に対応するファイル拡張子を入力します。  
たとえば、マッピング値がビットマップの場合は、ファイル拡張子を **.bmp** に変更します。
5. 「OK」をクリックして、「列 LOB タイプの関連付け」ダイアログ・ボックスに戻ります。
6. 「列 LOB タイプの関連付け」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。  
ダイアログ・ボックスが閉じます。さらに、指定したアプリケーション中で LOB が開かれます。  
  
注: 特定のファイル拡張子しか表示しないアプリケーションもあります。サポートされているファイルを判別するには、ご使用のアプリケーションの資料を参照してください。
7. 「OK」をクリックして値の編集を終了するか、または「キャンセル」をクリックして変更内容を保管せずに編集を終了します。  
操作の影響を受けるデータベースの行数を示すメッセージ・ボックスが表示されません。
8. 「OK」をクリックして変更内容を受け入れるか、「キャンセル」をクリックしてデータベースの行に操作を行わずに終了します。  
メッセージ・ボックスが表示され、アクションが完了したことを確認するとともに、操作の影響を受けたデータベースの行数が表示されます。
9. 「OK」をクリックします。

LOB ロケーター列に、アプリケーションに対応するアイコンが表示されます。

注: ステップ 7 ~ 9 は、編集を行う際にだけ使用します。

10. 「結果」、「データベースに保管」の順に選択するか、ツールバー上で「データの保管」をクリックして、サーバーに保管します。

## LOB データのエクスポート

データベースから検索した LOB データをエクスポートする前に、ファイル拡張子をマップしておいてください (「LOB データの表示と編集」を参照してください)。マップすると、エクスポート処理は、通常のデータをエクスポートする場合と同じになります。ただし、LOB オプションを指定する点だけが異なります。

たとえば、「データのエクスポート」ダイアログ・ボックスで、LOB ビットマップをエクスポートして photo.htm という名前を付け、HTML ファイル (\*.htm) として保管できます。

HTML 報告書や Web ページではファイルを HTML アドレスとして表示できるので、ほとんどの LOB データには HTML 書式が最善です。より高度な Web ページの場合は、QMF (Windows 版) の HTML 書式機能を使用してください。

### 手順

LOB データを IXF、TXT、または HTML ファイルにエクスポートするには、次のステップを実行します。

1. 「結果」、「ファイルに保管」の順に選択するか、ツールバー上で「データのエクスポート」をクリックします。  
「データのエクスポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「タイプを指定して保管」リスト・ボックスで、ファイルに名前を付け、ファイル・タイプ (\*.ixf、\*.txt、または \*.htm) を選択します。
3. 「オプション」をクリックします。  
「テキスト/DEL のエクスポート・オプション」(一般タブ) ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「LOB」タブをクリックします。  
「テキスト/DEL のエクスポート・オプション」(LOB タブ) ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. ディレクトリーと LOB データ (データベース名) の命名規則を選択します。
6. 「OK」をクリックします。  
「データのエクスポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。
7. 「保管」をクリックして、指定したディレクトリーにファイルを保管します。

テキスト・ファイルを開くと、照会結果グリッドからエクスポートされた LOB 照会結果情報が表示されます。HTML ファイルにアクティブ・リンクが表示されます。

- このリンクをクリックして、該当するアプリケーションで LOB データを表示します。

---

## ズーム編集

「ズーム編集」ダイアログ・ボックスを表示するには、セルを選択して、**Shift + F2** を押します。このダイアログを使用して、結果グリッド上の個々のデータ・セルを編集します。

「ズーム」ダイアログ・ボックスにアクセスするオプションには、次の 2 つがあります。

- セルを選択して右マウス・ボタン・クリックし、「ズーム編集」を選択する。
- セルを選択して、**Shift + F2** を押す。

## フィールド

### 現状のまま

セルに表示されているとおりにデータを表示します。

### 拡張

このフィールドは「ズーム編集」ダイアログ・ボックスを、単純モードと拡張モードの間で切り替えます。

- **数値編集**

数値セルを編集する際には、「拡張」ボタンは使用不可になります。

- **文字編集**

文字セルを編集する際には、「拡張」ボタンは使用可能になります。

「拡張」を使用可能にすると、別のダイアログが表示され、現状のまま のデータが 16 進数の書式か 2 進数の書式で表示されます。

### 16 進数

「拡張」ボタンを使用すると、「現状のまま」のデータは 16 進数の書式で表示されます。16 進数を編集して、「現状のまま」のデータに変更を加えることができます。

「現状のまま」のデータを強調表示して更新することにより、16 進数に変更を加えることもできます。

### 2 進数

「拡張」ボタンを使用すると、「現状のまま」のデータは 2 進数の書式で表示されます。2 進数を編集して、「現状のまま」のデータに変更を加えることができます。

「現状のまま」のデータを強調表示して更新することにより、2 進数に変更を加えることもできます。



---

## 第5章 報告書の作成

報告書は、書式からの書式設定と照会結果を結合して作成されます。

---

### 書式

書式は、報告書の作成、表示、および印刷に使用される書式設定命令の集まりです。

#### 「書式」メニュー

##### 編集

「書式」ダイアログ・ボックス内の書式の内容と書式設定を編集します。

##### 検査

書式を検査してエラーや警告を報告します。

##### OK で検査を実行

「書式」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックすると、自動的に書式が妥当性検査されます。書式が有効な場合は、変更内容が適用されます。

##### HTML 書式への変換

アクティブな書式を HTML 書式に変換します。

##### Web ブラウザーで表示

デフォルトの Web ブラウザーに、アクティブな HTML 報告書を表示します。

##### データの照会を選択

報告書に含めるデータの取得先の照会文書を選択します。

##### 照会から最新表示

照会を使用して報告書を作成した場合は、このオプションを使用できます。このオプションは、関連した照会の最新書式を使用して、報告書の書式を最新表示します。

たとえば、照会を実行し、結果セットを受け取り、結果セットから報告書を作成するとします。それから、報告書を表示して照会を実行するとします。照会に戻って切れ目や集約の追加などの変更を加えた場合、報告書に戻ると、結果セットには更新された書式が採用されます。

##### サーバーの設定

書式を実行したいデータベース・サーバーを選択します。

## ユーザー情報の設定

データベース・サーバーのユーザー ID、パスワード、および書式のアカウントリング・ストリングを設定します。

## フォントの設定

選択した項目の表示フォント属性を変更します。

## 書式について

書式は、いくつかのコンポーネントから構成されます。書式のコンポーネントは、編集して書式文書にすることができます。

表 16. 書式のコンポーネント

コンポーネント	説明
メイン	書式の基本コンポーネント。ヘッダー、フッター、および切れ目が含まれます。
切れ目	報告書の中の 6 行までの小計行の特性、内容、および配置。
計算	報告書の計算式。 注: マシンで書式計算機能を使用するためには、IBM の ObjectREXX をインストールしておく必要があります。
列	報告書の列の外観および書式設定。定義可能な特性には、列の順序、フォーマット、使用法、字下げ、および幅があります。
条件	条件付き書式設定の制約。たとえば、ある特性と一致しない行を表示しないように書式を設定することができます。
明細	報告書の明細ヘッダーおよび本文テキスト。ここで、フリー・フォームのテキストを使用して表データを結合または置換することにより、書式文字またはアドレス・ラベルを作成することができます。
最終	報告書の最終テキストの内容および配置。たとえば、報告書の終わりに最終テキストと要約データを組み込むように選択することができます。
HTML	HTML タグと HTML 報告書の書式設定の内容と配置。
オプション	報告書のさまざまな外観オプション。
ページ	報告書のページのヘッダーおよびフッターの内容および配置。

## 書式の使用による報告書の作成

報告書は、書式に書式設定オプションを指定し、照会の結果を結合して作成されます。このプロセスを繰り返して、単一の照会結果から、複数の報告書を作成することができます。

1. 「照会結果表示」メニューから、「**報告書の表示**」をクリックします。  
「書式の選択」ダイアログ・ボックスが開かれます。「書式の選択」ダイアログ・ボックスで選択した書式のタイプに応じて、追加の情報を提供するように求められます。
2. ファイルの場所または所有者と名前、あるいは文書の表題を指定します。
3. 「**OK**」をクリックします。  
選択した書式と現行の照会結果を使用して、報告書が生成されます。

## 書式の編集

「書式」ウィンドウでは、書式の編集と書式設定のためのオプションが多数用意されています。

「書式を開く」から、「書式」メニューを表示します。「書式」メニューには、書式を編集し、書式設定するためのオプションがリストされています。これらのコンポーネントは、どれでも、ツールバーの該当のボタンをクリックして編集することができます。

---

## 書式の作成

以下に示すステップには、表 Q.STAFF からのサンプル・データが含まれています。いろいろな設定を試して、カスタム書式を作成してください。

### ステップ 1. 書式を作成する

1. 次の SQL 照会を実行して、報告書に表示するデータを検索します。

```
SELECT * FROM Q.STAFF ORDER BY DEPT,NAME
```

照会結果が表示されます。

2. ツールバーの「**報告書の表示**」をクリックします。  
「書式の選択」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. デフォルト書式を選択します。
4. 「**OK**」をクリックします。

QMF (Windows 版) は、デフォルト報告書を表示します。

**注:** デフォルトのフォーマットを変更するためには、ツールバーの書式コンポーネントのボタンのいずれか 1 つをクリックします。各書式コンポーネントのボタンが、「書式」ツールバー上に表示されます。

## ステップ 2. 列の順序を変更する

NAME を報告書の 1 番目の列として選択し、ID を 2 番目の列として選択します。列の順序は、書式の「列」コンポーネントに指定されます。

1. 「書式」メニューの「列」をクリックして、「書式」ダイアログ・ボックスの「列」タブを表示します。
2. 既存のシーケンス値を上書きして、列のシーケンスを変更します。
  - NAME を報告書の 1 番目の列にするには、シーケンス番号 (リストの中で Seq というラベルが付いている列) を 1 に変更します。
  - ID を報告書の 2 番目の列にするには、シーケンス番号を 2 に変更します。
3. 「OK」をクリックします。

QMF (Windows 版) は、「書式」ウィンドウに新規の列の順序による報告書を表示します。

## ステップ 3. 列ヘッダーを変更する

EMPLOYEE を 1 番目の列ヘッダーにし、COMMISSION を最後の列ヘッダーに設定します。列ヘッダー・テキストは、書式の「列」コンポーネントに指定されます。

1. 「書式」メニューの「列」をクリックして、「書式」ダイアログ・ボックスの「列」タブを表示します。
2. 既存の列ヘッダー・テキストを上書きして、列ヘッダーを変更します。
  - a. 最初の列ヘッダーを EMPLOYEE に変更します。
  - b. 最後の列ヘッダーを COMMISSION に変更します。
3. 「OK」をクリックします。

QMF (Windows 版) は、「書式」ウィンドウに新規の列ヘッダーによる報告書を表示します。

## ステップ 4. 列の書式を変更する

SALARY 列を、適切な通貨記号を付けて表示するよう変更します。この列のフォーマットは、書式の「列」コンポーネントに指定される編集コードによって決まります。

1. 「書式」メニューの「列」をクリックして、「書式」ダイアログ・ボックスの「列」タブを表示します。
2. 既存の編集コードを上書きして SALARY 列の編集コードを D2 に変更します。
3. 「OK」をクリックします。

QMF (Windows 版) は、SALARY 列に適切な通貨記号が付いた報告書を「書式」ウィンドウに表示します。

## ステップ 5. 要約情報を追加する

報告書をセクションに分割して、各部門ごとに別々のセクションを作ります。さらに、各セクションの最後に各部門の SALARY および COMMISSION の合計を表示します。

これを行うには、報告書内での各列の使用方法を指定します。列の使用法は、列の用途コードによって決定され、書式の「列」コンポーネントに指定されます。

1. 「書式」メニューの「列」をクリックして、「書式」ダイアログ・ボックスの「列」タブを表示します。
2. DEPT に基づいて報告書をセクションに分割するためには、DEPT の用途コードを BREAK1 に変更します。  
BREAK という語で始まる用途コードは、指定した列のセクションの切れ目を作成します。BREAK という語の後に続く数値によって切れ目レベルが決定されます。1 つの報告書内で最高 6 つまでの切れ目レベルがサポートされます。
3. 各 DEPT に SALARY および COMMISSION の合計の組み込みます。
4. SALARY および COMMISSION の用途コードを SUM に変更します。
5. 「書式」メニュー上の「切れ目」をクリックして、各セクションの切れ目の末尾に説明情報を組み込みます。
6. 「書式」ダイアログ・ボックスの「切れ目」タブで切れ目のフッター・テキストを指定します。最初の切れ目のフッター行に「部門合計」を設定します。
7. 「OK」をクリックします。

QMF (Windows 版) は、「書式」ウィンドウを表示します。

## ステップ 6. ページのヘッダーとフッターを追加する

報告書にページのヘッダーとフッターを追加します。ページのヘッダーとフッターは、書式の「ページ」コンポーネントに指定されます。

1. 「書式」メニューの「ページ」をクリックして、「書式」ダイアログ・ボックスの「ページ」タブを表示します。  
このダイアログの最上部は、ページ・ヘッダーの指定に使用されます。
2. ページ・ヘッダーの 1 行目を「部門報告書」に設定し、2 行目を「給与および歩合の合計」に設定します。
3. ヘッダーの位置合わせ方法を選択します。
4. このダイアログの最下部は、ページ・フッターの指定に使用されます。ページ・フッターの 1 行目を「ページの終わり」に設定します。
5. フッターの位置合わせ方法を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

QMF (Windows 版) は、「書式」ウィンドウを表示します。

---

## 書式の保管

書式は、ユーザーの PC、ファイル・サーバー、またはデータベース・サーバーに保管することができます。

## ファイルへの書式の保管

1. 「書式を開く」から、「**保管**」をクリックします。
  - a. 以前に書式が保管されている場合は、「**保管**」を選択します。
  - b. 書式が以前に保管されていない場合は、「**別名保管**」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 書式を保管するファイルの名前を入力します。
3. 「**OK**」をクリックします。

書式が保管されます。

## 保管した書式ファイルを開く

1. ツールバーの「**開く**」をクリックします。

「開く」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 開くファイルを選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。

選択した書式が新規文書内に開かれます。

## データベース・サーバーでの書式の保管

サーバーに保管されている書式は、他のユーザーからアクセスできるようにすることができます。書式を他のユーザーと共用する場合は、書式をデータベース・サーバーに保管してください。

1. 「書式を開く」から、ツールバーの「**サーバーに保管**」をクリックします。

「書式の保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 所有者と名前を入力し、保管されている書式を他のユーザーと共用するのかどうかを選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。

書式がサーバーに保管されます。

**注:** この名前の書式が存在している場合は、既存の書式を上書きすることを示すプロンプトが出されます。

## データベース・サーバーに保管されている書式を開く

ユーザーは、データベース・サーバーに保管されている書式を開くことができます。

1. ツールバーの「**サーバーから開く**」をクリックします。

「サーバーから開く」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. サーバー、所有者、および名前を入力します。
3. 「**OK**」をクリックします。

書式が開かれます。

---

## 報告書の印刷

ユーザーは、報告書を作成し、印刷することができます。

1. 書式を開き、「**ページの設定**」をクリックします。
2. ページのレイアウトに変更を加えます。
3. 「**OK**」をクリックします。
4. 「ファイル」メニューで「**報告書の印刷**」をクリックします。  
報告書が印刷されます。

---

## 報告書のエクスポート

ユーザーは、報告書をファイルへエクスポートすることができます。

1. 書式を開き、「**ページの設定**」をクリックします。
2. ページのレイアウトに変更を加えます。
3. 「**OK**」をクリックします。
4. 「ファイル」メニューで「**報告書のエクスポート**」をクリックします。  
「報告書のエクスポート」ダイアログ・ボックスが開かれます。
5. 報告書を保管 (保存) するファイルの名前を入力します。
6. 「**OK**」をクリックします。  
報告書がエクスポートされます。





---

## 第6章 プロシージャに関する作業

線形プロシージャを使用すると、単一の RUN コマンドの実行によって、照会を実行し、報告書を生成し、データを編集し、さらに他の機能を実行することができます。QMF (Windows 版) がサポートするすべてのプロシージャ・コマンドの完全なリストについては、オンライン・ヘルプ機能を参照してください。

---

### QMF 線形プロシージャ

QMF 線形プロシージャとは、QMF (Windows 版) オブジェクトの 1 つで、SQL コマンドの代わりにプロシージャ・コマンドが含まれています。SQL によるデータ操作が行われる箇所では、プロシージャ・コマンドによって QMF オブジェクト (表、照会、書式、さらには他のプロシージャも含む) が操作されます。通常はボタンやメニューの選択項目をクリックするアクションを自動化することも、プロシージャを定義する手段の 1 つです。

プロシージャは、DBA や他のユーザーが以下の操作を実行できるようにするコマンドの集合です。

- 照会
- 報告書の印刷
- データのインポート
- データのエクスポート
- 他の機能の実行

他の QMF オブジェクトと同様に、プロシージャをデータベース・サーバーに保管したり、ファイル形式でローカルにまたはファイル・サーバー上に保管したりできます。プロシージャによって送出されるすべてのコマンドは、ユーザー構成のリソース制限によって管理されます。

---

### プロシージャの実行

プロシージャは、1 つのコマンドを使用して、複数の機能を実行するために使用されます。

## 「プロシージャ」メニュー

### 実行

アクティブ・プロシージャを実行します。プロシージャを使用すると、単一のコマンドによって、照会を実行し、報告書を印刷し、データのインポートやエクスポートを行い、さらに他の機能を実行することができます。

### 結果ウィンドウをすべて閉じる

このオプションは、プロシージャの終了時に、プロシージャによって生成されたウィンドウをすべて閉じるので、開いたままになっている結果ウィンドウはなくなります。

### 中間結果ウィンドウを閉じる

このオプションは、プロシージャが実行されるにつれて、プロシージャによって生成されたウィンドウをすべて閉じるので、プロシージャが終了するまでには表示されている結果ウィンドウはなくなります。

### 大文字

プロシージャを英大文字のテキストに書式設定する (チェックマークを付けた場合) か、または指定されている書式を使用します。

### 注釈

このオプションは、プロシージャ中の行 (普通はプロシージャのセクションによって実行される内容を説明した行) をコメント化するのに使用します。コメント化されたテキストは、プロシージャの実行時に組み込まれなくなります。

このオプションは、次のように、プロシージャ中の行の先頭に 2 つのダッシュ (--) を付けます。

```
SET GLOBAL (DSQQW_RPT_USE_PS=0 dsqqw_rpt_font=terminal,
+dsqqw_rpt_font_sz=5, dsqqw_rpt_orient=1
run query potool.e.testq
print report
--USE EOM FORM ONLY
```

### コメント化解除

行のコメント化を解除します。行をコメント化解除すると、プロシージャの実行時に読み取られるようになります。

このオプションは、次のように、プロシージャ中の行の先頭から 2 つのダッシュ (--) のコメント・フラグを除去します。

```
SET GLOBAL (DSQQW_RPT_USE_PS=0 dsqqw_rpt_font=terminal,
+dsqqw_rpt_font_sz=5, dsqqw_rpt_orient=1
run query potool.e.testq
print report
THROUGH 01/01/06
```

## サーバーの設定

プロシージャーを実行したいデータベース・サーバーを選択します。

## ユーザー情報の設定

データベース・サーバーのユーザー ID、パスワード、およびプロシージャーのアカウント名・ストリングを設定します。

## フォントの設定

選択した項目の表示フォント属性を変更します。

## 線形プロシージャーの作成

「ファイル」メニューから「新規」、「プロシージャー」の順に選択します。

新規のプロシージャー文書が開かれます。

## ロジックを持つプロシージャーの作成

1. 「ファイル」メニューから「新規」、「プロシージャー」の順に選択します。  
新規のプロシージャー文書が開かれます。
2. プロシージャーの先頭行として、IBM オブジェクト REXX コメント行を入力します。  
IBM オブジェクト REXX コメント行は、/\* で始まり、\*/ で終わります。
3. プロシージャーの QMF プロシージャー・コマンドを入力します。  
QMF コマンドは大文字で入力し、引用符で囲みます。
4. IBM オブジェクト REXX コマンドを、プロシージャー内に入力します。

**注:** IBM オブジェクト REXX コマンドは、ローカルで実行され、データベース・サーバーでは実行されません。IBM オブジェクト REXX をローカルにインストールしておく必要があります。

## データベース・サーバーでのプロシージャーの実行

1. 新規のプロシージャー文書を開いて一組のコマンドを入力するか、あるいはファイルまたはデータベース・サーバーから既存のプロシージャーを開きます。
2. ツールバーの「**プロシージャー実行**」アイコンをクリックします。  
該当のプロシージャーが実行されます。

---

## プロシージャーの保管

プロシージャーは、ユーザーの PC、ファイル・サーバー、またはデータベース・サーバーに保管することができます。

## ファイルへのプロシージャーの保管

1. 「プロシージャーを開く」から、ツールバーの「保管」アイコンをクリックするか、「ファイル」、「保管」の順に選択します。  
プロシージャーが以前に保管されていても、プロシージャーは保管されます。プロシージャーが以前に保管されていない場合は、「別名保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. プロシージャーを保管するファイルの名前を入力して、「OK」をクリックします。  
プロシージャーが保管されます。

## 保管されたプロシージャー・ファイルを開く

1. ツールバーの「開く」アイコンをクリックするか、「ファイル」、「開く」の順に選択します。  
「開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 開きたいファイルを選択して、「OK」をクリックします。  
選択したプロシージャーが、新規プロシージャー文書内で開かれます。

## データベース・サーバーへのプロシージャーの保管

1. 「プロシージャーを開く」から、ツールバーの「サーバーに保管」アイコンをクリックします。  
「プロシージャーの保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 所有者と名前を入力します。
3. 保管したプロシージャーを他のユーザーと共有するかどうかを指定します。
4. 情報カタログ中にオブジェクトを登録するかどうかを指定します。  
チェックマークを付けると、DB2 ウェアハウス・マネージャー中の情報カタログにオブジェクトが登録されます。下記の『DB2 ウェアハウス・マネージャーの使用』を参照してください。
5. 「OK」をクリックします。  
プロシージャーはサーバーに保管され、オプションで DB2 ウェアハウス・マネージャー中の情報カタログにオブジェクトが登録されます。  
この名前のプロシージャーがすでに存在している場合は、前から存在しているプロシージャーを上書きすることを示すプロンプトが出されます。

## データベース・サーバーに保管されているプロシージャーを開く

- データベース・サーバーに保管されているプロシージャーを開くことができます。
1. ツールバーの「サーバーから開く」アイコンをクリックします。  
「サーバーから開く」ダイアログ・ボックスが開かれます。
  2. サーバー、所有者、および名前を入力します。

3. 「OK」をクリックします。  
該当のプロシーチャーが開かれます。

---

## DB2 ウェアハウス・マネージャーの使用

QMF (Windows 版) では、DB2 ウェアハウス・マネージャーの情報カタログ中に QMF (Windows 版) オブジェクトを登録できます。登録すると、DB2 ウェアハウスの情報カタログにオブジェクトをリストし、そこから立ち上げることができます。

### オブジェクトの登録方法

次のいずれかの方式で、QMF (Windows 版) オブジェクトを登録できます。

#### データベース・サーバーでのオブジェクトの保管

1. 初めてオブジェクトを保管する際には、「ファイル」、「サーバーに保管」の順に選択します。
2. (所有者、名前、およびプロシーチャーに関する他の情報の指定後に)「オブジェクトを情報カタログに登録」をクリックします。

「プロシーチャーの保管」ダイアログ・ボックスが展開され、追加の登録フィールドが表示されます。

##### a. 即時登録

登録要求は、オブジェクトの保管時に即時に DB2 ウェアハウス・マネージャーに送信されます。オブジェクトは、データベース・サーバーに保管されるのと同時に情報カタログに登録されます。

- カタログ

オブジェクトの登録先の DB2 ウェアハウス・マネージャー情報カタログの名前。DB2 ウェアハウス・マネージャーの情報カタログの管理者から、この情報を教えてもらうことができます。

- ユーザー ID

オブジェクトの登録に使用するユーザー ID。これは、データベースのユーザー ID と同じにすることができます。

- パスワード

オブジェクトの登録に使用するパスワード。データベースのパスワードと同じパスワードにすることができます。

##### b. 後で登録

オブジェクトの登録情報をタグ・ファイルに組み込み、DB2 ウェアハウス・マネージャーの情報カタログの管理者が登録するまで待ちます。

- タグ・ファイル

保管するオブジェクトの登録情報を含むタグ・ファイルの場所とファイル名。DB2 ウェアハウス・マネージャーの情報カタログの管理者から、場所とファイル名に関する情報を教えてもらうことができます。

情報カタログの管理者の指定に従ってユーザーが指定したフォルダーに、タグ・ファイルが Windows により生成されます。管理者は、情報カタログを使用して、このタグ・ファイルをインポートし、オブジェクトを登録します。

## オブジェクト・リストからオブジェクトを選択する

複数の QMF (Windows 版) オブジェクトを選択して同時に登録できます。

1. オブジェクトを選択します。
2. 「リスト」、「情報カタログに登録」の順にクリックします。  
「オブジェクトを情報カタログに登録」ダイアログが表示されます。
3. 登録オプションを選択します。

### • 即時登録

登録要求は、オブジェクトの保管時に即時に DB2 ウェアハウス・マネージャーに送信されます。オブジェクトは、データベース・サーバーに保管されるのと同時に情報カタログに登録されます。

#### – カタログ

オブジェクトの登録先の DB2 ウェアハウス・マネージャー情報カタログの名前。DB2 ウェアハウス・マネージャーの情報カタログの管理者から、この情報を教えてもらうことができます。

#### – ユーザー ID

オブジェクトの登録に使用するユーザー ID。これは、データベースのユーザー ID と同じにすることができます。

#### – パスワード

オブジェクトの登録に使用するパスワード。データベースのパスワードと同じパスワードにすることができます。

### • 後で登録

オブジェクトの登録情報をタグ・ファイルに組み込み、DB2 ウェアハウス・マネージャーの情報カタログの管理者が登録するまで待ちます。

#### – タグ・ファイル

保管するオブジェクトの登録情報を含むタグ・ファイルの場所とファイル名。DB2 ウェアハウス・マネージャーの情報カタログの管理者から、場所とファイル名に関する情報を教えてもらうことができます。

情報カタログの管理者の指定に従ってユーザーが指定したフォルダーに、タグ・ファイルが Windows により生成されます。管理者は、情報カタログを使用して、このタグ・ファイルをインポートし、オブジェクトを登録します。

---

## プロシージャの印刷

プロシージャのテキストを印刷することができます。

### プロシージャのプレビュー

1. プロシージャを開きます。  
プロシージャ・コマンドが現れます。
2. 「ファイル」、「ページの設定」の順に選択します。  
「ページの設定」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. ページ・レイアウトを変更します。
4. 「OK」をクリックします。
5. ツールバーの「印刷プレビュー」アイコンをクリックします。  
印刷するプロシージャのプレビューが現れます。

### プロシージャの印刷

1. プロシージャを開きます。  
プロシージャ・コマンドが現れます。
2. 「ファイル」、「ページの設定」の順にクリックします。  
「ページの設定」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. ページ・レイアウトを変更します。
4. 「OK」をクリックします。
5. ツールバーの「印刷」アイコンをクリックします。  
プロシージャが印刷されます。

---

## プロシージャ・コマンド

QMF (Windows 版) から、ロジックを持つ線形プロシージャ (IBM REXX プロシージャ) の作成、編集、および実行を行えます。プロシージャを使用すると、照会を実行し、報告書を印刷し、データのインポートやエクスポートを行い、さらに他の機能を実行することができます。プロシージャをデータベース・サーバーに保管したり、ファイル形式でローカルにまたはファイル・サーバー上に保管したりできます。プロシージャによって送出されるすべてのコマンドは、ご使用のリソース制限によって管理されます。

### プロシージャ参照

普通は、プロシージャの各行に 1 つのコマンドが含まれます。しかしながら、1 つのコマンドを複数の行で表すこともできます。その場合は、各追加行の先頭列に継続文字として正符号 (+) を付けます。

プロシージャー中にコメントを組み込むには、行中に 2 つのハイフン (--) を入力します。ハイフンの後からその行の末尾までのテキストはすでにコメントになり、プロシージャーの実行中に QMF (Windows 版) によって解釈されなくなります。

置換変数を使用してプロシージャーをパラメーター化できます。プロシージャーを実行するたびに、置換変数がスキャンされてから実行されます。プロシージャーの実行前にすべての置換変数の値を指定しなければなりません。置換変数の値を指定するには、RUN PROC コマンドを使用するか、大域変数を使用するか、または「置換変数の入力」ダイアログ・ボックスを表示します。

置換変数を含む動的照会を実行すると、「置換変数値の入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスを使用して、これらの変数の値を指定します。QMF (Windows 版) によって、照会中に入力した変数に置き換えられてから、照会要求がデータベース・サーバーに送信されます。

「置換変数値の入力」ダイアログ・ボックスに次の情報を入力します。

- **名前**

置換変数の名前。変数名を変更することはできません。

- **値**

この置換変数の代わりに使用される値。QMF (Windows 版) により、SQL ステートメント中の各変数がそれぞれこの値に置き換えられてから、そのステートメントがデータベース・サーバーに送信されます。

**注:** 文字値は引用符で囲んでください。

## 現行オブジェクト

プロシージャー・コマンドの操作は、データベース中の名前指定されているオブジェクトか、開いている文書（「一時記憶域」と呼ばれる）中の現行オブジェクトに対して行われます。

現行照会オブジェクトとは、アクティブになっている最新の SQL または指示照会の文書のことです。現行書式オブジェクトとは、アクティブになっている最新の書式文書のことです。現行プロシージャー・オブジェクトとは、アクティブになっている最新のプロシージャー文書のことです。現行報告書オブジェクトは、現行書式オブジェクトと同義語です。現行データ・オブジェクトとは、照会結果を含む、アクティブになっている最新の SQL または指示照会の文書のことです。

## 構文図の読み方

プロシージャー・コマンドの構文図は、左から右、上から下に読みます。各コマンドの先頭は「>>」で末尾は「<<」です。1 つのコマンドが複数の行に分かれている場合は、最初の行の末尾が「>」になり、次の行の先頭が「>」になります。

コマンドには 2 種類のパラメーターを指定できます。



1. **定位置パラメーター**は、コマンド中の特定の位置に置かなければなりません。
2. **キーワード・パラメーター**は、割り当て値で、コマンド中に任意の順位で置くことができます。

コマンド中の最初のキーワード・パラメーターの前には左括弧を付けなければなりません。

パラメーターを 80 文字より長くすることはできません。パラメーターはすべてコマンドで区切られます。右括弧は必須ではありませんが、コマンドの末尾に使用することができます。

### 必須パラメーター

必須パラメーターは主線上にあります。

```
>>-- CONNECT TO ServerName -----<<
```

1 つのパラメーターが主線上にあり、他のパラメーターがその下にリストされている場合は、リストから 1 つ以上選択しなければなりません。

```
>>-- DISPLAY --- QUERY -----<<
      +- FORM ---+
      +- PROC ---+
      +- REPORT -+
```

### オプション・パラメーター

パラメーターがオプションの場合は、主線の下に示されます。パラメーターがすべて主線の下にリストされている場合は、いずれかを指定してもいずれも指定しなくてもかまいません。

```
>>-- ERASE ----- ObjectName -----<<
      +- QUERY -+
      +- FORM --+
      +- PROC --+
      +- TABLE -+
```

2 つの値がスラッシュ (/) で区切られていることがあります。この場合は、2 つの値のうちどちらかを入力しなければならないことを示します。

```
>-----<<
+- ( CONFIRM = YES/NO -+
```

### BOTTOM コマンド

BOTTOM は、照会結果セットの最終行にスクロールします。このコマンドは、FORWARD MAX と同等です。

#### 構文

```
>>-- BOTTOM -----<<
```

## サンプル

BOTTOM

### CONNECT コマンド

CONNECT は、データベース・サーバーへの接続を確立します。このコマンド以降のプロシージャ・コマンドは、指定されたサーバーで実行されます。実行中のプロシージャのサーバーも、指定されたサーバーに変更されます。プロシージャ中の他の現行オブジェクトに対する即時アクションはありません。しかしながら、これ以降のコマンドのうちこれらのオブジェクトに関係するものがあれば、追加の処理が行われます。

## サンプル

照会 Q1 がサーバー X で実行されたが完了していません。その後 CONNECT TO 'SERVER Y' コマンドが送出されてサーバー Y に接続されます。次に SAVE DATA AS T1 コマンドが送出されます。

照会 Q1 はサーバー Y に対する CONNECT コマンドの影響を即時に受けることはありませんが、SAVE DATA コマンドが実行されるには、サーバー X で照会 Q1 で完了する(または取り消される)必要があります。データ・オブジェクトが完了すると、照会 Q1 のサーバーは Y に変更され、データはサーバー Y の表 T1 に保管されます。

## 構文

```
>>-- CONNECT TO ServerName -----<<
```

表 17. CONNECT コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
<i>ServerName</i>	データベース・サーバーの名前。 注: 名前にスペースが含まれている場合は、サーバー名を引用符で囲んでください。

## サンプル

```
CONNECT TO SERVER1
```

### CONVERT コマンド

CONVERT は、指示照会を新規 SQL 照会に変換します。元の照会 (データベース中の名前指定されているオブジェクトか一時オブジェクト) には、この操作の影響はありません。

## 構文

ターゲット・オブジェクトがデータベース中にある場合:

```
>>-- CONVERT ----- QueryName -----<<  
      +- QUERY -+
```

一時ターゲット・オブジェクトの場合:

```
>>-- CONVERT QUERY -----<<
```

## サンプル

```
CONVERT QUERY
```

## DISPLAY コマンド

DISPLAY は、一時記憶域中のオブジェクトやデータベース中に保管されている既存のオブジェクトを表示します。一時記憶域中のオブジェクトの場合、DISPLAY は現行オブジェクトだけを処理します。一時記憶域中の現行オブジェクト以外のオブジェクトにDISPLAY を実行することはできません。

例として、次のプロシージャについて考慮します。

```
DISPLAY QUERY Q1
```

```
DISPLAY QUERY Q2
```

```
DISPLAY FORM F1
```

```
DISPLAY QUERY
```

このプロシージャの実行後には、照会 Q2 がアクティブ・ウィンドウになり、現行照会オブジェクトになります。一時記憶域にアクセスするコマンドから照会 Q1 にアクセスすることはできません。F1 が現行書式オブジェクトになり、一時記憶域中の現在書式オブジェクトにアクセスするコマンドからアクセスできます。たとえば、DISPLAY FORM を実行すると F1 が表示されます。

## 構文

ターゲット・オブジェクトがデータベース中にある場合:

```
>>-- DISPLAY ----- ObjectName -----<<
      +- QUERY -+
      +- FORM  --+
      +- PROC  --+
      +- TABLE -+
```

一時ターゲット・オブジェクトの場合:

```
>>-- DISPLAY --- QUERY -----<<
      +- FORM ---+
      +- PROC ---+
      +- REPORT -+
```

## サンプル

```
DISPLAY QUERY USER1.QUERY1
```

## DRAW コマンド

DRAW は、データベース中の表の説明を基にして、表の基本照会を作成します。

### 構文

```
>>-- DRAW TableName -----<<
      +- ( --- TYPE = --- SELECT ----+
          |             +- INSERT -+ |
          |             +- UPDATE -+ |
          +- IDENTIFIER = CorrName -+ 
```

表 18. DRAW コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
TableName	照会を作成する表の名前。
TYPE	作成する SQL 照会のタイプを指定します。デフォルトは SELECT です。
IDENTIFIER	結果の照会中の表と関連付ける相関名。TYPE=INSERT の場合は無視されます。デフォルトはありません。

### サンプル

```
DRAW Q.STAFF (TYPE=SELECT
```

## ERASE コマンド

ERASE は、照会、書式、プロシージャー、または表をデータベースから除去します。

### 構文

```
>>-- ERASE ----- ObjectName -----<<
      +- QUERY -+          +- ( CONFIRM = YES/NO -+
      +- FORM  -+
      +- PROC  -+
      +- TABLE -+ 
```

表 19. ERASE コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
ObjectName	データベースから除去するオブジェクトの名前。
CONFIRM	オブジェクトを除去する前に確認ダイアログを表示するかどうかを指定します。CONFIRM を指定しないか NO を指定すると、対応するリソース制限が使用されます。

### サンプル

```
ERASE QUERY USER1.QUERY1
```

## EXPORT コマンド

EXPORT は、オブジェクトをデータベースや一時記憶域からファイルにコピーします。

### 構文

ターゲット・オブジェクトがデータベース中にある場合:

```
>>-- EXPORT --- QUERY --- ObjectName TO FileName -----<<
      +- PROC ---                                     +- ( CONFIRM = YES/NO -+
>>-- EXPORT FORM ObjectName TO FileName ----->
```

```
>-----<<
  +- ( --- CONFIRM = YES/NO -----+
    +- LANGUAGE = ENGLISH/SESSION -+
```

```
>>-- EXPORT TABLE ObjectName TO FileName ----->
                                     +- ( --- CONFIRM = YES/NO -+
                                       +- DATAFORMAT = IXF -+
```

一時ターゲット・オブジェクトの場合:

```
>>-- EXPORT --- QUERY --- TO FileName -----<<
      +- PROC ---                                     +- ( CONFIRM = YES/NO -+
```

```
>>-- EXPORT FORM TO FileName -----<<
                                     +- ( --- CONFIRM = YES/NO -----+
                                       +- LANGUAGE = ENGLISH/SESSION -+
```

```
>>-- EXPORT DATA TO FileName -----<<
                                     +- ( --- CONFIRM = YES/NO -+
                                       +- DATAFORMAT = QMF/IXF/TEXT/HTML/CSV -+
                                       +- OUTPUTMODE = BINARY/CHARACTER/PC -+
                                       +- LOBSINFILE = YES/NO -+
                                       +- LOBSTO = path1;path2; -+
                                       +- LOBFILE = basefile1;basefile2; -+
```

```
>>-- EXPORT REPORT TO FileName -----<<
                                     +- ( --- CONFIRM = YES/NO --+
                                       +- DATAFORMAT = QMF/HTML/TEXT -+
```

表 20. EXPORT コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
<i>ObjectName</i>	データベースからエクスポートするオブジェクトの名前。
<i>FileName</i>	オブジェクトをエクスポートする先のファイルの名前。

表 20. EXPORT コマンド・パラメーター (続き)

パラメーター	説明
CONFIRM	既存ファイルを置換する前に確認ダイアログを表示するかどうかを指定します。 CONFIRM を指定しないか NO を指定すると、対応するリソース制限が使用されます。
LANGUAGE	英語あるいは現行セッション言語のどちらで書式をエクスポートするか指定します。英語でエクスポートした書式は、どの NLF セッションでも実行できます。セッション言語でエクスポートされた書式は、同じ言語のセッションに限り実行できます。デフォルト値は、DSQEC_FORM_LANG 大域変数によって提供されます。
DATAFORMAT	<p>エクスポートするデータのファイル書式を指定します。このパラメーターを省略すると、 DSQQW_EXP_DT_FRMT 大域変数により、使用される書式が備えられます。「0」(テキスト書式)、「2」(HTML 書式)、「3」(CSV 書式)、または「4」(IXF 書式)のいずれかに設定できます。 IXF を指定すると、DSQQW_EXP_OUT_MDE 大域変数は、文字モードのシステム /370 IXF の場合は「0」に設定され、 PC/IXF の場合は「1」に設定されます。</p> <p><b>報告書の場合</b></p> <p>Windows 環境では QMF 書式はサポートされません。 HTML 書式の場合は &lt;PRE&gt; タグが追加されます。テキスト・ベースのファイルの場合は TEXT です。</p>
OUTPUTMODE	データの出力フォーマットを指定します。
LOBSINFILE	エクスポートするデータに LOB を組み込むかどうかを指定します。
LOBSTO	LOB の保管場所。
LOBSFIL	エクスポートする LOB のベース名。

### サンプル

```
EXPORT QUERY USER1.QUERY TO C:¥Queries¥query1.qry
```

### FORWARD コマンド

FORWARD は、照会結果セットを前方にスクロールします。このコマンドに使用できるパラメーターは MAX だけで、このパラメーターを使用すると BOTTOM と同等になります。

### 構文

```
>>-- FORWARD MAX -----<<
```

## サンプル

FORWARD MAX

## IMPORT コマンド

IMPORT は、データをファイルから一時記憶域中やデータベース中にコピーします。

### 構文

ターゲット・オブジェクトがデータベース中にある場合:

```
>>-- IMPORT --- QUERY --- ObjectName FROM FileName ----->
      +- PROC ---+

>-----<<
+- ( --- CONFIRM = YES/NO ---+
   +- COMMENT = Text ---+
   +- SHARE = YES/NO ---+

>>-- IMPORT FORM ObjectName FROM FileName ----->

>-----<<
+- ( --- CONFIRM = YES/NO -----+
   +- COMMENT = Text -----+
   +- LANGUAGE = ENGLISH/SESSION -+
   +- SHARE = YES/NO -----+
>>-- IMPORT TABLE ObjectName FROM FileName ----->
>-----<<
+- ( --- CONFIRM = YES/NO -----+
   +- COMMENT = Text -----+
   +- ACTION = REPLACE/APPEND -+
```

一時ターゲット・オブジェクトの場合:

```
>>-- IMPORT --- QUERY --- FROM FileName -----<<
      +- PROC ---+
      +- FORM ---+
      +- DATA ---+
      +- LOBSFROM = path1;path2; -+
```

表 21. IMPORT コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
<i>ObjectName</i>	データベース中にインポートするオブジェクトの名前。
<i>FileName</i>	オブジェクトのインポート元のファイルの名前。
CONFIRM	既存オブジェクトを置換する前に確認ダイアログを表示するかどうかを指定します。CONFIRM を指定しないか NO を指定すると、対応するリソース制限が使用されます。
COMMENT	インポートするオブジェクトに付けるコメントを指定します。テキストを引用符で囲みます。

表 21. IMPORT コマンド・パラメーター (続き)

パラメーター	説明
SHARE	インポートしたオブジェクトを他のユーザーが使用できるようにするかどうかを指定します。
LANGUAGE	英語あるいは現行セッション言語のどちらで書式をインポートするか指定します。英語でインポートした書式は、どの NLF セッションでも実行できます。セッション言語でインポートされた書式は、同じ言語のセッションに限り実行できます。デフォルト値は、DSQEC_FORM_LANG 大域変数によって備えられます。
ACTION	データベース表全体を置き換えるのか、それともデータを既存の表に追加するのかを指定します。
LOBSFROM	LOB の場所。

### サンプル

```
IMPORT QUERY FROM C:¥Queries¥query1.qry
```

### PRINT コマンド

PRINT は、一時記憶域中やデータベース中のオブジェクトのコピーを印刷します。

### 構文

ターゲット・オブジェクトがデータベース中にある場合:

```
>>-- PRINT ----- ObjectName -----<<
      +- QUERY +-          +- PRINTER = Printer +-
      +- PROC  --+
      +- TABLE --+
```

一時ターゲット・オブジェクトの場合:

```
>-- PRINT --- QUERY -----<<
      +- PROC --+ +- PRINTER = Printer --+
      +- TABLE --+
```

```
>>-- PRINT REPORT -----<<
```

```
>-----<<
+- ( --- DATETIME = YES/NO -----+
  +- PAGENO = YES/NO -----+
  +- PRINTER = Printer -----+
  +- FORM = --- FORM -----+
    +- FormName -----+
  +- COPIES = NumChars -----+
  +- TYPEFACE = fontname -----+
  +- SIZE = NumChars -----+
```



```

+- BOLD = YES/NO -----+
+- ITALIC = YES/NO -----+
+- CHARSET = ANSI/DEFAULTS/SYMBOL/SHIFTJIS/GB2312/ -----+
    HANGUEL/CHINESEBIG5/OEM/JOHAB/HEBREW/ -----+
    ARABIC/GREEK/TURKISH/THAI/EASTEUROPE/ -----+
    RUSSIAN/MAC/BALTIC/ -----+
+- ORIENTATION = PORTRAIT/LANDSCAPE -----+
+- USEFORMPS = YES/NO -----+
+- LENGTH = NumChars/CONT/AUTO +-
    +- CONT -----+
+- WIDTH = NumChars/CONT/AUTO --+

```

表 22. PRINT コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
<i>ObjectName</i>	印刷するオブジェクトの名前。
DATEIME	ページ・フッター中に現在の日時を組み込むかどうか。 DATEIME=NO を指定するか、書式のページ・テキスト中に &DATE 変数か &TIME 変数を組み込んでいなければ、報告書を 印刷する際に日時がページ・フッターに印刷されます。変数 を組み込むと、日時は現行の Windows の領域設定に従って 書式設定されます。
PAGENO	ページ・フッター中にページ番号を組み込むかどうか。 PAGENO=NO を指定するか、書式のページ・テキスト中に &PAGE 変数を組み込んでいなければ、報告書を印刷する際に ページ番号がページ・フッターに印刷されます。
PRINTER	オブジェクトや報告書を印刷するプリンターの名前。
FORM	報告書を生成する際に使用する書式。キーワード FORM を 指定して現行書式オブジェクトを使用したり、データベース 中に保管されている書式の名前を指定したりできます。
COPIES	オブジェクトを印刷する際の印刷部数。
TYPEFACE	オブジェクトを印刷する際に使用するフォント書体。
SIZE	オブジェクトを印刷する際に使用するフォント・サイズ。
BOLD	オブジェクトを印刷する際に太字テキストを使用するかどうか。
ITALIC	オブジェクトを印刷する際にイタリック体のテキストを使用 するかどうか。
CHARSET	オブジェクトを印刷する際に使用する文字セット。
ORIENTATION	オブジェクトを印刷する際の用紙の向き。
USEFORMPS	オブジェクトに関連付けられている Windows 書式を使用す るかどうか。

表 22. PRINT コマンド・パラメーター (続き)

パラメーター	説明
LENGTH	<p>LENGTH は次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各ページに印刷する行の最大数 (1 ~ 999)</li> <li>• CONT (ページの切れ目を作らずに連続印刷する)</li> <li>• AUTO</li> </ul> <p>LENGTH を省略すると、DSQQW_RPT_LEN_TYP および DSQQW_RPT_NUM_LINES 大域変数の値が使用されます。</p>
WIDTH	<p>WIDTH は次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各行に印刷する文字の最大数 (1 ~ 999)</li> <li>• CONT (ページの切れ目を作らずに連続印刷する)</li> <li>• AUTO</li> </ul> <p>報告書を印刷する際に、WIDTH より長い行は後続ページに書式設定されます。</p>

#### サンプル

PRINT QUERY

PRINT REPORT (LENGTH=60, DATETIME=NO

#### RESET GLOBAL ALL コマンド

RESET GLOBAL ALL は、SET GLOBAL コマンドを使用して設定した大域変数の名前と値を削除します。

#### 構文

```
>>-- RESET GLOBAL (Variable1, Variable2 ... -----<<
```

または

```
>>-- RESET GLOBAL ALL -----<<
```

表 23. RESET GLOBAL ALL コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
VariableName	<p>削除する特定の変数の名前。以前に SET GLOBAL コマンドで設定した変数の名前を最大 10 個まで指定できます。</p> <p><b>ALL</b> は、以前に SET GLOBAL コマンドで設定したすべての変数の名前と値を削除します。複数の大域変数を定義していない場合や、大域変数の名前を忘れた場合は、このパラメーターを使用してすべての大域変数を一度にリセットできます。名前の先頭が <b>DSQ</b> の変数は制限されているので、削除できません。</p> <p><b>注:</b> 大域変数は照会、プロシージャ、および書式中で使用できますが、DB2 Table Editor 中では使用できません。</p> <p>RESET GLOBAL ? を送出すると、プロンプトが表示されます。このプロンプトに、リセットしたい変数の名前を入力します。</p> <p>「大域変数リスト」ダイアログで、削除したい行の上にカーソルを移動して Delete を押すと、変数をリセットできます。</p> <p>たとえば、以前に設定したすべての大域変数の値を削除するには、次のように入力します。</p> <p>RESET GLOBAL ALL</p> <p>DEPT および LOCATION という名前の変数の値だけを削除するには、次のように入力します。</p> <p>RESET GLOBAL (DEPT LOCATION</p>

### サンプル

RESET GLOBAL (Variable1, Variable2

または

RESET GLOBAL ALL

### RUN コマンド

RUN は、一時記憶域かデータベースからプロシージャや照会を実行します。

### 構文

ターゲット・オブジェクトがデータベース中にある場合:

```

>>-- RUN ----- ObjectName -----<<
      +- QUERY -+          +- ( --- &&Variable = Value ----+
                              +- CONFIRM = YES/NO -----+
                              +- FORM = --- FORM -----+
                              |           +- FormName -+ |
                              +- ROWLIMIT = NumRows-----+

>>-- RUN ----- ObjectName -----<<
      +- PROC -+          +- ( &&Variable = Value ... -+

一時ターゲット・オブジェクトの場合:
>>-- RUN QUERY -----<<
      +- ( --- &&Variable = Value ----+
          +- CONFIRM = YES/NO -----+
          +- FORM = --- FORM -----+
          |           +- FormName -+ |
          +- ROWLIMIT = NumRows/NO -+

>>-- RUN PROC -----<<
      +- ( &&Variable = Value ... -+

```

表 24. RUN コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
<i>ObjectName</i>	実行する照会かプロシージャーの名前。
<i>&amp;&amp;Variable</i>	<p>実行する照会かプロシージャー中の変数に値を割り当てます。変数名の長さは 1 ～ 17 文字で、値の長さは 1 ～ 55 文字です。RUN コマンドで指定する変数と値の数はいくつでもかまいません。RUN コマンドで値を指定していない変数が照会やプロシージャー中にある場合に、それらの変数が大域変数でなければ、変数の値を要求するプロンプトが出ます。</p> <p>大域変数を設定すると、その変数は QMF (Windows 版) のセッション全体で使用できます。大域変数は照会、書式、またはプロシージャー中で使用できます。</p> <p>プロシージャー中に変数割り当てを組み込む際には、2 つの &amp; 記号 (&amp;&amp;) を使用して、プロシージャーが実行される前に変数が置換変数されないようにしなければなりません。</p>
CONFIRM	<p>このコマンドを実行してオブジェクトを置換したり変更したりする前に、確認ダイアログを表示するかどうかを指定します。CONFIRM を指定しないか NO を指定すると、対応するリソース制限が使用されます。</p> <p>リソース制限は、限度や制御を指定して、QMF (Windows 版) ユーザーによるデータベースや通信のリソースの使用を管理します。</p>

表 24. RUN コマンド・パラメーター (続き)

パラメーター	説明
FORM	照会によって取り出されたデータを使用して表示形式の報告書を生成する際に、使用される書式を指定します。キーワード FORM を指定して現行書式オブジェクトを使用したり、データベース中に保管されている書式の名前を指定したりできます。
ROWLIMIT	該当の照会で検索する最大 (限界) 行数を指定します。

## サンプル

```
RUNQUERY USER1.QUERY1 (&&Var1=10
```

## SAVE コマンド

SAVE は、一時記憶域内のオブジェクトの内容をデータベースに保管します。

## 構文

```
>>-- SAVE --- QUERY --- AS ObjectName -----<<
      +- PROC --+                               +- ( --- COMMENT = Text ---+
                                               +- CONFIRM = YES/NO -+
                                               +- SHARE = YES/NO ---+

>>-- SAVE FORM AS ObjectName -----<<
      +- ( --- COMMENT = Text -----+
        +- CONFIRM = YES/NO -----+
        +- SHARE = YES/NO -----+
        +- LANGUAGE = ENGLISH/SESSION -+

>>-- SAVE DATA AS TableName -----<<
      +- ( --- COMMENT = Text -----+
        +- CONFIRM = YES/NO -----+
        +- METHOD = REGULAR/FAST -----+
        +- SCOPE = NumChars -----+
        +- ROWIDADD = YES/NO -----+

        +- ROWIDNAME = Text -----+
        +- ROWIDDISP = ALWAYS/BYDEFAULT -----+
        +- ROWIDDISPnnn = EXCLUDE/CONVERT/ALWAYS/BYDEFAULT+
        +- ACTION = REPLACE/APPEND -+
```

表 25. SAVE コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
ObjectName	オブジェクト (照会、書式、プロシージャー、または表) を保管する際に、そのオブジェクトに割り当てる名前。
COMMENT	保管するオブジェクトに付ける注釈。テキストを引用符で囲みます。

表 25. SAVE コマンド・パラメーター (続き)

パラメーター	説明
CONFIRM	このコマンドを実行してオブジェクトを置換したり変更したりする前に、確認ダイアログを表示するかどうか。 CONFIRM を指定しないか NO を指定すると、対応するリソース制限が使用されます。
SHARE	保管したオブジェクトを他のユーザーが使用できるようにするかどうか。
LANGUAGE	英語あるいは現行セッション言語のどちらで書式を保管するか。英語で保管した書式は、どの NLF セッションでも実行できます。セッション言語で保管された書式は、同じ言語のセッションに限り実行できます。デフォルト値は、 DSQEC_FORM_LANG 大域変数によって提供されます。
METHOD	データを保管する方式。正規の保管方式は、データをクライアントからデータベース・サーバーに送り戻して表に挿入します。高速データ保管は、サーバーで照会を再実行して、結果を表に直接挿入します。
SCOPE	データのコミットの有効範囲。
ROWIDADD	行 ID 列を表に追加するかどうか。
ROWIDNAME	新しい行 ID 列に割り当てる名前。
ROWIDDISP	新しい行 ID 列の後処理。
ROWIDDISPnnn	既存の行 ID 列の後処理。
ACTION	データベース表全体を置き換えるか、それともデータを既存の表に付加するか。

### サンプル

```
SAVE QUERY AS USER1.QUERY1 (CONFIRM=NO)
```

### SEND TO コマンド

SEND TO は、報告書やデータをデータベースか一時記憶域からエクスポートし、「送信」フォルダー内で指定したターゲットやアプリケーションに送信します。

### 構文

一時ターゲット・オブジェクトの場合:

```
>>-- SEND DATA TO Target -----<<
                                     +- DATAFORMAT = IXF -+
```

```
>>-- SEND REPORT TO Target -----<<
                                     +- DATAFORMAT = HTML -+
```

表 26. SEND TO コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
Target	オブジェクトをエクスポートする先のファイルの名前。ターゲットにスペース文字が含まれている場合は、単一引用符か二重引用符で囲まなければなりません。
DATAFORMAT	<p>エクスポートされるデータや報告書のファイル書式。このパラメーターを省略すると、DSQQW_EXP_DT_FRMT 大域変数により、使用される書式が提供されます。次の値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「0」 (テキスト書式)</li> <li>• 「2」 (HTML 書式)</li> <li>• 「3」 (CSV 書式)</li> <li>• 「4」 (IXF 書式)</li> </ul> <p>IXF を指定すると、DSQQW_EXP_OUT_MDE 大域変数は、文字モードのシステム /370 IXF の場合は「0」に設定され、PC/IXF データの場合は「1」に設定されます。</p>

### サンプル

SEND DATA TO "Excel Shortcut"

### SET GLOBAL コマンド

SET GLOBAL は、既存の大域変数の値を設定するか、新しい変数と値を作成します。新しく作成した大域変数は、(手操作で削除しなければ) QMF (Windows 版) セッション全体で使用できます。

### 構文

```
>>-- SET GLOBAL ( VariableName = Value, ... -----<<
```

表 27. SET GLOBAL コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
VariableName	設定または作成する大域変数の名前。変数名の長さは 1 ~ 17 文字です。名前の先頭が DSQ の変数は制限されているので、作成したり削除したりできません。
Value	大域変数の値。値の長さは 1 ~ 55 文字です。名前の先頭が DSQ の変数の値は制限されています。詳しくは、『大域変数の処理』を参照してください。

### サンプル

SET GLOBAL (Var1=abc, Var2=def)

## SHOW コマンド

SHOW は、DISPLAY に似ていて、一時記憶域中のオブジェクトを表示します。

- SHOW QUERY、SHOW FORM、および SHOW PROC は、現行の照会、書式、またはプロシージャのウィンドウをアクティブにします。
- SHOW REPORT と SHOW FORM は同義です。
- SHOW GLOBALS は、「大域変数」ダイアログ・ボックスを開きます。

### 構文

```
>>-- SHOW --- FORM -----<<
      +- PROC ----+
      +- REPORT --+
      +- GLOBALS -+
>>-- SHOW QUERY -----<<
      +- ( --- VIEW = SQL/PROMPTED/NATURAL/RESULTS/STATUS/ ----+
          +- RESULTSET = NumChars -----+

```

表 28. SHOW コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
VIEW	ターゲットの照会の外観を指定します。
RESULTSETS	結果セット内の文字の最大数。

### サンプル

```
SHOW QUERY
```

## WINDOWS コマンド

WINDOWS コマンドは、ターゲットの Windows アプリケーション、文書、または URL をアクティブにします。

### 構文

```
>>-- WINDOWS CommandLine -----<<
```

表 29. WINDOWS コマンド・パラメーター

パラメーター	説明
CommandLine	立ち上げるアプリケーション・コマンド行、文書名、または URL。このコマンドが立ち上げられると、完了するまで待たずにプロシージャの実行が続行されます。

### サンプル

```
WINDOWS
```



c:¥programs¥notepad.exe

---

## サンプル・プロシージャ

次のサンプル・プロシージャは、照会と書式を使用して報告書の表示、実行、および印刷を行う方法を示しています。さらに、表を基にして新しい照会を作成し、その照会を実行し、データをファイルにエクスポートし、別のデータベース・サーバーの表にデータを保管します。

```
SET GLOBAL (TABLE=SMITH.PAYROLL
DISPLAY QUERY SMITH.PAYROLL_QUERY
RUN QUERY (FORM=SMITH.PAYROLLFORM
PRINT REPORT
DRAW SMITH.PAYROLLTABLE (TYPE=SELECT
RUN QUERY
EXPORT DATA TO C:¥TEMP¥EXP1.IXF (DATAFORMAT=IXF

CONNECT TO 'OS/2 SERVERC'
SAVE DATA AS SMITH.DATASAVE
SHOW REPORT
```



---

## 第7章 リストに関する作業

「リスト」は、QMF オブジェクトの集合を表示するための簡単な方法を提供します。

---

### オブジェクト

QMF (Windows 版) は、次の 4 つのタイプのオブジェクトを認識します。

- 照会
- 書式
- プロシージャ
- 表

「リスト」ウィンドウを使用して、オブジェクト名、所有者、およびタイプに基づいて、オブジェクトを表示することができます。

### オブジェクトのリスト

1. 「ファイル」、「新規リスト」の順に選択します。

「リスト」ウィンドウが開かれます。

2. 所有者と名前を指定します。

**注:** マッチングするオブジェクトのリストからオブジェクトを選択する際に、パターンを使用することができます。

- 任意の文字を含む任意の長さのストリングのマッチングを行うためには、パーセント文字 (%) を使用します。たとえば、名前が文字 A で始まる表をすべてリストするためには A% と入力します。
- 単一文字のマッチングを行うためには、下線文字 (\_) を使用します。たとえば、2 番目の位置に文字 A が入っている所有者の表をすべてリストするためには \_A% と入力します。

3. 検索しているオブジェクトのタイプを選択します。

4. 「リスト最新表示」をクリックします。

データベース・サーバーに保管されていて、条件にマッチングしているオブジェクトのリストが表示されます。

---

### リスト・ウィンドウのコマンド

「リスト」ウィンドウ内のオブジェクトを右クリックすると、「リスト」メニューのコマンドと同じコマンドのリストが表示されます。

## オブジェクトの表示

選択したオブジェクトを開いて表示します。このオプションは、照会、書式、プロシージャ、および表に使用することができます。

## オブジェクトの実行

選択したオブジェクトを実行します。このオプションは、照会およびプロシージャに使用することができます。

## オブジェクトのドロウ

選択した表に基づいて照会を作成します。SQL SELECT 照会、SQL UPDATE 照会、SQL INSERT 照会、または指示照会をドロウすることができます。このオプションは、表に使用することができます。

## オブジェクトの編集

この表を編集するために表編集プログラムを開きます。このオプションは、表に使用することができます。

## プロパティ

コメント、属性および使用に関する履歴情報も含めて、選択されたオブジェクトのプロパティを表示します。このオプションは、照会、書式、プロシージャ、および表に使用することができます。

---

## リストの作成

オブジェクトの集合としての役割を果たすリストを作成することができます。たとえば、在庫に関するすべての照会、書式、プロシージャ、および表のリストを作成して、作業を 1 つの場所にまとめておくことができます。このリストを作成したら、このリストへのオブジェクトの追加や除去を行ったり、さらに将来の使用に備えてリストを保管することができます。

## リストへのオブジェクトの追加

リストにオブジェクトを追加することができます。

開いたリストから、追加するオブジェクトの所有者と名前の情報を指定して、ツールバーの「リストに追加」をクリックします。

所有者と名前の条件にマッチングしたオブジェクトがリストに追加されます。

## リストからのオブジェクトの除去

リストから関係のないオブジェクトを除去することができます。

「リストを開く」から、ツールバーの「**除去**」をクリックします。

該当のオブジェクトは、リストから除去されますが、削除はされません。

## ファイルへのリストの保管

1. 「リストを開く」から、ツールバーの「**保管**」をクリックします。

リストが以前に保管されていても、リストは保管されます。リストが以前に保管されていない場合は、「別名保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。

2. リストを保管するファイルの名前を入力して、「**OK**」をクリックします。  
リストが保管されます。

## 保管されたリスト・ファイルを開く

1. ツールバーの「**開く**」をクリックします。

「開く」ダイアログ・ボックスが開かれます。

2. 開くファイルを選択して、「**OK**」をクリックします。  
選択されたリストが、リスト文書の中で開かれます。



---

## 第8章 静的照会に関する作業

静的照会とは、前にデータベース・サーバーに渡され、パッケージの形にバインドされている SQL 照会のことです。静的照会が実行される時、データベース・サーバーは、現在、照会ウィンドウに表示されている SQL テキストではなく、パッケージにバインドされている SQL テキストを使用します。静的照会は、動的照会よりもリソースの使用の点で効率がよいが、編集することはできません。

---

### 静的照会

静的照会は、以前から存在している SQL および指示照会から作成されます。

#### 静的照会の作成

1. 「照会」メニューから、「静的パッケージのバインド」を選択します。  
「静的パッケージのバインド」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 「パッケージ」タブを選択して、集合 ID およびパッケージ名を入力し、その他の必要なオプションを変更します。
3. 照会に置換変数が含まれている場合は、「変数の入力」タブを選択します。
4. 置換変数をホスト変数で置き換えます。
5. 「OK」をクリックします。

静的照会がバインドされます。

注: 照会をバインドした後、その照会をファイルまたはデータベース・サーバーのいずれかに保管する必要もあります。

#### 置換変数のホスト変数への置換

パッケージをバインドする場合は、SQL テキスト内の各置換変数の代わりに使用するホスト変数を指定する必要があります。ただし、置換変数は、常にホスト変数によって直接に置換できるとは限りません。テキストがデータベース・サーバーに送信される前に、置換変数によって照会テキスト内で直接テキスト置換が行われます。ホスト変数は、データベース・サーバーへの照会の部分として送信されます。ホスト変数を照会内で使用できるようにする方法および場所の規則については、使用しているデータベース・サーバーの資料を参照してください。

置換変数とホスト変数の間の関係がいったん指定されると、QMF (Windows 版) はその関係を覚えておき、今後の照会でその関係を提示し、パッケージのバインディングをより簡単に行えるようにします。

ホスト変数の有効なデータ・タイプは次のとおりです。

- CHAR(n)
- VARCHAR(n)
- INTEGER
- SMALLINT
- FLOAT
- DECIMAL(p,s)
- DATE
- TIME
- TIMESTAMP

### 手順

1. 「静的パッケージのバインド」ダイアログ・ボックスから、「変数の入力」タブを選択します。
2. 各ホスト変数の変数タイプを入力して、「**OK**」をクリックします。  
置換変数がホスト変数に変換されます。

### 静的照会の実行

静的照会は、他の照会と同様に実行できます。「SQL 照会」を参照してください。



---

## 第9章 表編集プログラムに関する作業

SQL ステートメントを書くのではなく、表編集プログラムを使用して、表に保管されているデータを検索し、追加し、編集し、削除することができます。

---

### 表編集プログラムの解説

表編集プログラムを使用すると、データの編集および検索に柔軟性が得られます。

#### 表編集プログラムの使用による行の検索

1. 「ファイル」メニューから、「表編集プログラム」を選択します。  
「表編集」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. 表を指定します。

**注:** マッチングする表のリストから表名を選択する際に、パターンを使用することができます。

- 任意の文字を含む任意の長さのストリングのマッチングを行うためには、パーセント文字 (%) を使用します。たとえば、名前が文字 A で始まる表をすべてリストするためには A% と入力します。
  - 単一文字のマッチングを行うためには、下線文字 (\_) を使用します。たとえば、2 番目の位置に文字 A が入っている所有者の表をすべてリストするためには \_A% と入力します。
3. パターンを入力した後、「表のリスト」をクリックします。
  4. 結果のリストから表を選択します。
  5. 「保管モード」を選択します。
    - **即時**  
表は、変更されるたびに即時にデータベース・サーバーで更新されます。
    - **終了時**  
表は、すべての変更の入力完了後にデータベース・サーバーで更新されます。表の変更を行っている途中では、他のユーザーはその表を変更することはできません。
  6. 「編集」をクリックします。  
「表編集」ダイアログ・ボックスが開かれます。
  7. 検索条件を入力します。
    - **単純検索**  
「値」列に検索値を入力します。

- **拡張検索**

「追加の検索基準」フィールドに検索基準を入力して、さらに複雑な検索条件を指定します。

**注:** 「追加の検索基準」フィールドには、任意の有効な SQL 述部を入力することができます。

8. 「**検索開始**」をクリックします。

最初に一致した行が「値」列に表示されます。

## 行の追加

1. 「**表編集**」ダイアログ・ボックスに、新規レコードに関する情報を入力します。

2. 「**行の挿入**」をクリックします。

新規の行が表に追加されます。

3. 「**OK**」をクリックします。

変更が保管されます。

## 行の変更

1. 「**表編集**」ダイアログ・ボックスから、変更する行を検索します。

2. 変更する行が表示されるまで、「**次の行**」をクリックします。

3. 「値」列内のデータを編集します。

4. 「**行の更新**」をクリックします。

行が更新されます。

5. 「**OK**」をクリックします。

変更が保管されます。

## 行の削除

1. 「**表編集**」ダイアログ・ボックスから、削除する行を検索します。

2. 削除する行が表示されるまで、「**次の行**」をクリックします。

3. 「**行の削除**」をクリックします。

行が削除されます。

4. 「**OK**」をクリックします。

変更が保管されます。

---

## 照会結果の表示からの表の編集

照会結果の表示から、直接に表を編集することができます。

## 照会結果の表示からの行の削除

照会結果の表示にある表から、個々の行を削除することができます。

照会結果の表示から行を選択し、「編集」メニューの「削除」を選択します。行が削除されます。

## 照会結果の表示からの列の更新

照会結果の表示の中の個々の列の内容を更新することができます。

照会結果の表示から、セルをダブルクリックし、新規の値を入力し、**Enter** キーを押します。表は更新されます。



---

## 第10章 データの分散

データを他のデータベースおよびアプリケーションにエクスポートすることができます。

---

### データのエクスポート

次のようにして、データを QMF (Windows 版) から他のアプリケーションへエクスポートすることができます。

- データをテキスト、CSV、IXF、または HTML のファイルへエクスポートする。
- 照会結果を表に保管する。
- 照会結果を、直接、Microsoft Excel または Lotus 1-2-3 のスプレッドシートに追加する。

### ファイルへのデータのエクスポート

1. 照会結果を表示しているときに、「ファイル」メニューの「データのエクスポート」をクリックします。

「データのエクスポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. 該当の「出力ファイルの種類」を選択して、「オプション」をクリックします。

選択する出力ファイルの種類に応じて、「テキスト / DEL エクスポート・オプション」ダイアログ・ボックス、「HTML エクスポート・オプション」ダイアログ・ボックス、「IXF エクスポート・オプション」ダイアログ・ボックス、あるいは、「CSV エクスポート・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- .TXT という拡張子の付いたテキスト・ファイルを作成することができます。これは、(「テキスト / DEL エクスポート・オプション」ダイアログ・ボックスに指定されたとおりの) オプションのストリングおよび列区切り文字をもった標準の ASCII ファイルです。
- .HTM という拡張子を持つ HTML ファイルを作成することができます。これは、どの Web ブラウザーでも表示することができる HTML ファイルです。HTML タグはすべて、ファイルの中で自動的に生成され、インターネットまたはイントラネットの Web サイトで発行できるようになっています。「HTML のエクスポート・オプション」ダイアログ・ボックスで選択したオプションによって、エクスポートしたデータの外観が制御されます。
- .IXF ファイルを作成することができます。IXF エクスポートでは、列ヘッダーおよびデータ・タイプも含めて、データベース情報がすべて保存されます。このエクスポートは、通常、あるデータベースから別のデータベースへ情報を転送するために使用されます。

- .CSV ファイルを作成することができます。 CSV エクスポートは、コンマを列区切り文字として使用しており、テキスト・エクスポートと似ています。このフォーマットは、スプレッドシート・アプリケーションで普通に用いられます。
3. エクスポート・ファイルのオプションを選択します。
  4. 「**OK**」をクリックします。  
「オプション」ダイアログ・ボックスが閉じます。
  5. 「データのエクスポート」ダイアログ・ボックスの「**OK**」をクリックします。  
データがエクスポートされます。

## データのインポート

IXF ファイルに保管されているデータをインポートすることができます。データは、照会ウィンドウにインポートされると、データベース・サーバーに保管され、新しいファイルへエクスポートされるか、あるいは報告書用に使用されます。 PC/IXF および文字モードのシステム /370 IXF ファイルがサポートされています。

1. 「ファイル」メニューから、「データのインポート」を選択します。  
「データのインポート」ダイアログ・ボックスが開かれます。
2. インポートするファイルを選択して、「**OK**」をクリックします。  
インポートされたデータが、新しいの照会ウィンドウに表示されます。

## IXF メッセージ

データが IXF 形式のファイルに正常にエクスポートまたはインポートされると、「IXF メッセージ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

### メッセージ

このダイアログのメッセージ・セクションには、IXF ファイルとの間でエクスポートまたはインポートを行ったときの、詳細データと処理情報が表示されます。たとえば、インポートまたはエクスポートされた行数、拒否された行、および切り捨てられたデータなどです。

編集ボックスは読み取り専用ですが、これらのメッセージを選択してコピーすることは可能です。

### OK

ダイアログ・ボックスを閉じます。

### サンプル・メッセージ

サンプル・メッセージを以下に示します。

The H record in the PC/IXF file has product "DB202.00, date "20011025 time "160300", single CCSID "0" and double CCSID "0".

The C record in the PC/IXF file has column name "ID", data type "INTEGER", single CCSID "0", and double CCSID "0"

...

The T record in the PC/IXF file has a name "STAFF", qualifier "Q", and source "TEST".

...

The application is beginning to export data to file c:%temp.IXF.

...

The row 5 is rejected.  
The data in (1,3) is truncated.  
The data in (4,3) is truncated

...

Number of rows rejected = 1.  
Number of data truncated = 2.  
Number of rows exported = 10.

...

The application has completed processing. "26" rows were exported from the file c:%temp.IXF.

## データベース・サーバーへのデータの保管

インポートされた照会結果は、データベース表に保管することができます。

1. インポートした照会結果を表示しているときに、「ファイル」メニューの「データの保管」を選択します。  
「データの保管」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. データベース・サーバーを選択し、表の所有者および名前を入力するか、または他の必要なオプションを選択します。
3. 「OK」をクリックします。  
データが保管されます。

---

## Microsoft Excel アドインの使用

QMF (Windows 版) の 32 ビット・バージョンには、Microsoft Excel 7.0 またはそれ以降用のアドインが組み込まれています。これらのアドインによって、Excel から QMF (Windows 版) を実行して、照会結果を直接スプレッドシートに戻すことができます。これらのアドインは、「標準インストール」オプションを選択するか、または「カスタム・インストール」オプションを選択して「Microsoft Excel アドイン」を選択すると、自動的にインストールされます。

1. Excel ツールバーの「**QMF (Windows 版)**」をクリックします。  
QMF (Windows 版) がアクティブになります。
2. QMF (Windows 版) から、照会を選択して実行します。  
照会結果が表示されます。
3. Excel に戻すデータを選択します。
4. 「ファイル」メニューから、「**Microsoft Excel へデータを戻す**」をクリックします。

Excel がアクティブになり、「QMF (Windows 版) アドイン」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- データの宛先範囲を入力します。
- 「**OK**」をクリックします。  
データがスプレッドシートに追加されます。

---

## Lotus 1-2-3 アドインの使用

QMF (Windows 版) の 32 ビット・バージョンには、Lotus 1-2-3 用のアドインが組み込まれています。これらのアドインによって、1-2-3 から QMF (Windows 版) を実行して、照会結果を直接スプレッドシートに戻すことができます。これらのアドインは、「標準インストール」オプションを選択するか、または「カスタム・インストール」オプションを選択して「Lotus 1-2-3 アドイン」オプションを選択すると、インストールされます。

- 1-2-3 ツールバーの「**QMF (Windows 版)**」をクリックします。  
QMF (Windows 版) がアクティブになります。
- QMF (Windows 版) から、照会を選択して実行します。  
照会結果が表示されます。
- Lotus 1-2-3 に戻すデータを選択します。
- 「ファイル」メニューから、「**Lotus 1-2-3 ヘデータを戻す**」をクリックします。  
「データ・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。 Lotus 1-2-3 がアクティブになり、「QMF (Windows 版) アドイン」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- データの宛先範囲を入力します。
- 「**OK**」をクリックします。  
データがスプレッドシートに追加されます。

---

## サンプル・アプリケーションの使用

QMF (Windows 版) では、いくつかのサンプル・アプリケーションおよびアドイン「組み込みソリューション」を使用することができます。詳細については、<http://www.ibm.com/qmf/> の IBM Web サイトを参照してください (英語版のみ)。

---

## QMF (Windows 版) API を使用するアプリケーションの作成

QMF (Windows 版) を使用する独自のアプリケーションを作成できます。すべての API 関数とその効果についての完全なリストは、API オンライン・ヘルプを参照してください。プログラミングの例については、<http://www.ibm.com/qmf/> の IBM Web サイトを参照してください。



---

## 第11章 ジョブ・ファイルに関する作業

ジョブ・ファイルを使用して、プロシーチャーをスケジュールし、実行することができます。ジョブ・ファイルは、プロシーチャー・パラメーターを格納し、Windows スケジューラーを使用して事前設定された時刻および日付に従ってプロシーチャーを実行します。

ジョブ・ファイルを使うと、長い照会または多くのリソースを必要とする照会を、より都合の良い時期に実行するようにスケジュールできます。

---

### ジョブ・ファイル

ジョブ・ファイルを作成し、それをローカルで保管するか、またはデータベース・サーバーに保管することができます。

#### 「照会」メニュー

##### サーバーの設定

実行したいプロシーチャーを含むデータベース・サーバーを選択します。

##### ユーザー情報の設定

データベース・サーバーのユーザー ID、パスワード、およびアクティブ・ジョブのアカウント・ストリングを設定します。

##### 実行

ジョブを別個の QMF (Windows 版) インスタンスで実行します。開いている現行セッションは、他のタスクを実行できます。

##### テスト

スケジュールされたタスクの実行と同時に、そのタスク用の SQL を QMF (Windows 版) で実行します。両者は同じインスタンス内で実行されますが、ウィンドウは別々です。

##### スケジュール

Windows の「スケジュール ジョブ」ダイアログ・ボックスを使用してジョブをスケジュールします。

##### スケジュール・タスクの表示

「スケジュール・タスク」ダイアログ・ボックスを開きます。

## ジョブ・ファイルの作成

「ファイル」メニューから、「新規ジョブ」を選択します。新規の「ジョブ文書」が開かれます。ジョブ・ファイルは、ローカルに、またはデータベース・サーバーに保管できます。

## ジョブ・ファイルをファイルに保管する

ジョブ・ファイルは、ローカルに、またはデータベース・サーバーに保管できます。

1. ジョブ・ファイルを開いた状態で、「ファイル」メニューから「保管」を選択します。

「別名保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。

2. 場所とファイル名を指定します。
3. 「OK」をクリックします。

ジョブ・ファイルが保管されます。

## ジョブ・ファイルをサーバーに保管する

ジョブ・ファイルをデータベース・サーバーに保管できます。

ジョブ・ファイルを開いた状態で、「ファイル」メニューから「サーバーに保管」を選択します。

## ジョブ・ファイルの実行

ローカルに、またはデータベース・サーバーに保管されているジョブ・ファイルを実行することができます。

1. ジョブ・ファイルを開きます。
2. ツールバーの「ジョブ実行」をクリックします。

ジョブ・ファイルが実行されます。

## ジョブ・ファイルのスケジュール

Windows スケジューラーを使用して、ジョブ・ファイルが無人で実行するようにスケジュールできます。

**注:** ローカルに保管されているジョブ・ファイルをスケジュールするには、そのジョブ・ファイルと共にユーザー ID とパスワードを保管しておく必要があります。パスワードは暗号化されたテキストとして保管されますが、それでも不正に解読される可能性はあります。

1. ジョブ・ファイルを開きます。
2. ツールバーの「ジョブのスケジュール」をクリックします。  
「ジョブのスケジュール」ダイアログ・ボックスが開かれます。
3. ジョブ・ファイルのスケジューリング情報を指定します。

4. 「OK」をクリックします。  
ジョブがスケジュールされます。



---

## 第12章 QMF レポート・センターに関する作業

QMF レポート・センターにより、共用の QMF オブジェクト（照会、書式、プロシージャ、および表）を使用して、カスタム報告書を作成することができます。これらのオブジェクトに高速アクセスすることで、好みのデータ・フォーマットを指定し、さまざまなアプリケーションでの表示および取り扱いが可能なカスタム報告書を作成することができます。レポート・センターは、集中的な共用の照会と QMF 報告書をランチして、結果をスプレッドシート、デスクトップ・データベース、およびブラウザに送る、簡単なユーザー・インターフェースです。

QMF (Windows 版) レポート・センターは、QMF (Windows 版) および QMF (Windows 版) Administrator と共にインストールされます。

---

### 機能

照会および報告書は、保管すること、および複数の DB2 データベース・サーバーに対して実行することができます。結果は表示、フォーマット設定、および保管することができます。個々のユーザーはお気に入りのリストを作成して、それらを Microsoft Excel、Microsoft Access、Lotus 1-2-3、または .txt ファイルなどのさまざまなフォーマットで、デスクトップのお気に入りフォルダーに送ることができます。

アドミニストレーターはスケジュールとユーザー・グループに基づく管理上の制限を設定して、一日の特定の時刻、または週のさまざまな曜日にユーザーが非常に大きい報告書を実行できないようにすることができます。さらに、アドミニストレーターだけが、照会と報告書をレポート・センター・ユーザーが使用できるようにしたり、それらの報告書の配布と集中制御を保持することができます。

---

### 定義

- **照会**は、データベース・サーバーから検索するデータの結果セットを説明したものです。  
注: QMF レポート・センターでは、照会を作成または変更することはできません。
- **表**は、保管データの集合です。照会を実行することによって、表と対話します。
- **書式**には、照会結果から報告書を生成するためのフォーマット設定の指示が含まれます。
- **プロシージャ**は、照会の実行、報告書の印刷、データのインポートとエクスポート、および他の機能を実行するためのコマンドのセットです。

### 「QMF レポート・センター」ウィンドウ

#### ナビゲーション

1. いずれかのオブジェクトまたはフォルダーで右マウス・ボタン・クリックして、ツールバーのメニューから使用可能なものと同じオプションをアクティブにします。
2. いずれかのフォルダーの隣にあるプラス記号 (+) をクリックして、第 1 レベルの内容を開きます。

注: **SHIFT** を押したままプラス記号 (+) をクリックして、そのフォルダーの下にあるすべてのレベルを開きます。

#### ディレクトリー構造

「QMF レポート・センター」ウィンドウには、ツリーに似た構造で、使用可能な「お気に入り」、「DB2 サーバー」、「共通のお気に入り」、「オブジェクト」、および「ごみ箱」が含まれています。

オブジェクトは、照会またはデータベース・サーバー・アイコンなどのアイコンによって表されます。これにより、各サーバーのオブジェクトを展開して使用可能な他のすべてのサーバーを表示することができます。

#### お気に入り

お気に入りフォルダーには、サーバーに常駐しているオブジェクトを基にした報告書が入っています。報告書は、オブジェクトを「お気に入り」フォルダーにコピーすることで作成されます。オブジェクトは、物理的にはハード・ディスク上には配置されていません。報告書はサーバー上のオブジェクトにリンクします。

#### DB2 サーバー

サーバー定義ファイル (SDF) 内のすべての DB2 サーバーをリストします。アクセスできないサーバーも見ることができます。

#### 報告書

アクセス権を持っているすべての使用可能なオブジェクトを、サーバー名ごとにリストします。

#### 共通のお気に入り

サーバー上に存在するフォルダー。このフォルダーは個人的なお気に入りと同様に報告書を含んでいますが、どのユーザーでも共通のお気に入りにアクセスすることができます。

#### ごみ箱

「お気に入り」フォルダーから削除したフォルダーと報告書のすべてが含まれます。

削除した項目は、ごみ箱を空にするまで、ごみ箱の中に残っています。ごみ箱からお気に入りに入り項目に戻すことができるので、ごみ箱は「元に戻す」機能としての役目を果たします。

- **削除**

項目を選択して、「編集」、「削除」と選択するか、

項目を選択して、右マウス・ボタン・クリックしてから「削除」を選択します。

- **空にする**

「報告書」、「ごみ箱を空にする」と選択します。

**注:** この操作では、項目が恒久的に削除されるので、元に戻すことはできません。

- **復元**

項目を「ごみ箱」から好みの位置にドラッグします。

## フォルダーおよびお気に入りに関する作業

フォルダーは、複数の報告書と QMF オブジェクトをグループにまとめます。フォルダーは、オブジェクト所有者の名前から従って名前が付けられます。報告書の実行や報告書のプロパティの定義など、報告書に対して実行する操作と同じ操作をフォルダーに対して実行することができます。

**注:** 最上位のフォルダーに対するこれらの操作の実行は、そのフォルダー内に含まれているどの報告書に対しても適用されます。

たとえば、フォルダー内の報告書を連続して実行したい場合には、そのフォルダーを選択してから、「報告書」メニューの「**実行**」を選択します。

QMF レポート・センターには、報告書を保管することができる最上位のフォルダーが 2 つあります。このフォルダーには、サーバー上のオブジェクトを指す報告書が入っています。これらのオブジェクトは、「お気に入り」フォルダーに含まれていません。

- **個人的な「お気に入り」フォルダー**は、ローカルに (そのユーザーの PC 上に) 常駐するため、このフォルダーとその内容には、他のユーザーはアクセスできません。
- **「共通のお気に入り」フォルダー**は、サーバー上に常駐するため、すべての許可ユーザーがアクセスできます。

リソース限界に応じて、複数の「共通のお気に入り」フォルダーにアクセスすることは可能ですが、各サーバー上に複数の「共通のお気に入り」フォルダーが存在することはありません。

QMF オブジェクトを「お気に入り」フォルダーにコピーすると、そのフォルダーは自動的に名前が変更されて、オブジェクト・タイプと所有者名が組み込まれます。オブジェクト・タイプ全体 (たとえば、同一タイプのオブジェクトのフォルダー) をサーバー (たとえば、全照会を含む) からコピーすると、そのサーバー名は新しいフォルダー名にも組み込まれます。

## お気に入りへの報告書の追加

サーバーからオブジェクトまたは報告書を、個人的な「お気に入り」フォルダーあるいはサーバー上の「共通のお気に入り」フォルダーに追加することができます (システム管理者から許可を与えられている場合)。

**個人的なお気に入り:** 報告書またはオブジェクトを選択してから、以下を選択します。

- 「報告書」メニューから、「お気に入りに追加」を選択します。または、
- その報告書またはオブジェクトを個人的な「お気に入り」フォルダーにドラッグします。

命名規則に従って、個人的な「お気に入り」フォルダーの先頭に報告書が追加されません。

Objecttype OWNERNAME.OBJECT NAME

例を以下に示します。

Query QMFGUEST."SELECT"

**共通のお気に入り:** QMF オブジェクトまたは報告書を、サーバー上の「共通のお気に入り」フォルダーにドラッグします。個人的な「お気に入り」フォルダーもしくは任意のサーバーから、報告書を追加することができます。

**注:** 共通のお気に入りに追加する場合、あるいは共通のお気に入り内の報告書を変更する場合は、更新内容がサーバーに保管される前に、「報告書」メニューから「変更を共通のお気に入りに保管」を選択します。

---

## メニュー・オプション

### 「報告書」メニュー

表 30. 「報告書」メニューのオプション

フィールド	説明
お気に入りに追加	選択した表、プロシーチャー、または照会へのポインターを「お気に入り」フォルダーに追加します。



表 30. 「報告書」メニューのオプション (続き)

フィールド	説明
ショートカットを作成する	<p>指定した場所に、選択した個人のお気に入りへのショートカット (.QRS ファイル) を作成します。</p> <p>「お気に入り」フォルダー内の特定の報告書へのショートカットを作成できます。ショートカットを使用すると、QMF レポート・センターを立ち上げてショートカットに関連した報告書を位置決めすることにより、その報告書にアクセスできます。</p> <p>以下の手順でショートカットを作成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 報告書を選択します。</li> <li>2. 「報告書」、「ショートカットを作成する」を選択するか、または報告書を選択してから右マウス・ボタン・クリックして「ショートカットを作成する」を選択します。</li> <li>3. ショートカットのファイル名と場所を指定します。</li> <li>4. 「OK」をクリックします。 拡張子 .qrs がファイル名に追加されます。</li> <li>5. ショートカットをダブルクリックして報告書を立ち上げます。 報告書が実行した後、QMF は自動的にシャットダウンします。</li> </ol> <p><b>注:</b> 報告書の名前が見つかると、ショートカットが開きます。</p> <p>同じ名前の報告書が (異なるフォルダーに) 複数ある場合、最上位の報告書が開きます。</p>
共通のお気に入りに変更を保管	<p>「共通のお気に入り」フォルダー内の報告書に対する変更を保管します。</p>

表 30. 「報告書」メニューのオプション (続き)

フィールド	説明
ローカルに保管された照会にリンクされた新規報告書	<p>このオプションを使用して、ネットワーク / ハード・ディスク上にローカルに保管された照会 (.qry) を選択することにより、報告書を作成することができます。</p> <p>このオプションが選択されると、「次の QMF (Windows 版) 照会のリンクを見つける」ダイアログ・ボックスが表示されます。追加する照会 (複数も可) を選択します。照会を選択すると、レポート・センターは SQL を読み取り、指定されたサーバーに移動して、報告書を動的に作成します。</p> <p><b>注:</b> SQL とサーバーの情報だけが保管されます。 .QRY ファイルと共に保管されたその他のオプションは無視されます。</p> <p>これはレポート・センターで SQL を編集できる唯一の例外です。ローカルの照会報告書を選択して、「<b>QMF オブジェクト・テキスト</b>」を選択します。SQL を編集して、変更内容を保管します。これにより、.qry ファイル内の SQL が変更されます。</p>
新しいフォルダー	現在のフォルダー内に新しいフォルダーを作成します。
ごみ箱を空にする	ごみ箱からすべての削除済み項目を除去します。
終了	<p>QMF レポート・センターを終了します。</p> <p><b>注:</b> 任意の要素を右クリックすると、「報告書」、「編集」、「ビュー」、「ツール」メニューからも使用可能なオプションが表示されます。</p>

### 報告書のプロパティ - 一般

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択したときに表示されます。

表 31. 「一般」オプション

フィールド	説明
報告書名	<p>報告書に関連した以下の ID のいずれか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• OBJECTOWNER.OBJECTNAME に続く QMF オブジェクト・タイプ</li> <li>• 選択した報告書が「お気に入り」フォルダーにある場合、報告書についての説明</li> </ul>

表 31. 「一般」 オプション (続き)

フィールド	説明
サーバー	報告書が存在するサーバーの名前。または、ドロップダウン・リストを使用して他のサーバーを選択することもできます。
[オブジェクト]	[照会 / 表 / プロシージャ]: オブジェクトの名前。このフィールドを直接編集することはできません。別のオブジェクトを選択するには、「選択」をクリックして「フィルター・オプション」ダイアログ・ボックスを開きます。 注: 「フォーマット」、「出力」、および「プロシージャ」タブは、データを戻さないために SQL SELECT ステートメントを使用しない照会 (非 SELECT SQL verb) では使用不可となります。
QMF オブジェクト・テキストの表示	チェックを付けると、QMF オブジェクトのテキストが表示されます。 注: ダイアログ・ボックスを右マウス・ボタン・クリックすると、報告書の注釈が表示されます。

### 報告書のプロパティ - フォーマット

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択してから、「フォーマット」タブを選択したときに表示されます。

表 32. フォーマット・オプション

フィールド	説明
フォーマットなし (データのみ):	ロー・データをファイルに戻します。
列見出しを組み込む	ラベルを報告書の列に追加します。このオプションを使用できるのは、「フォーマットなし」オプションを選択したときだけです。
デフォルト QMF フォーマット	データを、列見出しおよび見出しとデータ間の垂直線を含むデフォルトの QMF フォーマットに戻します。
書式からフォーマットされる QMF	指定の QMF 書式で報告書をフォーマット設定します。「書式の選択」を選択して、フォーマット設定のコピー元となる QMF 書式を選択した「フィルター・オプション」ダイアログ・ボックスを開きます。
実行	SQL を実行します。

表 32. フォーマット・オプション (続き)

フィールド	説明
書式の選択	書式フィルター・ダイアログ・ボックスを使用して、オブジェクト所有者およびオブジェクト名を指定します。「書式の選択」は、QMF データのフォーマットで使用する書式を選択するための、「書式の選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

### 報告書のプロパティ - 出力

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択してから、「出力」タブを選択したときに表示されます。

表 33. 出力オプション

フィールド	説明
出力アプリケーションを選択します。	報告書をフォーマット設定する目的のアプリケーション。  Microsoft Excel、Lotus 1-2-3、および Microsoft Access では、「オプション」をクリックして「報告書出力オプション」ダイアログ・ボックスを開き、各アプリケーションに特定のオプションを定義します。 <b>注:</b> Microsoft Excel、Lotus 1-2-3、および Access では、「フォーマットなし (データのみ):」を「報告書のプロパティ」の「フォーマット」タブから選択しなければなりません。
一時ファイルに発行	報告書を指定されたディレクトリーの一時ファイルに保管します。ディレクトリーを変更するには、「ディレクトリーの選択」をクリックします。
この報告書を実行するマシンの一時ディレクトリーを使用する	報告書を実行しているマシンの一時ディレクトリーがデフォルトになります。マシンの一時ディレクトリーを使用するには、このオプションにチェックを付けます。その他のディレクトリーを使用するには、「一時ファイルに発行」の以下のディレクトリー・フィールドにディレクトリー名を指定します。

表 33. 出力オプション (続き)

フィールド	説明
ファイル名の始めに使用する文字列	必要な場合、ファイル名に使用されるプレフィックス。このオプションが使用可能になるのは、「一時ファイルに発行」オプションを選択した場合だけです。
ファイル名の終わりに使用する文字列	必要な場合、ファイル名のサフィックスとして使用する日付形式を選択します。ファイル名に使用したい特定の形式はないものの、以前の報告書が上書きされることを回避したい場合には、「ランダム」を選択します。QMF レポート・センターは固有のファイル名をランダムに割り当てます。このオプションが使用可能になるのは、「一時ファイルに発行」オプションを選択した場合だけです。
特定のファイルに発行	指定したファイル名に報告書を保管します。ファイル名を指定するには、「ファイルの選択」をクリックします。
ファイルがすでに存在する場合は上書きする	同じ名前のファイルを更新ファイルに置き換えます。このオプションが選択されていない場合、既存のファイルが上書きされる前に警告が出されます。 注: Lotus 1-2-3、Microsoft Access、および Microsoft Excel 以外のファイルは、常に上書きされます。
発行後に報告書を表示	終了した報告書を、それが作成した後に自動的に表示します。このオプションを選択しない場合、後に「報告書のヒストリー」を使用して報告書を表示することができます。
実行	SQL を実行します。
出力範囲	テキスト・ボックスをクリックして、Microsoft Excel または Lotus 1-2-3 を立ち上げます。「出力範囲」ダイアログ・ボックスが表示されます。 注: 結果を書き込むスプレッドシート内のセルをクリックします。出力範囲は更新されてこのセル位置になります。

表 33. 出力オプション (続き)

フィールド	説明
データ・オプション  <i>Microsoft Excel</i> または <i>Lotus 1-2-3</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データのインポート・オプション               <ul style="list-style-type: none"> <li>- データのインポート</li> <li>- 1 列でグループ化</li> <li>- 2 列でグループ化</li> <li>- ピボット表の作成</li> </ul> </li> <li>Microsoft Excel または Lotus 1-2-3 の場合               <ul style="list-style-type: none"> <li>- クロス・タブ報告書の作成</li> </ul> </li> <li>• 図表               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 図表の作成</li> <li>- 図表タイプの選択</li> </ul> </li> <li>• 列のグループ化               <ul style="list-style-type: none"> <li>- ID</li> <li>- 名前</li> <li>- 部門</li> </ul> </li> <li>• 算出フィールドのオプション               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 合計</li> <li>- カウント</li> <li>- 最大値</li> <li>- 最小値</li> <li>- 平均値</li> </ul> </li> </ul>
プリンター・オプション	出力を印刷するためのプリンターおよび対応する属性を指定します。

### Microsoft Access および Lotus 1-2-3

このダイアログ・ボックスは、「報告書のプロパティ」の「出力」ダイアログ・ボックスから「オプション」をクリックして、出力アプリケーションとして「Microsoft Access」を選択すると表示されます。

表 34. Microsoft Access のオプション

フィールド	説明
表名を選択または入力	Microsoft Access の表の名前をドロップダウン・リストから選択するか、またはテキスト・ボックスに新しい名前を入力します。 <b>注:</b> 「QMF オブジェクト名を使用します」オプションが選択されている場合、このオプションは使用できません。
QMF オブジェクト名を使用します。	オブジェクト名を Access の表名として使用します。オブジェクトとは、表、書式、プロシージャ、または照会のことです。
上の名前に付加	現在の日付をオブジェクト名に追加して表名を作成します。ドロップダウン・リストを使用して日付形式を選択します。
表内の既存データの上書き	名前を指定した表内にある既存のデータを最新の報告書のデータに置き換えます。
報告書名を選択または入力	事前定義した Microsoft Access 報告書をデータベースが開いたときに表示するには、ドロップダウン・リストから報告書名を選択するか、またはテキスト・ボックスに新しい名前を入力します。報告書の実行後にそれを表示したい場合、このオプションは役立ちます。

以下の手順で報告書の出力オプションを指定します。

1. 「QMF レポート・センター」ダイアログ・ボックス (メイン・ウィンドウ) で、「プロパティ」をクリックしてから報告書を右マウス・ボタン・クリックします。
2. 「出力」タブをクリックします。
3. 出力アプリケーションとして、Microsoft Excel (.xls) または Lotus 1-2-3 (\*.123) を選択します。
4. 「オプション」をクリックします。
5. 出力アプリケーションとして、Lotus 1-2-3 または Microsoft Excel を選択します。
6. シート名または QMF オブジェクト名、指定した名前に日付を (指定した日付形式で) 付加するかどうか、列名を含めるかどうか、および出力範囲 (出力データを入れるスプレッドシート内のセル) を指定します。
7. 「データ・オプション」をクリックして、データのグラフ化およびグループ化のための追加のフォーマット・オプションを指定します。

**注:** 「データ・オプション」は、「プロパティ」の「フォーマット」タブから「デフォルト QMF フォーマット」または「QMF フォーマット」を選択した場合には使用不可になります。

8. [Lotus 1-2-3 または Microsoft Excel] 「データのグループ化および図表化オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログを使用して、以下を指定します。

- 1 列でグループ化 [列名を指定する必要があります]
- 2 列でグループ化 [列名を指定する必要があります]
- ピボット表の作成 [報告書を Microsoft Excel にインポートする場合]、またはクロス・タブ報告書 [報告書を Lotus 1-2-3 にインポートする場合] の作成。
- 図表のオプション：
  - 図表を作成するためのチェック・ボックス
  - 図表タイプ
- 列のグループ化のオプション：
  - ID またはクロス・タブ行 (Lotus 1-2-3 にインポートするためのクロス・タブ報告書を作成している場合)
  - 「名前」または「クロス・タブ」行 (Lotus 1-2-3 にインポートするためのクロス・タブ報告書を作成している場合)
- 算出フィールドのある列 (このグループ・ボックスがアクティブになるのは、1 列または 2 列でグループ化する場合だけです)。
- 算出フィールド・オプション
  - 合計
  - カウント
  - 最大値
  - 最小値
  - 平均値
  - 製品\*
  - 数のカウント\*
  - StdDev\*
  - StdDevp\*
  - Var\*
  - Varp\*

**注:** これらのオプションがアクティブになるのは、データのインポート・オプションを以下のように設定した場合だけです。

- 1 列でグループ化
- 2 列でグループ化
- ピボット表の作成 (報告書を Microsoft Excel にインポートする場合)。
- クロス・タブ報告書の作成 (報告書を Lotus 1-2-3 にインポートする場合)。



### 報告書のプロパティ - プロシージャ

このダイアログ・ボックスは、プロシージャを選択し、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択してから、「プロシージャ」タブを選択したときに表示されます。

表 35. プロシージャ・オプション

フィールド	説明
このプロシージャは出力を生成しない	チェックを付けると、このプロシージャからの出力はないことを示します。プロシージャは実行されて、後続のアクションが生じます。プロシージャ自体は、報告書結果などの出力を生成しません。 <b>注:</b> このオプションが選択されると、出力オプションは使用不能になります。
プロシージャは出力データを以下のファイルに入れます	プロシージャが出力を送るファイル名を指定します。
実行後に出力を表示	報告書が生成された後に、それを表示します。

表 36. プロシージャー・オプション

フィールド	説明
<p>プロシージャーは DSQW_PROC_OUTPUT 置換変数を使用</p>	<p>現在のプロシージャーの置換変数を示します。この変数を使用して、データが指定の場所にエクスポートされます。この変数を使用するには、構文 EXPORT REPORT TO &amp;DSQW_PROC_OUTPUT がプロシージャーに含まれていなければなりません。置換変数は、「報告書のプロパティ」の「変数」ダイアログ・ボックスに表示されます。</p> <p>以下に指定される出力場所は、この置換変数を使用してプロシージャーに渡されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>一時ファイルに発行</b> 報告書を指定されたディレクトリーの一時ファイルに保管します。ディレクトリーを変更するには、「<b>選択</b>」をクリックします。</li> <li>• <b>ファイル名の始めに使用する文字列</b> 必要な場合、ファイル名に使用されるプレフィックスを入力します。このオプションが使用可能になるのは、「一時ファイルに発行」オプションを選択した場合だけです。</li> <li>• <b>ファイル名の終わりに使用する文字列</b> 必要な場合、ファイル名のサフィックスとして使用する日付形式を選択します。ファイル名に使用したい特定の形式はないものの、以前の報告書が上書きされることを回避したい場合には、「ランダム」を選択します。 QMF レポート・センターは固有のファイル名をランダムに割り当てます。このオプションが使用可能になるのは、「一時ファイルに発行」オプションを選択した場合だけです。</li> <li>• <b>拡張子</b> 一時ファイルに使用されるファイル形式を表す拡張子を選択します。</li> <li>• <b>特定のファイルに発行</b> 指定したファイル名に報告書を保管します。ファイル名を指定するには、「<b>選択</b>」をクリックします。</li> </ul>

表 36. プロシージャー・オプション (続き)

フィールド	説明
プロシージャーは出力データを以下のファイルに入れます	プロシージャーが出力を送るファイル名を指定します。
実行後に出力を表示	報告書が生成された後に、それを表示します。

### 報告書のプロパティ - 変数

「報告書のプロパティ」の「プロシージャー」ダイアログ・ボックスは、プロシージャーが選択されていて、「報告書」メニューから「**プロパティ**」を選択してから、「プロシージャー」タブを選択したときに表示されます。

フォーマット、出力、プロシージャー、変数、その他、スケジュール、セキュリティ、Eメールのプロパティを指定します。以下の手順で、報告書のプロパティを設定します。

1. 「QMF レポート・センター」ダイアログ・ボックス (メイン・ウィンドウ) で、報告書を右マウス・ボタン・クリックします。
2. 「**変数**」タブをクリックします。  
「変数」ダイアログ・ボックスが表示されて、変数名のリストが示されます。これらの変数の値は事前設定することができ、オプションで、報告書の実行時に個別に非表示にすることもできます。
3. 指定した変数の可変値ボックスを選択することにより、ユーザーは「計算された」日付値を作成することができます。  
これで、「計算日付」が使用可能になります。
4. 「**計算日付**」を押します。  
「計算日付」ダイアログ・ボックスが表示されます。

表 37. 変数オプション

フィールド	説明
名前	照会またはプロシージャーの名前。
値	「 <b>値</b> 」をクリックして、現在の報告書を実行する度に使用される可変値を入力します。 <b>注:</b> 「 <b>計算日付</b> 」は、「 <b>値</b> 」フィールドをクリックすると使用可能になります。このボタンは、「日付置換値の設定」ダイアログ・ボックスを表示します。

表 37. 変数オプション (続き)

フィールド	説明
この値を隠す	チェックを付けると、現在の値が非表示になります。現在の値を含む照会やプロシージャでは、報告書が実行されるときに値を入力するプロンプトが表示されなくなります。
値のクリア	上に表示されている可変値を除去します。
計算日付	値を入力すると、「 <b>計算日付</b> 」が使用可能になります。  クリックすると、「日付置換値の設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。『日付置換値の設定』を参照してください。

### 報告書のプロパティ - 日付置換値の設定

「日付置換値の設定」ダイアログ・ボックスは、「報告書のプロパティ」の「変数」タブで「計算日付」をクリックすると表示されます。「計算日付」は、「報告書のプロパティ」の「変数」タブで「値」列をクリックすると表示されます。

表 38. 日付置換値の設定

フィールド	説明		
計算日付	日別	現在の日付までの日数を選択します。	
	曜日別	今月その曜日が最後に来る日	今月中の最後の出現に表示する日付を選択します。  たとえば、今月の最後の水曜日、など。
		今月その曜日が最初に来る日	今月中の最初の出現に表示する日付を選択します。  たとえば、今月の最初の水曜日、など。
		前月その曜日が最後に来る日	前月その曜日が最後に来る日に表示する日付を選択します。

表 38. 日付置換値の設定 (続き)

フィールド	説明		
		前月その曜日が最初に来る日	前月その曜日が最初に来る日に表示する日付を選択します。
	月別	月の最初の日または最後の日より、そして今月までの月数により、出現を選択します。	
	四半期別	次の最初から	計算日付を開始する四半期を選択します。
		会計年度の開始	会計年度が開始する月を選択します。
日付形式オプション	日付形式	日付を表示する形式を選択します。	
	日付区切り文字	月、日、年を区切るための記号を選択します。	
	現在の日付として PC 日付を使用	PC に設定されている現在日付を使用します。	
	現在の日付として DB2 日付を使用	DB2 システムに設定されている現在日付を使用します (時間帯に対応するため)。	
サンプル日付	「新規のサンプル」をクリックして、日付がどのように表示されるかの例を見ます。		
現在の PC 日付	PC に設定した現在日付を表示します。		

## 報告書のプロパティ - その他

表 39. その他のオプション

フィールド	説明
別のプロセスとして実行	報告書を QMF レポート・センターの別のインスタンスとして実行して、QMF レポート・センターでの作業を続けることを可能にします。  2 番目のウィンドウには、「キャンセル」しか表示されず、これ以外是对話できません。
通知メッセージを表示しない	通知メッセージを非表示にします。
エラー・メッセージを表示しない	エラー・メッセージを非表示にします。
戻される行数の制限	報告書に戻される行の数を制限します。テキスト・ボックスに数字を入力するか、あるいは、矢印でスクロールして 100 単位で指定します。このオプションは、個別の報告書を選択した場合に適用されます。
報告書の実行前に変数値のプロンプトを出す	最初の報告書を実行する前に、フォルダーに含まれるすべての報告書に関する変数の入力を求めるプロンプトを出します。このオプションは、フォルダーを選択した場合に適用されます。
実行する報告書を表示しない	報告書が生成された後は、それを表示しません。エラーが生じた場合、報告書は実行を停止します。このオプションは、フォルダーを選択した場合に適用されます。
エラーが発生しても後続の報告書の実行を続行する	デフォルトでは、フォルダーの実行中にエラーが生じた場合、実行は停止します。このフィールドにチェックが付けれられている場合、生じたエラーには関係なく、レポート・センターはすべての報告書を順番に実行しようとします。

## 報告書のプロパティ - スケジュール

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択してから、「スケジュール」タブをクリックしたときに表示されます。

表 40. スケジュール・オプション

フィールド	説明
ジョブ ID	スケジュール済みの各ジョブを識別するために使用される番号。番号は自動的に割り当てられて、編集することはできません。
インターバル	1 回、毎週、毎月など、ジョブを実行する頻度。
曜日	ジョブの実行の予定の曜日。このフィールドは空白であるか、またはジョブが Microsoft's Task Scheduler (R) を使用して編集された場合には "Customized" を含んでいます。この場合、QMF レポート・センターはジョブの詳細を表示することができません。
日付	ジョブの実行の予定日。  たとえば、2 はジョブが指定された月の 2 日目に実行されることを示します。  ジョブが特定の曜日にスケジュールされている場合、このフィールドは空白です。
時刻 (表示)	指定されている日の、ジョブの実行の予定時刻。
時刻	テキスト・ボックスに時刻を入力するか、または矢印を使用して上下にスクロールします。時刻は 24 時間形式です。
実行する曜日	ジョブの実行の予定の曜日。「 <b>全選択</b> 」を選択すると、すべての曜日が自動的に選択されます。
実行する日	ジョブの実行の予定日。  たとえば、2 はジョブが指定された各月の 2 日目に実行されることを示します。  「 <b>全選択</b> 」を選択すると、その月のすべての日付が自動的に選択されます。
本日のみ	現在の日のみジョブを実行します。
マークされた日に一回実行	指定された日に 1 度だけジョブを実行します。

表 40. スケジュール・オプション (続き)

フィールド	説明
マークされた日に毎回	<p>選択された日が到来する度にジョブを実行します。</p> <p>たとえば、火曜日が選択されている場合、スケジュールを変更するまでジョブは火曜日ごとに実行されます。</p>
変数値を設定する	<p>報告書に使用する変数を指定するための「変数入力」ダイアログ・ボックスを開きます。変数値は、報告書を実行する前に定義しておく必要があります。照会とプロシージャには変数を含めることができます。</p>
変数値を編集する	<p>現在の報告書で変数として設定されている値を変更するための「変数入力」ダイアログ・ボックスを開きます。このボタンをアクティブにするためには、報告書が選択されていなければなりません。</p>

### 報告書のプロパティ - セキュリティー

このダイアログ・ボックスは、選択されたオブジェクトが「共通のお気に入り」フォルダーに含まれているときに、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択して、「セキュリティ」タブをクリックすると表示されます。

表 41. セキュリティー・オプション

フィールド	説明
ユーザー ID	<p>現在のオブジェクトに許可を割り当てることのできるユーザーまたはユーザー・グループの名前。許可ユーザーおよびその許可は、下のテキスト・ボックスに表示されます。</p> <p>新規のユーザーを追加するには、テキスト・ボックスにユーザー ID を入力して、「追加」をクリックします。</p>
追加	<p>(「ユーザー ID」フィールドで) 選択したユーザーを、現行オブジェクトの許可ユーザーのグループに追加します。</p>
すべて追加	<p>すべてのユーザーを許可ユーザーのグループに追加します。</p>



表 41. セキュリティー・オプション (続き)

フィールド	説明
除去	選択したユーザーを許可ユーザーのグループから除去します。
読み取り	選択したユーザーが現行の「共通のお気に入り」を表示して実行できるようにします。
書き込み	選択したユーザーが現行オブジェクトのプロパティーを変更すること、および選択した項目がフォルダーの場合は、新規の報告書およびフォルダーを追加することを可能にします。
管理	選択したユーザーが、現行オブジェクトに対するアクセスを認可または取り消すことを可能にします。
所有権の取得	現行オブジェクトの所有権を選択したユーザーに認可します。リソースによる制限のために、このオプションを使用できない場合もあります。
このフォルダーの下のすべての報告書にこれらの設定を使用する	同じセキュリティーの設定値を現行フォルダーに含まれるすべての報告書とサブフォルダーに適用します。

### 報告書のプロパティー - E メール

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティー」を選択してから、「E メール」タブをクリックしたときに表示されます。

表 42. E メール・オプション

フィールド	説明
毎回報告書を実行する度に E メールを送信する	毎回報告書を実行する度に、Eメールの通知を送信します (スケジュールされた報告書の場合は次のオプションを使用してください)。Eメール・アドレスおよび送信するメッセージは、ユーザーが指定します。
毎回スケジューラーが報告書を実行する度に E メール・メッセージを送信する	スケジューラーによって報告書が実行される度に、Eメールの通知を送信します。

表 42. E メール・オプション (続き)

フィールド	説明
E メールに報告書出力を添付する / 潜在するすべての報告書出力を E メール・メッセージに添付する	報告書の出力を E メール通知に含めます。フォルダーの場合、このオプションはフォルダーの下に含まれるすべての報告書出力を添付します。 <b>注:</b> このオプションを選択するとき、上のオプションの 1 つを選択してください。
[E メール] プロパティ	メッセージの宛先、メッセージ本文、および添付を指定できる Internet Mail Wizard を開きます。

## 編集メニュー

### 切り取り

選択した項目をアクティブな文書から除去します。その項目を「貼り付け」るまで、アクションは表示されません。

### コピー

選択した項目をコピーします。このアクションを完成させるには、項目を目的の位置に「貼り付け」る必要があります。

### 貼り付け

コピーした項目を追加点に追加します。

### 削除

選択した項目を除去して、それを「ごみ箱」に追加します。サーバー上に存在する QMF オブジェクトは、「ごみ箱」に追加されません。

**注:** 「ごみ箱」から除去される項目は、恒久的に除去されます。

### 名前変更

選択した項目の名前を変更します。

**注:** 任意の要素を右クリックすると、「報告書」、「編集」、「ビュー」、「ツール」メニューからも使用可能なオプションが表示されます。

### サーバーの選択

「サーバーの選択」ダイアログ・ボックスは、編集集中の報告書が SDF (サーバー定義ファイル) で定義されていないサーバー上に存在する場合に開きます。

- 使用可能なサーバー  
接続可能なサーバー。

## サーバーの表示 / 編集

「サーバーの表示 / 編集」ダイアログ・ボックスは、以下の場合に表示されます。

- 「編集」メニューから「ビュー」、「サーバーの編集」と選択したとき、または
- 報告書を右マウス・ボタン・クリックして、「ビュー」を選択してから「サーバーの編集」を選択したとき。

このオプションを選択すると、サーバーに存在する基礎となる QMF オブジェクトを初期化することなく、報告書の実行対象であるサーバーを表示または編集できます。

以下の場合にサーバーのリストが使用不可になります。

- 報告書は「共通のお気に入り」であり、ユーザーの許可は報告書を読むことだけの場合。
- 報告書はローカルで結合した静的照会であり、その照会がサーバーに依存している場合。

**注:** 照会はそれが静的かどうかを判別するように初期化されていないので、ユーザーは静的照会でサーバーを変更できます。しかし、この照会の実行は失敗します。

表 43. サーバーの表示 / 編集

フィールド	説明
現在のサーバー	報告書が現在存在するサーバーの名前
使用可能なサーバー	報告書を再配置するために使用可能なサーバーのリストを表示します。

## 「ビュー」メニュー

### 名前

表、書式、プロシージャ、および照会の名前ビューを表示します。このオプションは、「注釈」とトグルします。

### 注釈

表、書式、プロシージャ、および照会のコメント・ビューを表示します。このオプションは「名前」とトグルします。コメントのないオブジェクトでは、名前ビューが表示されます。

サーバー上のオブジェクトには、そのオブジェクトについての説明情報を含むコメントが含まれていることがあります。オブジェクトの作成時にこれらのコメントがオブジェクトに割り当てられます。コメントを変更することはできません。それらは表示専用です。コメントが存在しない場合、オブジェクト名が表示されたままとなります。

### オブジェクト・コメントの表示

- オブジェクト・タイプ、所有者、または名前を選択して、「**ビューの選択**」を右マウス・ボタン・クリックしてから、「**注釈**」を選択します。
- あるいは、オブジェクト・タイプ、オブジェクト、または名前を選択してから、「**ビュー**」、「**注釈**」と選択します。

コメントは、現行レベルおよびそれ以下のすべてのレベルに関して表示されます。たとえば、タイプ「**QMF Queries**」を選択した場合、「**QMF Queries**」に含まれるすべての所有者とオブジェクトがコメントと共に表示されます。

オブジェクト名の表示に戻るには、上記の処理を繰り返して「名前」を選択します。

**注:** コメントの検索は時間がかかる処理となる場合があるので、同じタイプのすべてのオブジェクトのコメントを表示するのではなく、特定のオブジェクトのコメントを表示することができます。

### QMF オブジェクト・テキスト

このオプションは、QMF オブジェクトのテキストを表示します。QMF レポート・センターでの相対的な表示サイズを指定します。

オブジェクト (照会、表、またはプロシージャ) を選択すると、ポップアップ・ウィンドウに報告書の生成に使用されたオブジェクトの SQL が表示されます。ポップアップ・ウィンドウにはオブジェクト名が示され、ウィンドウの本体にオブジェクトのテキストが表示されます。例を以下に示します。

```
Table: DB2ADMIN.MAX_T  
Select * from DB2ADMIN.MAX_T
```

注: サーバーに静的に結合されていないローカルの照会 (.QRY) でなければ、この機能を使用して QMF オブジェクト・テキストを編集することはできません。

### フィルター・オプション

現行オブジェクトの表示オプションを指定します。オブジェクト所有者およびオブジェクト名に関して、以下のいずれかでフィルター操作することができます。

- 表
- QMF 照会
- QMF プロシージャ
- QMF 書式
- 共通のお気に入り
- DB2 書式

### サーバー・フィルター・オプション

このオプションを使用して、非表示にするサーバーを指定できます。「ビュー」メニューから「サーバー・フィルター・オプション」をクリックすると、「隠すサーバーを選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

「隠すサーバーを選択」ダイアログ・ボックスには、SDF (サーバー定義ファイル) に含まれるサーバーがリストされています。非表示にしたいサーバーにチェックを付けるか、または「**全選択**」もしくは「**すべてを消去**」をクリックします。非表示のサーバーに対しても報告書を実行できます。

以下のオプションがあります。

- 「**全選択**」は、非表示にできるサーバーをリストします。
- 「**すべてを消去**」は、非表示の選択をしたすべてのサーバーをクリアします。

### 報告書の注釈

注釈している報告書の名前を表示します。

### 文字サイズ

QMF レポート・センターでの相対的な表示サイズを指定します。

### スケジュール済みジョブ

スケジュール済みジョブを表示、編集、および削除します。

## 報告書のヒストリー

実行した報告書に関する詳細を発生順に表示します。

## アクティビティ・ログ

アクティビティを発生順に表示します。

アクティビティ・ログには、QMF レポート・センターの操作中に実行した報告書および発生したエラーについての詳細情報が含まれます。

## 最新表示

サーバー上のオブジェクトに対する最新の変更を反映する、更新されたビューを表示します。「フィルター・オプション」ダイアログ・ボックスで「このフィルターを使用する度にプロンプト」オプションが選択された場合、「最新表示」を選択する度に「フィルター・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。

**注:** 任意のエレメントを右クリックすると、「報告書」、「編集」、「ビュー」、「ツール」メニューからも使用可能なオプションが表示されます。

## 「ツール」メニュー

### ユーザー情報の設定

ユーザーとしてログインするか、またはアカウント情報を指定します。このオプションを選択すると、「ユーザー情報の設定」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。ユーザー ID とパスワードを入力して、パスワードを保存したい場合は [オプションで] 「このパスワードを保存」にチェックを付けます。オプションで、このユーザーのアクティビティを追跡するためのアカウント番号を入力します。

他の有効なユーザー ID を指定することにより、現行の QMF レポート・センターのユーザーの名前を変更できます。このオプションを選択できるのは、アクティブな項目がサーバー上にある場合だけです (たとえば、サーバー名、オブジェクト・タイプ、品目オブジェクト所有者、オブジェクト名、または共通のお気に入りを選択されているとき)。

### QMF (Windows 版) の実行

QMF (Windows 版) アプリケーションを立ち上げます (QMF レポート・センターはアクティブのままとなります)。

**注:** リソースの限度内に許可がない場合、アプリケーションを使用することはできません。

### お気に入りのエクスポート

個人的な「お気に入り」フォルダーを .qrs ファイルにエクスポートします。

## お気に入りをインポートする

.qrs ファイルを個人的な「お気に入り」フォルダーにインポートします。

## オプション

「アクティビティ・ログ」、「お気に入りの作成」、「フォルダーの作成」、および「その他」オプションの、QMF レポート・センター・オプションを設定します。

**注:** 任意のエLEMENTを右クリックすると、「報告書」、「編集」、「ビュー」、「ツール」メニューからも使用可能なオプションが表示されます。

## 印刷オプション

「印刷オプション」ダイアログ・ボックスは、「大域オプション」の「お気に入りの作成」ダイアログ・ボックスから「オプション」をクリックして、報告書の作成対象となるアプリケーションに「プリンター」を選択した場合に表示されます。

表 44. 印刷オプション

フィールド	説明
プリンターを選択します。	ドロップダウン・リストからインストール済みプリンターを選択するか、または「 <b>その他のオプション</b> 」をクリックして追加のプリンターから選択します。 <b>注:</b> 「デフォルト・プリンター」を選択すると、PC に定義されたデフォルト・プリンターに報告書が送られます。
書式ページ設定を使用	現行の報告書に書式が関連付けられている場合、指定された書式の設定値を使用します。
印刷部数	矢印を使用して印刷したい部数を増減するか、または数値をテキスト・ボックスに直接入力します。
フォント・オプション	印刷される報告書で使用されるフォントのタイプおよびサイズ。新規のフォントを指定するには、「 <b>その他のオプション</b> 」をクリックします。
方向	「 <b>縦長</b> 」を選択すると用紙の短い辺が上に、「 <b>横長</b> 」を選択すると用紙の長い辺が上になって印刷されます。
プリンター・ページ合わせ	印刷される用紙のサイズに合わせてページの幅と長さを自動的に調整します。
文字数 / 行数	特定の数の文字行に基づいてページ・サイズを示します。数字をテキスト・ボックスに入力するか、または矢印を使用してスクロールします。
連続	ページの中断やテキストの折り返し（ページ幅のため）なしで、ページを連続して印刷します。

表 44. 印刷オプション (続き)

フィールド	説明
その他のオプション	報告書の日時スタンプまたはページ番号、もしくはその両方を含みます。
マージン	矢印を使用してマージンごとのインチ数を増減するか、または数値をボックスに直接入力します。

## ヘルプ・メニュー

### 内容

オンライン・ヘルプ・システムの目次を表示します。

### 製品情報

QMF レポート・センターの著作権情報を表示します。

---

## サーバーへの接続

- DB2 サーバーの下にサーバー名が何も表示されていない場合には、プラス記号 (+) をクリックします。
- サーバーの隣にあるプラス記号 (+) をクリックします。  
「フィルター・オプション」ダイアログ・ボックスが開かれます。
- 「フィルター・オプション」ダイアログで、表示したいオブジェクト・タイプを選択して、「OK」をクリックします。  
サーバー上で使用可能なオブジェクトが表示され、オブジェクト・タイプ (表、QMF 照会、QMF プロシージャ、QMF 書式、共通のお気に入り、および DB2 書式) によってグループ化されます。
- 「全選択」オプションにチェックを付けて、サーバーに保管されているすべてのオブジェクト・タイプを選択することができます。  
これらのオブジェクトにアクセスするための「ユーザー ID」と「パスワード」の入力を求めるプロンプトが出されます。
- サーバーでオブジェクトを選択する度に「フィルター・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されるようにしたい場合は、オプション「このフィルターを使用するたびにプロンプト」を選択または選択解除します。  
デフォルトでは、チェックされています (「はい」)。



---

## 報告書およびオブジェクトに関する作業

報告書は、QMF オブジェクト (照会と書式) を基にしています。報告書には、ユーザーが指定した書式設定と出力仕様が含まれています。「お気に入り」フォルダーに含まれる報告書は、サーバー上に存在するオブジェクトを指し示しています。

ユーザーの個人的な「お気に入り」フォルダーおよび「共通のお気に入り」フォルダーの項目はすべて報告書と見なされます。書式設定を操作して、これらの項目についてのオプションを表示することができます。これらの「お気に入り」フォルダーに入っている項目は、サーバーに常駐している QMF オブジェクトにリンクします。

実際には QMF オブジェクトを変更するものではありません。その代わりに、報告書として参照されているオブジェクトへのリンクを変更します。報告書はオブジェクトを基にしているため、オブジェクトのプロパティーが報告書にも適用されます。

サーバーに常駐しているオブジェクトから報告書を作成することはできますが、これらの報告書はサーバーには保管されません。これにより、一回限りの報告書を作成することができます。サーバー上のオブジェクトから報告書を作成した後、その報告書を「お気に入り」フォルダーに保管することができます。

### 報告書の作成

「お気に入り」フォルダー内の報告書、およびサーバーに常駐しているオブジェクトから、報告書を作成することができます。

#### 報告書をローカルに作成する

報告書をローカルに作成するには、以下のオプションの 1 つを選択します。

##### オプション 1

1. 報告書の基礎にしたいオブジェクトを含むサーバーに接続します。
2. オブジェクトを選択してから、そのオブジェクトを「お気に入り」フォルダーの 1 つにドラッグします。

##### オプション 2

オブジェクトを選択してから、「報告書」、「お気に入りに追加」と選択します。

これで、報告書を実行したり報告書のプロパティーを定義することができます。

#### 報告書をサーバーから作成する

報告書をサーバーから作成するには、以下のオプションの 1 つを選択します。

- オブジェクトを右マウス・ボタン・クリックしてから「実行」を選択するか、または、
- 報告書のプロパティーを変更してから、最初のオプションを使用します。

**注:** サーバーに常駐しているオブジェクトから作成した報告書は、サーバーには保管されません。

この方式を選択して報告書を作成する場合、報告書を「お気に入り」フォルダーに追加するかどうかを尋ねるプロンプトが出されます。報告書を「お気に入り」フォルダーに保管しない場合、報告書は保管されません。

## 報告書の実行

「お気に入り」フォルダーから、もしくはサーバー上にあるオブジェクトから、報告書を実行することができます。

1. [オプション] 報告書またはオブジェクトを選択してから、「報告書」、「プロパティ」と選択します。

「報告書のプロパティ」ダイアログ・ボックスが開かれます。

2. オプションで、プロパティを定義します。『報告書のプロパティ』を参照してください。

「お気に入り」に含まれるオブジェクトおよびサーバー上のオブジェクトについて、フォーマット、出力、プロシージャ、変数、その他、スケジュール、セキュリティ、Eメールのプロパティを設定できます。

3. 「**実行**」をクリックします。

ユーザー ID パスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。この情報を入力してください。

4. 「**OK**」をクリックします。

報告書が処理されます。

「報告書のプロパティ」の「出力」タブで「発行後に報告書を表示」を選択した場合、「出力アプリケーションの選択」フィールドで指定したアプリケーションで報告書が表示されます。

また、以下のいずれかの方法を用いると、報告書を実行することができます。

- 報告書を選択して、「報告書」、「実行」と選択するか、または、
- 報告書を右マウス・ボタン・クリックしてから「**実行**」を選択するか、または、
- 報告書名をダブルクリックします。

照会結果は、「報告書のプロパティ」で指定された方法で表示されます。デフォルトでは、メモ帳アプリケーションを指しています。これらのプロパティ内で、照会結果をフォーマット設定するための書式を選択できます。QMF レポート・センターによって事前定義されているその他のアプリケーションには、以下が含まれます。

- Web ブラウザー (.html)
- Microsoft Excel (.xls)
- Microsoft® Word® (.doc)

- Microsoft® Access® (.mdb)

## 複数の報告書の実行

個人的な「お気に入り」内のフォルダーが選択されている間、報告書を実行する手順を繰り返します。

また、以下の方法で報告書を実行することができます。

- 報告書を選択して、「報告書」メニューから「実行」を選択する
- 報告書を右マウス・ボタン・クリックしてから「実行」を選択する
- 報告書名をダブルクリックする

別個のメモリーで報告書を実行することにより、報告書の実行中も QMF レポート・センターでの作業を続けることができます。「報告書のプロパティ」の「その他」ダイアログ・ボックスで「別のプロセスとして実行」オプションを指定すると、報告書は別個のメモリーで実行します。

「報告書のプロパティ」の「出力」ダイアログ・ボックスで「発行後に報告書を表示」オプションを選択した場合には、指定されたアプリケーションで報告書が表示されます。

## 報告書の印刷

レポート・センターの報告書は、出力アプリケーションから、または直接 QMF レポート・センターから印刷することができます。

### 手順

1. 以下のオプションの 1 つを選択します。
  - 報告書を選択して、右マウス・ボタン・クリックしてから、「プロパティ」を選択するか、または、
  - 報告書を選択してから、「報告書」、「プロパティ」と選択します。
2. 「出力」タブを選択して、「報告書のプロパティ」の「出力」ダイアログ・ボックスを開きます。
3. 出力アプリケーション・リストから「プリンター」を選択して、「オプション」をクリックします。
4. 必要なオプションを指定します。
5. 「OK」をクリックします。

報告書を実行したとき、報告書はプリンターに送られます。

## 報告書のスケジューリング

個人的な「お気に入り」に含まれる報告書およびフォルダー全体をスケジュールして、特定の日時に、そして定期的な間隔で実行することができます。

QMF レポート・センターは Windows スケジューラを基礎としています。そのため、Windows スケジューラが実行していない場合、またはそのスケジューラを使用する許可がない場合、報告書をスケジュールすることはできません。ジョブのスケジュールを試行したときに Windows スケジューラが実行していない場合、QMF レポート・センターはそのことを通知します。

**注:** タスク スケジューラのない NT マシンを使用している場合、「AT」スケジューラを実行するログオン・アカウントとして名前が識別されるユーザーだけがジョブをスケジュールできます。

システム管理者に問い合わせ、どのアカウントがコンピューターにセットアップされているかを調べてください。

### 手順

報告書のスケジュールに関して、以下のオプションの 1 つを選択します。

#### オプション 1

1. 「ツール」、「ユーザー情報の設定」と選択してから、「このパスワードを保存」オプションにチェックを付けます。

**注:** このオプションを選択しないと、スケジュールされた報告書は実行しません。

2. 以下のオプションの 1 つを選択します。

- 報告書を選択してから、「報告書」、「プロパティ」と選択するか、または、
- 報告書を選択して、右マウス・ボタン・クリックしてから、「プロパティ」を選択します。

3. 「スケジュール」タブを選択して、「報告書のプロパティ」の「スケジュール」ダイアログ・ボックスを開きます。

4. スケジュール・オプションを選択します。

5. 「OK」をクリックします。

スケジュールされたジョブは別のプロセスとして実行するので、ジョブの実行中も QMF レポート・センターでの作業を続けることができます。

**注:** 報告書が毎日 1 回実行するような日次および月次のスケジュールを設定した場合、2 つの異なるスケジュールが入力されます (週次のスケジュール用と月次のスケジュール用)。

## スケジュールされた報告書の表示

実行するようにスケジュールされた報告書のスケジュールを表示できます。

## 手順

「ビュー」、「スケジュール済みジョブ」と選択して、「QMF スケジュール済みジョブ」ダイアログ・ボックスを開きます。

## 報告書の履歴の表示

実行されたすべての報告書に関する発生順のリストを表示できます。「報告書の履歴」には日時、報告書名、出力アプリケーション、およびファイル場所が含まれます。

## 手順

「ビュー」、「報告書の履歴」と選択して、「報告書の履歴」ダイアログ・ボックスを開きます。

## 報告書およびフォルダーの名前変更

「お気に入り」フォルダーに含まれる報告書およびフォルダーを名前変更することができます。

**注:** QMF オブジェクトを名前変更することはできません。

## 手順

### オプション 1

1. 報告書またはフォルダーを選択します。
2. 右マウス・ボタン・クリックしてから、「**名前変更**」を選択します。

### オプション 2

1. 報告書またはフォルダーを選択します。
2. 「**編集**」、「**名前変更**」と選択します。

報告書またはフォルダーの新しい名前を入力して、**Enter** キーを押します。

## 報告書、オブジェクト、およびフォルダーの移動

サーバー上および「お気に入り」フォルダー内の報告書、オブジェクト、およびフォルダーを移動することができます。

## 手順

1. 以下のオプションの 1 つを選択します。
  - 項目を選択して、右マウス・ボタン・クリックしてから、「**切り取り**」を選択します。
  - 項目を選択してから、「**編集**」、「**切り取り**」と選択します。
2. 以下のオプションの 1 つを選択します。

- 移動先の位置で右マウス・ボタンをクリックしてから、「貼り付け」を選択するか、または、
- 移動先の位置で右マウス・ボタンをクリックしてから、「編集」、「貼り付け」と選択します。

**注:** 項目をドラッグしても、その項目はある位置から別の位置に移動しません。「お気に入り」フォルダー内で作業している場合を除いて、ドラッグは項目のコピーを作成します。

## 報告書、オブジェクト、およびフォルダーのコピー

サーバー上または「お気に入り」フォルダー内から、報告書、オブジェクト、およびフォルダーをコピーすることができます。

### サーバーからのコピー

1. 以下のオプションの 1 つを選択します。
  - 項目を現在の位置から目的の位置にドラッグするか、または、  
**注:** これが最も簡単な方法です。
  - 項目を選択して、右マウス・ボタン・クリックしてから、「コピー」を選択します。
  - 項目を選択してから、「編集」、「コピー」と選択します。
2. 以下のオプションの 1 つを選択します。
  - 項目をコピーするフォルダーを右マウス・ボタン・クリックしてから、「貼り付け」を選択する、または、
  - コピー先の位置で右マウス・ボタンをクリックしてから、「編集、貼り付け」と選択します。

項目が正常に貼り付けられたことを示すメッセージが表示されます。項目は現在のフォルダーの一番下に追加されます。

### 「お気に入り」フォルダー内でのコピー

「お気に入り」フォルダー内で報告書をコピーするには、上記のコピーおよび貼り付けの方式を使用します。

**注:** 「お気に入り」フォルダー内で報告書をドラッグしても、報告書がフォルダーからフォルダーに移動するだけです。

## 報告書、オブジェクト、およびフォルダーの削除

個人的な「お気に入り」フォルダーから削除するオブジェクトおよび報告書は、「ごみ箱」に送られます。しかし、サーバーから削除するオブジェクトおよび報告書は検索できなくなり、このアクションを元に戻すことはできません。

注: サーバーから項目を削除する許可を持たない場合もあります。

## 手順

1. 以下のオプションの 1 つを選択します。
  - 項目を選択して、右マウス・ボタン・クリックしてから、「削除」を選択するか、または、
  - 項目を選択して、「編集」、「削除」と選択します。
2. サーバー上にあるオブジェクトおよび報告書については、削除を確定する前にプロンプトが警告メッセージと共に出されます。

注: ジョブがスケジュールされている報告書を削除して「ごみ箱」に移動するには、タスク・スケジューラーが実行していなければなりません。

---

## 報告書のプロパティ

「お気に入り」に含まれるオブジェクトおよびサーバー上のオブジェクトについて、報告書のプロパティを定義できます。プロパティを設定するには、報告書を選択してから、「報告書」、「プロパティ」と選択します。または報告書を選択して、右マウス・ボタン・クリックしてから、「プロパティ」を選択します。

### 一般

「報告書のプロパティ」の「一般」タブは、報告書名、サーバー、照会、およびオプションで照会テキストを指定します。

### 報告書名

QMF オブジェクト・タイプ (表、書式、プロシージャ、または照会) である報告書の ID と、それに続く OBJECTOWNER.OBJECT NAME または選択した報告書の報告書記述は、「お気に入り」フォルダーに入っています。「お気に入り」フォルダーは、変更可能な報告書を含むフォルダーです。

- 「個人的なお気に入り」フォルダーは PC 上に存在して、そのユーザーだけがそれらの報告書にアクセスできます。
- 「共通のお気に入り」フォルダーは、サーバー上に常駐するため、いくつかの許可ユーザーがアクセスできます。

### サーバー

報告書が存在するサーバーの名前。または、ドロップダウン・リストを使用して他のサーバーを選択することもできます。

### [オブジェクト]

オブジェクト (照会、プロシージャ、または表) の名前。このフィールドを直接編集することはできません。別の照会、表、またはプロシージャを選択するには、「選択」をクリックして「フィルター・オプション」ダイアログ・ボックスを開きます。

注: 「フォーマット」、「出力」、および「プロシージャ」タブは、データを戻さないために SQL SELECT ステートメントを使用しない照会 (非 SELECT SQL verb) では使用不可となります。

## QMF オブジェクト・テキストの表示

チェックを付けると、QMF オブジェクト (照会、プロシージャ) のテキストが表示されます。

表 45. 「QMF オブジェクト・テキストの表示」のオプション

コントロール	説明
実行	SQL を実行します。
OK	入力を受け入れます。
キャンセル	入力を取り消し、前のダイアログ・ボックスに戻ります。
ヘルプ	ダイアログ・ボックスについてのオンライン・ヘルプを取得します。
選択	「オブジェクト・フィルター」ダイアログ・ボックスを開いて、オブジェクト所有者、オブジェクト名、および QMF 照会、表、またはプロシージャを示したいかどうかを指定することにより、他のオブジェクトを選択します。

## オブジェクト・フィルター

このダイアログ・ボックスは、以下の場合に開きます。

- ・ 「報告書のプロパティ」の「一般」ダイアログ・ボックスで「**選択**」をクリックするか、または、
- ・ サーバー上のオブジェクトを選択してから、「ビュー」、「最新表示」と選択します。

### オブジェクト所有者

現行のオブジェクト所有者の名前。ワイルドカードを使用してプロパティの所有者を検索することもできます。

### オブジェクト名

現行のオブジェクトの名前。ワイルドカードを使用してプロパティの名前を検索することもできます。

### オブジェクトの表示

サーバーで使用可能な指定されたオブジェクトを表示します。異なるタイプのオブジェクトについては、「**OK**」が使用不可となって、選択できなくなります。



## このフィルターを使用するたびにプロンプト

最新表示またはデータベースに接続する度にこのダイアログが開くようにするかどうかを指定します。

表 46. オブジェクト・フィルターのプロンプト

コントロール	説明
OK	入力を受け入れます。
取り消し	入力を取り消し、前のダイアログ・ボックスに戻ります。
ヘルプ	ダイアログ・ボックスについてのオンライン・ヘルプを取得します。

## フォーマット

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択してから、「フォーマット」タブを選択したときに表示されます。

### フォーマットなし (データのみ)

ロー・データをファイルに戻します。

### 列見出しを組み込む

選択すると、ラベルを報告書の列に追加します。このオプションを使用できるのは、「フォーマットなし」オプションを選択したときだけです。

### デフォルト QMF フォーマット

データを、列見出し、および見出しとデータとを分離する垂直線を含む、デフォルトの QMF フォーマットに戻します。

### 書式からフォーマットされる QMF

報告書の結果を書式設定するために使用される QMF 書式を指定します。「書式の選択」を選択して、フォーマット設定のコピー元となる QMF 書式を選択した「フィルター・オプション」ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、『書式の選択』を参照してください。

表 47. フォーマット・オプション

コントロール	説明
実行	SQL を実行します。
OK	入力を受け入れます。
取り消し	入力を取り消し、前のダイアログ・ボックスに戻ります。
ヘルプ	ダイアログ・ボックスについてのオンライン・ヘルプを取得します。

表 47. フォーマット・オプション (続き)

コントロール	説明
書式の選択	書式フィルター・ダイアログ・ボックスを使用して、オブジェクト所有者およびオブジェクト名を指定します。「書式の選択」は、QMF データのフォーマットで使用する書式を選択するための、「書式の選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

## 出力

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択してから、「出力」タブをクリックすると開きます。

### 出力アプリケーションを選択する

報告書をフォーマットするアプリケーション。Microsoft Excel、Lotus 1-2-3、および Microsoft Access の場合、「オプション」をクリックして、それぞれのアプリケーションに固有のオプションを定義します。

ファイルは、テキスト・ブラウザ、テキスト・ビューアー、Microsoft Word、Lotus WordPro、Microsoft Excel、Lotus 1-2-3、Microsoft Access、またはプリンターに出力することができます。

### 以下のディレクトリーで一時ファイルに発行する

指定されるディレクトリーの位置ファイルに報告書を保管します。ディレクトリーを変更するには、「ディレクトリーの選択」をクリックします。

### この報告書を実行するマシンの一時ディレクトリーを使用する

報告書が実行されているマシンの一時ディレクトリーをデフォルトとして使用します。マシンの一時ディレクトリーを使用するには、このオプションにチェックマークを付けます。そうでない場合には、以下のディレクトリー・フィールドで、「一時ファイルに発行」にあるディレクトリーを提供します。

**注:** これは、ユーザーのマシンのディレクトリー構造が分からない「共通のお気に入り」では特に便利です。

### ファイル名の始めに使用する文字列

必要に応じて、ファイル名に使用する接頭部を入力します。このオプションは、「一時ファイルに発行」オプションを選択する際のみ使用可能になります。

### ファイル名の終わりに使用する文字列

必要に応じて、ファイル名の接尾部として使用される日付形式を選択します。ファイル名を特に設定しないものの、前の報告書が上書きされないようにしたい場合には、「ラ

ンダム」を選択します。QMF レポート・センターは、固有のファイル名をランダムに割り当てます。このオプションは、「一時ファイルに発行」オプションを選択する際のみ使用可能になります。

### 特定のファイルに発行

指定するファイル名に報告書を保存します。「ファイルの選択」をクリックして、ファイル名を指定します。

### 上書きファイル

「ファイルがすでに存在する場合は上書きする」オプションは、同じ名前のファイルを更新ファイルで上書きします。このオプションが選択されていない場合には、既存のファイルが上書きされそうになると警告が出されます。

**注:** Lotus 1-2-3、Microsoft Access、および Microsoft Excel 以外のファイルは、常に上書きされます。

### 公用後に報告書を表示する

報告書の作成後、完了済みの報告書を自動的に表示します。このオプションを選択しない場合には、「報告書のヒストリー」から後で報告書を表示させることができます。

表 48. 出力オプション

コントロール	説明
実行	SQL を実行します。
OK	入力を受け入れます。
取り消し	入力を取り消し、前のダイアログ・ボックスに戻ります。
ヘルプ	ダイアログ・ボックスについてのオンライン・ヘルプを取得します。

表 48. 出力オプション (続き)

コントロール	説明
オプション	<p>各種のダイアログ・ボックスは、「報告書のプロパティ：出力」ダイアログ・ボックスから「オプション」ボタンをクリックし、出力アプリケーションとして Lotus 1-2-3、Microsoft Excel、Microsoft Access、またはプリンターを指定した場合に開きます。</p> <p>どのダイアログ・ボックスが開くかは、出力オプションによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Microsoft または Lotus 1-2-3 の報告書出力オプション:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「シート名を選択または入力」: ドロップダウン・リストから名前を選択するか、あるいは Excel または Lotus 1-2-3 シートのテキスト・ボックスに新しい名前を入力します。 <b>注:</b> 「QMF オブジェクト名を使用」オプションが選択されている場合には、このオプションは使用できません。</li> <li>- 「QMF オブジェクト名を使用」: オブジェクト名を Excel または Lotus 1-2-3 シート名として使用します。</li> <li>- 「上の名前に付加」: 現在日付をオブジェクト名に追加してシート名を作成します。ドロップダウン・リストを使用して、日付形式を選択します。</li> <li>- 「列名を組み込む」: これにチェックマークが付ければ、フォーマットされた報告書に列ヘッダーを表示します。</li> </ul> </li> </ul>

表 48. 出力オプション (続き)

コントロール	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 出力範囲: テキスト・ボックスをクリックして Excel または Lotus 1-2-3 を立ち上げます。「出力範囲」ダイアログ・ボックスは、照会結果の範囲を指定するために開きます。このフィールドに手動で範囲を入力することはできません。</li> <li>• Microsoft または Lotus 1-2-3 のデータ・オプション: 「Microsoft Excel および Lotus 1-2-3 データ・グループ化および図表化オプション」ダイアログを表示します。照会に置換変数がない場合には、列名を取り出せるように、サンプル値を指定するようにプロンプトが出されます。 <b>注:</b> これで照会が作成されますが、実行はされません。</li> </ul> <p>「プロパティ」ダイアログの「フォーマット」タブから「フォーマットなし (データのみ):」が選択されていないかぎり、データ・オプションは使用不可です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- データのインポート・オプション <ul style="list-style-type: none"> <li>- データのインポート</li> <li>- 1 列でグループ化</li> <li>- 2 列でグループ化</li> <li>- クロス・タブ報告書の作成</li> </ul> </li> <li>- 図表 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 図表の作成</li> <li>- 図表タイプの選択</li> </ul> </li> <li>- 列のグループ化 <ul style="list-style-type: none"> <li>- ID</li> <li>- 名前</li> <li>- 部門</li> </ul> </li> <li>- 計算フィールド・オプション <ul style="list-style-type: none"> <li>- 合計</li> <li>- カウント</li> <li>- 最大値</li> <li>- 最小値</li> <li>- 平均値</li> </ul> </li> </ul>

表 48. 出力オプション (続き)

コントロール	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プリンター・オプション               <ul style="list-style-type: none"> <li>– 出力を印刷するためのプリンターおよび対応する属性を指定します。</li> </ul> </li> </ul>
	<p><b>MICROSOFT ACCESS 用</b></p> <p>このダイアログ・ボックスは、「報告書のプロパティ: 出力」ダイアログ・ボックスから「<b>オプション</b>」をクリックしてから、出力アプリケーションとして Microsoft Access を選択すると開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「表名を選択または入力」: ドロップダウン・リストから名前を選択するか、またはテキスト・ボックスに Access 表の新しい名前を入力します。  <b>注:</b> 「QMF オブジェクト名を使用」オプションが選択されている場合には、このオプションは使用できません。</li> <li>• 「QMF オブジェクト名を使用」: Access 表名としてオブジェクト名を使用します。オブジェクトとは、表、書式、プロシージャ、または照会のことです。</li> <li>• 「上の名前に付加」: 現在日付をオブジェクト名に追加して表名を作成します。ドロップダウン・リストを使用して、日付形式を選択します。</li> <li>• 「表内の既存データの上書き」: 指定される表の既存のデータを、最新の報告書からのデータで置換します。</li> <li>• 「報告書名を選択または入力」: データベースを開くときに事前定義された Access 報告書を表示するには、ドロップダウン・リストから報告書名を選択するか、あるいはテキスト・ボックスに新しい名前を入力します。報告書の実行後にそれを表示したい場合、このオプションは役立ちます。</li> </ul>

## 手順

「プロシージャ」ダイアログ・ボックスは、プロシージャが選択された状態で「報告書」、「プロパティ」の順に選択してから、「プロシージャ」タブを選択すると開きます。

### このプロシージャは出力を生成しない

これにチェックが付けられている場合には、このプロシージャの結果としての出力はないことを示します。

**注:** このオプションが選択されると、出力オプションは使用不能になります。

### このプロシージャは DSQQW\_PROC\_OUTPUT 置換変数を使用する

現在のプロシージャの置換変数を示します。この変数を使用して、データが指定の場所にエクスポートされます。この変数を使用するには、構文 EXPORT REPORT TO &DSQQW\_PROC\_OUTPUT がプロシージャに含まれていなければなりません。「報告書のプロパティ: 変数」ダイアログ・ボックスには、置換変数は表示されません。以下に指定される出力位置は、この置換変数を使用してプロシージャに渡されます。

- 「一時ファイルに発行」: 指定されるディレクトリーにある一時ファイルに報告書を保管します。ディレクトリーを変更するには、「選択」をクリックします。
- 「ファイル名の始めに使用する文字列」: 必要に応じて、ファイル名に使用する接頭部を入力します。このオプションは、「一時ファイルに発行」オプションを選択する際のみ使用可能になります。
- 「ファイル名の終わりに使用する文字列」: 必要に応じて、ファイル名に接尾部として使用する日付形式を選択します。

**注:** ファイル名を特に設定しないものの、前の報告書が上書きされないようにしたい場合には、「ランダム」を選択します。QMF レポート・センターは、固有のファイル名をランダムに割り当てます。

このオプションが使用可能になるのは、「一時ファイルに発行」オプションを選択した場合だけです。

- 「拡張子」: 一時ファイルに使用するためのファイル形式を示す拡張子を選択します。
- 「特定のファイルに発行」: 指定するファイル名に報告書を保管します。「選択」をクリックして、ファイル名を指定します。

### プロシージャが出力データを入れるファイル

プロシージャが出力を送るファイル名を指定します。

### 実行後に出力を表示

報告書は、生成後に表示されます。

## 変数

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択してから、「変数」タブをクリックすると開きます。

## 以下の変数を事前設定する

「値」フィールドをクリックして、現行の報告書が実行される度に使用される変数値を入力します。

## 値のクリア

上に表示されている可変値を除去します。

## 報告書の実行時に事前設定値を隠す

現在の変数を含む照会およびプロシージャについては、報告書の実行時に値を指定するようにプロンプトが出されることはありません。

## その他

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択してから、「その他」タブをクリックすると開きます。

## 別個のプロセスとして実行する

報告書を QMF レポート・センターの別のインスタンスとして実行して、QMF レポート・センターでの作業を続けることを可能にします。2 番目のウィンドウには、「キャンセル」しか表示されず、これ以外是对話できません。

## 通知メッセージの抑制

通知メッセージを隠します。

## エラー・メッセージを表示しない

エラー・メッセージを隠します。

## 戻される行数を制限

報告書に戻される行数を制限します。テキスト・ボックスに数字を入力するか、あるいは、矢印でスクロールして 100 単位で指定します。

注: このオプションは、個々の報告書が選択されている場合にのみ適用されます。

## 報告書を実行する前の可変値に対するプロンプト

最初の報告書が実行される前に、フォルダーに組み込まれるすべての報告書について変数を入力するようにプロンプトが出されます。

注: このオプションは、フォルダーが選択されている場合にのみ適用されます。

## 実行中の報告書を表示しないようにする

報告書が生成後に表示されることはありません。



注: このオプションは、フォルダーが選択されている場合にのみ適用されます。

表 49. 出力オプション

コントロール	説明
実行	プロシージャーを実行します。
OK	入力を受け入れます。
取り消し	入力を取り消し、前のダイアログ・ボックスに戻ります。
ヘルプ	ダイアログ・ボックスについてのオンライン・ヘルプを取得します。

## スケジュール

このダイアログ・ボックスは、「報告書」メニューから「プロパティ」を選択してから、「スケジュール」タブをクリックすると開きます。

### ジョブ ID

スケジュールされるジョブそれぞれを識別する番号。この番号は自動的に割り当てられ、編集することはできません。

### インターバル

ジョブを実行する頻度 (1 回、毎週、毎月など)。

### 曜日

ジョブの実行の予定の曜日。このフィールドは空白であるか、またはジョブが Microsoft の Task Scheduler (R) を使用して編集された場合には "Customized" が入っています。この場合、QMF レポート・センターはジョブの詳細を表示することができません。

### 日

ジョブの実行の予定日。たとえば、2 は、ジョブが、指定される月の 2 日に実行することを意味します。

ジョブが特定の曜日にスケジュールされている場合、このフィールドは空白です。

### 時刻 (表示)

指定されている日の、ジョブの実行の予定時刻。

### 時刻

テキスト・ボックスに時刻を入力するか、または矢印を使用して上下にスクロールします。時刻は 24 時間形式です。

## 実行する曜日

ジョブの実行の予定の曜日。「全選択」を選択すると、すべての曜日が自動的に選択されます。

## 実行日

ジョブの実行の予定日。たとえば、2 は、ジョブが、指定される月の 2 日に実行されることを意味します。

すべての日を自動的に選択するには、「全選択」を選択します。

## 本日のみ

現在の日のみジョブを実行します。

## マークされた日に一回実行

指定された日に 1 度だけジョブを実行します。

## マークされた日に毎回

選択された日が到来する度にジョブを実行します。たとえば、火曜日が選択されている場合、スケジュールを変更するまでジョブは火曜日ごとに実行されます。

## 変数値を設定する

報告書に使用する変数を指定するための「変数入力」ダイアログ・ボックスを開きます。変数値は、報告書を実行する前に定義しておく必要があります。照会とプロシージャには変数を含めることができます。

## 変数値を編集する

現在の報告書で変数として設定されている値を変更するための「変数入力」ダイアログ・ボックスを開きます。このボタンをアクティブにするためには、報告書が選択されていない必要があります。

表 50. 出力オプション

コントロール	説明
追加	新規ジョブをスケジュールします。
削除	スケジューラーからスケジュールされているジョブを削除します。
編集	選択されるジョブのスケジュール設定を編集します。
実行	SQL を実行します。
OK	入力を受け入れます。
取り消し	入力を取り消し、前のダイアログ・ボックスに戻ります。
ヘルプ	ダイアログ・ボックスについてのオンライン・ヘルプを取得します。

注: ソートする列の見出しをクリックします。

## セキュリティ

このダイアログ・ボックスは、「共通のお気に入り」フォルダーに選択されたオブジェクトが含まれており、「報告書」メニューから「プロパティ」、そして「セキュリティ」タブを選択すると開きます。

### ユーザー ID

現在のオブジェクトに許可を割り当てることのできるユーザーまたはユーザー・グループの名前。許可ユーザーおよびその許可は、下のテキスト・ボックスに表示されます。ここに新規ユーザーを追加するには、テキスト・ボックスにユーザー ID を入力してから、「追加」をクリックします。

### 追加

選択されるユーザー（「ユーザー ID」フィールドにある）を、現行オブジェクトの許可ユーザーのグループに追加します。

### すべて追加

すべてのユーザーを許可ユーザーのグループに追加します。

### 除去

選択したユーザーを許可ユーザーのグループから除去します。

### 読み取り

選択されたユーザーが、現行の「共通のお気に入り」を表示し、新規の報告書、および選択した項目がフォルダーの場合にはフォルダーを追加できるようにします。

### 書き込み

選択されたユーザーが、現行オブジェクトの任意のプロパティを変更できるようにします。

### 管理者

選択したユーザーが、現行オブジェクトに対するアクセスを認可または取り消すことを可能にします。

### 所有権の取得

現行オブジェクトの所有権を選択したユーザーに認可します。リソースによる制限のために、このオプションを使用できない場合もあります。

### このフォルダーの下のすべての報告書にこれらの設定を使用する

同じセキュリティの設定値を現行フォルダーに含まれるすべての報告書とサブフォルダーに適用します。

## E メール

「報告書」、「プロパティ」の順に選択してから「E メール」タブを選択すると、このダイアログ・ボックスを開くことができます。

### 毎回報告書を実行する度に E メールを送信する

報告書が直接実行される度に、E メール通知を送信します。E メール・アドレスおよび送信するメッセージを判別します。

注: スケジュールされる報告書の次のオプションを使用します。

### 毎回スケジューラーが報告書を実行する度に E メール・メッセージを送信する

スケジューラーを使用して報告書が実行される度に、E メール通知を送信します。

### E メールに報告書出力を添付する

報告書の出力を E メール通知に含めます。フォルダーの場合、このオプションはフォルダーの下に含まれるすべての報告書出力を添付します。このオプションを選択する際には、上のオプションのうち 1 つを選択しなければなりません。

表 51. E メール・オプション

コントロール	説明
実行	SQL を実行します。
OK	入力を受け入れます。
取り消し	入力を取り消し、前のダイアログ・ボックスに戻ります。
ヘルプ	ダイアログ・ボックスについてのオンライン・ヘルプを取得します。
「E メール」プロパティ	Internet Mail Wizard を開いて、メッセージの受信側、メッセージ・テキスト、および添付を指定します。

---

## 書式をオブジェクトに関連付ける

書式には、QMF 結果のフォーマット設定が含まれます。したがって、書式を対応する照会または表に関連付ける必要があります。

## 手順

### オプション 1

サーバーから書式を、ご使用の個人の「お気に入り」フォルダーにある照会または表の先頭にドラッグします。書式は、自動的にオブジェクトに関連付けられます。

## オプション 2

1. 個人用の「お気に入り」フォルダーでオブジェクトを選択します。
2. 右マウス・ボタンでクリックしてから、「プロパティ」を選択します。
3. 「フォーマット」タブを選択して、「報告書のプロパティ: フォーマット」ダイアログ・ボックスを開きます。
4. 書式オプションから QMF フォーマットを選択して、「書式の選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
5. 書式を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

---

## 報告書、オブジェクト、およびフォルダーのコピー

サーバーからまたは「お気に入り」フォルダー内で、報告書、オブジェクト、およびフォルダーをコピーすることができます。

### サーバーからのコピー

#### オプション 1

項目を最も早くコピーする方法は、現行の位置で項目をコピーしてから、望む位置にドラッグすることです。

#### オプション 2

項目を選択し、右マウス・ボタンをクリックしてから、「コピー」を選択します。

#### オプション 3

1. 項目を選択し、「編集」、「コピー」の順に選択します。
2. 項目のコピー先の位置 (フォルダー) を右マウス・ボタンでクリックします。
3. 「貼り付け」を選択します。

#### オプション 4

1. 位置を右マウス・ボタンでクリックします。
2. 「編集」、「貼り付け」の順に選択します。

項目が正常に貼り付けられたことを示すメッセージが表示されます。項目は現在のフォルダーの一番下に追加されます。

### 「お気に入り」フォルダー内でのコピー

『サーバーからのコピー』で説明されているコピーおよび貼り付け方法を使用して、ご使用の「お気に入り」フォルダーにある報告書をコピーします。

注: 「お気に入り」フォルダー内で報告書をドラッグしても、報告書を移動するだけになります。

---

## 報告書、オブジェクト、およびフォルダーの移動

サーバー上で、「お気に入り」フォルダー内で報告書、オブジェクト、およびフォルダーを移動することができます。

### 手順

#### オプション 1

1. 項目を選択します。
2. 右クリックします。
3. 「編集」、「切り取り」の順に選択します。
4. オブジェクトのコピー先の位置を右マウス・ボタンでクリックします。
5. 「貼り付け」を選択します。

#### オプション 2

1. 項目を選択します。
2. 「編集」、「切り取り」の順に選択します。
3. オブジェクトのコピー先の位置を右マウス・ボタンでクリックします。
4. 「編集」、「貼り付け」の順に選択します。

注: 項目をドラッグしても、その項目はある位置から別の位置に移動しません。ドラッグでは、「お気に入り」フォルダーで作業している場合以外は、項目のコピーを作成します。

---

## 報告書、オブジェクト、およびフォルダーの削除

個人用の「お気に入り」フォルダーから報告書およびフォルダーを削除すると、これらは、「ごみ箱」に送られます。ただし、サーバーからのオブジェクトおよびサーバーの削除は、永続機能であり、やり直しはできません。

注: サーバーから項目を削除する許可を持たない場合もあります。

### 手順

以下のオプションの 1 つを選択して、報告書、オブジェクト、またはフォルダーを削除します。

- 項目を選択して、右マウス・ボタン・クリックしてから、「削除」を選択するか、または、

- 項目を選択し、「編集」、「削除」の順に選択します。

サーバーにあるオブジェクトおよび報告書については、削除を確認する前に、警告メッセージが表示されます。

注: スケジュールされたジョブのある報告書を削除し、「ごみ箱」からこれを除去するには、タスク・スケジューラーを実行していなければなりません。

---

## サーバー上で表をコピーする

表は、同じサーバー上の異なる位置同士でコピーすることもできますし、サーバーをまたいでコピーすることもできます。表をコピーする際には、表自体ではなく、データのみをコピーします。

### 手順

#### オプション 1

以下のオプションの 1 つを選択して、サーバー上で表をコピーします。

- サーバーの「表オブジェクト」セクション内で他の位置に表 (フォルダーまたは表) をドラッグします。
- 表を選択し、右マウス・ボタンでクリックしてから、「コピー」を選択します。
- 表を選択してから、「編集」、「コピー」の順に選択します。

「データの保管」ダイアログ・ボックスが開かれます。

#### オプション 2

望むオプションを指定し、それから「保管」をクリックします。

---

## オブジェクトの最新表示

オブジェクトはサーバーにあり、実行時の変更が可能であるため、オブジェクトを最新表示できます。

### 手順

以下のオプションの 1 つを選択して、オブジェクトを最新表示します。

- サーバー上のオブジェクトを選択してから、「ビュー」、「最新表示」と選択します。
- オブジェクトを選択し、右マウス・ボタンをクリックしてから、「ビュー」、さらに「最新表示」を選択します。

「オブジェクト・フィルター」ダイアログ・ボックスが開かれます。「OK」を選択します。

注: オブジェクトを最新表示する際には、このオブジェクトまたは現行レベルの下すべてのオブジェクトの表示のみ最新表示しているため、すべてのオプションは非アクティブになります。

サーバーを最新表示させると、すべてのオプションがアクティブになります。

---

## 効果的に作業するためのヒント

QMF レポート・センターでさらに効果的に作業する方法を以下に示します。

### 同時に報告書を実行する

同時に実行できるすべての報告書をフォルダーにグループ化します。それぞれの報告書を別個に実行する代わりに、フォルダーが選択された状態で「報告書」、「実行」の順に選択します。フォルダーにある報告書はすべて、続けて実行されます。

### 報告書を別のプロセスとして実行する

「報告書のプロパティ: 各種」ダイアログの「報告書を別のプロセスとして実行する」オプションを使用すると、QMF レポート・センターで作業している間にバックグラウンドで報告書を実行できます。

### 戻される行を制限する

処理時間を減らす目的で、報告書に戻されるデータの行数を制限することができます。たとえば、何百という結果を戻す照会のうち、最初の 20 個の結果のみに関心がある場合などに便利です。「報告書のプロパティ: 各種」ダイアログ・ボックスを使用すると、出力を制限する行数を指定できます。



---

## 第13章 QMF (Windows 版) API の使用

この章では、アプリケーションがどのようにして QMF 照会リポジトリに保管されている照会にアクセスし、これら进行操作するかを説明します。QMF (Windows 版) には、アプリケーションが関数を実行できるようにする、アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) のセットがあります。

---

### API とは

API は、事前に定義された機能を持つ関数です。アプリケーションは、その関数がどのように実行されるかを何も知らなくても、これを実行できます。API の入出力は明確なものですが、処理は外部から見えません。API は、ハードウェアまたはソフトウェア・パッケージのデバイス・ドライバを処理するのに便利です。

Windows 用に設計されているプログラム言語の大半は、API にアクセスできます。これを実行する方式はプログラム言語ごとに異なるものの、API を呼び出す方法はすべての言語に備わっています。いったんプログラム言語環境に API を組み込むと、普通の関数のようにこれを使用できるようになります。

Windows API にアクセスするプログラム言語であればどれでも、QMF (Windows 版) API にアクセスできます。これには、IBM Visual Age<sup>®</sup> for Java も含まれます。

QMF API を使用してアプリケーションを開発する場合、エンド・ユーザーのために必要なミドルウェアを除けば、余分のミドルウェアは必要ありません。つまり、開発者に特別な前提条件はないということです。基本となるミドルウェアは、ネットワーク環境、コンピューターにインストールされた QMF (Windows 版)、および使用されるプログラム言語のために必要なミドルウェアです。ユーザーに配布する最終的なアプリケーションについても同じことが言えます。アプリケーションの実行に必要なミドルウェアは、環境内でインストールされているネットワークと QMF のためのミドルウェアだけです。

### 呼び出しのブロック

QMF (Windows 版) API 関数は、すべて同期化されています。これは、API がアプリケーションに呼び出されると、要求されたアクションが完了するまで API はブロックされる (つまり、戻らない) ということです。これは、API を呼び出す行に続くコードは、この API がその機能を完了するまで実行されないということを意味します。これは、クライアント・アプリケーションにおけるプログラミングを単純化するので、好ましいやり方と言えます。ただし、アプリケーションが単一スレッドである場合は、QMF (Windows 版) API 関数の戻りを待っている間に、ユーザー入力に応答したり、画面の最新表示を行うことはできません。

QMF (Windows 版) API は、一度に 1 つのクライアントからの関数呼び出しにตอบสนองします。クライアント・アプリケーションがマルチスレッドである場合には、以下を実行する必要があります。

- ある 1 つの関数呼び出しが完了するのを待ってから、別の関数呼び出しを実行する。
- QMF (Windows 版) API の複数インスタンス (API を使用する各スレッドごとに 1 つ) を作成する。

アプリケーションが同期を取る必要がある場合、プログラマーは、アプリケーション内で新規スレッドを作成し、この新規スレッドから API を呼び出す必要があります。新規スレッドはブロックされますが、他のスレッドはすべて、普通どおりに実行を継続します。プログラマーは、スレッドのタイミングと実行を管理しなければなりません。マルチスレッド・アプリケーションを開発するときには、QMF (Windows 版) API が関数呼び出しに 1 つずつ応答し、1 つの呼び出しを完了してから次の呼び出しに移るということに注意してください。さもなければ、QMF (Windows 版) API のインスタンスを複数 (API を使用するスレッドごとに 1 つずつ) 作成するようにします。

## 作業単位

QMF (Windows 版) API オブジェクトのそれぞれのインスタンスは、単一の「作業単位」を表し、一度に 1 つのデータベース・サーバーにしか接続できません。同時に複数のデータベース・サーバーに接続するには、QMF (Windows 版) API オブジェクトのインスタンスを複数 (各データベース・サーバーに 1 つずつ) 作成します。同じ QMF (Windows 版) API オブジェクトを使用して、複数のデータベース・サーバーに順番に (1 つずつ) 接続するには、Commit() または Rollback() を呼び出し、次いで InitializeServer() を呼び出します。これらの関数を呼び出すと、現行の作業単位が終了し、後続の呼び出しが新しい作業単位を開始することになります。

## 管理

QMF (Windows 版) の主要な機能の 1 つは、システム管理者が設定したリソース限界に基づいて、データベース・リソースの使用を制御あるいは管理できる機能です。

QMF (Windows 版) API は、警告レベル限界を除く、すべてのリソース限界を施行します。取り消し限界に達すると、QMF (Windows 版) は、現行のアクションがシステム管理者により許可されなかったというエラーを生成します。

## データベース接続

QMF (Windows 版) API オブジェクトの各インスタンスは、照会を開くこと、データの取り出し、および SQL ステートメントの実行を含む、その後のロールバックまたはコミットを必要とするデータベースのすべてのアクティビティーのために、データベースへの単一の接続を作成し、使用します。

InitializeQuery() を 2 回以上呼び出すことによって、QMF (Windows 版) API オブジェクトの所定のインスタンスで複数の照会を作成した場合、その照会はずべて、同一の単一接続を共有します。ただし、以下を呼び出す場合は例外です。

- nDeleteQMFObjct()
- nGetQMFObjctInfo()
- nGetQMFObjctInfoEx()
- nGetQMFObjctList()
- nGetQMFObjctListEx()
- nGetQMFObjctQueryText()
- nSaveQMFObjctQuery()

QMF (Windows 版) は、管理的なデータベース・アクティビティー (たとえば、QMF 情報の検索) を処理するために、データベースへの 2 番目の接続を作成し、使用します。この 2 番目の接続は、クライアント・アプリケーションに対する一貫性のあるロールバックおよびコミットをサポートするために必要です。

QMF (Windows 版) API オブジェクトは、データベースに対するこれらの接続を自動的に処理します。ただし、システム管理者が、許可される接続の数に制限を設定してある場合には、QMF (Windows 版) API オブジェクトの各インスタンスが 2 つの接続を使用する必要があることに留意してください。

---

## API を使用した QMF (Windows 版) の制御

以下のステップは、QMF (Windows 版) を制御するために API に関してどのように作業するかについての概要を示しています。

1. QMF (Windows 版) API オブジェクトのインスタンスを作成します。

Microsoft Visual Basic を使用している場合には、QMF (Windows 版) タイプのライブラリー qmfwin.tlb にリファレンスを追加します。その後、次のように Dim ステートメントを使用します。

```
Dim QMFWin As New QMFWin
```

あるいは、次のように CreateObject ステートメントを使用します。

```
Dim QMFWin As Object  
Set QMFWin = CreateObject("QMFWin.Interface")
```

Microsoft® Visual C++® および MFC を使用している場合には、QMF (Windows 版) のタイプ・ライブラリー qmfwin.tlb から、QMF (Windows 版) API オブジェクトのラッパー・クラスを作成します。それから、CreateDispatch() 関数を使用します。

```
COleException e;  
IQMFWin QMFWin;  
QMFWin.CreateDispatch("QMFWin.Interface", &e);
```

注: 異なる開発環境を使用している場合には、使用しているプロダクトの資料で、このステップを実行する方法を調べてください。

2. 使用する DB2 サーバーを選択して、InitializeServer() を呼び出し、データベースへの接続を初期化します。

注: DB2 がユーザー ID とパスワードの妥当性検査を行うまでは、サーバーを初期化することはできません。QMF (Windows 版) にユーザーとパスワードを要求するプロンプトを出させるか、または、ユーザー・アプリケーションにそれらを要求するプロンプトを出させ、InitializeServer() 関数呼び出しでパラメーターとしてそれらを渡すことができます。

3. InitializeQuery() を使用して、実行する照会を選択します。照会に変数が含まれている場合には、SetVariable() 関数を使用して、その変数の値を設定します。
4. 照会を開く、つまり実行します。Open() 関数を使用して、SELECT ステートメントに対する照会のカーソルを開き、Execute() 関数を使用して、SELECT 以外のステートメントに対する SQL を実行します。
5. 照会が SELECT ステートメントである場合は、FetchNextRow() を繰り返し呼び出すことで、データの行を取り出します。一度に複数の行を取り出すには、FetchNextRows() または CompleteQuery() を使用して、QMF (Windows 版) にすべての行の取り出しを指示します。
6. 照会が SELECT ステートメントである場合は、Close() 関数を使用して照会を閉じます。
7. Commit() 関数または Rollback() 関数を使用して、作業単位を終了します。

---

## QMF (Windows 版) API

### API の例

#### AddDecimalHostVariable()

```
short AddDecimalHostVariable(long QueryID, short Type, short Precision,  
short Scale, const VARIANT& Value)
```

#### 説明

この関数は、*QueryID* で初期化された静的 SQL ステートメントの変数に、*Value* 内のデータを適用します。ステートメント内の各変数ごとに、この関数を呼び出します。QMF (Windows 版) では、値と変数を突き合わせることはしないので、SQL ステートメント内の変数と同じ順序でこの関数を呼び出すことが必要です。

## パラメーター

表 52. *AddDecimalHostVariable()* のパラメーター

名前	説明
<i>QueryID</i>	<u>InitializeStaticQuery()</u> から戻される照会の ID。
<i>Type</i>	データベース・サーバーに渡される値の SQL データ・タイプ。 この値は、VARIANT データ・タイプから、実際に渡される値への Value の変換に影響を及ぼします。 <i>AddDecimalHostVariable()</i> に対して有効な唯一の値は 484 (RSDT_DECIMAL) です。
<i>Precision</i>	10 進数値の精度。
<i>Scale</i>	10 進数値の位取り。
<i>Value</i>	ステートメントで置換するデータ値。ヌル値を指定する場合は、変形のタイプを VT_EMPTY に設定する必要があります。

## 戻り値

正常終了の場合はゼロ、異常終了の場合はゼロ以外。戻り値がゼロ以外である場合は、GetLastErrorString() または GetLastErrorType() を呼び出すと、詳しいエラー情報を入手することができます。

---

## 追加情報

QMF (Windows 版) の API についての追加情報は、QMF (Windows 版) のオンライン・ヘルプを参照してください。オンライン・ヘルプには、API についての詳細な説明があり、それぞれの API の名前、説明、パラメーター、および戻り値がリストされています。現時点で、約 100 個の API があります。



---

## 第14章 大域変数の処理

---

### 大域変数と置換変数

#### 大域変数

大域変数とは、QMF インスタンスがアクティブである間はアクティブである変数のことです。あるインスタンスの大域変数を別のインスタンスに保管するよう、QMF を構成することができます。

大域変数には、2 つのタイプがあります。

- ユーザー定義の大域変数
- QMF (Windows 版) に備わっている、事前ロードされる (システム) 大域変数

大域変数は、照会、書式、またはプロシージャで使用できます。QMF (Windows 版) で「ビュー」メニューから「大域変数」オプションを選択すると、大域変数を表示または更新できます。

QMF (Windows 版) の大域変数のセットは、Windows レジストリーに保管されます。システム管理者は、インストール前にシステム大域変数を表示および編集することもできますし、すべてのユーザーにファイルをエクスポートする (変数の同期を取るため、インストール後にシステム同士でファイルをコピーする) こともできます。大域変数は、以下の位置にあります。

```
HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\IBM\RDBI\GlobalVariables
```

#### 置換変数

置換変数はオブジェクトの実行中にだけアクティブになります。一方、大域変数は、QMF インスタンス (セッション) がアクティブである間はアクティブです。Windows レジストリーを更新することにより、大域変数を Windows レジストリーの中で永続的なものにすることができます。

置換変数は、QMF オブジェクトに関連しています。大域変数は、QMF (Windows 版)、およびオペレーティング・システムのレジストリー (レジストリーを更新して、大域変数を永続的なものにする場合) に関連しています。

---

## レジストリーの更新

QMF (Windows 版) を使用するときには、現行のワーク・セッション用にユーザー定義の大域変数を追加できます。QMF (Windows 版) を閉じると、これらの変数は失われます。

ユーザー定義の大域変数を保存するには、以下のステップを実行します。

1. レジストリ エディタを開きます。
2. レジストリー内の以下の位置に移動します。  
`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\IBM\RDBI\Options`
3. 「新規」 --> 「DWORD 値」を選択します。
4. DWORD に **SaveGlobals** とラベルを付けます。
5. SaveGlobals に値 1 を指定します。

ユーザー定義変数は、セッションにまたがって保存されることになります。

レジストリーを更新した後は、作成する大域変数がすべて Windows レジストリーに保管され、インスタンスをまたいで保持されることになります。

以下の方法で、自分独自の大域変数を追加できます。

- 手動で
- プロシージャーの実行中に

**注: DSQ** 接頭部の付いた大域変数を追加することはできません。

また、**DSQAO** 接頭部の付いた大域変数の値を変更することはできません。

---

## ユーザー定義の大域変数

ユーザー定義の大域変数は、照会、プロシージャー、または書式の実行に使用される大域変数です。ユーザー定義大域変数が作成されている場合、照会またはプロシージャーの実行中に、ユーザーが値を入力するためのダイアログ・ボックスが表示されることはありません。代わりに、この大域変数に指定されている値が使用されます。

### 変数を手動で追加する

大域変数を手動で作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「ビュー」、「大域変数」メニューに進みます。
2. 「追加」アイコンをクリックします。  
「大域変数の追加」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 大域変数名およびその値を入力します。

大域変数名は、1 ~ 17 文字でなければなりません。大域変数値の長さは、1 ~ 55 文字でなければなりません。



注: 変数名の接頭部として DSQ を付けることは許可されていません。DSQ の付いた変数はシステム変数だからです。

4. 「追加」をクリックします。

変数が作成され、「大域変数」ダイアログ・ボックスで表示できるようになります。

## プロシージャ内での追加

プロシージャの実行中に大域変数を追加するには、以下のステップを実行します。

1. プロシージャを作成する、または開きます。

2. 以下のようにして、プロシージャに大域情報を追加します。

```
SET GLOBAL(MY_GLOBAL=20
```

3. 以下の 2 つの例にあるように、複数の変数を追加することができます。

- a. 変数のストリング。

```
SET GLOBAL(MY_GLOBAL=2,START_DATE=&DATE,DEPARTMENT=&DEPT
```

- b. それぞれの変数をリストし、最初の行にだけ SET GLOBAL コマンドを使用する。

```
SET GLOBAL(MY_GLOBAL=2,  
+START_DATE=&DATE,  
+DEPARTMENT=&DEPT
```

4. プロシージャの最後の行に以下のコマンドを追加します。

```
RESET GLOBAL ALL
```

注: このコマンドは、以前に設定されたユーザー変数をリセットします。

## 大域変数の編集

名前またはユーザー定義大域変数の値を変更するには、「編集」をクリックします。

## 大域変数の削除

ユーザー定義の大域変数を除去するには、「削除」をクリックします。

---

## システム大域変数

QMF (Windows 版) には、製品に事前ロードされている大域変数のセットがあります。QMF (Windows 版) のメイン・ダイアログ・ボックスで「ビュー」、「大域変数」オプションを選択すると、システム大域変数を表示できます。

注: それぞれのオプションについて、ツールの説明を使用できます。これにより、変数の簡略説明の全体を表示することができます。

システム大域変数の状況情報を変更または削除することはできません。しかし、システム大域変数の値を変更できる場合があります。システム大域変数は、プロシージャにハードコーディングされます。システム大域変数の名前は変更できません。

QMF (Windows 版) には、照会、書式、およびプロシージャで使用するための多くの変数が用意されています。QMF (Windows 版) は、ホスト QMF のために定義される大域変数をすべて認識します。しかし、ホスト QMF 変数の多くは、QMF (Windows 版) には適用されません。QMF (Windows 版) からの使用とアクセスが可能な変数は、以下にリストされているものだけです。QMF (Windows 版) がサポートしない変数を、照会、書式、プロシージャに対して参照しても、無視されます。QMF (Windows 版) は大域変数を認識しないで、これを実行時に置換変数として使用する可能性があります。

**DSQqw** という接頭部が付く大域変数は、QMF (Windows 版) 大域変数です。**DSQ** という接頭部のあるその他の大域変数はすべて、QMF (Windows 版) およびホスト QMF によってサポートされます。

## 変数値の表示

システム大域変数に指定可能な値を表示するには、以下のステップを実行します。

1. 大域変数の名前をダブルクリックします。  
「大域変数値の変更」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから変数を選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。

たとえば、DSQEC\_FORM\_LANG 大域変数には、以下のオプションのいずれかを選択できません。

- 0 - 書式保管時に NLF 言語を使用する
- 1 - 書式保管時に英語を使用する

**注:** 保護された (protected) 大域変数の値を変更しようとすると、以下のメッセージが表示されます。

[大域変数名] の値を設定することはできません。

## 命名規則

大域変数の命名規則は、以下のとおりです。

DSQcc\_XXXXXXXX

ここで、DSQcc は、以下のカテゴリ ID のいずれかになります。

表 53. 大域変数の命名規則

ID	説明
DSQAO	状態情報 (管理オブジェクトを制御する)
DSQCP	表編集プログラムについての情報
DSQDC	QMF (Windows 版) が情報を表示する方法を制御します。

表 53. 大域変数の命名規則 (続き)

ID	説明
DSQEC	QMF (Windows 版) がコマンドおよびプロシージャーを実行する方法を制御します。
DSQQW	QMF (Windows 版) 環境に特有なものを制御します。

## 状態情報変数

**DSQAO** という接頭部の付いた大域変数は、QMF (Windows 版) についての状態情報を提供します。

注: これらの変数を SET GLOBAL コマンドで変更することはできません。

表 54. 状態情報大域変数

大域変数	長さ	説明
DSQAO_BATCH	1	バッチ・モードまたは対話モード。値は 1 (対話式セッション) または 2 (バッチ・セッション) のいずれかになります。  /Batch コマンド・パラメーターを参照してください。
DSQAO_CONNECT_ID		現行データベースへの接続に使用される ID。
DSQAO_CURSOR_OPEN	1	現行の照会のデータベース・カーソルの状況。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (カーソルは開いている)</li> <li>• 2 (カーソルは閉じている)</li> </ul>
DSQAO_DBCS	1	DBCS サポート状況。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (DBCS サポート)</li> <li>• 2 (DBCS サポートなし)</li> </ul>
DSQAO_NLF_LANG	1	各国語 ID。
DSQAO_NUM_FETCHED	10	現行照会オブジェクトにより取り出される行。
DSQAO_OBJ_NAME	18	現行の QMF オブジェクトの名前 (照会、書式、またはプロシージャー)。 注: 現行オブジェクトがない場合、この値はブランクになります。

表 54. 状態情報大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQAO_OBJ_OWNER	8	現行 QMF オブジェクトの所有者 (照会、書式、またはプロシージャ)。注: 現行オブジェクトがない場合、この値は空白になります。
DSQAO_QMF_RELEASE	2	アプリケーションのリリース番号。
DSQAO_QMF_VER_RLS	10	アプリケーションのバージョンおよびリリース。たとえば、QMF (Windows 版) バージョン 7.2 の場合、この値は 'QMF V7R2' になります。
DSQAO_QRY_SUBTYPE	1	現行の照会のサブタイプ。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (SQL 照会)</li> <li>• 3 (指示照会)</li> </ul>
DSQAO_QUERY_MODEL	1	現行の照会のモデル。指定できる値は 1 (リレーショナル) です。
DSQAO_SYSTEM_ID	1	オペレーティング・システム (OS)。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• '6' (Windows 3.x の場合)</li> <li>• '7' (Windows 95 または Windows 98 の場合)</li> <li>• '8' (Windows 2000 および Windows NT の場合)</li> </ul>

## 表編集プログラムの変数

**DSQCP** という接頭部の付いた大域変数は、表編集プログラムの操作を制御します。これらの変数はすべて、SET GLOBAL コマンドで変更できます。

表 55. 表編集プログラムの大域変数

大域変数	長さ	説明
DSQCP_TEDFLT	1	QMF 表編集プログラムの列のデフォルト文字。デフォルト値は '+' です。この変数は、「オプション」ダイアログ・ボックスでも設定できます。
DSQCP_TENULL	1	QMF 表編集プログラムの列のヌル文字のデフォルト文字。デフォルト値は '.' です。この値は、「オプション」ダイアログ・ボックスでも設定できます。

## 表示情報変数

**DSQDC** という接頭部の付いた大域変数は、QMF (Windows 版) が情報を表示する方法を制御します。これらの変数はすべて、SET GLOBAL コマンドで変更できます。

表 56. 表示情報の大域変数

大域変数	長さ	説明
DSQDC_CURRENCY	18	DC 編集コードのカスタム通貨記号。
DSQDC_DISPLAY_RPT	1	RUN QUERY の後に報告書を表示します。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (デフォルト。報告書を表示しない)</li> <li>• 1 (書式を使用して報告書を自動的に表示する)</li> </ul>

表 56. 表示情報の大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQDC_LIST_ORDER	2	<p>「リスト」ウィンドウにおける、オブジェクトのデフォルトのソート順。</p> <p>先頭文字には次の値を指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (デフォルトの順序)</li> <li>• 2 (オブジェクト所有者でソートする)</li> <li>• 3 (オブジェクト名でソートする)</li> <li>• 4 (オブジェクト・タイプでソートする)</li> </ul> <p>2 番目の文字には次の値を指定できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• A (昇順でソートする)</li> <li>• D (降順でソートする)</li> </ul> <p>注: デフォルト値は 1A です。</p>

## コマンドおよびプロシージャの変数

名前に **DSQEC** という接頭部の付いた大域変数は、QMF (Windows 版) がコマンドおよびプロシージャを実行する方法を制御します。これらの変数は、SET GLOBAL コマンドで変更できます。

表 57. コマンドおよびプロシージャの大域変数

大域変数	長さ	説明
DSQEC_FORM_LANG	1	<p>書式を保管またはエクスポートするデフォルト NLF 言語。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (主な NLF 言語)</li> <li>• 1 (英語)</li> </ul> <p>注: デフォルトは 1 (英語) です。</p>

表 57. コマンドおよびプロシーチャーの大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQEC_NLFCMD_LANG	1	<p>プロシーチャー内のコマンドに予想される NLF 言語。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (主な NLF 言語)</li> <li>• 1 (英語)</li> </ul> <p>注: デフォルト値は 0 です。</p>
DSQEC_RESET_RPT	1	<p>不完全なデータ・オブジェクトを処理する際のプロンプト。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (プロンプトを出さずにデータ・オブジェクトを完了する)</li> <li>• 1 (データ・オブジェクトを完了するようにユーザーにプロンプトを出す)</li> <li>• 2 (プロンプトを出さずにデータ・オブジェクトをリセットする)</li> </ul>
DSQEC_SHARE	1	<p>保管オブジェクトの共用に関するデフォルト値。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (オブジェクトを共用しない)</li> <li>• 1 (オブジェクトを共用する)</li> </ul>

## Windows 環境変数

**DSQQW** という接頭部が付く大域変数は、QMF (Windows 版) の接続に特有のもので、これらの変数は、SET GLOBAL コマンドで変更できます。

表 58. Windows 環境の大域変数

大域変数	長さ	説明
DSQQW_AUTOMATION	1	<p>QMF (Windows 版) の現行インスタンスが、OLE オートメーション要求を処理するために開始されたのか (値は 1)、それともユーザー・インターフェースを提供するために開始されたのか (値は 0) を指定します。</p>

表 58. Windows 環境の大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQQW_CONNECTIONS	1	<p>プロシージャーの実行時にサーバー接続を使用します。この設定は、プロシージャーのサーバー接続数を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 = 接続数を最小化する            値 0 を指定すると、プロシージャーの実行を続行する前に、QMF (Windows 版) に強制的にデータ・オブジェクトをリセット、または完了させることができます。</li> <li>0 に設定すると、線形の接続が指定されることになります。これは、最初の照会が完了しないと、次の照会に移れないということです。これらの照会は、順次実行されます。  <b>注:</b> デフォルトは 0 です。</li> <li>• 1 = すべて: それぞれの RUN QUERY コマンドごとに新規接続            1 に設定すると、後続の接続が開かれて、照会を並行して (同時に) 実行できるようになります。</li> </ul> <p><b>注:</b> この大域変数は、DSQQW_FST_SV_DATA と一緒に使用するように設計されています (これにより、照会は RUN QUERY 上でのみ PREPARED になります)。</p>
DSQQW_DQ	"	二重引用符文字



表 58. Windows 環境の大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQQW_EXP_DT_FRMT	1	<p>EXPORT DATA のフォーマット。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (テキスト)</li> </ul> <p>注: デフォルトは 0 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 (html)</li> <li>• 3 (csv - コンマ区切り値)</li> <li>• 4 (ixf)</li> </ul> <p>EXPORT コマンドの場合、.qmf、.html、または .txt のファイル・タイプのファイル名に報告書をエクスポートできます。</p> <p>注: 区切り文字のオプションが指定されていない場合、プロシージャー (.txt ファイル・タイプ) のデフォルトはスペースになります。</p>
DSQQW_EXP_OUT_MDE	1	<p>プロシージャーの IXF モード。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (システム /370 文字モード IXF)</li> <li>• 1 (PC/IXF)</li> </ul> <p>注: デフォルトは 1 です。</p>
DSQQW_FST_SV_DATA	1	<p>SAVE DATA に 'Fast Save' モードを使用します。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (高速モードを使用しない)</li> </ul> <p>注: デフォルトは 0 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (高速モードを使用する)</li> </ul>
DSQQW_HTML_REFTXT	55	<p>&amp;REF 書式変数のテキスト。デフォルトは 'Back To' です。</p>

表 58. Windows 環境の大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQQW_PROC_OUTPUT		<p>レポート・センターは、 &amp;DSQQW_PROC_OUTPUT を使用するプロシージャにパス名およびファイルを渡します。</p> <p>EXPORT REPORT TO &amp;DSQQW_PROC_OUTPUT</p> <p>または、以下のようにもできます。</p> <p>EXPORT DATA TO &amp;DSQQW_PROC_OUTPUT</p>
DSQQW_QUERY_LANG	1	<p>照会オブジェクトが存在しない場合に、DISPLAY QUERY により作成される照会のサブタイプ。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (SQL)</li> </ul> <p>注: デフォルト値は 0 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 (プロンプトが出される)</li> </ul>
DSQQW_QUERY_PREP		<p>RUN コマンド上の照会を準備します (実行するものではありません)。このオプションは、PREPARE SQL コマンドを起動します。</p> <p>DB2 は、照会構文、および照会に関連するすべてのオブジェクトの存在を検査しますが、内部的な計算が実行され、データはクライアントに送信されません。このオプションは、複雑な計算を含む照会または重要なデータを戻す照会を妥当性検査するために使用できます。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (いいえ)</li> <li>• 1 (はい)</li> </ul>

表 58. Windows 環境の大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQQW_RPT_COPIES	10	PRINT REPORT のコピーの数。デフォルトは 1 です。 注: DSQQW_RPT_USE_PS が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されます。
DSQQW_RPT_FONT	55	PRINT REPORT のフォント。デフォルトは 'Courier New' です。 注: DSQQW_RPT_USE_PS が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されます。
DSQQW_RPT_FONT_BD	1	PRINT REPORT の太字属性。デフォルトは 0 です。 注: DSQQW_RPT_USE_PS が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されます。
DSQQW_RPT_FONT_IT	1	PRINT REPORT のイタリック属性。デフォルトは 0 です。 注: DSQQW_RPT_USE_PS が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されます。
DSQQW_RPT_FONT_SZ	2	PRINT REPORT のフォント・サイズ。デフォルトは 10 です。 注: DSQQW_RPT_USE_PS が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されます。

表 58. Windows 環境の大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQQW_RPT_LEN_TYP	1	<p>PRINT REPORT のページ長のタイプ。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (印刷されるページの長さに合わせて)</li> <li>注: デフォルト値は 0 です。</li> <li>• 1 (行数を明示的に指定する)</li> <li>• 2 (ページの区切りがない連続した報告書を指定する)</li> </ul> <p>注: DSQQW_RPT_USE_PS が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されます。</p>
DSQQW_RPT_NUM_CHR	10	<p>PRINT REPORT の印刷ページでの文字数。これは、DSQQW_RPT_WID_TYP が 1 の場合にのみ有効です。デフォルト値は 80 です。</p> <p>注: DSQQW_RPT_USE_PS が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されます。</p>
DSQQW_RPT_NUM_LNS	10	<p>PRINT REPORT のページの行数。これは、DSQQW_RPT_LEN_TYP が 1 の場合にのみ有効です。デフォルト値は 60 です。</p> <p>注: DSQQW_RPT_USE_PS が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されます。</p>

表 58. Windows 環境の大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQQW_RPT_ORIENT	1	<p>PRINT REPORT のページの方向。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 = 縦長</li> <li>• 1 = 横長</li> </ul> <p>注: デフォルトは 0 です。</p> <p>注: DSQQW_RPT_USE_PS が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されます。</p>
DSQQW_RPT_USE_PS	1	<p>PRINT REPORT のページ・フォーマット・オプション (ページ長、ページ長) のセット。次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (PRINT REPORT コマンドまたは大域変数で指定される値を使用する)</li> <li>• 1 (書式文書のページ設定で指定される値を使用する) これがデフォルトです。</li> </ul> <p>注: この値が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されま</p>
DSQQW_RPT_WID_TYP	1	<p>PRINT REPORT のページ幅のタイプ。値は 0 (印刷されるページの幅に合わせる) または 1 (文字の数を明示的に指定する) です。デフォルトは 0 です。</p> <p>注: この値が 1 に設定されている場合には、「ページの設定」オプションが使用されます。2 に設定されている場合には、大域変数設定が使用されま</p>

表 58. Windows 環境の大域変数 (続き)

大域変数	長さ	説明
DSQQW_SHOW_QUERY	1	SHOW QUERY の照会の視点。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 = SQL または指示視点</li> </ul> <b>注:</b> デフォルト値は 0 です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 = 結果の視点</li> </ul>
DSQQW_STRIP_SPACE	1	サーバーから検索されるオブジェクトから末尾スペースを除去します。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 = 末尾スペースを残す</li> <li>• 1 = 末尾スペースを除去する</li> </ul> <b>注:</b> デフォルトは 1 です。
DSQQW_SV_DATA_C_S	10	SAVE DATA のコミットの前に挿入する行。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 = すべての行</li> </ul> <b>注:</b> デフォルトは 0 です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• n。n は、明示的行数。</li> </ul>
DSQQW_UEDIT_DLL	55	ユーザー編集ルーチンをインプリメントする DLL。デフォルト値は rsuedit.dll です。
DSQQW_PROC_WNDWS		プロシージャ結果オプション。値は、以下ようになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 = プロシージャの終了時に最近のオブジェクトを開いたままにする。</li> </ul> たとえば、プロシージャの終了時に、最新の照会と書式は開いたままになりますが、最新のプロシージャは開いたままになりません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 = プロシージャの終了時にすべてのオブジェクトを開いたままにする。</li> </ul>

---

## 第15章 コマンド・バーを使った作業

コマンド・バーは、QMF (Windows 版) ユーザー・インターフェースの上部にあります。このコマンド行を使って、コマンドを入力したり、コマンドを実行するサーバーを指定したりすることができます。ドロップダウン・リスト・ボックスには、最近使ったコマンドがリストされます。

コマンド・バーが表示されていない場合には、「ビュー」、「コマンド・バー」の順に選択して、これを表示します。

---

### コマンドの自動実行

QMF (Windows 版) の始動時に有効になるよう、設定やアクションを定義することができます。これらのパラメーターは、QMF (Windows 版) コマンド行に定義されます。これらのパラメーターは、設定値を事前設定したり、無人セッションを実行したりするために使用することができます。

アイコンまたはスタート・メニューにコマンド行パラメーターを追加する方法については、ご使用のオペレーティング・システムのヘルプ機能を参照してください。

---

### コマンド・バー・パラメーター

以下に、コマンド行パラメーターとその説明をリストします。

表 59. コマンド・バー・パラメーター

パラメーター	説明
<i>ObjectName</i>	QMF (Windows 版) が開始したときに開かれる QMF (Windows 版) ファイル (照会、プロシージャー、ジョブ、または書式)。
<i>//ProcName:procedurename</i>	データベース・サーバーに保管されているプロシージャーの名前。このプロシージャーは、QMF (Windows 版) が開始してから実行されます。プロシージャーを作成したサーバーと保管するサーバーが異なる場合、 <i>//Server</i> パラメーターも指定しないと、 <i>//ProcName</i> パラメーターを使用できません。
<i>//ProcFile:procedurefile</i>	ローカルに保管されているプロシージャー・ファイルの位置と名前を定義します。このプロシージャー・ファイルは、QMF (Windows 版) が開始してから実行されます。
<i>//Server:servername</i>	<i>//ProcName</i> パラメーターで指定された始動プロシージャーが保管されているサーバー。
<i>//Object:"ObjectOwner"."ObjectName"</i>	データベース・サーバーに保管されているオブジェクトの名前。このオブジェクトは、QMF (Windows 版) が開始してから検索されます。 <i>//Object</i> パラメーターを使用するには、 <i>//Server</i> パラメーターも指定しなければなりません。

表 59. コマンド・バー・パラメーター (続き)

パラメーター	説明
<i>//Run</i>	開かれた、または検索されたオブジェクトを開始します。これは、 <i>//UserID</i> および <i>//Password</i> パラメーターと組み合わせて使用されます。 <b>注:</b> このパラメーターは、書式とジョブを無視します。
<i>//Display</i>	開く、または検索するオブジェクト。 <i>//Run</i> または <i>//Display</i> パラメーターが指定されていない場合には、 <i>//Display</i> パラメーターが使用されます。
<i>//UserID:userID</i>	<i>//ProcName</i> または <i>//ProcFile</i> パラメーター、あるいは <i>Object Name</i> または <i>//Object</i> パラメーターで指定されるオブジェクトを実行するときに使用するユーザー ID。 <i>//Password</i> パラメーターと組み合わせて使用されます。
<i>//Password:password</i>	<i>//UserID</i> パラメーターと一緒に指定されるユーザーのパスワード。 <b>注:</b> <i>//Password</i> パラメーターには、ユーザーのパスワードが非暗号化テキストで組み込まれます。
<i>//Batch</i>	QMF (Windows 版) の現行セッションを終了します。そして、コマンド行に指定されたオブジェクトの実行後に、アプリケーションを閉じます。このパラメーターを指定すると、警告およびエラー・メッセージがすべて抑制されます。
<i>&amp;variablename-variablevalue</i>	プロシージャーまたは照会の大域変数値を定義または更新します。複数の変数を定義できます。 <b>注:</b> プロシージャーに送る値は二重引用符 (" ") で囲まなければなりません。
<i>//CatalogUserID</i>	ODBC データ・ソースに接続する際に使用するユーザー ID。 <i>//CatalogPassword</i> パラメーターと組み合わせて使用されます。
<i>//CatalogPassword</i>	<i>//CatalogUserID</i> と一緒に指定されるユーザーのパスワード。このパラメーターは、ODBC データ・ソースにアクセスする際に使用されます。
<i>//CatalogUserID</i>	<i>//Server</i> パラメーターで指定されるサーバーを使って作業するときに使用する、カタログ・サーバーのユーザー ID。 <i>//CatalogPassword</i> パラメーターと組み合わせて使用されます。
<i>//CatalogPassword</i>	<i>//CatalogUserID</i> パラメーターと一緒に指定されるユーザーのパスワード。 <b>注:</b> <i>//Password</i> パラメーターには、ユーザーのパスワードが非暗号化テキストで組み込まれます。

## コマンド・バーの使用方法

QMF (Windows 版) のコマンド行機能を使用するには、以下のステップを実行します。

1. プロシージャーを作成します。

例を以下に示します。

```
run query ObjectTracking (form=ObjectTrackingForm
export report to c:¥qmftrack.rep
windows notepad c:¥qmftrack.rep
```



この例では、報告書生成の目的で、ObjectTrackingForm という書式を使って、ObjectTracking という照会を実行します。報告書は、ローカル・システムの c:\directory にある、qmftrack.rep というファイルにエクスポートされます。最後のステートメント Windows Notepad c:\qmftrack.rep は、保管された報告書ファイルを Windows のメモ帳アプリケーションで開きます。

2. プロシーチャーを、サーバーに、あるいはご使用のシステム上のローカル・ファイルとして保管します。

例を以下に示します。

```
c:\procedure1.prc
```

3. サーバーに、あるいはローカル・ファイルとして保管されたプロシーチャーを実行します。
4. プロシーチャーがサーバーに保管されている場合は、コマンド行プロンプトで以下のステートメントを発行してこのプロシーチャーを実行します。

```
"C:\Program Files\IBM\QMF for Windows\qmfwin.exe" /IServer:DB2AIX  
/IProcname:DB2INST1.Procedure1 /UserID:db2inst1 /IPassword:db2inst1
```

**注:** パスにスペースが含まれている場合には、必ずステートメントのパス指定を二重引用符で囲むようにしてください。

5. プロシーチャーがローカル・ファイルに保管されている場合は、システム・コマンド・プロンプトから以下のステートメントを発行してこのプロシーチャーを実行します。

```
"C:\Program Files\IBM\QMF for Windows\qmfwin.exe" /IServer:DB2AIX  
/IProcfile:"c:\Procedure1.prc" /UserID:db2inst1 /IPassword:db2inst1
```

**注:** パスにスペースが含まれている場合には、必ずステートメントのパス指定を二重引用符で囲むようにしてください。



---

## 付録A. IBM DB2 地理情報エクステンダーに関する作業

IBM DB2 地理情報エクステンダーは、照会可能な地理情報データを保管、アクセス、管理、および分析します。地理情報エクステンダーは、ESRI 地理情報ビジュアル化ツールと一緒に機能します。これにより、地理情報データを収集して、これに地理情報以外のビジネス・データ属性を添付することができます。

IBM DB2 地理情報エクステンダーは、IBM DB2 ユニバーサル・データベースに組み込まれている機能の 1 つであり、地理情報データのアクセスと分析を可能にします。地理情報データは、オブジェクトの位置とお互いのエリアとを表す値で構成されます。DB2 地理情報エクステンダーのテクノロジーは、IBM と ESRI によって共同開発されました。

すべてのデータのうちおよそ 80% には、地理情報の特性が組み込まれています。このデータを活用して、関係のあるパラメーターを含む照会を公式化できます。

---

### 機能

- カスタマー、スタッフ、部門、在庫など、自分のビジネスに関係のある地理情報データを作成する。
- 同一の RDBMS の中で地理情報データとビジネス・データを組み合わせて、DB2 内でのデータ管理を改善する。
- 複雑なデータ・タイプを扱う SQL 拡張機能を使用し、アプリケーションが DB2 データベース内部のオブジェクトを直接保管および操作できるようにする。
- このデータを SQL にとってより利用しやすいものにする。
- 地理情報データの SQL 照会を実行したり、任意の DB2 データベースに保管されている従来型のビジネス・データにこのデータを結合したりする機能。
- ArcView などのビジュアル化ツールと連携して、地理情報データのビジュアル・マップ・レンダリングを行う。

注: IBM DB2 地理情報エクステンダー機能を使用するには ArcView が必要です。

- 地理情報データのモデル化。
- 複数のデータ・タイプ (13)。
- ESRI 形状ファイル (.shp) などの、一般的な産業フォーマットをサポート。

---

### 前提条件

- DB2 地理情報エクステンダー

- DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ・エディションのライセンス交付を受けたコピー、または DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT または AIX® 版) エンタープライズ拡張エディションのライセンス交付を受けたコピー
- Microsoft Windows NT、Microsoft Windows 2000、または IBM AIX

---

## QMF (Windows 版) との統合

IBM 地理情報エクステンダーと QMF (Windows 版) の統合は、数多くの領域で行われます。

### 「データのエクスポート」ダイアログ・ボックス

「タイプを指定して保管」メニュー・オプションに 2 つのオプションが追加されました。

- **dBASE III ファイル (\*.dbf)**

このファイル・タイプを選択してから「**オプション**」を押すと、「ExportdBase オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここで、すべてのデータをエクスポートするか、選択するデータをエクスポートするかを選択できます。

- **形状ファイル**

エクスポートする結果セットに地理情報データ・タイプの列が 1 つだけ含まれている場合、「タイプを指定して保管」メニュー・オプションに形状ファイル (\*.shp) がオプションとして表示されます。このファイル・タイプを選択してから「**オプション**」を押すと、「形状ファイルのエクスポート・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここで、すべてのデータをエクスポートするか、選択するデータをエクスポートするかを指定できます。

### 「データのインポート」ダイアログ・ボックス

「ファイルのタイプ」メニュー・オプションに 2 つのオプションが追加されました。

- **dBASE III ファイル (\*.dbf)**

インポートする dBase ファイルを選択できます。データは、IXF データのインポートと同様、新規照会文書の結果セットにインポートされます。

- **形状ファイル (\*.shp)**

インポートする形状ファイルを選択できます。データは、IXF データのインポートと同様、新規照会文書の結果セットにインポートされます。

---

## ESRI Visualization Component の起動

ESRI Visualization Component を起動すると、形状ファイル (\*.shp) をビジュアルで表示することができます。

## 「結果」メニュー

「結果」メニューの「ビジュアル化」オプションは、以下のことを実行します。

1. 現行の結果セットを一時形状ファイルにエクスポートします。
2. 「地理情報のビジュアル化」ダイアログ・ボックスを表示します。

このコマンドは、現行の結果セットに地理情報データ・タイプの列が 1 つだけ含まれている場合にのみ使用可能です。

**注:** それぞれの一時形状ファイルからは 1 つのレイヤーだけが作成されます。

## 「リスト」メニュー

「リスト」メニュー (またはオブジェクト・リストの右クリック・メニュー) の「ビジュアル化」コマンドは、次の事柄を実行します。

1. 選択した照会を選択した表に対して実行し、検索する。
2. 結果セットを一時形状ファイルにエクスポートする。
3. 「地理情報データのビジュアル化」ダイアログ・ボックスを表示する。

**注:** それぞれの一時形状ファイルからは 1 つのレイヤーだけが作成されます。

「ビジュアル化」コマンドは、リストで照会と表が選択されている場合にのみ使用できます。

**注:** 地理情報データの列が 1 つだけ含まれている結果セットがない場合、エラーが発生します。

## 「ファイル」メニュー

開く形状ファイルをブラウズするには、「ファイルの選択」メニュー・オプションから「形状ファイルのビジュアル化」を選択します。このオプションを選択すると、「開く」ダイアログが表示されます。このダイアログ・ボックスで検索情報を入力して、形状ファイルを検索します。形状ファイルを選択すると、「マップの表示」ダイアログ・ボックスが表示され、選択される形状ファイルから作成される 1 つのレイヤーが表示されます。

**注:** 「開く」ダイアログ・ボックスの「ファイル・タイプ」には、形状ファイル (\*.shp) だけがリストされます。

「形状のビジュアル化」コマンドは、「ファイル」メニューから常に使用できます。

---

## マップの表示

「マップの表示」ダイアログ・ボックスには、地理情報データ、およびデータを作成するのに使用される対応するレイヤーが表示されます。このダイアログ・ボックスには、2 つのペインがあります。「レイヤー・リスト」および「結果マップ」です。

## レイヤー・リスト

「マップの表示」ダイアログ・ボックスの左側には、ビジュアル化されるレイヤーを表示するツリー・コントロールがあります。それぞれのレイヤーは、一時ファイルを含め、ファイル・システムにある形状ファイルに対応します。

- 一時形状ファイルから作成される、あるいは照会または表からエクスポートされるレイヤーの場合、照会または表の名前の後ろに括弧で囲まれた形状ファイルの名前を追加したものがラベルになります。
- 既存の形状ファイルから作成されるレイヤーの場合、形状ファイルのラベルがレイヤーのラベルになります。

表 60. レイヤー・リストのコントロール

コントロール	説明
追加	「レイヤの追加」ダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスでは、地理情報データ、照会または表、あるいは形状ファイルを含む結果セットを選択することにより、レイヤーを追加することができます。
除去	右ペイン表示で選択されたレイヤーを除去します。

### 「レイヤーの追加」ダイアログ・ボックス

ファイル、データベース、または開かれている文書からレイヤーを追加するには、「レイヤーの追加」ダイアログ・ボックスを使用します。一部のオプションがアクティブにならない場合があります。たとえば、地理情報データを含んだ結果セットが最低 1 つ開いていないと、オプションを選択することはできません。選択されたファイルは、ビジュアル化において新しいレイヤーとして作成されます。

「オブジェクトのリスト」をクリックすると、「オブジェクトのリスト」ダイアログ・ボックスを介して望むオブジェクトを見つけることができます。

### 「オブジェクトのリスト」ダイアログ・ボックス

「オブジェクトのリスト」ダイアログ・ボックスを使用すると、レイヤーとして追加しようとしているオブジェクトのサーバー、所有者、または名前を指定することができます。オブジェクトを検索する際の基準を指定してから、リストでオブジェクトを選択します。

## 結果マップ

「マップの表示」ダイアログ・ボックスの右側には、選択された照会、表、または形状ファイルから組み立てられた地理情報データがビジュアル表示されます。

表 61. 結果マップのコントロール

コントロール	説明
ズームイン	結果マップの領域のフォーカスを変更します。結果マップの選択された領域が拡大します。
ズームアウト	結果マップの領域でフォーカスを変更します。結果マップの選択された領域が縮小します。
水平移動	結果マップを引き上げたり、引き下げたりし、水平の視点を変更します。
斜め移動	結果マップの内容を、斜めに移動します。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを取得します。
保管	結果マップの内容を、レイヤーを含めて保管します。

## プロシージャー・コマンド

表 62. プロシージャー・コマンド

プロシージャー	説明
SPATIAL	プロシージャーから地理情報操作を実行します。以下に SPATIAL コマンドの形式を示します。
SPATIAL RESET	現行のビジュアル化指定をリセットし、レイヤーを含まないようにします。
SPATIAL ADD	現行データ・オブジェクトを一時形状ファイルにエクスポートし、これを新規のレイヤーとして、現行のビジュアル化指定に追加します。 <b>注:</b> 現行データ・オブジェクトに地理情報データ・タイプの列が 1 つだけ含まれていない場合、エラーが発生します。
SPATIAL EXPORT TO file-name (DATAFORMAT= JPG BMP GIF ...,CONFIRM=YES NO	ESRI コンポーネントを起動して、現行のビジュアル指定でレイヤーをビジュアル化し、指定される名前のファイルに、指定されるデータ形式でエクスポートします。 CONFIRM オプションは、指定されるファイルが存在する場合に、上書きの確認メッセージを表示させるかどうかを制御します。 <b>注:</b> 現行のビジュアル化指定が空だとエラーが発生します。

表 62. プロシージャー・コマンド (続き)

プロシージャー	説明
SPATIAL DISPLAY	<p>「地理情報データのビジュアル化」ダイアログ・ボックスを表示して、現行のビジュアル化指定でレイヤーをビジュアル化します。このプロシージャーは中断され、ユーザーがこのダイアログ・ボックスを閉じると実行が続行します。</p> <p><b>注:</b> 現行のビジュアル化指定が空だとエラーが発生します。</p>
EXPORT DATA	<p>このプロシージャー・コマンドは、DATAFORMAT オプションについて、以下の値を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DBF</li> <li>• SHP</li> </ul> <p>この機能は、EXPORT FORMAT コマンド、および「データのエクスポート」ダイアログ・ボックスに類似しています。</p> <p><b>注:</b> SHP が指定されており、かつ現行データ・オブジェクトに地理情報データ・タイプの列が 1 つだけ含まれているのでない場合、エラーが発生します。</p>
IMPORT DATA	<p>このプロシージャーは、dBase ファイルおよび形状ファイルを処理します。この機能は、IMPORT DATA コマンド、および「データのインポート」ダイアログ・ボックスに類似しています。インポートされるデータのタイプはファイル拡張子により判別されます。<b>.dbf</b> は dBase ファイル、<b>.shp</b> は形状ファイル、そしてその他は <b>.ixf</b> ファイル (逆方向の互換性を保持する) です。</p>



---

## 付録B. QMF Query for Java に関する作業

---

### 概要

QMF Query for Java は、DB2 データベース・ファミリーの任意のメンバーに保管されているデータを、任意の Web ブラウザー・クライアントに対して開きます。100% Pure Java のテクノロジーが使われているため、サーバー・プラットフォームが限定されることはありません。

この章では、Windows NT/2000 プラットフォームでの HTTP サーバー、Web アプリケーション・サーバー、および JDBC ドライバーのセットアップと構成について説明します。

---

### 機能

QMF Query for Java では、DB2 データベースに対して SQL 照会を作成して実行すること、および他のアプリケーションで表示または使用するために結果をフォーマットすることができます。

データベースへのログイン (データベース名、ユーザー ID、およびパスワードを指定) が済んだら、QMF (Windows 版) の SQL 照会、指示照会、またはデータベース表を選択することができます。新規の SQL 照会を、手動、または指示照会ツールを使って作成することもできます。照会はパラメーター化することができる一方、SQL 照会の実行ごとに異なる入力値を指定することもできます。

照会を実行して結果セットを入手したら、結果データをいくつかの方法で表示またはエクスポートすることができます。以下のことが可能です。

- サーバーまたは自分のコンピューターから QMF 書式を適用して、報告書を作成する。
- 照会から QMF 書式を生成する。
- 他のアプリケーションにインポートするため、データをテキスト・フォーマットでエクスポートする。
- スプレッドシート・アプリケーションにインポートするため、コンマ区切り値 (\*.CSV) 形式でデータをエクスポートする。
- データを新規または既存のデータベース表に保管する。

その結果の出力報告書またはエクスポート・ファイル (およびデータベース接続) は、Web サーバー・セッションが存続するかぎり保持されます。

## オブジェクトの追跡

オブジェクトの追跡は、QMF (Windows 版) の場合と同様、自動的に実行されます。実行した照会の追跡データは、Q.OBJ\_ACTIVITY\_SUMM 表と Q.OBJ\_ACTIVITY\_DTL 表に保管されます。

---

## QMF Query for Java の準備作業

### 接続

QMF Query for Java を立ち上げるには、Web ブラウザーを開いて、次の URL を入力します。

`http://serverHost/servlet/QMFJava`

*ServerHost* は、QMF Query for Java のインストール先のサーバーの名前です。 *servlet* の名前は、QMFJava であることが前提になっています。それ以外の名前の場合、URL を変更してください。

QMF Query for Java のログオン・ページが表示されます。

### ログオン

#### 手順

QMF (Windows 版) 入門 の付録『QMF Query for Java に関する作業』の説明に従って QMF Query for Java のインストールと構成を終えたら、任意の Web ブラウザーを使って接続することができます。

次のステップを実行して QMF Query for Java にログインしてから、データベースとの対話を行います。

1. 照会しようとしているデータベースの名前を入力します。
2. ユーザー ID とパスワードを入力します。

**注:** 使用するユーザー ID は、選択したデータベースでのユーザー ID です。データベース・サーバーのユーザー ID は、必ずしもローカルまたはネットワークの ID と同じであるとは限りません。

3. 「次へ」をクリックします。  
「オブジェクトのリスト」ページが表示されます。

表 63. ログイン・ページのコントロール

コントロール	説明
続行	「オブジェクトのリスト」ページを開きます。
戻る	[このコントロールは使用できません。]

表 63. ログイン・ページのコントロール (続き)

コントロール	説明
ホーム	[このコントロールは使用できません。]
保管	[このコントロールは使用できません。]
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。
オプション	[このコントロールは使用できません。]

これで、QMF Query for Java にログオンしました。データベースにログオンしたら、照会またはデータベース表を処理したり、照会を作成したりすることができます。照会にパラメーターを追加したり、照会の実行ごとに異なる入力値を指定したりすることができます。

## オブジェクトの選択

指定した所有者および名前に属するオブジェクト (照会または表) のリストを表示するには、「オブジェクトのリスト」ページを使用します。このページでは、表示するオブジェクトを選択することと、ページ上でそれらのオブジェクトをソートする方法に関する情報を指定することができます。さらに、オブジェクトの実行、編集、または削除も行うことができます。また、該当する所有者と名前のオブジェクトが存在しない場合には、SQL 照会または指示照会を作成することもできます。

## フィールド

### 所有者

Q などのオブジェクトの所有者。

所有者は、「ログイン」ページからとられます。デフォルト名 (%) をそのままにすると、その所有者と ID のすべてのオブジェクトの一覧が示されます。

### 名前

APPLICANT などのオブジェクトの名前。

この名前は、「ログイン」ページからとられます。デフォルト名 (%) をそのままにすると、その所有者と ID のすべてのオブジェクトの一覧が示されます。

たとえば次のように、個々の照会または表を処理するのに "like" 情報を指定することができます。

```
Objects with an owner like: MA%
      and a name like: REPORT%
```

## オブジェクト・タイプ

処理するオブジェクトを指定します。「照会」と「表」から選択することができます。

## リストのソート基準

「オブジェクトのリスト」でのソート条件を指定します。「所有者と名前」または「注釈」から選択することができます。

**注:** 注釈とは、照会の説明です。注釈の長さは、最大 80 字です。注釈はオプションです。

## オブジェクトのリスト

この表は、基準 (所有者、名前、またはオブジェクト・タイプ (表または照会)) を満たすオブジェクトの一覧を示します。

オブジェクトの所有者と名前が一覧で示されます。注釈がある場合は、これも表示されます。一覧に示されるオブジェクトは、所有者と名前または注釈に、降順のアルファベット順に並べられます。

オブジェクトの左側のアイコンは、オブジェクトが SQL 照会または指示照会のどちらであるかを示します。これで、照会を編集するときどのページに進むかが決まります。

## 手順

### 既存のオブジェクトに関する作業

1. 処理しようとするオブジェクトの「所有者」または「名前」を入力します。  
オプションで、所有者と (オブジェクトの) 名前を入力することもできます。
2. オブジェクト・タイプにチェックを付けます。選択項目は、「照会」と「表」です。  
オプションで、照会オブジェクトと表オブジェクトを選択することができます。
3. オブジェクトのリストをどのようにソートすればよいかを指定します。選択項目は、「所有者と名前」または「注釈」です。

**注:** 注釈はオプションなので、照会と表に注釈がない場合もあります。

4. 「最新表示」をクリックすると、入力内容に基づいて「オブジェクトのリスト」が更新されます。
5. 「オブジェクトのリスト」でオブジェクトを見つけ出します。
6. オブジェクトをクリックしてから、「続行」をクリックするか、またはそのオブジェクトをダブルクリックします。

**注:** グリッドを使わないと、オブジェクトをダブルクリックすることはできません。

「照会結果のフォーマット (Format Query Results)」ページが表示されます。このオプションの詳細は、『照会結果のフォーマット』の項を参照してください。

その他のオプションについて、以下に説明します。

## コントロール

表 64. 「オブジェクトのリスト」ページのコントロール

コントロール	説明
続行	次ページを開きます。
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されます。
ホーム	[このコントロールは使用できません。]
保管	[このコントロールは使用できません。]
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。
オプション	<p>「オプション」ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・フィール)</li> <li>• 照会結果</li> <li>• HTML 報告書</li> <li>• ページ・フォーマット</li> <li>• LOB</li> <li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li> <li>• エクスポート済みの csv データ</li> </ul> <p>これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。</p>
実行	<p>選択したオブジェクト (照会または表) が実行されます。オブジェクトが実行され、「照会結果のフォーマット (Format Query Results)」ページが表示されます。ここでは、結果の処理方法 (書式または報告書の作成) を指定します。このオプションの詳細は、『照会結果のフォーマット』の項を参照してください。</p>
編集	<p>「照会の編集」ページを表示し、選択したオブジェクト (照会または表) を編集します。このオプションの詳細は、『照会の編集』の項を参照してください。</p>

表 64. 「オブジェクトのリスト」 ページのコントロール (続き)

コントロール	説明
削除	選択したオブジェクト (照会または表) を削除します。 注: このオプションを選択すると、削除と削除の確認のプロンプトが表示されます。
SQL 照会の作成	SQL ステートメントの入力用の SQL 照会ページが表示されます。このオプションの詳細は、『SQL 照会の作成』の項を参照してください。
指示照会の作成	照会の作成に使用する表、列、結合、ソート、および行の条件を選択するための「指示照会」ページが表示されます。このオプションの詳細は、『指示照会の作成』の項を参照してください。

## SQL 照会の編集

「オブジェクトのリスト」 ページで SQL 照会を編集することができます。照会とは、データベースから検索するデータの結果セットの記述のことです。

### フィールド

#### Owner.Name のテキスト

照会のテキストを編集するには、「Owner.Name のテキスト」フィールドを使います。

注: このダイアログには「[ ] のテキスト」という表題が付きますが、[ ] には以下のように照会名が入ります。

DB2ADMIN.GRID のテキスト

### 手順

1. 編集したい照会を選択します。
2. 「編集」をクリックします。  
「SQL 照会の編集」ページが表示されます。このページには、照会に関連した SQL が示されます。
3. SQL テキストを更新します。
4. 「続行」をクリックします。  
「照会結果のフォーマット (Format Query Results)」ページが表示されます。

## コントロール

表 65. 「SQL 照会の編集」ページのコントロール

コントロール	説明
続行	次ページを開きます。
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されません。
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	現在の照会をデータベースに保管します。この機能は、どのページでも使えるわけではありません。
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。
オプション	「オプション」ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・フィール)</li><li>• 照会結果</li><li>• HTML 報告書</li><li>• ページ・フォーマット</li><li>• LOB</li><li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li><li>• エクスポート済みの csv データ</li></ul> これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。

---

## SQL 照会の作成

「オブジェクトのリスト」ページで SQL 照会を作成することができます。このオプションは、随時の SQL 照会を作成します。照会とは、データベースから検索するデータの結果セットの記述のことです。

## フィールド

### SQL ステートメントを入力

新規の照会のテキストを入力するには、入力フィールドを使います。

## 手順

1. 「オブジェクト・リスト」ページの「**SQL 照会の作成**」をクリックします。  
「SQL 照会」ページが表示されます。
2. 照会のテキストを入力します。
3. 「**続行**」をクリックして照会を実行します。  
「照会結果のフォーマット (Format Query Results)」ページが表示されます。

## コントロール

表 66. 「SQL 照会の作成」ページのコントロール

コントロール	説明
続行	照会を実行します。
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されます。
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	現在の照会をデータベースに保管します。この機能は、どのページでも使えるわけではありません。
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。
オプション	「オプション」ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・ファイル)</li><li>• 照会結果</li><li>• HTML 報告書</li><li>• ページ・フォーマット</li><li>• LOB</li><li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li><li>• エクスポート済みの csv データ</li></ul> これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。



## オブジェクトの保管

「保管」が使用可能になっているのであれば、どのページから「保管」をクリックしても、「オブジェクトの保管」ページが表示されます。

### フィールド

#### 照会の所有者

保管しようとしているオブジェクトの所有者。

#### 照会名

保管しようとしているオブジェクトの名前。

#### 注釈

オブジェクトを説明する最大 80 字の注釈。このフィールドは、ブランクのままにしてもかまいません。

#### 照会を他のユーザーと共有する

これにチェックを付けると、他のユーザーも照会を使用できるようになります。

#### 照会がすでに存在する場合は置換する

これにチェックを付けると、同じ所有者と名前を共有するすべての照会が置き換えられます。

### 手順

1. 「照会の所有者」と「照会名」を定義します。
2. オプションで、「注釈」フィールドに照会を説明する注釈を追加します。
3. 照会を共有可能にするかどうかを指定します。
4. 同一名の付いた照会がある場合に、それを置き換えるかどうかを定義します。  
オブジェクトが保管されたことを知らせるメッセージが表示されます。

### コントロール

表 67. 「オブジェクトの保管」ページのコントロール

コントロール	説明
続行	照会または指示照会を保管します。
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されません。
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	[このコントロールは使用できません。]

表 67. 「オブジェクトの保管」 ページのコントロール (続き)

コントロール	説明
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。
オプション	<p>「オプション」 ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・フィール)</li> <li>• 照会結果</li> <li>• HTML 報告書</li> <li>• ページ・フォーマット</li> <li>• LOB</li> <li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li> <li>• エクスポート済みの csv データ</li> </ul> <p>これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。</p>

## 指示照会の作成

「オブジェクトのリスト」 ページで、指示照会を作成することができます。指示照会とは、照会を構成するコンポーネントのグラフィカル表現のことです。SQL 構文に慣れていない場合は、「指示照会」 ページを使って照会を作成して編集してください。

指示照会を作成するには、表と列という少なくとも 2 つのコンポーネントが必要です。指示照会用に複数の表を選択する場合、結合条件を指定する必要があります。行条件とソート条件はオプションです。

「指示照会の作成」 ページは、論理的な順序でレイアウトされた書式です。続くセクションでは、指示照会を形成する各エレメントごとに必要な入力フィールドを特定することで、この書式のすべての項目を記入する方法を説明しています。

## 表の追加

指示照会内の表の名前を表示します。データを検索する表は、指示照会に指定する最初のエレメントになります。指示照会を実行するには、このリストに少なくとも 1 つの表が入っていないければなりません。

**注:** 作成機能を選択するとき、指示照会に関連付けられている表はありません。列、結合条件、ソート条件、および行条件を追加できるよう、あらかじめ少なくとも 1 つ

の表を指示照会に追加しておかなければなりません。それらのフィールドは、指示照会に表を追加するまで使用不可になっています。

「指示照会の作成」ページから「表の追加」をクリックすると、「表の追加」ページが表示されます。このページを使って、新しい指示照会に追加する表を識別します。

## フィールド

### 追加する表の選択

指示照会に表を追加するときの基準を指定します。選択項目は次のとおりです。

表 68. 表の選択基準

表の基準	説明
表の所有者	照会に組み込もうとしている表の所有者。ワイルドカードとして % を使うことができます。
名前	照会に組み込もうとしている表の名前。ワイルドカードとして % を使うことができます。

### オブジェクト・リストのソート方法

指示照会に追加する表をソートする基準を指定します。選択項目は次のとおりです。

表 69. 表のソート基準

ソート基準	説明
所有者と名前	オブジェクトのリストを所有者と名前にアルファベット順にソートします。
注釈	オブジェクトに関連した注釈にオブジェクトのリストをアルファベット順にソートします。 <b>注:</b> すべてのオブジェクトに注釈があるわけではありません。

## 手順

1. 指示照会に追加したい表の所有者 と表名 を入力します。
2. ソート・オプションをクリックし、所有者と名前 または注釈 に指示照会内の表をソートします。
3. 「続行」をクリックします。  
「表の選択」ページが表示されます。このページは、所有者、名前、および注釈の表のリストも含め、「オブジェクトのリスト」ページと同じ情報を示します。
4. 表をダブルクリックするか、または表を選択してから、「続行」をクリックします。

「指示照会の作成」ページに戻ります。該当する表がリスト中に示されます。次に、選択した表にある列を指定して、指示照会に組み入れることができます。詳細は、『列の追加』を参照してください。

## 列の追加

「指示照会の作成」ページから「列の追加」をクリックすると、「列の追加」ページが表示されます。

このページを使って、選択した表からどの列を新しい指示照会に追加するかを識別します。

### フィールド

#### 列の選択

指示照会に追加する列を選びます。表示される列は、選択した表の列です。複数の表を選択した場合、各表の列ごとに接頭部が付けられます。例を以下に示します。

A.TEMPID  
A.NAME  
A.ADDRESS  
B.TEMPID  
B.NAME  
B.INTDATE  
B.STARTDATE

複数の列を選択する場合は、**Ctrl** キーを使うことができます。

#### 式の入力

(または式をここに入力します。) 選択した列に対していずれかの種類のアクションを実行するには、SQL 式を入力します。例を以下に示します。

Q.ID+10

この式は、各 ID に 10 を加算します。

#### 新規列名

このフィールドでは、列の名前を変更することができます。新規列名は、結果セットに組み入れられます。たとえば、A.OBJECTLEVEL を AUTHORIZATION に変更することができます。これを使うと、結果セットの列の名前を変更できますが、表に変更は及びません。

#### 合計機能

合計機能を使うと、列に関するさまざまな種類の要約情報を得ることができます。たとえば、部署の平均給与を判別するには、列 (Q.SALARY) を選択してから要約タイプ (AVERAGE) を選択します。以下の要約を使うことができます。

- 平均
- カウント
- 最大
- 最小
- 合計

## 手順

1. 列リストで、指示照会に追加したい 1 つ以上の列を選択します。それらの列は、選択した 1 つ以上の表からとられます。

また、**Ctrl** キーを使って、複数の列を選択することもできます。

2. あるいは、式を入力することもできます。

3. 「**続行**」をクリックします。

「指示照会の作成」ページに戻ります。該当する列がリスト中に示されます。

[オプション] 指示照会内の表をリンクする結合条件を指定することができます。これが必要になるのは、複数の表を選択した場合に、それらの表に一致する列があるときです。このオプションの詳細は、『結合条件の追加』の項を参照してください。

[オプション] 1 つ以上の表に組み込まれている列に基づいて照会結果を編成するよう、ソート条件を指定することができます。このオプションの詳細は、『ソート条件の追加』の項を参照してください。

[オプション] 照会結果に戻す行を特定する行条件を指定することができます。このオプションの詳細は、『行条件の追加』の項を参照してください。

## 結合条件の追加

照会内で表同士を接続するのに使用する結合条件が表示されます。複数の表を追加するときは、各表ごとに少なくとも 1 つの結合条件を指定する必要があります。少なくとも 1 つの結合条件に属さない表はすべて、自動的に照会から削除されます。

「指示照会の作成」ページから「**結合条件の追加**」をクリックすると、「結合条件」ページが表示されます。結合条件は、照会内の表を接続するのに使用されます。結合条件は、表の相互関係を指定します。

**注:** 指示照会用に表が 1 つだけ選択されると、このコントロールは使用不可になります。

## フィールド

**表 [ ]:** 左右の列リストには、作成する結合条件の対象になる各表内の列が一覧で示されます。

**注:** それぞれの列の、値の等しい行が結合されます。

## 手順

1. 左右に表示されているそれぞれの表の列のリストから 1 つの列をクリックします。それぞれの表から値の等しい列を選択します。たとえば、以下の表の場合、NAME で結合できます。

表 70. 結合条件の例

表 [ A ]	表 [ B ]
OWNER (CHARACTER) NAME (CHARACTER) TYPE (CHARACTER) SEQ (NUMERIC)	TEMPID (NUMERIC) NAME (CHARACTER) ADDRESS (CHARACTER) EDLEVEL (NUMERIC)

2. 「続行」をクリックします。

「指示照会の作成」ページが表示されます。結合条件が一覧で示されます。

[オプション] 1 つ以上の表に組み込まれている列に基づいて照会結果を編成するよう、ソート条件を指定することができます。このオプションの詳細は、『ソート条件の追加』の項を参照してください。

[オプション] 照会結果に戻す行を特定する行条件を指定することができます。このオプションの詳細は、『行条件の追加』の項を参照してください。

## ソート条件

「指示照会の作成」ページから「ソート条件の追加」をクリックすると、「ソート条件」ページが表示されます。ソート条件は、表に組み込まれている列に基づいて照会結果を編成するのに使われます。たとえば、次のような結合された 2 つの表 (A および B の接頭部が付いています) の列を選択した場合、そのうちの 1 つの列を選んで、照会結果をソートするのに使います。

注: 指示照会では、ソート条件はオプションです。

表 71. ソート条件の例

ソートする列
A.OWNER (CHARACTER) A.NAME (CHARACTER) A.TYPE (CHARACTER) A.SEQ (NUMERIC) A.APPLDATA (LONG VARCHAR FOR BIT DATA) B.TEMPID (NUMERIC) B.NAME (CHARACTER) B.ADDRESS (CHARACTER) B.EDLEVEL (NUMERIC) B.COMMENTS (CHARACTER)

複数の列を対象にソートすると、結果はまず最初のソート条件でソートされ、次に最初の条件の範囲内で 2 番目のソート条件でソートされる、という順序で処理されます。以下の例では、1 次ソートがマネージャー (降順)、次が給与 (昇順)、最後に名前 (降順) という順番です。

表 72. ソート条件の例

マネージャー	給与	名前
Salloum	\$50,000 \$57,500 \$60,000	Sweeney Parker Demoura Zidonis Blair Albright Albrizio LeVine Coughlin
Graham	\$48,000	Sullivan Romano
Entwistle	\$40,000 \$45,000	Orr Gretzky Buckner

## フィールド

### ソート条件列の選択

照会結果の編成でのソート条件を定義するために表 (または結合表) から選択した列の一覧が示されます。

### 昇順 / 降順

次のオプションのうちの 1 つをクリックします。

- 「昇順」。指定の列と表別に照会結果を昇順 (1, 2, 3, 4...; A, B, C, D...) でソートします。
- 「降順」。指定の列と表別に照会結果を降順 (10, 9, 8, 7...; Z, Y, X, W...) でソートします。

### 手順

1. ソート条件を定義する対象の列をクリックします。  
選択した 1 つ以上の表の各列が、列リストに表示されます。

**注:** ソート条件ごとに複数の列を選択することができます。

2. 照会結果を下から上にソートする (1, 2, 3, 4...; A, B, C, D...) には、「昇順」をクリックします。
3. 一方、照会結果を上から下にソートする (10, 9, 8, 7...; Z, Y, X, W...) には、「降順」をクリックします。
4. 「続行」をクリックします。  
「指示照会の作成」ページが表示されます。ソート条件が一覧で示されます。

[オプション] 照会結果に戻す行を特定する行条件を指定することができます。このオプションの詳細は、『行条件』の項を参照してください。

## 行条件

「指示照会の作成」ページから「**行条件の追加**」をクリックすると、「行条件」ページが表示されます。照会結果にどの行を組み入れるかを指定するのに、このオプションを使います。SQL ユーザーが行条件を追加するのは、照会の WHERE 文節に述部を追加するのと同じです。

注: 指示照会では、行条件はオプションです。

### フィールド

#### 列の選択

照会に組み入れられた列の一覧が示されます。

使用可能な列のリストから列を選択するか、またはご使用のデータベース・サーバーに有効な式を入力することができます。

### IS/IS NOT

式の演算子を指定するには、「**である**」または「**でない**」をクリックします。たとえば、「**等しくない**」を指定するには、「**でない**」をクリックしてから、「**等しい**」演算子を選択します。

列式が数値の場合、「**で始まる**」、「**で終わる**」、または「**CONTAINING**」演算子を使用できません。

すべての条件を「**である**」に結び付けると、すべての行条件を満たす行のみがデータベース・サーバーから戻されます。すべての条件を「**でない**」に結び付けると、行条件を満たすすべての行がデータベース・サーバーは除外します。

注: この切り替え（「**である**」または「**でない**」および下記の付随条件）は、このページの右側のフィールド（p1 ~ p6 のラベルの付いたフィールド）と一緒に機能します。

### 条件

条件には次のようなものがあります。

- **Equal to (p1) or (p2) or (p3)...or (p6) ((p1) または (p2) または (p3)...または (p6) に等しい)**

6 個までの式を入力します。ここで複数の式を指定すると、OR 結合子を使って複合行条件が作成されます。たとえば、ID = 10 Or 20 Or 30 Or 40 となります。

- **Less than (p1) ((p1) より小)**  
1 つの式を指定します。
- **Less than or equal to (p1) ((p1) 以下)**



1 つの式を指定します。

- **Greater than (p1) ((p1) より大)**

1 つの式を指定します。

- **Greater than or equal to (p1) ((p1) 以上)**

1 つの式を指定します。

- **Between (p1) and (p2) ((p1) と (p2) の間)**

2 つの式を入力します。たとえば、ID Between 10 And 20 と入力します。

- **Starting with (p1) or (p2) ((p1) または (p2) で始まる)**

6 個までの式を入力します。ここで複数の式を指定すると、OR 結合子を使って複合行条件が作成されます。たとえば、ID = 10 Or 20 Or 30 Or 40 となります。

- **Ending with (p1) or (p2) ((p1) または (p2) で終わる)**

1 つの式を指定します。

- **Containing (p1) or (p2) ((p1) または (p2) を含む)**

6 個までの式を入力します。ここで複数の式を指定すると、OR 結合子を使って複合行条件が作成されます。たとえば、ID = 10 Or 20 Or 30 Or 40 となります。

- **NULL (ヌル)**

演算子が NULL の場合は、式を入力することはできません。

## p1 - p6

選択した条件に基づいて、これらの各入力フィールドに、データベース・サーバーに有効な列または式を入力します。

**注:** 式内では、適切な ID (表の所有者、表名、または列名) を使用します。文字値は、適切な引用符で囲みます。

列名を含むオブジェクト所有者およびオブジェクト名。表の所有者と表名の最大長は、DB2 のバージョンとプラットフォームによって異なります。

通常の文字には、大文字、数字、または \_ @ # \$ の各文字などがあります。特殊文字はすべて、引用符で囲みます。ID 内で引用符が使われている場合、引用符文字を 1 つずつ二重化したうえで、ID 全体を引用符文字で囲みます。たとえば、ID の pro'ject の場合、"pro'ject" と入力します。

小文字を使用し、かつ ID を引用符で囲まないと、どの小文字も大文字に変換されません。

## ここに式を入力します

これらの各入力フィールドに、データベース・サーバーに有効な式を入力します。式内では、適切な ID (表の所有者、表名、または列名) を使用し、適切な引用符文字でその文字値を囲みます。

## 手順

1. データベースから戻される照会結果を限定するための条件を設定したい列をクリックします。

照会に組み入れられた列の一覧が、列ウィンドウに示されます。

2. 式の演算子として「である」または「でない」をクリックします (3 のステップに説明されています)。

3. ページの右側にあるフィールド (p1 - p6) と連携して機能する任意の条件をクリックします。各条件について、その関連フィールドが特定されています。

条件には次のようなものがあります。

- Equal to (p1) or (p2) or (p3)...or (p6) ((p1) または (p2) または (p3)...または (p6) に等しい)
- Less than (p1) ((p1) より小)
- Less than or equal to (p1) ((p1) 以下)
- Greater than (p1) ((p1) より大)
- Greater than or equal to (p1) ((p1) 以上)
- Between (p1) and (p2) ((p1) と (p2) の間)
- Starting with (p1) or (p2) ((p1) または (p2) から始まる)
- Ending with (p1) or (p2) ((p1) または (p2) で終わる)
- Containing (p1) or (p2) ((p1) または (p2) を含む)
- NULL (ヌル)

**注:** それぞれの条件とそれに関連した入力フィールドの詳細は、上記の『条件』の項を参照してください。

4. 選択した条件に基づいて、「行条件」ページの各フィールド (p1 - p6) に値を入力します。

**注:** 式内では、適切な ID (表の所有者、表名、または列名) を使用します。文字値は、適切な引用符で囲みます。

5. 「ここに式を入力します」フィールドには、データベースから戻される照会結果を限定するための SQL 式を入力します。

6. 「続行」をクリックします。

「指示照会の作成」ページが表示されます。

7. 「続行」をクリックします。

「照会のフォーマット」ページが表示されますが、このページは、「行条件」の情報に合わせてすでに更新されています。

## コントロール

表 73. 「指示照会の作成」のコントロール

コントロール	説明
追加	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>表</b> 指示照会に表を追加するのに使用する「表の追加」ページが表示されます。SQL ユーザーにとって、これは、FROM 文節を使って照会に表を追加するのと同じです。表が追加されると QMF Query for Java は、それに相関 ID に割り当てます。このオプションの詳細は、『表の追加』の項を参照してください。</li><li>• <b>列</b> 照会結果に列を追加するのに使える「列の追加」ページが表示されます。このオプションの詳細は、『列の追加』の項を参照してください。</li><li>• <b>結合条件</b> 「結合条件の追加」ページが表示されます。SQL ユーザーにとって、これは、照会内の WHERE 文節に結合述部を追加するのと同じです。このオプションの詳細は、『結合条件の追加』の項を参照してください。</li><li>• <b>ソート条件</b> 「ソート条件の追加」ページが表示されます。このオプションの詳細は、『ソート条件の追加』の項を参照してください。</li><li>• <b>行条件</b> 「行条件の追加」ページが表示されます。このオプションの詳細は、『行条件の追加』の項を参照してください。</li></ul>
編集	<p>指示照会内の列記述、結合条件、ソート条件、または行条件を更新します。</p> <p><b>注:</b> このコントロールは、表には使用できません。</p>

表 73. 「指示照会の作成」のコントロール (続き)

コントロール	説明
削除	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>表の場合</b>                      選択した表が指示照会から削除されます。指示照会から削除しようとしている表を参照する他のすべての関連エレメント (結合条件、列、ソート条件、および行条件を含む) が、自動的に削除されます。</li> <li>• 列、結合条件、ソート条件、または行条件を指示照会から除去します。</li> </ul> <p><b>注:</b> このオプションを選択すると、削除と削除の確認のプロンプトが表示されます。</p>
上へ移動	<p>リスト内で選択した表、列、結合条件、ソート条件、または行条件を上へ移動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 表 を移動すると、複数の表の結合順序に影響を与えます。</li> <li>• 最初の列 順序は、表からとられます。</li> <li>• 結合条件 は、この表順序をベースにします。</li> <li>• ソート条件 は、基本およびその後のソートを制御します。</li> </ul>
下へ移動	<p>リスト内で選択した表、列、結合条件、ソート条件、または行条件を下へ移動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 表 を移動すると、複数の表の結合順序に影響を与えます。</li> <li>• 最初の列 順序は、表からとられます。</li> <li>• 結合条件 は、この表順序をベースにします。</li> <li>• ソート条件 は、基本およびその後のソートを制御します。</li> </ul>
続行	照会を実行します。
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されます。
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	[このオプションは使用できません。]
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。

表 73. 「指示照会の作成」のコントロール (続き)

コントロール	説明
オプション	<p>「オプション」ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・フィール)</li> <li>• 照会結果</li> <li>• HTML 報告書</li> <li>• ページ・フォーマット</li> <li>• LOB</li> <li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li> <li>• エクスポート済みの csv データ</li> </ul> <p>これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。</p>

## 照会結果のフォーマット

照会結果の出力方法を定義するには、「照会結果のフォーマット (Format Query Results)」ページを使います。選択項目には、特定の種類の報告書の生成、特定の種類の書式の使用、または結果のエクスポートがあります。また、このページを使用して、報告書の内容をフォーマットする方法も定義します。

書式とは、報告書の作成に再使用できるテンプレートのことです。たとえば、個々の見出しとテキストを備えた表形式の情報を表示して、データを詳述することができます。それ以外にも、表示するデータのタイプを制御するのに書式を使えば、提示する相手によって、同じ照会に関してそれぞれ異なる報告書を生成することができます。また、HTML 報告書を作成することもできます。

このページが表示されるのは、以下の場合です。

- 「オブジェクトのリスト」ページのオブジェクトをダブルクリックした場合
- 「オブジェクトのリスト」ページのオブジェクトをクリックしてから、「**続行**」または「**実行**」をクリックした場合
- 「SQL 照会の作成」ページまたは「指示照会の作成」ページから「**続行**」をクリックした場合

## フィールド

### フォーマット・オプション

報告書のフォーマットに使う書式または方式を選択します。報告書の生成、書式の適用、またはスプレッドシートへの結果のエクスポートを行うことができます。

- **デフォルト報告書を作成する**

汎用書式オプションを使って、照会用の新しい報告書を生成します。このオプションの詳細は、『報告書のリスト』の項を参照してください。

- **照会報告書を作成する**

照会結果に適用したフォーマットを使って、照会用の新しい報告書を生成します。このオプションの詳細は、『報告書のリスト』の項を参照してください。

- **データベースから QMF 書式を適用する**

データベース・サーバーに保管されているものから選択した書式を使って、報告書を生成します。このオプションの詳細は、『書式の適用』の項を参照してください。

- **ファイルから QMF 書式を適用する**

ローカル・コンピューターにファイルとして保管されているものから選択した書式を使って、報告書を生成します。このオプションの詳細は、『書式の適用』の項を参照してください。

- **テキスト・ファイル (\*.txt) にデータをエクスポート**

プレーン・テキスト (plain text) ファイルとしてデータを保管します。テキスト・ファイルをエクスポートすると、ASCII テキスト・ファイルが作成されます。通常このフォーマットは、スプレッドシート・アプリケーションやワード・プロセッシング・アプリケーションに情報をエクスポートするのに使います。このオプションの詳細は、『データのエクスポート』の項を参照してください。

- **スプレッドシート・ファイル (\*.csv) にデータをエクスポート**

CSV エクスポートは、テキスト・エクスポートに似ていますが、コンマを列区切り文字として使用します。このフォーマットは、スプレッドシート・アプリケーションで普通に用いられます。このオプションの詳細は、『データのエクスポート』の項を参照してください。

- **データベース・ファイルにデータをエクスポートする**

データベースにデータをエクスポートします。表所有者、表名、表スペース、およびその他の詳細を含め、エクスポートのターゲットを定義する必要があります。このオプションの詳細は、『データベースへのエクスポート』の項を参照してください。

## **報告書のフォーマット**

選択した報告書をフォーマットするオプションを選択します。選択項目は次のとおりです。

- **プレーン・テキスト (plain text)**

選択した報告書または書式が、プレーン・テキスト (plain text) フォーマット (\*.txt) にフォーマットされます。次ページに、該当する場合にこのフォーマットで生成できる報告書または書式のリストが示されています。

- **HTML テキスト**

選択した報告書または書式を HTML フォーマット (\*.htm) にフォーマットします。これは、ブラウザーに適したフォーマットですが、特殊な見出し、表、およびその他

のフォーマット・フィーチャーの見地から見るとおおむね未フォーマットです。次ページに、該当する場合にこのフォーマットで生成できる報告書または書式のリストが示されています。

- **HTML 表**

見出しとその他のフォーマット・フィーチャーを使って、選択された報告書または書式を、構造化された HTML 表にフォーマットします。次ページに、該当する場合にこのフォーマットで生成できる報告書または書式のリストが示されています。

- **図表**

## 手順

1. 報告書、書式、またはエクスポート・ファイルのいずれかの、照会結果をフォーマットする方式を選択します。
2. 報告書をフォーマットするタイプを選択します。テキストまたは HTML のどちらかです。
3. 「**続行**」をクリックします。

## コントロール

表 74. 「照会のフォーマット」ページのコントロール

コントロール	説明
続行	次ページを開きます。
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されます。
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	[このコントロールは使用できません。]
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。

表 74. 「照会のフォーマット」 ページのコントロール (続き)

コントロール	説明
オプション	<p>「オプション」 ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・ファイル)</li> <li>• 照会結果</li> <li>• HTML 報告書</li> <li>• ページ・フォーマット</li> <li>• LOB</li> <li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li> <li>• エクスポート済みの csv データ</li> </ul> <p>これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。</p>

## 報告書のリスト

「照会結果のフォーマット (Format Query Results)」 ページでデフォルト報告書、または照会報告書を生成した後に、「**続行**」をクリックすると、「報告書のリスト」 ページが表示されます。このページには、現行セッションで生成した報告書の一覧が示されます。

## フィールド

### 使用可能な報告書

このページには、選択したフォーマット・タイプとフォーマット・オプションに基づいて報告書の一覧が示されます。生成した報告書をフォーマットするとき、これらの報告書のうちのいずれかをテンプレートとして使用することができます。

## 手順

使用したい報告書のリンクをクリックします。その報告書は、カスタマイズ可能なテンプレートになります。

フォーマットした報告書は、表示、保管、印刷、または送信 (E メールで) のために、別のブラウザー・ウィンドウに表示されます。



## コントロール

表 75. 「報告書のリスト」 ページのコントロール

コントロール	説明
続行	[このオプションは使用できません。]
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されます。
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	[このコントロールは使用できません。]
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。
オプション	「オプション」ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・フィール)</li><li>• 照会結果</li><li>• HTML 報告書</li><li>• ページ・フォーマット</li><li>• LOB</li><li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li><li>• エクスポート済みの csv データ</li></ul> これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。

---

## 書式の適用

「照会結果のフォーマット (Format Query Results)」ページで「データベースから QMF 書式を適用」オプションを選択した後、「続行」をクリックすると、「書式の適用」ページが表示されます。

### フィールド - データベースの書式の適用

「データベースから QMF 書式を適用」オプションを選択すると、「オブジェクトのリスト」ページと類似したページが表示されます。照会結果のテンプレートとして使用するデータベース書式を検索するには、フィールドを使います。

書式とは、報告書の作成に再使用できるテンプレートのことです。たとえば、個々の見出しとテキストを備えた表形式の情報を表示して、データを詳述することができます。それ以外にも、表示するデータのタイプを制御するのに書式を使えば、提示する相手によって、同じ照会に関してそれぞれ異なる報告書を生成することができます。また、HTML 書式を作成することもできます。

報告書を生成したら、それを表示したり、印刷したり、ファイルにエクスポートしたり、WWW で公開したりすることができます。

## 所有者

書式の所有者。

## 名前

書式の名前。データベースに存在しているとおりの名前です。

たとえば次のように、書式を見つけ出すのに "like" 情報を指定することができます。

```
Forms with an owner like: DB2ADMIN  
and a name like: EOY_REPORT_FORM
```

## リストの書式のソート順

データベースから抽出する書式のリストのソート条件を指定します。「所有者と名前」または「注釈」から選択することができます。

**注:** 注釈とは、書式の説明です。注釈の長さは、最大 80 字です。注釈はオプションです。

## 書式リスト

この表は、基準 (所有者と表名、または注釈) を満たす書式の一覧を示します。書式は、所有者と名前で、または注釈でソートされます。

オブジェクトの所有者と名前が一覧で示されます。注釈がある場合は、これも表示されます。一覧に示されるオブジェクトは、所有者と名前または注釈に、降順のアルファベット順に並べられます。

## 手順

1. 書式の所有者および書式名を入力します。どちらのフィールドでも、ワイルドカードとして % を使えば、すべての書式を選択することができます。
2. 検索結果をどのようにソートすればよいかを指定します。
  - 所有者と名前
  - 注釈
3. 「最新表示」をクリックし、入力した基準を満たす書式のリストを更新します。
4. 書式をダブルクリックするか、または選択してから、「続行」をクリックします。

その書式は、生成される報告書出力のテンプレートとして使用されます。

フォーマットした報告書は、表示、保管、印刷、または送信 (E メールで) のために、別のブラウザー・ウィンドウに表示されます。

## フィールド - ファイルの書式の適用

「ファイルから QMF 書式を適用」を選択すると、ブラウズ・ページが表示されます。入力フィールドを使って、書式の保管先のファイルをブラウズします。こうして、照会結果のテンプレートとして使用する書式を検索することができます。

書式とは、報告書の作成に再使用できるテンプレートのことです。たとえば、個々の見出しとテキストを備えた表形式の情報を表示して、データを詳述することができます。それ以外にも、表示するデータのタイプを制御するのに書式を使えば、提示する相手によって、同じ照会に関してそれぞれ異なる報告書を生成することができます。また、HTML 書式を作成することもできます。

報告書を生成したら、それを表示したり、印刷したり、ファイルにエクスポートしたりすることができます。

### ブラウズ

書式ファイル名のパスを入力します。すると、書式ファイルが検索されて、生成した照会のテンプレートとしてこれを使用することができます。

## 手順

1. 「ブラウズ」をクリックし、ディレクトリー内で書式ファイルを見つけ出します。3 のステップに進みます。
2. 書式ファイルの位置が分かっている場合は、入力フィールドにそのパスを入力します。3 のステップに進みます。
3. 書式をダブルクリックするか、または選択してから、「続行」をクリックします。その書式は、生成される報告書出力のテンプレートとして使用されます。

フォーマットした報告書は、表示、保管、印刷、または送信 (メールで) のために、別のブラウザー・ウィンドウに表示されます。

## コントロール

表 76. 「書式の適用」 ページのコントロール

コントロール	説明
続行	次ページを開きます。
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されません。

表 76. 「書式の適用」 ページのコントロール (続き)

コントロール	説明
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	[このコントロールは使用できません。]
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。
オプション	<p>「オプション」ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・フィール)</li> <li>• 照会結果</li> <li>• HTML 報告書</li> <li>• ページ・フォーマット</li> <li>• LOB</li> <li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li> <li>• エクスポート済みの csv データ</li> </ul> <p>これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。</p>

## データのエクスポート

照会結果が生成されてから、「テキスト・ファイル (\*.txt) にデータをエクスポート」オプション、または「スプレッドシート・ファイル (\*.csv) にデータをエクスポート」オプションを選択して、「続行」をクリックすると、「報告書のリスト」ページが表示されます。このページには、現行セッションで生成した報告書の一覧が示されます。

## フィールド

### 使用可能な報告書

このページには、選択したファイル・タイプに基づいて報告書の一覧が示されます。スプレッドシートをフォーマットするとき、これらの書式のうちのいずれかをテンプレートとして使用することができます。

## 手順

書式を選択して「続行」をクリックするか、またはスプレッドシートで使用する書式をダブルクリックします。

- データを **\*.txt** フォーマットでスプレッドシートにエクスポートすると、ブラウザー・ウィンドウにそのスプレッドシートが表示されます。この書式内のデータはコンマで区切られていて、その内容は固定ピッチの未フォーマット・フォントで表示されます。
- **\*.csv** ファイル・フォーマット (コンマ区切り値) の書式を選択した場合、ファイルをダウンロードするようプロンプトで指示されます。ファイルを開くか、またはたとえば Excel フォーマットでファイルをディスクに保管するよう指定します。

## コントロール

表 77. 「データのエクスポート」 ページのコントロール

コントロール	説明
続行	[このコントロールは使用できません。]
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されます。
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	[このコントロールは使用できません。]
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。
オプション	<p>「オプション」ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・フィール)</li> <li>• 照会結果</li> <li>• HTML 報告書</li> <li>• ページ・フォーマット</li> <li>• LOB</li> <li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li> <li>• エクスポート済みの csv データ</li> </ul> <p>これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。</p>

---

## データベース表にデータをエクスポート

照会結果が生成されてから、「データベース表にデータをエクスポート」オプションを選択して、「続行」をクリックすると、「データベース表へのエクスポート」ページが表示されます。この書式を使って、エクスポートのオプションを指定します。それには、表の所有者と名前、表を作成するための表スペース、およびデータの処理とエクスポートに関するさまざまなオプションがあります。

### フィールド

#### 表の所有者

データのエクスポート先の表の所有者。

#### 表名

データのエクスポート先の表の名前。

#### 表スペース

指定した表を作成する表スペース（まだ存在していない場合）の名前。

#### 注釈

表のデータを説明する最大 80 字の注釈。このフィールドは、ブランクのままにしてもかまいません。

#### 表の既存データを処理方法

「表の既存データの処理方法」フィールドでは、エクスポート後のデータをどのように表に追加するかを指定します。次のオプションのうちの 1 つを選びます。

- 既存のデータを置換

このオプションは、表内のデータを、生成したばかりのデータで置き換えます。

- 既存のデータに追加

このオプションは、新たに生成したデータを、表内の既存のデータに追加します。

#### どの方式でデータを保管しますか？

このオプションは、エクスポート後のデータを表に追加する方法を指定します。オプションは次のとおりです。

- 通常

通常を選択すると、データの各行ごとに *"INSERT ... VALUES ..."* ステートメントを実行します。この方式を使うと、データの行ごとに INSERT ステートメントが別々に実行されます。

- 高速

高速を選択すると、単一の *"INSERT ... SELECT ..."* ステートメントを実行します。この方式を使用すると、エクスポートされたデータ行全体に対して INSERT ステートメントが 1 つだけ適用されます。

## コミットに挿入する行の最大数を指定:

変更をデータベースに対してコミットする前に表に挿入する行数。

### 手順

1. データをエクスポートするデータベース上の表所有者と表名を指定します。ワイルドカードとして % を使うことができます。
2. 指定した表を作成する表スペース (まだ存在していない場合) の名前を入力します。
3. [オプション] この報告書に関する注釈を入力します。
4. 既存の表へのデータのエクスポートを扱う方法、つまり既存データの置換または追加を指定します。
5. データの保管方法を指定します。「通常」方式または「高速」方式のどちらかを使用します。
6. 変更をコミットする前にデータベースに挿入する行数を指定します。  
該当する場合はエクスポート操作後に、データが保管されたことを知らせるメッセージが表示されます。

### コントロール

表 78. 「データベース表へのエクスポート」ページのコントロール

コントロール	説明
続行	次ページを開きます。
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されます。
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	[このコントロールは使用できません。]
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。

表 78. 「データベース表へのエクスポート」 ページのコントロール (続き)

コントロール	説明
オプション	<p>「オプション」 ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・ファイル)</li> <li>• 照会結果</li> <li>• HTML 報告書</li> <li>• ページ・フォーマット</li> <li>• LOB</li> <li>• エクスポート済みのテキスト・データ</li> <li>• エクスポート済みの csv データ</li> </ul> <p>これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。</p>

## 書式変数の定義

変数を必要とする書式を選択すると、「書式変数」 ページが表示されます。このページでは、QMF 書式または QMF オプション内に出現する未解析の変数用の値を指定します。

「書式変数」では、特定の情報または最新の情報を報告書に記載するために、値を入力するようプロンプトが出されます。たとえば、書式には、ADDRESSEE または START\_ID と END\_ID の変数が含まれているかもしれません。書式変数の値を入力するよう、実行時にプロンプトが出されます。

## フィールド

### 「変数」

この入力フィールドには、変数の名前がラベルとして付けられます。変数の値を入力し、先に進みます。変数は、書式に記載するデータや、スプレッドシートまたはデータベースにエクスポートするデータの範囲を狭めるのに役立ちます。

## 手順

1. 変数の値を指定します。
2. 「続行」をクリックします。



## コントロール

表 79. 「変数」 ページのコントロール

コントロール	説明
続行	次ページを開きます。
戻る	前ページに戻ります。入力した内容は取り消されます。
ホーム	照会を処理または作成するために、「オブジェクトのリスト」ページに戻ります。
保管	[このコントロールは使用できません。]
終了	QMF Query for Java を閉じ、現在のユーザーをログオフします。
ヘルプ	オンライン・ヘルプを表示します。
オプション	「オプション」ページが表示されます。このページでは、以下をカスタマイズすることができます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ユーザー・インターフェース (ルック・アンド・フィール)</li><li>• フォーマット</li><li>• HTML 報告書</li><li>• ページ・フォーマット</li><li>• LOB</li><li>• テキスト・データのエクスポート</li><li>• CSV データのエクスポート</li></ul> これらのオプションの詳細は、『オプション』の項を参照してください。

---

## オプション

DB2 にログオンした後、「オプション」をクリックすると、QMF Query for Java のユーザー・インターフェースをカスタマイズすることができます。

注: すべての設定はオプションです。

## 受け入れる

いずれかのオプションを更新したら、「受け入れる」 (V) をクリックし、変更内容をプレビューしてから先に進みます。こうすれば、「オプション」ページを終了しなくても結果を見ることができます。

## ユーザー・インターフェース

以下のオプションを使って、QMF Query for Java アプリケーションの外観を制御します。以下のようなオプションを設定することができます。

- 背景色
- 前景色
- グリッドを使用する
- メッセージ・ダイアログを使用する
- 「オブジェクトのリスト」の行の限度

### 背景色

QMF Query for Java のページの背景色を選択します。変更した内容は、現在のユーザーにとって永続的なものになります。取り消さないかぎり、その変更は、別のページに移動しても適用されます。

注: デフォルトは黄色です。

### 前景色

QMF Query for Java のフィールド・ラベルとタイトルの前景色を選択します。変更した内容は、現在のユーザーにとって永続的なものになります。取り消さないかぎり、その変更は、別のページに移動しても適用されます。

注: デフォルトは黒です。

### グリッドを使用する

アプレットを使用して、「オブジェクトのリスト」を表として表示するには、このボックスにチェックを付けます。チェックを付けないとオブジェクトは、Owner.Name フォーマットで HTML リストに一覧で示されます。

このオプションが便利なのは、ブラウザーがアプレットをサポートしていない場合や、英語以外の文字を表示するようにアプレットが構成されていない場合です。

注: デフォルトではチェックが付けられます。これは、グリッドを使用することを意味します。

### メッセージ・ダイアログを使用する

このオプションは、メッセージの表示方法を制御します。これにチェックを付けると、システム・メッセージは別のダイアログ・ボックスに表示されます。チェックを付けなかった場合、メッセージは、ページの右上に表示されます。

注: デフォルトではチェックが付けられます。これは、メッセージが別のダイアログ・ボックスに表示されるということです。

エラー・メッセージを別のウィンドウに表示できるのは、Java アプレットを実行できるブラウザの場合だけです。

### 「オブジェクトのリスト」の行の限度

このオプションでは、「オブジェクトのリスト」ページ (ホーム・ページ) の「オブジェクトのリスト」内に表示する行数を制御します。これは、オブジェクトをグリッド (表構成) でリストする場合にも、HTML リスト (Owner.Name 形式) でリストする場合にもあてはまります。

たとえば、この値を 7 に設定した場合、グリッドまたは選択リストには 7 つのオブジェクトだけリストされます。さらにオブジェクトがある場合は、スクロールしないとこれを見ることができません。

「オブジェクトのリスト」は、行限度に合わせて自動的にサイズ調整されます。

### 照会プレビューの限界行数

この値は、照会のプレビュー時に表示される行数を制御します。このフィールドは、「照会プレビュー・モード」フィールドと連携して機能します。デフォルトは「プレビューを表示しない」なので、デフォルトを選択すると、このフィールドの値は無視されます。

### 照会プレビュー・モード

このフィールドでは、照会の実行と照会結果の生成の前に照会を表示するかどうかを指定します。このフィールドは、「照会プレビューの限界行数」フィールドと連携して機能します。選択項目は次のとおりです。

- プレビューを表示しない (これがデフォルトです)
- 10 秒以内実行されている照会のプレビューを表示する
- すべての照会のプレビューを表示する

### ユーザー・インターフェースの言語

このフィールドでは、QMF Query for Java で使用する言語を制御します。このフィールドを自動選択に設定すれば、Windows の設定に基づいて、アクティブ言語をソフトウェアに判別させることができます。

### 使用中の文字セット

このフィールドは、Windows、ISO、および DOS で使用される文字セットなどの、使用する文字セットを識別します。QMF (Windows 版) は、データベース・サーバーからデータを検索したら、すべての文字データを、サーバーで使われているコード化文字セットから、Windows で使われるコード化文字セットに変換する必要があります。文字セットを QMF Query for Java に自動選択させることもできますし、自分でいずれかの文字セットをドロップダウン・リストから選択することもできます。

## ユーザー・インターフェースの向き

画面上に表示するテキストの表示方向を指定します。選択項目は次のとおりです。

- 自動選択 (これがデフォルトです。Windows 設定を調べます)
- 左から右
- 右から左

## 報告書オプション

以下のオプションは、照会結果のフォーマット方法を制御します。以下のようなオプションを設定することができます。

- 報告書の表題
- ヌル値を次のように表示
- 日付 / 時刻、数字、および通貨
- 報告書のフォーマット
- 報告書をページに分割する

### 報告書の表題

この値は、デフォルト報告書、照会に基づいた報告書、および各種報告書の表題として何と書くかを指定します。

### ヌル値を次のように表示

照会結果内でヌル値の代わりに使用するストリング (たとえばダッシュ) を指定します。

### 日付 / 時刻、数値、および通貨の値の表示

日時、数表示、および通貨の値のベースになる言語 / 国名を選択します。

### 報告書のフォーマット

報告書書式をどのようにフォーマットするかを指定します。選択項目は次のとおりです。

- **プレーン・テキスト (plain text)**。これは、未フォーマット・テキストであり、固定ピッチ・フォントを使います。
- **HTML テキスト**。これは、どのブラウザでも表示することができ、報告書と列見出しの表題に関するかぎり、最低限のフォーマットが施されます。
- **HTML 表**。この場合、グリッド (表) での情報の表示といった、ハイレベルなフォーマットが表に適用されます。
- **図表**。これは、出力を図表フォーマットで示します。図表のタイプは、結果に対して適用する報告書に準じます (たとえば、棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、または散布図形式でのデータの表示など)。

## 報告書をページに分割する

このフィールドでは、報告書内で改ページするかどうかを制御します。デフォルトでは、チェックが付けられています。

## HTML 報告書

以下のオプションは、情報を HTML フォーマットで表示する方法を制御します。以下のようなオプションを設定することができます。

- HTML タグのパラメーター
- パラメーターを本文タグに
- 表枠の幅
- パラメーターを表タグに
- HTML 表報告書のテキスト内のスペースの確保
- 空の表データ・セルの周囲に枠をドローする
- HTML 報告書タグ

### HTML タグのパラメーター

報告書を作成するときに HTML ファイルの見出しに挿入するストリング。dir="RTL" など。

### パラメーターを本文タグに

報告書を作成するときに HTML ファイルのドキュメント・タグ全体に挿入するストリング。これには、報告書の見出しは含まれません。

### パラメーターを表タグに

報告書を作成するときに HTML ファイルの表タグに挿入するストリング。これには、HTML タグや本文タグは含まれません。

### 表枠の幅

この値は、表の周囲に枠を表示するかどうかと、表示する場合はその枠の幅を制御します。例を以下に示します。

- 0 = 枠なし
- 1 = 1 本線枠
- 2 = 2 本線枠

### HTML 報告書タグ

報告書の見出しまたは脚注や、報告書表題の <h2> と </h2> などの、報告書上の各エレメントごとの HTML タグ (接頭部と接尾部) を入力します。報告書タグは、報告書のエレメントを変更しますが、それによって報告書の外観と体裁が変化します。

## ページ・フォーマット

「ページ・フォーマット」 ページでは、報告書をどのように構造化するかを制御します。以下のような値を設定することができます。

- ページの配置方法
- ページの縦および横方向のサイズ
- テキスト報告書のページ区切り
- HTML 報告書でのページ区切り文字
- 日時を組み込む
- ページ番号を組み込む

### ページは次のようになります

ファイルを QMF Query for Java に保管する方法を指示します。選択項目は次のとおりです。

- 別のファイル内に入れる
- 「最初に横、次に下方向」の順序でファイルを 1 つずつ入れる
- 「最初に下、次に横方向」の順序でファイルを 1 つずつ入れる

### ページの垂直方向のサイズ

ページ上の行 (テキスト行) の数。

### ページの水平方向のサイズ

各テキスト行内の文字数。

### テキスト報告書のページ区切り

テキスト報告書内の改ページに使われるタグ。デフォルトは `<PgBreak>` ですが、ここでアスタリスク (\*) または等号 (=) の行といった値を定義して、改ページを指定することもできます。

### HTML 報告書でのページ区切り文字

HTML 報告書内の改ページに使われるタグ。デフォルトは `<hr>` ですが、この場合、改ページを示すのに水平線が挿入されます。または、`<hr size=5>` などの値をここで定義して、改ページを指示することもできます。

### 日時を組み込む

このチェック・ボックスでは、報告書に日時を付記するかどうかを指示します。これを選択すると、「データ・エクスポート・オプション - テキスト・フォーマット」、または「データ・エクスポート・オプション - CSV フォーマット」ページの「日付 / 時刻形式の選択」フィールドで日時フォーマットを制御することができます。

### ページ番号を組み込む

このチェック・ボックスでは、報告書にページ番号を印刷するかどうかを指示します。

## LOB

この書式は、LOB (ラージ・オブジェクト) の処理オプションを指定するのに使います。

QMF for Java では、データベースからの LOB の取り出しと、PC への LOB データのエクスポートが可能です。関連付けによって、QMF Query for Java で LOB データを処理することができます。この機能を用いれば、テキスト、グラフィックス、オーディオ、ビデオ、混合メディア、および写真イメージなどのデータ・タイプを挿入することができます。

LOB をデータベースから検索し、取り出したファイルのタイプをサポートする適当なアプリケーションでこれを編集できます。たとえば、コンピューターに Microsoft Paint (R) がインストールされているなら、このアプリケーションでビットマップを編集できます。

LOB を表に取り出すのは、QMF (Windows 版) に LOB 拡張が設定されている照会の場合だけです。例を以下に示します。

1. QMF Query for Java で SQL 照会を作成します。

LOB は表示されません。

2. LOB を検索します。

LOB 値が表示されます。

3. 「参照 <...>」をクリックします。

LOB 値は、別のブラウザー・ウィンドウに取り出されます。

**注:** LOB オブジェクトは、別のオブジェクト内に置いたり、別のブラウザーに表示したりすることができます。また、画像を HTML ファイルに組み込むこともできます。

### ラージ・オブジェクトのデフォルト拡張子

ラージ・オブジェクトのデフォルトの拡張子は **.LOB** です。

### ラージ・オブジェクトのインライン配置

このチェック・ボックスでは、ラージ・オブジェクトを報告書内にインライン配置できるかどうかを指定します。このフィールドは、ラージ・オブジェクトの場合に有効です。

### HTML 表でのグラフィカル LOB のイメージの描画

このチェック・ボックスでは、画像表内でグラフィカル LOB のイメージを描画するかどうかを指定します。これは、.gif ファイルと .jpg ファイルにのみ当てはまります。

## テキスト・データのエクスポート

この書式のオプションは、エクスポートするテキスト・データのフォーマットを制御します。テキスト・エクスポートの場合、テキスト・ファイルが作成されます。通常このフォーマットは、ワード・プロセッシング・アプリケーションに情報をエクスポートするのに使います。

### 列見出しを組み込む

エクスポートする照会結果の最初の行に列見出しを示すには、このボックスにチェックを付けます。

### 列区切りに使用するストリング

「列区切りに使用するストリングを入力」：コンマなどの、エクスポートするテキスト・ファイル内の列を区切るのに使用するストリングを入力します。

### 値区切りに使用するストリング

「値を区切るために使用するストリングを入力」：引用符などの、エクスポートするHTML ファイル内の値を区切るのに使用するストリングを入力します。

### 値をいつ区切るか

この値で、いつ値を区切るかが決まります（『値を区切るために使用するストリングを入力』の説明どおり）。選択項目は次のとおりです。

- 常に区切る
- 区切らない
- 必要な場合にのみ区切る

### 区切る値のタイプ

以下に示すエレメントごとに、どのタイプの値を区切る必要があるかを指定します。

- 列見出し
- 文字値
- 数値
- 日付 / 時刻値

### 検索される日付 / 時刻形式

「日付 / 時刻形式の選択」：報告書上で日時情報をフォーマットする方法を指定します。選択項目は次のとおりです。

- ローカル (Java VM によって判別されます)
- ISO (YYYY-MM-DD, HH.MM.SS) - 日時情報は、ISO に指定されているフォーマットでエクスポートされます。
- USA (MM/DD/YYYY, HH:MM AM/PM) - 日時情報は、米国内で最もよく使われているフォーマットでエクスポートされます。



- EUR (DD.MM.YYYY, HH.MM.SS) - 日時情報は、ヨーロッパ内で最もよく使われているフォーマットでエクスポートされます。
- JIS (YYYY-MM-DD, HH:MM:SS) - 日時情報は、日本で最もよく使われているフォーマットでエクスポートされます。

## CSV データのエクスポート

この書式を使って、.csv フォーマットでエクスポートされたデータをフォーマットする方法を定義します。選択項目は次のとおりです。

- 列見出しを組み込む
- 日付 / 時刻形式

.csv エクスポートは、テキスト・エクスポートに似ています。ファイルでは、列区切り文字としてコンマを使います。このフォーマットは、Microsoft Excel や Lotus 1-2-3 などのスプレッドシート・アプリケーションで最もよく用いられます。

### 列見出しを組み込む

エクスポートする照会結果の最初の行に列見出しを示すには、このボックスにチェックを付けます。

### 日付 / 時刻形式

「日付 / 時刻形式の選択」：日時情報をエクスポートするのに使うフォーマットを指定します。選択項目は次のとおりです。

- ローカル (Java VM によって判別されます)
- ISO (YYYY-MM-DD, HH.MM.SS) - 日時情報は、ISO に指定されているフォーマットでエクスポートされます。
- USA (MM/DD/YYYY, HH:MM AM/PM) - 日時情報は、米国内で最もよく使われているフォーマットでエクスポートされます。
- EUR (DD.MM.YYYY, HH.MM.SS) - 日時情報は、ヨーロッパ内で最もよく使われているフォーマットでエクスポートされます。
- JIS (YYYY-MM-DD, HH:MM:SS) - 日時情報は、日本で最もよく使われているフォーマットでエクスポートされます。

## 図表オプション

このオプションは、照会結果から作成された図表のグラフィカル属性を定義します。

注：可能であれば、ここで定義されているものではなく、書式の図表仕様が使われません。

### 図表のデフォルト X サイズ

図表の  $x$  軸、つまり横軸のピクセル単位のサイズ。

### 図表のデフォルト Y サイズ

図表の  $y$  軸、つまり縦軸のピクセル単位のサイズ。

### 値軸ラベル

**Salary** などの、 $y$  軸 のデフォルト・ラベル。

### 区分軸ラベル

**Year** などの、 $x$  軸 のデフォルト・ラベル。

---

## 付録C. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更（たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など）は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
J74/G4  
555 Bailey Avenue  
P.O. Box 49023  
San Jose, CA 95161-9023  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお問い合わせください。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客

様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。したがって IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめめかしたり、保証することはできません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	IMS
Advanced Peer-to-Peer Networking	Language Environment
AIX	MVS
AIX/6000	MVS/ESA
C/370	MVS/XA
CICS	OfficeVision/VM
CICS/ESA	OS/2
CICS/MVS	OS/390
CICS/VSE	PL/I
COBOL/370	PROFS
DATABASE 2	QMF
DataJoiner	RACF
DB2	S/390
DB2 Universal Database	SQL/DS
Distributed Relational	Virtual Machine/Enterprise
Database Architecture	Systems Architecture
DRDA	Visual Basic
DXT	VM/XA
GDDM	VM/ESA
IBM	VSE/ESA
IBMLink	VTAM
iSeries	z/OS

Lotus および 1-2-3 は、Lotus Development Corporation の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

# 索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

アカウント・ストリング

解説 7

指定 7

アクセシビリティ

一般的な機能 4

解説 3

キーボード・アクセラレーター 3

スクリーン・リーダー 3

ツールの説明 3

ツールバー・アイコン 3

ハイコントラスト表示 3

Microsoft コントロール パネル 4

アクセス

最近の

オブジェクト 10

ファイル 10

値軸

図表 54

アドイン

アプリケーション

バージョン 1

Lotus 1-2-3 1

Microsoft Excel 1

Lotus 1-2-3 106

Microsoft Excel 105

アプリケーション

LOB の関連付け 47

QMF (Windows 版)

API 106

一時ディレクトリー

レポート・センター viii

「一般」オプション

報告書 116

一般オプション

特殊値

デフォルト値を入力 12

ヌル値の入力 12

ヌル値を表示 12

「ビュー」メニュー 12

移動

オブジェクト 143, 160

オプション 47

行番号 vii

切れ目合計 vii

結果セットのパーセント 47

現在行に相对 47

照会結果 47

絶対行 47

フォルダー 143, 160

報告書 143, 160

ボタン

ツールバー 17

印刷

オプション

レポート・センター 137

指示照会 39

照会結果 53

手順 141

プロシージャ 73

報告書 65

レポート・センター 141

SQL 照会 27

インターネット・メール

「トレース」オプション 15

インターフェース・オプション

QMF Query for Java 227

隠蔽

変数

レポート・センター viii

インポート

お気に入り 137

地理情報データ viii

上書き

LOB オプション 14

エクスポート

お気に入り 136

地理情報エクステンダー・データ 190

地理情報データ viii

データ

機能 103

注釈 224

地理情報エクステンダー 190

データベース表 224

ファイルへの 103

QMF Query for Java 222, 224

テキスト・データ

QMF Query for Java 234

報告書 65

LOB 57

エラー処理

レポート・センター viii

演算子

行条件 35

大文字

「照会」メニュー 19, 29

プロシージャ・メニュー 68

置き換え

既存の

データ 224

お気に入り

追加

報告書 114

フォルダー

レポート・センター 112

レポート・センター 113

オブジェクト

解説 93

コピー 144, 159

コメント・ビュー 134

作業 139

実行 94

## オブジェクト (続き)

- 照会 93
- 書式 93
- 所有者 197
- タイプ 93
  - QMF Query for Java 198
- 追跡
  - QMF Query for Java 196
- 追跡報告書
  - ツールの説明 ix
- テキスト
  - ビュー 134
- ドロー 94
- 名前 197
- 名前ビュー 134
- 表 93
- 表示 94
- フィルター 135
- プロシージャ 93
- プロパティ 94
- 編集 94
- リスト 93, 198
  - オブジェクトの選択 72
- オブジェクトの登録
  - プロシージャ 71
- オプション
  - 移動 47
  - サイズ変更 49
  - 照会結果 49
  - トレース 14
  - プロシージャ 123
  - 「報告書」メニュー 114
  - メニュー
    - レポート・センター 137
- BiDi 15
- CLI 13
- CPI-C 13
- LOB 14
- Microsoft Access 120
- ODBC 13
- TCP/IP 13
- オペレーティング・システム
  - 除外 1
  - 前提条件 1
- 折り返し
  - 列 vii

## [力行]

### 解説

- アカウント・ストリング 7
- アクセシビリティ 3
- 管理 16
- 結合条件 36
- 現行オブジェクト 74
- コマンド・バー 185
- 指示照会 29
- システム大域変数 171
- 書式 59, 60
- ジョブ・ファイル 107
- 図表オプション 53
- 静的照会 97
- 線形プロシージャ 67
- 大域変数 25, 169
- 置換変数 24, 97, 169
- 地理情報エクステンダー 189
- 地理情報データ viii
- 表編集プログラム 9, 99
- フォント 22
- 複数の
  - 照会 23
  - 変数の置き換え 97
  - 報告書 59, 139
  - ホスト変数 97
  - レポート・センター 111
- API 163
- LOB 54
- QMF Query for Java viii, 2, 195
- QMF (Windows 版) 4
- SQL 19
- 回避
  - LOB データ m p 検索 14
- カウント
  - 照会結果 45
- 隠す
  - サーバー 135
- 拡張オプション
  - ズーム編集 58
- 拡張子
  - マップ列 48
- 確認
  - 新規
    - パスワード 7

### 確認 (続き)

- ストアード・プロシージャ・パラメーター 22
- カスタマイズ
  - ツールバー 12, 17
- カタログ
  - サーバー・アクセス ix
- 関数
  - PREPARE ix
- 管理
  - 解説 16
  - API 164
- 関連付け
  - 書式のオブジェクトとの 158
- 既存の
  - オブジェクト
    - 作業 198
  - データ
    - 置き換え 224
    - 付加 224
- 機能
  - 高速データ保管 ix
  - 照会結果 vii
  - 地理情報エクステンダー 189
  - 地理情報データ viii
  - データのエクスポート 103
  - レポート・センター 111
  - LOB 55
  - QMF Query for Java 2, 195
- キャンセル
  - 「照会」メニュー 19, 29
- 行
  - 限界
    - 照会プレビュー 229
  - 検索
    - 表編集プログラム 99
  - 限度
    - オブジェクトのリスト 229
  - サイズ変更 49
    - プロシージャ 50
  - 自動フィット 46, 50
  - 条件
    - 演算子 35
    - 式 211
    - タイプ 35, 210
    - 追加 31, 35



- 行 (続き)
  - 条件 (続き)
    - ユーザー定義の 212
    - 列の選択 210
    - IS/IS NOT 210
  - 選択 49
  - ソート条件 34
  - 挿入された
    - コミット 225
  - 戻される制限 162
- 行条件
  - ユーザー定義式 212
- 強調表示データ
  - 検索 vii
- 共通のお気に入り
  - レポート・センター 114
- 行番号
  - 移動 vii
- 切り替え
  - 結果の表示 22
  - SQL 表示 22
- 切れ目合計
  - 移動 vii
- 区分軸
  - 図表 54
- 組み込み SQL
  - 「トレース」オプション 15
- グループ
  - データ
    - レポート・センター viii
  - 列を基準に
    - レポート・センター viii
- グループ化
  - 照会結果 52
- 要約
  - 照会結果 45
- 要約使用せずに
  - 照会結果 45
- 警告
  - タイムアウト
    - CLI 13
    - CPI-C 13
    - ODBC 13
    - TCP/IP 13
- 形式
  - 16 進数 vii
- 形式 (続き)
  - 2 進数 vii
- 結果
  - メニュー
    - フォント 41
  - 「結果」メニュー
    - 地理情報エクステンダー 191
- 結果セット
  - 列 34
- 結果マップ
  - 地理情報エクステンダー 192
- 結果メニュー
  - 表示
    - 図表 53
- 結合条件
  - 解説 36
  - 指示照会 36
  - 追加 30
- 言語
  - ユーザー・インターフェース
    - 229
- 現行オブジェクト
  - 解説 74
- 検査
  - 書式メニュー 59
  - OK で場合
    - 書式メニュー 59
- 現在行に相对
  - 移動 47
- 検索
  - 行 99
  - 強調表示データ vii
  - LOB 値
    - 照会結果 47
- 現状のまま
  - ズーム編集 58
- 合計
  - 機能 34
  - 行
    - 列値 45
- 降順
  - ソート結果 46
- 更新
  - 照会タイプ 9
  - 列
    - 照会結果の表示 101
- 高速データ保管
  - 機能 ix
- 構文
  - 図 74
  - PREPARE ix
- 個人的なお気に入り
  - レポート・センター 114
- コピー
  - 「お気に入り」内で 159
  - オブジェクト 144, 159
  - サーバーから 159
  - 表
    - サーバー上の 161
  - フォーマット
    - 照会結果 46
    - 列 46
  - フォルダー 144, 159
  - 報告書 144, 159
- コマンド
  - キャンセル 29
  - 実行 19
  - 準備 19, 29
  - 照会表示 23
  - プロシージャ 73
  - bottom 75
  - connect 76
  - convert 76
  - display 77
  - draw 78
  - erase 78
  - export 79
  - forward 80
  - import 81
  - print 82
  - reset global all 84
  - run 85
  - save 87
  - send to 88
  - set global 89
  - show 90
  - windows 90
- コマンドおよびプロシージャ
  - 大域変数 176
- コマンド・バー
  - 解説 185
  - コマンドの実行 185

コマンド・バー (続き)  
作業 185  
使用 186  
パラメーター 185  
「ビュー」メニュー 12  
RUN コマンド 12  
コミット  
挿入された行 225  
ごみ箱  
レポート・センター 112  
コメント化解除  
「照会」メニュー 20  
プロシージャ・メニュー 68  
コメント化しない  
コマンド ix  
コンポーネント  
書式 60

## [サ行]

サーバー  
隠す 135  
カタログ  
アクセス ix  
照会のドロワー 9  
使用不可 133  
推奨される 2  
静的照会 133  
接続 138  
設定 59  
定義ファイル 12  
名前  
設定 5  
ビュー 11  
表示 133  
表編集プログラム 9  
フィルター 135  
レポート・センター vii  
編集 133  
保管  
プロシージャ 70  
最近の  
オブジェクト  
「ファイル」メニュー 10  
ファイル  
「ファイル」メニュー 10

最後の要約行  
照会結果 45  
最小  
値  
照会結果 45  
列 45  
列値  
照会結果 45  
最初の要約行  
照会結果 45  
最新表示  
オブジェクト 136  
レポート・センター 161  
照会から  
書式メニュー 59  
サイズ  
テキスト 135  
サイズ変更  
オプション 49  
行 49  
列 49  
最大  
値  
照会結果 45  
列 45  
列サイズ  
LOB 14  
再フォーマット  
SQL テキスト 19  
作業  
オブジェクト 139  
既存のオブジェクト 198  
コマンド・バーからの 185  
照会結果 41  
ジョブ・ファイル 107  
静的照会 97  
大域変数 169  
表編集プログラム 99  
プロシージャ 67  
報告書 139  
リスト 93  
レポート・センター 111  
DB2 地理情報エクステンダー  
189  
LOB 54  
SQL 照会 19

削除  
オブジェクト 144, 160  
行  
照会結果の表示 101  
表編集プログラム 100  
スケジュール済みジョブ 135  
大域変数 171  
フォルダー 144, 160  
報告書 144, 160  
作成  
指示照会 29  
結合条件 37  
QMF Query for Java 204  
書式 61  
プロシージャ 61  
ジョブ・ファイル 108  
静的照会 97  
線形プロシージャ 69  
単純な照会 29  
複雑な照会 32  
プロシージャ  
ロジックを持つ 69  
報告書 59, 139  
サーバーから 139  
書式 61  
レポート・センター 139  
ローカルに 139  
リスト 94  
SQL 照会 22, 23  
QMF Query for Java 201  
作成する  
アプリケーション  
API 106  
参照  
プロシージャ 73  
サンプル  
アプリケーション 106  
プロシージャ 91  
式  
ソート条件 30  
次元  
図表 54  
高さ 54  
幅 54  
指示照会  
印刷 39

指示照会 (続き)	自然照会	準備 (続き)
解説 29	新規 8	SQL 29
結合条件 36	ツールバー 11	使用
右方 vii	実行	コマンド・バー 186
外部 vii	オブジェクト	複数の表 36
完全 vii	「リスト」ウィンドウ 94	DB2 ウェアハウス・マネージャ
作成 37	コマンド 12, 19	ー 71
左方 vii	指示照会 32	Lotus 1-2-3 106
内部 vii	「照会」メニュー 19, 29, 107	Microsoft Excel
作成 29	ジョブ・ファイル 108	アドイン 105
式 vii	静的照会 98	QMF API 163
実行 32	複数の報告書	照会
新規 8	レポート・センター 141	オブジェクト 93
ソート	プロシージャー 67	サーバーから開く 8
選択されなかった列 vii	サーバーでの 69	選択
置換変数 37	プロシージャー・メニュー 68	表示フォント 23
追加	報告書	ツールバー 11
行条件 210	レポート・センター 140	ドロウ 23
結合条件 207	SQL 照会	表示コマンド 23
ソート条件 208	サーバーで 22	開く 8
表 32, 204	置換変数 25	プレビュー 27
列 33, 206	指定	限界行数 229
表示	アカウント・ストリング 7	モード 229
SQL 37	自動	変換
開く 31, 38	LOB データの検索 14	SQL 37
データベース・サーバー 38	自動フィット	EasyAsk vii
プレビュー 39	行 46, 50	「照会」メニュー
保管 38	照会結果 46	大文字 19, 29
データベース・サーバー 38	すべて	キャンセル 19
ファイル 38	行 46	コマンド 29
辞書	列 46	限界行数の設定 20
作成キット	セル 46	コメント解除 20
EasyAsk 21	列 46, 50	サーバーの設定 20
プロパティ	集約	再フォーマット
EasyAsk 21	照会結果 52	SQL テキスト 19
マップ	集約なし	実行 19, 29, 107
EasyAsk 21	照会結果 44	準備 19
Editor	終了	コマンド 29
EasyAsk 21	「ファイル」メニュー 11	ジョブ・ファイル 107
辞書を開く	出力オプション	スケジュール 107
EasyAsk 20	報告書 118	ストアード・プロシージャー・パ
システム大域変数	順序変更	ラメーターの確認 22
解説 171	列 50	設定
自然言語照会	準備	限界行数 29
要件 2	コマンド 19, 29	サーバー 29, 107
	「照会」メニュー 19, 29	フォント 30

「照会」メニュー (続き)	照会結果 (続き)	照会結果 (続き)
設定 (続き)	最大	累積
ユーザー情報 6, 29, 107	列値 45	グループのパーセンテージ
注釈 20	作業 41	46
追加	自動フィット 46	合計のパーセンテージ 46
行条件 31	集約 52	列
結合条件 30	集約なし 44	折り返し vii
ソート条件 30	書式 42	カウント 45
表 30	オプション 43	照会結果の表示
列 30	書式設定 51	行の削除 101
テスト 107	オプション 41	編集
パッケージのバインド 21	方式 41	表 100
表示	書式プロパティ 140	列の更新 101
スケジュール・タスク 107	ズーム編集 58	照会タイプ
フォントの設定 20	図表オプション 53	更新 9
復帰	絶対行 47	照会のドロウ 9
動的 SQL 21	セルの内容の開始 47	説明 24
変換	ソート 46, 50	選択 9
SQL への 31, 37	送信 49	挿入 9
ユーザー情報の設定 20	パーセンテージ	照会のドロウ
EasyAsk	グループの 46	サーバー 9
辞書エディター 21	合計の 46	照会タイプ 9
辞書作成キット 21	表示 22	所有者 9
辞書プロパティ 21	フォント 51	名前 9
辞書マップ 21	報告書 47	表 9
辞書を開く 20	標準偏差 45	「ファイル」メニュー 8
照会ビルダー 20	フォーマット 215	ID 9
日付の設定 21	オプション 215	照会ビルダー
ビューの変換処理 21	フォーマットの貼り付け 46	EasyAsk 20
SQL への変換 22	フォント・オプション 42	使用可能な
照会結果	プレビュー 53	報告書 218
移動 47	平均	QMF Query for Java 222
印刷 53	列値 45	列 34
オプション 49	報告書	詳細
カウント 45	フォーマット 216	表示 11
機能 vii	保管 52	昇順
グループ化 52	データベース 48	ソート結果 46
検索	表として 52	使用する
LOB 値 47	ファイルに 48	グリッド
コピー	要約 52	ユーザー・インターフェース
フォーマット 46	要約行 45	228
最後の要約行 45	要約を使用してグループ化 45	状態情報
最小	要約を使用せずにグループ化 45	大域変数 173
列値 45	リセット	使用不可にする
最初の要約行 45	すべてのフォーマット 46	LOB 列 14
	累計 45	

- 除外
  - オペレーティング・システム 1
- 初期化
  - オブジェクト 133
- 除去
  - オブジェクト
    - リスト 95
  - ボタン
    - ツールバー 17
- 書式
  - オブジェクト 93
  - オプション
    - 照会結果 43
  - 解説 59, 60
  - コンポーネント 60
  - 作成 61
    - 報告書 61
  - 照会結果 42
  - 新規 8
  - ソート 220
  - ツールバー 12
  - 開く 8
    - サーバーから 8
  - 編集 61
  - 変数
    - QMF Query for Java 226
  - 保管
    - ファイルへの 64
    - リスト 220
    - 列 42
    - 16 進数 58
    - 2 進数 58
- 書式設定
  - オプション
    - 照会結果 41
  - 照会結果 51
  - 書式への変換 51
  - 数値結果 51
  - 方式
    - 照会結果 41
  - 保管 52
- 書式メニュー
  - 検査 59
  - 照会から最新表示 59
  - 照会の選択 59
- 書式メニュー (続き)
  - 設定
    - サーバー 59
    - フォント 60
    - ユーザー情報 60
  - 編集 59
  - HTML への変換 59
  - OK で検査 59
  - Web ブラウザー 59
- ジョブ・ファイル
  - 解説 107
  - 作業 107
  - 作成 108
  - 実行 108
  - 「照会」メニュー 107
  - 新規 8
  - スケジュール 108
  - 保管
    - サーバーへ 108
    - ファイルへ 108
- 所有者
  - オブジェクト 197
  - 照会のドロウ 9
- 新規
  - オブジェクト 7
  - 指示照会 8
  - 自然照会 8
  - 書式 8
  - ジョブ 8
  - パスワード
    - 確認 7
  - プロシージャ 8
  - リスト 8
  - SQL 照会 7
- ズーム編集
  - 拡張オプション 58
  - 現状のまま 58
  - 照会結果 58
  - 数値編集 58
  - 文字
    - 編集 58
  - 16 進数
    - 書式 58
    - 表示 vii
  - 2 進数
    - 書式 58
- ズーム編集 (続き)
  - 2 進数 (続き)
    - 表示 vii
- 推奨される
  - サーバー 2
- 垂直
  - 配置 vii
- 数値
  - 結果
    - 書式設定 51
  - 編集
    - ズーム編集 58
- スケジュール
  - オプション
    - 説明 128
    - レポート・センター 128
    - 「照会」メニュー 107
  - ジョブ 107
    - 削除 135
    - ビュー 135
    - 編集 135
  - ジョブ・ファイル 108
  - タスク
    - 「照会」メニュー 107
- 報告書
  - 手順 142
  - 表示 142
  - レポート・センター 142
- ステータス・バー
  - 「ビュー」メニュー 12
- ストアード・プロシージャ
  - パラメーターの確認 22
- 図表
  - 値軸 54
  - オプション 53
  - 解説 53
  - 区分軸 54
  - 次元 54
  - タイトル・テキスト 53
  - 高さ 54
  - 幅 54
  - 表題 53
  - ラベル 54
  - レポート・センター viii
  - QMF Query for Java 235
  - X 軸 54

## 図表 (続き)

- Y 軸 54
- すべて  
行  
自動フィット 46
- 列  
自動フィット 46

## 制限

- 戻される行 162

## 静的照会

- 解説 97
- サーバー 133
- 作業 97
- 作成 97
- 実行 98

## セキュリティ

- オプション 130

## 接続

- サーバー 138
- サーバーへ  
レポート・センター 138
- 終了 10
- ビュー 11  
「ビュー」メニュー 11

CLI 2

ODBC 1

QMF Query for Java 196

SNA 1

TCP/IP 1

## 接続の終了

- 「ファイル」メニュー 10

## 絶対行

- 移動 47
- 照会結果 47

## 設定

- 限界行数 16  
「照会」メニュー 20, 29
- サーバー 132  
「照会」メニュー 20, 29, 107
- 書式メニュー 59
- 名前 5
- プロシージャ・メニュー 69
- 出力オプション  
報告書 121

## 設定 (続き)

- セキュリティ  
レポート・センター 130
- データベース・セキュリティ 5
- デフォルト  
フォント 23
- 日付置換値  
レポート・センター 126
- フォント  
「照会」メニュー 20, 30
- 書式メニュー 60
- プロシージャ・メニュー 69
- 報告書  
変数 125
- ユーザー情報  
「照会」メニュー 6, 20, 29, 107
- 書式メニュー 60
- 「ツール」メニュー 136
- プロシージャ・メニュー 69

## 説明

- スケジュール・オプション 128
- その他のプロパティ 128
- 日付置換値 126

## セル

- 自動フィット 46

## セルの内容の開始

- 照会結果 47

## 前景色

- ユーザー・インターフェース 228

## 線形プロシージャ

- 解説 67
- 作成 69

## 選択

- オブジェクト  
オブジェクト・リスト 72
- QMF Query for Java 197
- 行 49
- オプション 49
- 照会  
書式メニュー 59
- 照会タイプ 9

## 選択 (続き)

- 書式  
報告書の表示 47
- 表示フォント 51
- 照会 23
- 列 49
- オプション 49
- 前提条件  
オペレーティング・システム 1
- 地理情報エクステンダー 189

## ソート

- 照会結果 46, 50
- 昇順 46
- 書式 220
- ソート順オプション 46
- 方向 34
- リスト 198

## ソート結果

- 降順 46

## ソート条件

- 行 34
- 降順 208, 209
- 式 30
- 昇順 208, 209
- ソートする列 208, 209
- 追加 30, 34
- 入力 34
- 列

- 結果セット外 30

## 送信

- 照会結果 49

## 挿入

- 照会タイプ 9

## その他

- 報告書のプロパティ 128

## [夕行]

### 大域変数

- 解説 25, 169
- 更新  
レジストリー 170
- コマンドおよびプロシージャ 176
- 作業 169
- 削除 171

大域変数 (続き)

- 状態情報 173
- ツールの説明 ix
- 追加 170
  - プロシージャ 171
  - 「ビュー」メニュー 11
- 表示
  - 変数値 172
- 表示情報 175
- 表編集プログラム 174
- 編集 171
- 命名規則 172
- ユーザー定義 170
- Windows 環境 177
- 対象読者 3
- タイトル
  - タイトル・テキスト
  - 図表 53
- タイプ
  - オブジェクト 93
  - 行条件 35, 210
  - 合計機能 34
  - リソース限界 16
- 高さ
  - 次元 54
  - 図表 54
- 立ち上げる
  - QMF (Windows 版) 136
- 単純な照会
  - 作成 29
- 置換
  - 置換変数 97
- 置換変数
  - 解説 24, 97, 169
  - 指示照会 37
  - SQL 照会 24, 25
- 注釈
  - エクスポート
    - データ 224
  - コマンド ix
    - 「照会」メニュー 20
  - ビュー
    - オブジェクト 134
    - プロシージャ・メニュー 68
  - 報告書 135
  - レポート・センター vii

地理情報エクステンダー

- インポート viii
- エクスポート viii
- エクスポート・タイプ 190
- オブジェクトのリスト 192
- 解説 viii, 189
- 機能 189
  - 「結果」メニュー 191
- 結果マップ 192
- 前提条件 189
- データのインポート 190
- データのエクスポート 190
- 統合 190
  - 「ファイル」メニュー 191
- プロシージャ・コマンド 193
- マップの表示 191
  - 「リスト」メニュー 191
- ESRI ビジュアル化 190
- 「ツール」メニュー
  - 設定
    - ユーザー情報 136
    - レポート・センター 136
- ツールの説明
  - オブジェクト追跡報告書 ix
  - 大域変数 ix
- ツールバー
  - 移動
    - ボタン 17
  - カスタマイズ 12, 17
  - 自然照会 11
  - 照会 11
  - 除去
    - ボタン 17
  - 書式 12
  - 追加
    - ボタン 17
    - 「ビュー」メニュー 11
  - プロシージャ 11
  - メイン 11
  - リスト 12
- 追加
  - オブジェクト
    - リスト 94
  - 行
    - 表編集プログラム 100
  - 行条件 35

追加 (続き)

- 指示照会 210
  - 「照会」メニュー 31
- 結合条件
  - 指示照会 207
    - 「照会」メニュー 30
  - ソート条件 34
    - 指示照会 208
      - 「照会」メニュー 30
- 大域変数 170
  - プロシージャ 171
- 表
  - 指示照会 32, 204
    - 「照会」メニュー 30
- ページ
  - フッター 63
  - ヘッダー 63
- 報告書
  - お気に入り 114
- ボタン
  - ツールバー 17
- 要約情報 62
- レイヤー 192
- 列
  - 合計機能 206
  - 式の入力 206
  - 指示照会 33, 206
    - 「照会」メニュー 30
  - 新規列名 206
  - 手順 33
  - 列の選択 206
- 通貨記号
  - ユーザー定義の vii
- ツリー構造
  - レポート・センター vii
- データのインポート
  - 地理情報エクステンダー 190
    - 「ファイル」メニュー 10
  - プロシージャ 104
- IXF
  - メッセージ 104
- データの分散
  - アプリケーションへのエクスポート 103
  - データベースへのエクスポート 103

データベース  
検索  
LOB 55  
セキュリティ  
設定 5  
接続  
API 164  
データベース・サーバー  
適格 4  
開く  
指示照会 38  
保管されている書式 64  
保管  
オブジェクト 71  
書式 64  
データ・エクスポート  
CSV  
QMF Query for Java 235  
データ・タイプ  
ホスト変数 98  
定義  
レポート・センター 111  
訂正  
パスワード 6  
ディレクトリー構造  
レポート・センター 112  
適格  
データベース・サーバー 4  
テキスト  
サイズ 135  
方向 230  
適用  
書式  
データベース・サーバー 219  
ファイルの 221  
QMF Query for Java 219  
手順  
印刷 141  
エクスポート  
LOB 57  
削除 145  
書式をオブジェクトに突き合わせる 158  
追加  
行条件 35  
列 33

手順 (続き)  
フォルダーの名前変更 143  
報告書のスケジュール 142  
報告書の名前変更 143  
保管  
指示照会 38  
テスト  
「照会」メニュー 107  
デフォルト値  
入力 12  
統合  
地理情報エクステンダー 190  
動的 SQL  
戻す 21  
閉じる  
結果ウィンドウをすべて  
プロシージャー・メニュー  
68  
中間結果ウィンドウ  
プロシージャー・メニュー  
68  
特記事項 237  
取り消し  
タイムアウト  
CLI 13  
CPI-C 13  
ODBC 14  
TCP/IP 13  
「トレース」オプション  
インターネット・メール 15  
解説 14  
組み込み SQL 15  
トレース・ファイル 1 14  
トレース・ファイル 2 15  
CLI 15  
CPI-C 15  
DDM 15  
IBM ObjectREXX 15  
SQLAM 15  
TCP/IP 15  
ドロー  
オブジェクト 94  
「リスト」ウィンドウ 94  
照会 23

## [ナ行]

ナビゲーション  
レポート・センター 112  
名前  
オブジェクト 197  
照会のドロー 9  
表示  
オブジェクト 134  
名前変更  
オブジェクト 132  
フォルダー 143  
報告書 143  
入力  
ソート条件 34  
ソート方向 34  
デフォルト値 12  
ヌル値 12  
SQL ステートメント  
QMF Query for Java 201  
ヌル値  
入力 12  
表示 12

## [ハ行]

バージョン  
アドイン  
アプリケーション 1  
パーセント  
グループの  
照会結果 46  
列値 46  
結果セット  
移動 47  
合計  
照会結果 46  
列値 46  
背景  
ユーザー・インターフェース  
228  
配置  
垂直  
下部 vii  
上部 vii  
中間 vii



- パスワード
  - 訂正 6
  - パスワード・リスト
    - 保管 6
    - 変更 7
  - ログオン 5
- パスワードを記憶
  - ログオン 6
- パッケージのバインド
  - 「照会」メニュー 21
- 幅
  - 次元 54
  - 図表 54
- パラメーター
  - 表タグ 231
  - 本文タグ 231
  - HTML タグ 231
- 貼り付け
  - フォーマット
    - 照会結果 46
    - 列 46
- 履歴の詳細
  - 報告書 136
- 日付ウィザード
  - レポート・センター viii
- 日付置換値
  - 説明 126
- 日付の設定
  - EasyAsk 21
- ピボット表
  - レポート・センター viii
- ビュー
  - オブジェクト
    - 注釈 134
    - 名前 134
  - オブジェクト・テキスト 134
  - オプション
    - サーバーの定義ファイル 12
  - サーバー 11
  - スケジュール済みジョブ 135
  - 接続 11
  - メニュー 134
    - 一般オプション 12
    - コマンド・バー 12
    - 詳細表示 11
    - ステータス・バー 12
- ビュー (続き)
  - メニュー (続き)
    - 接続 11
    - 大域変数 11
    - ツールバー 11
  - リソース限界 16
  - LOB 56
- ビューの変換処理
  - EasyAsk 21
- 表
  - オブジェクト 93
  - 照会のドロウ 9
  - 所有者 224
  - スペース 224
  - 追加 30
  - 名前 224
- 表示
  - オブジェクト 94
    - 「リスト」ウィンドウ 94
  - 結果 22
  - サーバー 133
  - 時刻
    - 報告書オプション 230
  - 詳細 11
  - 情報
    - 大域変数 175
  - 数値
    - 報告書オプション 230
  - スケジュールされた報告書 142
  - スケジュール・タスク 107
  - 図表
    - 結果メニュー 53
    - メニューから 53
  - 大域変数
    - 値 172
  - 通貨値
    - 報告書オプション 230
  - ヌル値 12
    - 報告書オプション 230
  - 日付
    - 報告書オプション 230
  - フォント
    - 照会結果 51
  - 複数の照会 23
  - 報告書
    - 照会結果 47
- 表示 (続き)
  - 報告書 (続き)
    - 書式の選択 47
    - レポート・センター vii
  - 報告書のヒストリー 143
  - マップ
    - 地理情報エクステンダー 191
    - レイヤー・リスト 192
  - SQL 22
    - 指示照会 37
  - 標準偏差
    - 照会結果 45
    - 列値 45
  - 表題
    - 図表 53
    - 報告書
      - 照会 230
      - デフォルト 230
      - 報告書 230
  - 表編集プログラム
    - 解説 9, 99
    - 行
      - 検索 99
    - サーバー 9
    - 作業 99
    - 削除
      - 行 100
    - 大域変数 174
    - 追加
      - 行 100
    - 表の所有者 9
    - 表名 9
      - 「ファイル」メニュー 9
    - 変更
      - 行 100
  - 開く
    - サーバーから
      - 照会 8
      - 書式 8
      - プロシージャ 8
      - リスト・ファイル 8
    - 指示照会 31, 38
      - データベース・サーバー 38
    - 照会 8
    - 書式 8
    - プロシージャ 8

開く (続き)	「ファイル」メニュー (続き)	プレビュー
サーバーに 70	表編集プログラム 9	結果
文書	開く 8	QMF Query for Java 227
照会 8	ファイル拡張子	指示照会 39
書式 8	マッピング・オプション 48	照会 27
プロシージャ 8	LOB 48	プロシージャ
リスト・ファイル 8	フィルター	印刷 73
保管された	オブジェクト 135	オブジェクト 93
プロシージャ・ファイル	サーバー 135	オブジェクトの登録 71
70	フォーマット	オプション 123
保管されている書式	オプション	コピー
データベース・サーバー 64	照会結果 215	「お気に入り」内で 144
保管した	報告書 117	サーバーから 144
SQL 照会ファイル 26	照会結果 215, 216	コマンド 73
保管した書式	プロパティ	地理情報エクステンダー 193
ファイルから 64	レポート・センター 147	サイズ変更
リスト・ファイル 8, 95	ページ	行 50
SQL 照会 25	QMF Query for Java 232	列 50
サーバーで 26	フォルダー	作業 67
ヒント	コピー 159	作成
効果的に作業する 162	レポート・センター 113	書式 61
「ファイル」メニュー	フォント	参照 73
サーバーから開く	オプション 42	サンプル 91
照会 8	解説 22	実行 67
書式 8	結果メニュー 41	サーバーでの 69
プロシージャ 8	設定 30, 41, 60	新規 8
リスト・ファイル 8	デフォルト 23	ツールバー 11
最近の	変更 41	データのインポート 104
オブジェクト 10	付加	データのエクспорт
ファイル 10	既存の	ファイルへの 103
終了 11	データ 224	データの保管 105
照会のドロウ 8	不可にする	開く 8
サーバー 9	LOB データの検索 14	サーバーから 8
照会タイプ 9	複雑な照会	サーバーに 70
新規	作成 32	プレビュー 73
オブジェクト 7	複数の	プロパティ
指示照会 8	照会	レポート・センター 123
自然照会 8	解説 23	報告書の実行 140
書式 8	表示 23	報告書のプロパティ 123
ジョブ 8	表	保管 69
プロシージャ 8	使用 36	ファイルへの 70
リスト 8	レビュー	ロジックを持つ 69
SQL 照会 7	照会結果 53	プロシージャ・メニュー
接続の終了 10	プロシージャ 73	大文字 68
地理情報エクステンダー 191		コメント解除 68
データのインポート 10		サーバーの設定 69

プロシージャ・メニュー (続き)  
 実行 68  
 注釈 68  
 閉じる  
   結果ウィンドウをすべて 68  
   中間結果ウィンドウ 68  
 フォントの設定 69  
 ユーザー情報の設定 69  
 ブロック、呼び出しの  
   API 163  
 プロバイダー DLL  
   CPL-C 13  
 プロパティ  
   オブジェクト 94  
   変数 125  
 ページ  
   フッター  
   追加 63  
   ヘッダー  
   追加 63  
 見出し  
   報告書 53  
 平均  
   列値  
   照会結果 45  
 変換  
   指示照会  
   SQL 31  
   照会  
   SQL 37  
   書式への書式設定の 51  
   HTML  
   書式メニュー 59  
   SQL への 22  
 変更  
   行  
   表編集プログラム 100  
   パスワード 7  
   要約 vii  
   列  
   順序 62  
   書式 62  
   ヘッダー 62  
 編集  
   オブジェクト 94  
   「リスト」ウィンドウ 94

編集 (続き)  
 切り取り 132  
 コピー 132  
 サーバー 133  
 サーバーの選択 132  
 削除 132  
 書式 61  
 書式メニュー 59  
 スケジュール済みジョブ 135  
 大域変数 171  
 名前変更 132  
 貼り付け 132  
 表  
   照会結果の表示 100  
   メニュー 132  
   LOB 56  
   SQL 照会  
   QMF Query for Java 200  
 変数  
   オプション  
   報告書 125  
   報告書のプロパティ 125  
   レポート・センター 125  
 方向  
   ユーザー・インターフェース  
   230  
   BiDi ix, 15  
 報告書  
   アクティビティ・ログ  
   エラー 136  
   実行した報告書 136  
   「一般」オプション 116  
   印刷 65  
   エクスポート 65  
   オプション  
   QMF Query for Java 230  
   解説 59, 139  
   共通アクセス  
   レポート・センター 112  
   コピー 159  
   作業 139  
   作成 59, 139  
   サーバーから 139  
   ローカルに 139  
   出力オプション 118  
   注釈 135

報告書 (続き)  
 同時に実行する 162  
 ヒストリー 143  
   発生順 136  
   ヒストリーの詳細 136  
 フォーマット  
   照会結果 216  
   図表 231  
   プレーン・テキスト (plain  
   text) 230  
   HTML テキスト 230  
   HTML 表 230  
   QMF Query for Java 230  
 フォーマット・オプション 117  
 ページ見出し 53  
 別個のプロセスとして実行する  
   162  
 変数  
   オプション 125  
 報告書の分割 231  
 ユーザー・アクセス  
   レポート・センター 112  
   リスト 218  
 「報告書」メニュー  
   レポート・センター 114  
 報告書オプション  
   表示  
   時刻 230  
   数値 230  
   通貨値 230  
   ヌル値 230  
   日付 230  
   報告書のプロパティ  
   一般 145  
   レポート・センター 116  
   出力 148  
   レポート・センター 118  
   スケジュール 155  
   セキュリティ 157  
   その他 128, 154  
   手順 152  
   フォーマット 147  
   レポート・センター 117  
   プロシージャ 123  
   変数 125, 153  
   レポート・センター 145

## 報告書のプロパティ (続き)

E メール 158

## 報告書のリンク

レポート・センター vii

## 方式

データの保管 224

## 保管

### オブジェクト

照会の共用 203

照会の置換 203

照会の所有者 203

照会名 203

注釈 203

データベース・サーバーでの  
71

QMF Query for Java 203

### 指示照会 38

データベース・サーバー 38

ファイル 38

### 照会結果 52

データベースに 48

表として 52

ファイルに 48

ファイルへの 52

### 書式

データベース・サーバー 64

ファイルへの 64

### 書式設定 52

### 書式ファイル

開く 64

ジョブ・ファイル 108

### データ

データベース・サーバー 105

プロシージャ 105

方式 224

### パスワード

パスワード・リスト 6

プロシージャ 69

データベース・サーバー 70

ファイルへの 70

プロシージャ・ファイル

開く 70

### モード

表編集プログラム 9

### リスト

ファイルへの 95

## 保管 (続き)

SQL 照会 25

サーバーで 26

ファイルへの 26

SQL 照会ファイル

開く 26

## ホスト変数

解説 97

データ・タイプ 98

## [マ行]

### マップ

オプション

ファイル拡張子 48

### 列

拡張子 48

### 命名規則

大域変数 172

### メイン

ツールバー 11

### メッセージ・ダイアログ

ユーザー・インターフェース  
228

### メニュー

単純化 vii

編集 132

リスト 93

レポート・センター 114

### メニューから

表示

図表 53

### 文字

セット

ユーザー・インターフェース  
229

### 編集

ズーム編集 58

### 戻す

動的 SQL 21

## [ヤ行]

ユーザー ID

ログオン 5

## ユーザー情報

設定 29, 60

## ユーザー定義

大域変数 170

## ユーザー定義の

通貨記号 vii

## ユーザー・インターフェース

グリッドを使用する 228

限界行数 229

言語 229

照会プレビュー・モード 229

前景色 228

テキストの向き 230

背景 228

方向 230

メッセージ・ダイアログ 228

文字セット 229

QMF Query for Java 228

## 要求時

LOB データを検索する 14

## 要件

自然言語照会 2

IBM ObjectREXX 2

## 用語

QMF (Windows 版) 5

## 要約

### 行

照会結果 45

照会結果 52

情報 62

変更 vii

列関数 34

## 読み方

構文図 74

## [ラ行]

### ラベル

図表 54

### リスト

#### ウィンドウ

オブジェクトの実行 94

オブジェクトの表示 94

オブジェクトの編集 94

ドロウ 94

オブジェクト 93, 198

- リスト (続き)
  - 限界行数 229
  - 地理情報エクステンダー 192
  - 作業 93
  - 作成 94
  - 除去
    - オブジェクト 95
  - 書式 220
  - 新規 8
  - ソート 198
  - ツールバー 12
  - 追加
    - オブジェクト 94
  - 報告書 218
  - 保管
    - ファイルへの 95
    - メニュー 93
    - 地理情報エクステンダー 191
- リスト・ファイル
  - 開く 8, 95
  - サーバーから 8
- リセット
  - すべてのフォーマット
    - 照会結果 46
- リソース限界
  - タイプ 16
  - ビュー 16
- 累積
  - グループのパーセンテージ
    - 列 46
  - 合計
    - 照会結果 45
    - 列 45
  - 合計のパーセンテージ
    - 照会結果 46
    - 列 46
- レイヤー・リスト
  - マップの表示 192
- 列
  - 値
    - グループのパーセンテージ 46
    - 合計のパーセンテージ 46
    - 標準偏差 45
    - 平均 45
    - 要約行 45
- 列 (続き)
  - 折り返し
    - 照会結果 vii
  - カウント
    - 照会結果 45
  - 結果セット 34
  - 合計機能 34
  - コピー
    - フォーマット 46
  - 最小 45
  - サイズ変更 49
    - プロシージャー 50
  - 最大 45
  - 自動フィット 46, 50
  - 順序
    - 変更 62
  - 順序変更 50
  - 使用可能な 34
  - 書式 42
    - 変更 62
  - 選択 49
  - 追加 30
  - 貼り付け
    - フォーマット 46
  - ヘッダー
    - 変更 62
  - 累積
    - グループのパーセンテージ 46
    - 合計 45
    - 合計のパーセンテージ 46
  - LOB の関連付け 47
- レポート・センター
  - 一時ディレクトリー viii
  - 移動
    - オブジェクト 160
    - フォルダー 160
    - 報告書 160
  - 印刷オプション 137
  - インポート
    - お気に入り 137
  - エクスポート
    - お気に入り 136
  - エラー処理 viii
  - お気に入り 113
  - お気に入りフォルダー 112
- レポート・センター (続き)
  - オブジェクト 139
  - オブジェクトの移動 143
  - オブジェクトのコピー 144
  - オブジェクトの最新表示 161
  - オブジェクトの削除 144
    - 「オプション」メニュー 137
  - 解説 111
  - 機能 111
  - 共通のお気に入り 114
  - グループ・データ viii
  - 効果的に作業する 162
  - 個人的なお気に入り 114
  - コピー
    - 「お気に入り」内で 159
    - オブジェクト 159
    - サーバー上の表 161
    - サーバーから 159
    - フォルダー 159
    - 報告書 159
  - ごみ箱 112
  - コメント vii
  - サーバー・フィルター vii
  - 作業 111
  - 削除
    - オブジェクト 160
    - フォルダー 160
    - 報告書 160
  - 実行
    - 複数の報告書 141
  - スケジュール・オプション 128
  - 図表 viii
  - 制限
    - 戻される行 162
  - セキュリティ・オプション 130
  - 接続
    - サーバーへ 138
  - 設定
    - 日付置換値 126
    - 「ツール」メニュー 136
    - ツリー構造 vii
    - 定義 111
    - ディレクトリー構造 112
    - ナビゲーション 112
    - 日付ウィザード viii

レポート・センター (続き)  
ピボット表 viii  
表示  
スケジュールされた報告書  
142  
報告書のヒストリー 143  
ヒント 162  
フィルター・オプション 135  
フォルダー 113  
フォルダーの移動 143  
フォルダーのコピー 144  
フォルダーの削除 144  
フォルダーの名前変更 143  
プロシージャ  
プロパティ 123  
プロパティ  
一般 145  
出力 148  
スケジュール 155  
セキュリティ 157  
その他 154  
手順 152  
フォーマット 147  
変数 153  
E メール 158  
変数 125  
変数の隠蔽 viii  
報告書 139  
共通アクセス 112  
ユーザー・アクセス 112  
「報告書」メニュー 114  
報告書の移動 143  
報告書の印刷 141  
報告書のコピー 144  
報告書の削除 144  
報告書の作成 139  
サーバーから 139  
ローカルに 139  
報告書の実行 140  
報告書のスケジュール 142  
報告書の名前変更 143  
報告書の表示 vii  
報告書のプロパティ 145  
一般 116  
出力 118  
フォーマット 117

レポート・センター (続き)  
報告書のリンク vii  
メニュー・オプション 114  
列を基準にしたグループ分け  
viii  
DB2 サーバー 112  
E メール・オプション 131  
Lotus 1-2-3  
出力 120  
Microsoft Access  
出力 120  
ログオン  
データベース・セキュリティー  
5  
パスワード 5  
パスワードを記憶 6  
ユーザー ID 5  
QMF Query for Java 196  
QMF (Windows 版) 5

## [数字]

16 進数  
書式  
ズーム編集 58  
表示  
ズーム編集 vii  
2 進数  
書式  
ズーム編集 58  
表示  
ズーム編集 vii

## A

API  
アプリケーションの作成 106  
解説 163  
改善点 ix  
管理 164  
作業単位 164  
使用 163  
制御  
QMF (Windows 版) 165  
追加情報 167  
データベース接続 164

API (続き)  
ブロック、呼び出しの 163  
例 166

## B

BiDi  
オプション 15  
方向 ix, 15  
bottom  
コマンド 75

## C

CLI  
オプション 13  
警告  
タイムアウト 13  
接続性 2  
取り消し  
タイムアウト 13  
「トレース」オプション 15  
connect  
コマンド 76  
convert  
コマンド 76  
CPI-C  
オプション 13  
警告  
タイムアウト 13  
取り消し  
タイムアウト 13  
「トレース」オプション 15  
プロバイダー DLL 13

## D

DB2  
ウェアハウス・マネージャー  
使用 71  
サーバー  
レポート・センター 112  
DB2 地理情報エクステンダー  
作業 189  
DDM  
「トレース」オプション 15

display  
    コマンド 77  
draw  
    コマンド 78

## E

E メール  
    オプション 131  
    レポート・センター 131

EasyAsk  
    辞書エディター 21  
    辞書作成キット 21  
    辞書プロパティ 21  
    辞書マップ 21  
    辞書を開く 20  
    照会 vii  
    照会ビルダー 20  
    日付の設定 21  
    ビューの変換処理 21

erase  
    コマンド 78

ESRI ビジュアル化  
    地理情報エクステンダー 190

export  
    コマンド 79

## F

forward  
    コマンド 80

## H

HTML 報告書  
    幅  
        表枠 231  
    パラメーターを表タグに 231  
    パラメーターを本文タグに 231  
    HTML タグのパラメーター 231  
    HTML 報告書タグ 231  
    QMF Query for Java 231

## I

IBM ObjectREXX  
    「トレース」オプション 15  
    要件 2  
    @IF 関数 ix

ID  
    照会のドロワー 9

import  
    コマンド 81

IXF  
    メッセージ  
        データのインポート 104

## L

LOB  
    値をすべて検索 47  
    エクスポート 57  
    オプション 14  
    オプションの上書き 14

解説 54  
関連付け  
    アプリケーション 47  
    列 47

機能 55  
検索  
    データベースから 55

自動  
    データの検索 14

使用不可にする  
    列 14

タイプの関連付け 48  
データ  
    要求時に検索する 14

データの検索  
    回避 14

手順  
    エクスポート 57

ビュー 56  
ファイル拡張子 48

不可にする  
    データの検索 14

編集 56  
列

    最大サイズ 14

LOB (続き)  
    列の関連付け 47  
    QMF Query for Java 233  
Lotus 1-2-3  
    アドイン 106  
    アドインの使用 106  
    グループ・データ viii  
出力  
    レポート・センター 120

## M

Microsoft Access  
    オプション 120  
出力  
    レポート・センター 120

Microsoft Excel  
    アドイン 105  
    ピボット表 viii

## O

ODBC  
    オプション 13  
    警告  
        タイムアウト 13  
    接続性 1  
    取り消し  
        タイムアウト 14

## P

PREPARE  
    関数 ix  
    構文 ix  
    コマンド ix  
print  
    コマンド 82

## Q

QMF Query for Java  
    インターフェース・オプション  
        227

QMF Query for Java (続き)  
エクスポート  
    データ 222, 224  
    テキスト・データ 234  
オブジェクトの追跡 196  
解説 viii, 2, 195  
機能 2, 195  
作業 195  
作成  
    指示照会 204  
    SQL 照会 201  
使用可能な  
    報告書 222  
書式  
    変数 226  
図表オプション 235  
接続 196  
選択  
    オブジェクト 197  
データベース 2  
適用  
    書式 219  
入力  
    SQL ステートメント 201  
プレビュー  
    結果 227  
ページ・フォーマット 232  
編集  
    SQL 照会 200  
報告書  
    オプション 230  
    フォーマット 230  
保管  
    オブジェクト 203  
ユーザー・インターフェース  
    228  
ログオン 196  
CSV データのエクスポート 235  
HTML 報告書 231  
LOB 233  
QMF (Windows 版)  
解説 4  
立ち上げる  
    レポート・センター 136  
統合 190  
用語 5

QMF (Windows 版) (続き)  
ログオン 5

## R

reset  
    global all 84  
run  
    コマンド 85

## S

save  
    コマンド 87  
send to  
    コマンド 88  
set global  
    コマンド 89  
show  
    コマンド 90  
SNA  
    接続性 1  
SQL  
    表示  
        指示照会 37  
SQL 照会  
    印刷 27  
    解説 19  
    作業 19  
    作成 22, 23  
    実行  
        サーバーで 22  
    新規 7  
    置換変数 24, 25  
    開く 25  
        サーバーで 26  
    変換 22, 37  
    保管 25  
        サーバーで 26  
        ファイルへの 26  
    owner.name のテキスト 200  
    SQL を表示 22  
SQLAM  
    「トレース」オプション 15

## T

TCP/IP  
    オプション 13  
    警告  
        タイムアウト 13  
    接続性 1  
    取り消し  
        タイムアウト 13  
    「トレース」オプション 15

## W

Web ブラウザー  
    書式メニュー 59  
windows  
    コマンド 90  
Windows 環境  
    大域変数 177

## X

X 軸  
    図表 54

## Y

Y 軸  
    図表 54

## [特殊文字]

@IF 関数  
    IBM ObjectREXX ix







プログラム番号: 5697-F42、 5675-DB2、 5697-G24、 5697-G22、 5724-B08、  
5648-D35、 5648-D37

Printed in Japan

SC88-8670-01



**日本アイ・ビー・エム株式会社**  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12